仙台市文化財調査報告書第413集

伊古田遺跡・大野田古墳群・下ノ内遺跡

－仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ－

２０１３年３月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第413集

伊古田遺跡・大野田古墳群・下ノ内遺跡

－仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ－

２０１３年３月

仙台市教育委員会

伊古田遺跡１区Ｖ層全景（南西より）

伊古田遺跡１区SI18 全景（南より）

伊古田遺跡２Ｂ区Ｖ層全景（南より）

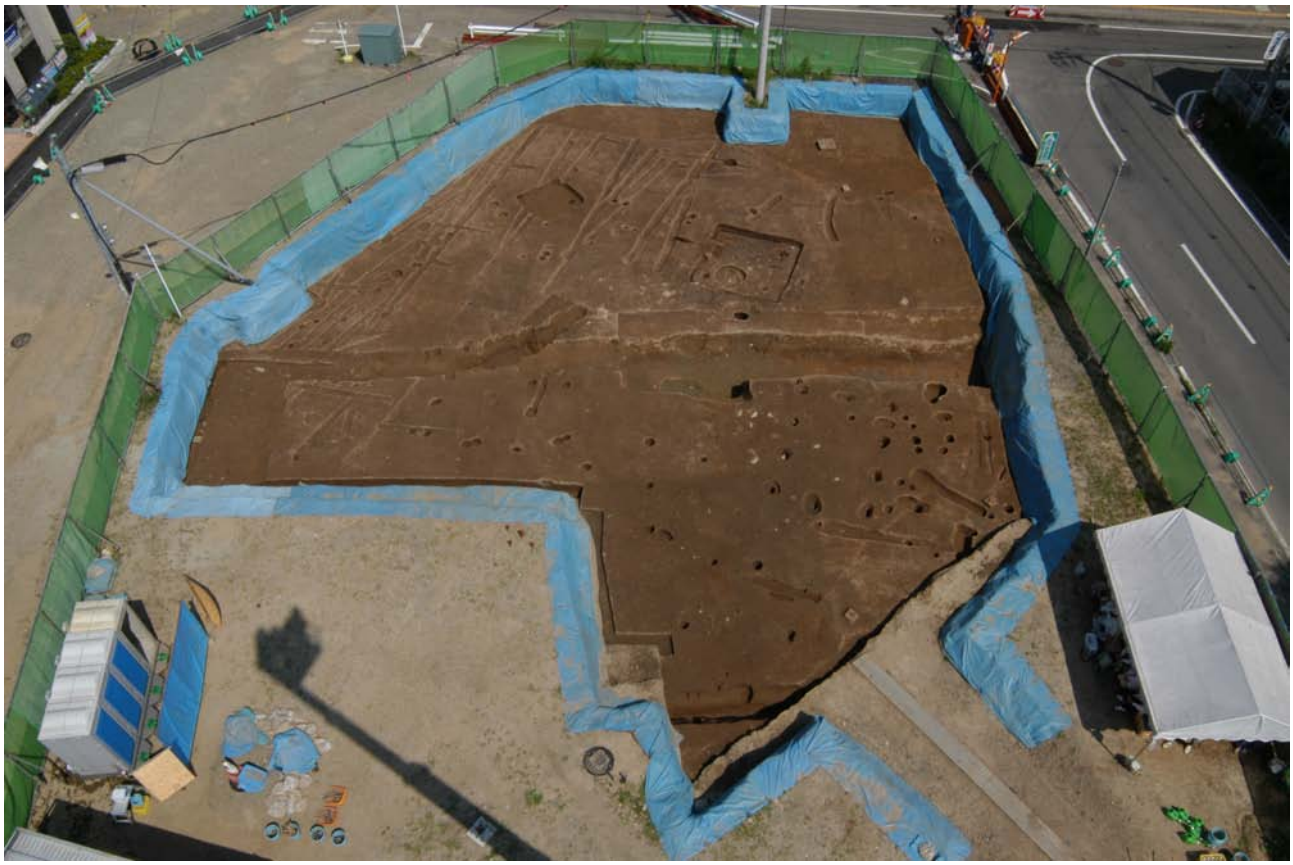
伊古田遺跡２Ｂ区SI9a 全景（西より）

伊古田遺跡２Ｂ区SI9 掘り方カマド周辺・SK4 内遺物出土状況（西より）

大野田古墳群10 区全景（東より）

下ノ内遺跡６区Ｖ層全景（南より）

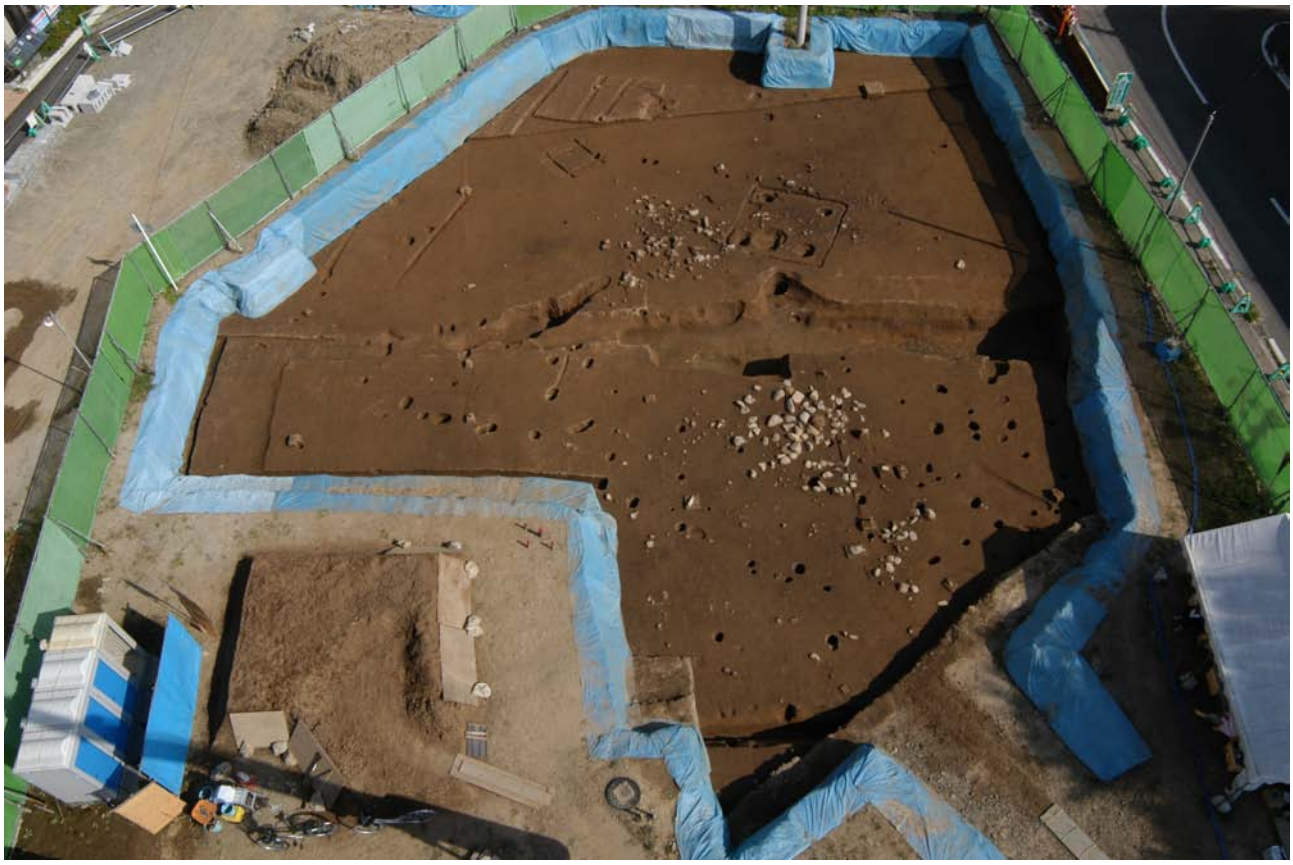
下ノ内遺跡６区SI458・459全景（南より）



下ノ内遺跡７Ａ区Ｖ層全景（西より）

下ノ内遺跡７Ａ区SI5 全景（南より）

下ノ内遺跡７Ａ区SI29 炭化材・遺物出土状況（南西より）



下ノ内遺跡７Ａ区Ⅶ層集石検出状況（西より）

下ノ内遺跡７Ａ区Ⅶ層全景（西より）

下ノ内遺跡７Ｂ区Ⅴ層全景（南東より）

序　　文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃から多大なご理解とご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

富沢駅周辺地区は仙台市東南部、太白区大野田に広がる田園地帯でありましたが、地下鉄南北線の開業を契機として、道路網の整備や宅地化が急速に進む様相がみられる地域でありました。そのような中で、平成６年度から進められてまいりました富沢駅周辺土地区画整理事業につきましても、関係する遺跡が14遺跡に上り、平成25年度を最終調査年度として、発掘調査を実施してまいりました。

今回刊行いたします発掘調査報告書Ⅲは、平成17年度から平成18年度にかけて実施した3遺跡の調査の成果をまとめたものです。

先人達の残した貴重な文化遺産をこれからの「まちづくり」の中で保護し、保存活用を図りながら市民の宝として永く後世に伝えていくことが、現代に生きる私たちの責務であると考えております。

平成11年度に刊行いたしました発掘調査報告書Ⅰ、同じく23年度に刊行いたしました発掘調査報告書Ⅱと共に、ここに報告する調査成果が広く活用され、地域の歴史を解明していくための貴重な資料となり、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、仙台市では、平成23年3月11日の東日本大震災からの復興に向け、「ともに、前へ仙台　～３・11からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。未曾有の大震災から2年を迎えましたが復興はまだ道半ばといえます。

そうした中、本報告書の刊行にあたりまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成25年3月

仙台市教育委員会
教育長　青沼　一民

例　　言

1．本書は仙台市教育委員会による「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う、伊古田遺跡・大野田古墳群・下ノ内遺跡の発掘調査報告書である。区画整理事業に伴う本調査は平成７年４月より開始され、現在（平成25年）も継続中である。本書では平成17年度から平成18年度までの調査成果の一部について報告する。
2．報告書作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、国際文化財株式会社が行った。
3．調査区のグリッド配置は測量基準線の設定にあたり、事業地内の測量基準点（Ｘ＝-198.400㎞・Ｙ＝3.800㎞）を原点とし、東西・南北両方向に10×10ｍグリッドを組んだ。各調査区の測量はこの基準線上に設定した杭をもとに行った。測量杭には原点からの方向と距離を組み合わせた数値を「Ｅ100・Ｓ100」のように表示した。Ｅ100は測量基準点から東に100ｍ、Ｓ100は南に100ｍを意味し、国家座標上ではＸ＝-198.500㎞・Ｙ＝3.900㎞となる。なお、遺構図上に表示したグリッドの数値も同様の値を示している。
4．本書の作成及び編集は仙台市教育委員会文化財課調査指導係 結城慎一、主濱光朗、荒井　格、工藤信一郎、渡部　紀、鈴木　隆、水野一夫、庄子裕美の監理のもと、国際文化財株式会社が行った。
5．本書の執筆は下記のとおりである。
　第１章第１節・第３節・第４節…… 主濱光朗
　第１章第２節・第２章第１節…… 水上匡彦（国際文化財株式会社）
　第２章第２節～第４節…… 水上匡彦・辻本　彩・佐藤公保（国際文化財株式会社）
　第３章 …… 水上匡彦
6．石器・石製品の石材鑑定については東北大学名誉教授蟹澤聰史氏に依頼し、肉眼で鑑定を行った。
7．調査成果はすでに現地説明会資料、遺跡見学会資料、宮城県遺跡調査成果発表会資料等で一部紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
8．調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は仙台市教育委員会で一括保管している。

凡　　例

1．本書の土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原：1975、1997）を使用した。
2．国土交通省国土地理院発行の地形図を使用した場合は図中に示した。
3．図中及び本文中に記載の方位の北は、座標北を示している。なお、図中でＥ・Ｓを付した座標値は区画整理事業地内に設定された測量基準点（Ｘ＝-198.400㎞・Ｙ＝3.800㎞）からの距離（ｍ）を示し、ＥはＹ座標値・ＳはＸ座標値に対応する。
4．図版中のレベルは海抜標高を示す。
5．座標値及び海抜標高については、平成23年３月11日の東日本大震災前のものを使用している。
6．層位名は基本層位をローマ数字、遺構内堆積土については算用数字を使用し、さらに細分される場合はアルファベットを付した。
7．図版・表等の番号は伊古田遺跡・大野田古墳群・下ノ内遺跡の報告毎に付している。
8．本書の検出遺構については次の略号を使用し、遺跡毎に発見順に番号を付した。
　SB＝掘立柱建物跡　　SD＝溝跡　　SI＝竪穴住居跡　　SK＝土坑
　SR＝河川跡　　SX＝性格不明遺構・その他の遺構　　P＝ピット・柱穴
　なお、小溝状遺構群についてはローマ数字と算用数字の組み合わせで示した。
9．遺構図に使用したスクリーン・トーンは以下の通りである。これ以外については、その都度図中に示した。
　柱痕跡　　焼土範囲・焼面

10. 本書の出土遺物の分類と登録には次の略記号を使用し、分類毎に登録番号を付した。
A＝縄文土器　C＝土師器（非ロクロ）　D＝土師器（ロクロ）　E＝須恵器　Ka＝打製石器　Kc＝礫石器
Kd＝石製品　　N＝金属製品　　P＝土製品
11. 遺物観察表において（　）は復元値を示している。なお、器高の計測は原則として断面とした。
12. 遺構一覧表において（　）は推定、［　］は検出長を示している。
13. 土器の実測図に使用したスクリーン・トーンは、以下のとおりである。これ以外については、その都度図中に示した。

地文部分（縄文土器展開図）　　黒色処理

14. 土製品の実測図に使用したスクリーン・トーンは、その都度図中に示した。
15. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーン・トーンは以下のとおりである。

節理　　マメツ　　敲打痕　　火ハネ

付着物　　被熱による変色　　二重パティナ　　光沢

16. 石器の分類と登録記号は次ページのとおりである。

石器分類

石器	K	打製石器Ka	石鏃	有茎	Ka-a1
				平基	Ka-a2
				凹基	Ka-a3
				その他	Ka-a4
			尖頭器	有茎	Ka-b1
				無茎	Ka-b2
				その他	Ka-b3
			石錐	棒状	Ka-c1
				つまみ付き	Ka-c2
				その他	Ka-c3
			石匙	縦型	Ka-d1,Ka-d1I
				横型	Ka-d2,Ka-d2I
				その他	Ka-d3,Ka-d3I
			不定形石器	削器（石器の側縁に鋭角の刃部を持つもの）	Ka-e1,Ka-e1I
				掻器（石器の端部に鈍角の刃部を持つもの）	Ka-e2,Ka-e2I
				鋸歯縁石器（鋸歯状の刃部を持つもの）	Ka-e3,Ka-e3I
				ノッチ（抉入状の刃部を持つもの）	Ka-e4,Ka-e4I
				円形掻器（石器の全周縁に刃部を持つもの）	Ka-e5,Ka-e5I
				ＲＦ（石器の一部に刃部加工が見られるもの）	Ka-e6,Ka-e6I
				ＵＦ（石器の刃部に使用痕［摩滅、光沢］が見られるもの）	Ka-e7,Ka-e7I
			石篦	半両面加工	Ka-f1
				両面加工	Ka-f2
			打製石斧		Ka-g
			楔形石器（両極剥離による二次加工が明瞭に認められるもの）		Ka-h
			異形石器		Ka-i
			二次加工のある剥片（刃部加工を目的としていない二次加工）		Ka-j,Ka-jI
			微細剥離痕のある剥片（微細な剥離痕を有する剥片）		Ka-k,Ka-kI
			剥片		Ka-l,Ka-lI
			石核		Ka-m
		磨製石器Kb	磨製石斧		Kb-a
			蛤刃石斧		Kb-b
			石鑿		Kb-c
			環状石斧		Kb-d
			磨製石鏃		Kb-e
			石庖丁		Kb-f
		礫石器 Kc	磨		Kc-a1
			磨＋凹		Kc-a2
			磨＋敲		Kc-a3
			磨＋凹＋敲		Kc-a4
			凹		Kc-b1
			凹＋敲		Kc-b2
			敲		Kc-c
			砥石		Kc-d
		石製品 Kd	砥石		Kd-a
			石棒		Kd-b
			垂飾		Kd-c
			玉類（管玉・勾玉・小玉）		Kd-d
			石製模造品		Kd-e
			石製紡錘車		Kd-f
			石臼		Kd-g
			容器		Kd-h
			石錘		Kd-i
			石皿		Kd-j
			浮子		Kd-k
			不明		Kd-x
		その他 Ke			

※石匙、不定形石器、二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片、剥片については、石刃状の縦長剥片に分類番号の後ろにI（ローマ数字の１）を入れる。

本　文　目　次

巻頭カラー写真
序　文
例　言
凡　例

第１章　調査の概要…… 1
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　遺跡周辺の環境…… 1
　　１．遺跡の位置と地理的環境 …… 1
　　２．遺跡周辺の歴史的環境 …… 1
　第３節　調査経過…… 4
　第４節　報告書の作成 …… 4

第２章　本調査報告…… 6
　第１節　富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の基本層序…… 6
　第２節　伊古田遺跡 …… 8
　　１．調査要項…… 8
　　２．１区の調査　（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物 …… 8
　　３．２Ａ区の調査　（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物 …… 20
　　４．２Ｂ区の調査　（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物 …… 21
　　５．まとめ …… 32
　　写真図版 …… 35
　第３節　大野田古墳群 …… 45
　　１．調査要項…… 45
　　２．10区の調査　（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物 …… 45　（２）遺構外出土遺物 …… 48
　　３．まとめ …… 48
　　写真図版 …… 49
　第４節　下ノ内遺跡 …… 52
　　１．調査要項…… 52
　　２．６区の調査　（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物 …… 52　（２）遺構外出土遺物 …… 75
　　２．７Ａ区の調査　（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物 …… 78　（２）Ⅵ層検出の遺構と遺物 …… 95
　　（３）Ⅶ層検出の遺構と遺物 …… 114　（４）遺構外出土遺物 …… 126
　　４．７Ｂ区の調査　（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物 …… 130　（２）遺構外出土遺物 …… 139
　　５．まとめ…… 140
　　写真図版
　　…… 177

第３章　総　括

引用参考文献
報告書抄録

挿　図　目　次

第1章

第1図　富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡と周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第2図　グリッド及び調査区配置図・・・・・・・・・・・・・3

第2章

第1節

第1図　富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡基本層序位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

第2図　富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

第2節

第1図　伊古田遺跡１区Ｖ層遺構配置図・・・9・10

第2図　SI16竪穴住居跡平面図・断面図・・・・・・・11

第3図　SI16竪穴住居跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・12

第4図　SI18竪穴住居跡平面図・断面図・・・・・・・13

第5図　SI18竪穴住居跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・14

第6図　SB1掘立柱建物跡平面図・断面図・・・・・・15

第7図　SK3･6･9土坑平面図・断面図・・・・・・・・・16

第8図　SR22河川跡断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

第9図　SD2・4・5・7・8・10・12～15・19・21溝跡断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

第10図 SD20溝跡平面図・断面図・・・・・・・・・・・・・19

第11図 SD14・15溝跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・・19

第12図 伊古田遺跡２Ａ区Ｖ層遺構配置図・SD １溝跡断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

第13図 伊古田遺跡２Ｂ区Ｖ層遺構配置図・・・・・21

第14図 SI1竪穴住居跡・1区SX11・17性格不明遺構平面図・断面図・・・・・・・・・22

第15図 SI1竪穴住居跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・・23

第16図 SI9b竪穴住居跡平面図・断面図・・・・・・・25

第17図 SI9b竪穴住居跡平面図・・・・・・・・・・・・・・・26

第18図 SI9a・b竪穴住居跡出土遺物・・・・・・・・・・27

第19図 SI9a・b竪穴住居跡出土遺物・・・・・・・・・・28

第20図 SB16掘立柱建物跡平面図･断面図・・・・・29

第21図 SK2～5・12・18～20土坑平面図・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

第22図 SD6～8・10・13～15・17溝跡断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

第3節

第1図　大野田古墳群10区Ｖ層遺構配置図・・・・46

第2図　SK515・516・518土坑平面図・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

第3図　小溝状遺構群断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

第4図　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

第4節

第1図　下ノ内遺跡６区Ｖ層遺構配置図・・・・・・・53

第2図　SI417a・b竪穴住居跡平面図・断面図・・55

第3図　SI417b・c竪穴住居跡平面図・・・・・・・・・・56

第4図　SI417a・b竪穴住居跡出土遺物・・・・・・・・58

第5図　SI458竪穴住居跡平面図（1）・・・・・・・・・59

第6図　SI458竪穴住居跡平面図（2）・断面図・・60

第7図　SI458竪穴住居跡平面図（3）・・・・・・・・・61

第8図　SI458竪穴住居跡出土遺物（1）・・・・・・・63

第9図　SI458竪穴住居跡出土遺物（2）・・・・・・・64

第10図 SI459竪穴住居跡平面図・断面図（1）・・65

第11図 SI459竪穴住居跡平面図・断面図（2）・・66

第12図 SI459竪穴住居跡出土遺物・・・・・・・・・・・・68

第13図 SK409・410・422・457土坑平面図・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69

第14図 SK423土坑平面図・断面図・出土遺物・・70

第15図 SR408河川跡断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・71

第16図 SR408河川跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・71

第17図 SD412・413・418・421・467溝跡断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72

第18図 SD413・416溝跡出土遺物・・・・・・・・・・・・72

第19図 SD470溝跡平面図・断面図・・・・・・・・・・・・72

第20図 SD416・424・443・461溝跡、溝状遺構群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73

第21図 P1879出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75

第22図 深堀区配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76

第23図 Ⅸ層出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76

第24図 Ⅵ層出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77

第25図 Ｖ層出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77

第26図 古墳時代～古代出土遺物・・・・・・・・・・・・・78

第27図 下ノ内遺跡７Ａ区Ｖ層遺構配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79・80

第28図 SI5竪穴住居跡平面図・断面図・・・・・・・・81

第29図 SI5竪穴住居跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・・82

第30図 SI29竪穴住居跡平面図・断面図・・・・・・・83

第31図 SI29竪穴住居跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・84

第32図 SB21掘立柱建物跡平面図・断面図・・・・85

第33図 SK3・4・6・35～38・41土坑平面図・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87

第34図 SK35土坑出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88

第35図 SR1・2河川跡断面図……88
第36図 SX43性格不明遺構平面図・断面図……89
第37図 SX43性格不明遺構出土遺物……89
第38図 SD11～13・15・16・19・22・23・31～34・39・40・42溝跡断面図……91
第39図 小溝状遺構群断面図……92
第40図 下ノ内遺跡７Ａ区Ⅵ層遺構配置図、SX18・45遺物包含層断面図……93・94
第41図 SX44性格不明遺構平面図・断面図……95
第42図 SX18遺物包含層出土土器（1）……96
第43図 SX18遺物包含層出土土器（2）……97
第44図 SX18遺物包含層出土土器（3）……98
第45図 SX18遺物包含層出土土器（4）……99
第46図 SX18遺物包含層出土土器（5）……100
第47図 SX18遺物包含層出土土器（6）……101
第48図 SX18遺物包含層出土土器（7）……102
第49図 SX18遺物包含層出土土器（8）・土製品……103
第50図 SX18遺物包含層出土石器（1）……105
第51図 SX18遺物包含層出土石器（2）……106
第52図 SX18遺物包含層出土石器（3）……107
第53図 SX18遺物包含層出土石器（4）……108
第54図 SX18遺物包含層出土石器（5）……109
第55図 SX45遺物包含層出土土器（1）……110
第56図 SX45遺物包含層出土土器（2）……111
第57図 SX45遺物包含層出土土器（3）……112
第58図 SX45遺物包含層出土土器（4）・土製品……113
第59図 SX45遺物包含層出土石器（1）……113
第60図 SX45遺物包含層出土石器（2）……114
第61図 下ノ内遺跡７Ａ区Ⅶ層遺構配置図……115・116
第62図 SK46・48～55土坑平面図・断面図……118
第63図 SK56～65・69～71・75土坑平面図・断面図……120
第64図 SK66～68・72～74・76・78～80土坑平面図・断面図……122
第65図 SK81～90土坑平面図・断面図……124
第66図 Ⅶ層土坑出土遺物（1）……125
第67図 Ⅶ層土坑出土遺物（2）……126
第68図 SX47・94性格不明遺構平面図・断面図……127
第69図 SX47出土遺物……127
第70図 Ⅵ・Ⅴ層出土層位不明土器・土製品……127
第71図 Ⅴ層出土石器・出土層位不明石器（1）……128
第72図 出土層位不明石器（2）……129
第73図 古代出土遺物……130
第74図 下ノ内遺跡７Ｂ区Ⅴ層遺構配置図……131
第75図 SI2a竪穴住居跡平面図・断面図（1）……132
第76図 SI2a竪穴住居跡平面図・断面図（2）……133
第77図 SI2b竪穴住居跡平面図・断面図……134
第78図 SI2a・b竪穴住居跡出土遺物（1）……136
第79図 SI2a竪穴住居跡出土遺物（2）……137
第80図 SK1・3～11・13土坑平面図・断面図……138
第81図 遺構外出土遺物……139

表　目　次

第1章
第2節
第1表　周辺の遺跡一覧表……2
第4節
第2表　富沢駅周辺　調査区一覧……5
第3表　富沢駅周辺　遺跡別調査次数……5
第2章
第2節
第1表　遺構一覧表……33
第3節
第1表　遺構一覧表……48
第4節
第1表　遺構一覧表（1）……141
第2表　遺構一覧表（2）……142
第3表　遺構一覧表（3）……143

写　真　図　版　目　次

第2章

第2節

写真図版1　伊古田遺跡（1）……37
写真図版2　伊古田遺跡（2）……38
写真図版3　伊古田遺跡（3）……39
写真図版4　伊古田遺跡（4）……40
写真図版5　伊古田遺跡（5）……41
写真図版6　伊古田遺跡（6）……42
写真図版7　伊古田遺跡出土遺物（1）……43
写真図版8　伊古田遺跡出土遺物（2）……44

第3節

写真図版1　大野田古墳群、出土遺物……51

第4節

写真図版1　下ノ内遺跡（1）…… 147
写真図版2　下ノ内遺跡（2）…… 148
写真図版3　下ノ内遺跡（3）…… 149
写真図版4　下ノ内遺跡（4）…… 150
写真図版5　下ノ内遺跡（5）…… 151
写真図版6　下ノ内遺跡（6）…… 152
写真図版7　下ノ内遺跡（7）…… 153
写真図版8　下ノ内遺跡（8）…… 154
写真図版9　下ノ内遺跡（9）…… 155
写真図版10　下ノ内遺跡（10）…… 156
写真図版11　下ノ内遺跡（11）…… 157
写真図版12　下ノ内遺跡（12）…… 158
写真図版13　下ノ内遺跡（13）…… 159
写真図版14　下ノ内遺跡（14）…… 160
写真図版15　下ノ内遺跡（15）…… 161
写真図版16　下ノ内遺跡（16）…… 162
写真図版17　下ノ内遺跡（17）…… 163
写真図版18　下ノ内遺跡（18）…… 164
写真図版19　下ノ内遺跡（19）、出土遺物（1）… 165
写真図版20　下ノ内遺跡出土遺物（2）…… 166
写真図版21　下ノ内遺跡出土遺物（3）…… 167
写真図版22　下ノ内遺跡出土遺物（4）…… 168
写真図版23　下ノ内遺跡出土遺物（5）…… 169
写真図版24　下ノ内遺跡出土遺物（6）…… 170
写真図版25　下ノ内遺跡出土遺物（7）…… 171
写真図版26　下ノ内遺跡出土遺物（8）…… 172
写真図版27　下ノ内遺跡出土遺物（9）…… 173
写真図版28　下ノ内遺跡出土遺物（10）…… 174
写真図版29　下ノ内遺跡出土遺物（11）…… 175
写真図版30　下ノ内遺跡出土遺物（12）…… 176

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

仙台市南部地域でも都市化の進展に伴って、副都心構想をはじめとする都市環境の整備事業が進展しつつある。大野田地区周辺は高速鉄道南北線の開業以降、道路網の整備や宅地化が急速に進む地域であった。このような中、土地区画整理事業を具体化する協議が始まり、平成５年 10 月 13 日付で「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業」(以下、本報告書では「本事業」とする。) に係わる埋蔵文化財の調査依頼が都市整備局より提出された。本事業は同年 12 月 14 日付で都市計画決定がなされた。調査依頼に対する回答は、平成６年２月８日付で本事業地内の都市計画道路及び区画道路の部分等を対象に発掘調査を実施することを回答した。

本事業予定地は市内でも特に多くの遺跡が集中して分布する地域で、大野田遺跡、元袋遺跡、六反田遺跡、伊古田遺跡、春日社古墳、王ノ壇古墳、鳥居塚古墳、大野田古墳群、下ノ内遺跡、王ノ壇遺跡、皿屋敷遺跡、袋前遺跡の 12 遺跡が知られており、遺跡の時代も縄文時代から近世まで広範囲に及んでいた。

平成６年９月から平成７年 11 月までの期間、本事業地内で試掘調査を実施し、六反田遺跡の範囲を北東側へ拡大し、伊古田遺跡の南東に伊古田Ｂ遺跡を新規に登録した。春日社古墳は、大野田古墳群では王ノ壇古墳と並んで、墳丘の残存する古墳であったが、都市計画道路「郡山・折立線」のルート変更により、路線敷きに入り、試掘調査の結果を受けて、本調査後墳丘は消滅することとなった。本発掘調査は試掘調査と並行して平成７年５月から実施した。

また、袋前遺跡の平成 13 年度の２Ａ・Ｂ区の調査以降、古代の大型掘立柱建物跡や大溝が発見され、更に平成 16 年度の大野田古墳群９Ａ区、平成 19 年度の六反田遺跡４Ｂ区で、大型掘立柱建物跡が検出され、大溝が方形に巡る範囲内に大型掘立柱建物跡が規則的に配置された状況が明らかになった。さらに平成 21 年度に国庫補助事業による遺構確認調査が実施され、多賀城以前の陸奥国府である郡山遺跡に関連する重要な古代官衙の遺構群であることが明らかになったとして、同年７月に大野田官衙遺跡として、新規に登録し、本事業地内の遺跡数は 14 遺跡となった。

第２節　遺跡周辺の環境

１．遺跡の位置と地理的環境

伊古田遺跡、大野田古墳群、下ノ内遺跡を含む大野田地区は、仙台市の南部、名取川下流の北岸部にあたる。河口から約 8.8㎞に位置し、太白区富沢四丁目、大野田字元袋・袋前・イコタ・千刈田・塚田・宮・宮脇・王ノ檀・五反田・六反田・竹松・皿屋敷に所在する。これらの地点はＪＲ長町駅の南西～南南西約１～ 1.7km にあたり、遺跡は東西約 800m・南北約 450m の範囲に分布する。

仙台市域の地形は、西部の丘陵地帯と東部の海岸平野に二分され、海岸平野の中で大野田地区を含む地域は郡山低地と呼称されている。南縁を名取川、北縁を広瀬川に囲まれた沖積地で、北西縁は青葉山丘陵で画されているほか、太白山に源を発する笊川などの小河川が低地内を曲流している。このため、これら河川の影響を強く受け、沖積地の中でも自然堤防・旧河道・後背湿地が複雑に入り組んだ地形となっている。

標高は約 12m で、遺跡の構成土壌はシルト・粘土質シルト・砂質シルトが主体をしめる。調査以前の土地利用は水田畑地もしくは宅地である。

２．遺跡周辺の歴史的環境

大野田地区を中心とした名取川下流域は仙台市内でも数多くの遺跡が分布する地域であり、近年の土地開発に伴い発掘調査例も増加している。

大野田地区の周辺には、先史時代では後期旧石器時代の湿地林や焚き火跡のほか、弥生時代中期の水田跡が発見された富沢遺跡、縄文時代早期の竪穴住居跡や縄文時代後期・弥生時代後期の墓域が発見された下ノ内浦遺跡、縄文時代中期～後期の遺構・遺物が多数発見された伊古田遺跡・六反田遺跡・下ノ内遺跡がある。古墳時代では大野田古墳群で春日社古墳や王ノ壇古墳、前方後円墳の鳥居塚古墳をはじめとし、40 基以上の円墳が確認されている。また、

※ ●は古墳

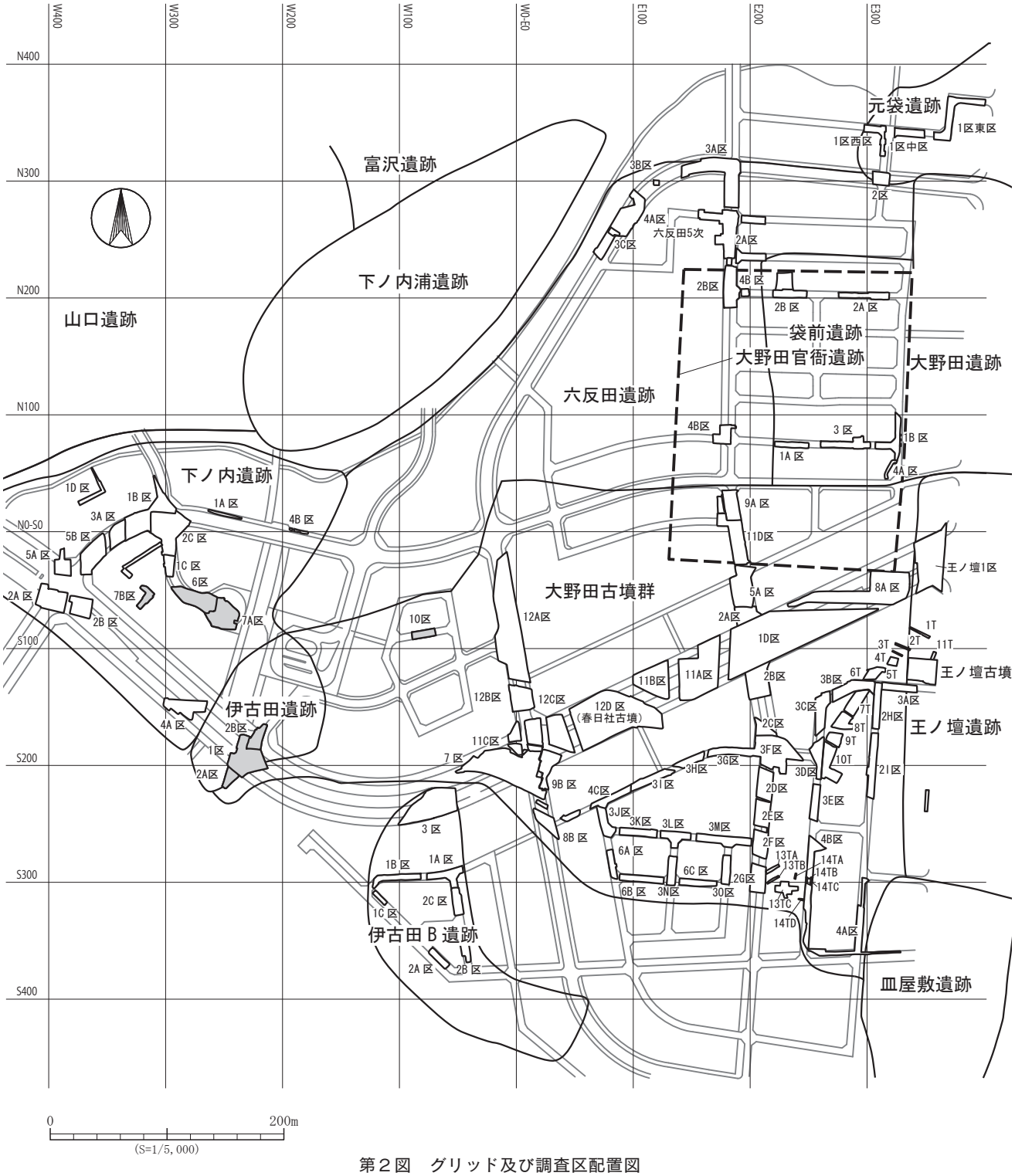
第１図　富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡と周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡一覧表

№.	遺跡名	立　地	種　別	時　代
1	袋前遺跡	自然堤防	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
2	伊古田Ｂ遺跡	自然堤防	畑跡他	古墳・奈良～平安
3	下ノ内遺跡	自然堤防	集落跡・墓跡	縄文（中～晩）・弥生・古墳・奈良・平安・中世
4	大野田古墳群	自然堤防	古墳・集落跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世
5	王ノ壇古墳	自然堤防	古墳	古墳
6	春日社古墳	自然堤防	古墳	古墳
7	鳥居塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
8	大野田官衙遺跡	自然堤防	官衙跡	古墳～奈良
9	王ノ壇遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	縄文（後）・弥生・古墳・奈良・平安・中世
10	六反田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文（中～晩）・弥生・古墳・奈良・平安・近世
11	五反田古墳	自然堤防	古墳	古墳
12	五反田石棺墓	自然堤防	墓跡	古墳
13	五反田木棺墓	自然堤防	墓跡	古墳
14	伊古田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文～平安
15	下ノ内浦遺跡	自然堤防	集落跡・墓跡・水田跡	縄文（早・前・後）・弥生・古墳・奈良・平安・中世
16	山口遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡・水田跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世
17	富沢遺跡	後背湿地	集落跡・水田跡・散布地	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
18	泉崎浦遺跡	自然堤防・後背湿地	水田跡・墓地	縄文（後）・弥生・古墳・平安
19	元袋遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	奈良～平安・中世・近世
20	大野田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文（後）・弥生（中）・古墳・奈良・平安
21	郡山遺跡	自然堤防	官衙関連・寺院跡・集落跡	縄文（後・晩）・弥生（中）・古墳・奈良・平安・中世・近世
22	西台畑遺跡	自然堤防	集落跡	縄文・弥生（中）・古墳・奈良・平安・中世・近世
23	北目城跡	自然堤防	城館跡・集落跡・水田跡	縄文（後）・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
24	富沢館跡	自然堤防	城館跡	中世
25	仙台城跡	丘陵	城館跡	近世
26	愛宕山横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良
27	大年寺山横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳
28	宗禅寺横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良
29	茂ヶ崎城跡	丘陵	城館跡	中世
30	茂ヶ崎横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良
31	兜塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
32	二ッ沢横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良
33	一塚古墳	丘陵麓	古墳	古墳
34	二塚古墳	丘陵麓	古墳	古墳
35	砂押古墳	丘陵	古墳	古墳
36	土手内遺跡	丘陵	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
37	土手内横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良
38	金洗沢古墳	丘陵麓	古墳	古墳
39	裏町古墳	丘陵麓	古墳	古墳
40	富沢窯跡	丘陵斜面	窯跡	古墳・奈良・平安
41	山田上ノ台遺跡	丘陵	集落跡	旧石器・縄文（早～後）・奈良・平安・中世・近世
42	山田条里遺跡	後背湿地	屋敷跡他	縄文・平安・近世・近代
43	上野遺跡	丘陵	集落跡	縄文・奈良・平安・近世
44	北前遺跡	丘陵	集落跡	縄文・平安・近世
45	遠見塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
46	若林城跡	自然堤防	城館跡・古墳・集落跡	古墳・平安・中世・近世
47	法領塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
48	柳生台畑遺跡	自然堤防	散布地	奈良・平安・中世
49	松木遺跡	自然堤防	集落跡	平安・中世・近世
50	熊野堂横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳・奈良

伊古田遺跡、下ノ内遺跡、袋前遺跡では古墳時代前期～中期の集落跡が確認されている。古代では本事業に伴う発掘調査により大野田古墳群、袋前遺跡、六反田遺跡の３遺跡にまたがる大野田官衙遺跡が発見されている。中世～近世では屋敷跡や奥大道と推定される道路跡が検出された王ノ壇遺跡、近世では堀跡や屋敷跡が検出された元袋遺跡がある。

このように、本事業地内だけをみても各時代の遺構・遺物が多数確認されており、発掘調査の結果、大野田地区を含む周辺地域で先史時代から近世にいたるまで連綿と続いていた人々の活動の痕跡が明らかになりつつある。なお、大野田地区及び周辺地域の歴史的環境の詳細は『下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか - 仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ -』（仙台市教委　2011b）を参照されたい。



第２図　グリッド及び調査区配置図

第３節　調査経過

本事業に伴う本調査は、平成７年５月、大野田古墳群１Ａ区から着手し、平成10年度までに調査を終了した大野田古墳群１～４区（2･3区で鳥居塚古墳第２次調査を実施）、王ノ壇遺跡１区、六反田遺跡１区、伊古田Ｂ遺跡１区、袋前遺跡１区のうち、平成10年度に着手した伊古田Ｂ遺跡、袋前遺跡を除く調査成果は平成10年度に「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ（第243集）」として刊行した。平成１１年度から下ノ内遺跡１～５区、12年度から大野田古墳群５～９区、13年度から袋前遺跡２・３区、14年度から伊古田Ｂ遺跡２・３区の調査を16年度までに実施し、15年度には王ノ壇古墳の第２次調査を行った。王ノ壇古墳は公園として整備されることから一部を除いて遺構の確認調査にとどめ、掘り込み調査は実施していない。以上の平成11～16年度の調査成果に伊古田Ｂ遺跡１区、袋前遺跡１区と平成19年度に主体部から革盾が出土した春日社古墳、平成21年度までに明らかとなった大野田官衙遺跡の成果を加えて、平成23年度に「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ（第390集）」として報告した。平成17年度から元袋遺跡１・２区、六反田遺跡２～４区、伊古田遺跡１・２区、大野田古墳群10～12区、下ノ内遺跡６～８区、袋前遺跡５区の調査を行った。この大野田古墳群12D区の調査に春日社古墳２次調査が含まれ、革盾が発見された。この革盾は、保存処理され、一般に公開されている。これらの平成17・18年度の調査成果のうち、伊古田遺跡１・２区、大野田古墳群10区、下ノ内遺跡６・７区の調査成果を本書にまとめて「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ（第413集）」として報告する。平成19～21年度の調査成果の一部は「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ（第414集）」として報告し、平成22～24年度の調査成果はまとめて報告する予定である。

第４節　報告書の作成

本報告書は「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書」の第３冊目となり、第２表、第３表に示した、網掛けの部分を対象としている。各発掘調査の要項は、第２章の各節に記述している。当初、報告書の作成は平成22・23年度の予定であったが、平成23年３月11日の東日本大震災により、滞った22年度の業務を平成23年度に実施し、報告書の刊行は24年度とした。報告書の作成体制は以下のとおりである。

・平成22年度
整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係
　　専門員　結城慎一　　主査　主濱光朗　　主任　工藤信一郎　渡部 紀
　　主事　鈴木 隆　水野一夫　庄子裕美
整理組織：国際文化財株式会社
　　主任調査員　田村典雄　　調査員　継　実　　調査補助員　内田恭司　長内礼二
整理期間：平成22年10月８日～平成23年３月31日
・平成23年度
整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係
　　主査　主濱光朗　　主任　工藤信一郎　　主事　鈴木　隆　水野一夫　庄子裕美
整理組織：国際文化財株式会社
　　主任調査員　前川雅夫　　調査員　佐藤　洋
整理期間：平成23年９月22日～平成24年３月30日
・平成24年度
整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係
　　主査　主濱光朗　荒井　格
整理組織：国際文化財株式会社
　　主任調査員　前川雅夫　水上匡彦　　調査員　田中美穂　辻本 彩　　調査補助員　佐藤公保
整理期間：平成24年６月４日～平成25年３月29日

第２表　富沢駅周辺　調査区一覧

調査年度	大野田 ３次調査	元袋 ４次調査	六反田 ５次調査	伊古田 ３次調査	春日社古墳 ２次調査	王ノ壇古墳 ２次調査	鳥居塚古墳 ２次調査	大野田古墳群 ５次調査	下ノ内 ６次調査	王ノ壇 ２次調査	皿屋敷 ２次調査	袋前 １次調査	伊古田Ｂ １次調査
Ｈ７								1					
Ｈ８							２次-1	2		1			
Ｈ９			1				２次-2	3		道路遺構			
Ｈ10								4				1	1
Ｈ11									1				
Ｈ12								5	2				
Ｈ13								6	3			2	
Ｈ14								7	4				2
Ｈ15						２次		8	5			3	
Ｈ16								9				4	3
Ｈ17		1	2	1				10	6				
Ｈ18			3	2				11	7				
Ｈ19		2	4		２次			12・11D	8			5	
Ｈ20	1	3	5					13	9		1		
Ｈ21			6A・B・E～G	3				14	10				4
Ｈ22		4	6B-5・6C・6D・7	4				15				6	5
Ｈ23			7F-2・8D	4A・5				16					
Ｈ24			8B・8C・9	6				16A-1・17					

※網掛け部分が本報告書掲載調査区。大野田官衙遺跡に関係する調査は、六反田遺跡 2B・5C・6A 区、大野田古墳群 5A・9A・13B・13C・14B 区、袋前遺跡 2A・2B・3 区で、その他に国庫補助事業による調査がある。それらの成果を合わせて報告書Ⅱ（第 390 集）で報告した。

第３表　富沢駅周辺　遺跡別調査次数

調査次数	大野田	元袋	六反田	伊古田	春日社古墳	王ノ壇古墳	鳥居塚古墳	大野田古墳群	下ノ内	王ノ壇	皿屋敷	袋前	伊古田Ｂ
１次	川柳線・整理中	共同住宅・103 集	共同住宅・34 集	共同住宅・83 集	市道・108 集	川柳線・249 集	市道・108 集	市道・108 集	地下鉄・136 集	川柳線・249 集	川柳線・249 集	当区画整理関係	当区画整理関係
２次	消防署・252 集	共同住宅・188 集	地下鉄・199 集	地下鉄・193 集	当区画整理関係	当区画整理関係	当区画整理関係	コミセン・41 集	共同住宅・未報告	当区画整理関係	当区画整理関係	個人住宅・301 集	共同住宅・326 集
３次	当区画整理関係	川柳線・272 集	給食室・72 集	当区画整理関係			個人住宅・392 集	共同住宅・83 集	共同住宅・未報告	共同住宅・238 集			
４次		当区画整理関係	共同住宅・102 集				個人住宅・392 集	共同住宅・138 集	共同住宅・未報告	共同住宅・238 集			
５次		店舗付住宅・301 集	当区画整理関係				個人住宅・392 集	当区画整理関係	共同住宅・163 集	共同住宅・268 集			
６次		共同住宅・341 集	個人住宅・392 集					個人住宅・266 集	当区画整理関係				
７次			個人住宅・392 集					ＧＳ・287 集	共同住宅・266 集				
８次			個人住宅・392 集					はぎの苑・290 集	共同住宅・320 集				
９次			校舎・398 集					共同住宅・291 集					
10 次								個人住宅・301 集					
11 次								個人住宅・301 集					
12 次								個人住宅・326 集					
13 次								共同住宅・319 集					
14 次								保育所・339 集					
15 次								国庫・347 集					
16 次								保育所・372 集					
17 次								たんぽぽ・355 集					
18 次								複合施設・364 集					
19 次								個人住宅・371 集					

※第２・３表のアミ掛け表示は、本報告書で報告があることを示す。

第２章　本調査報告

第１節　富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の基本層序

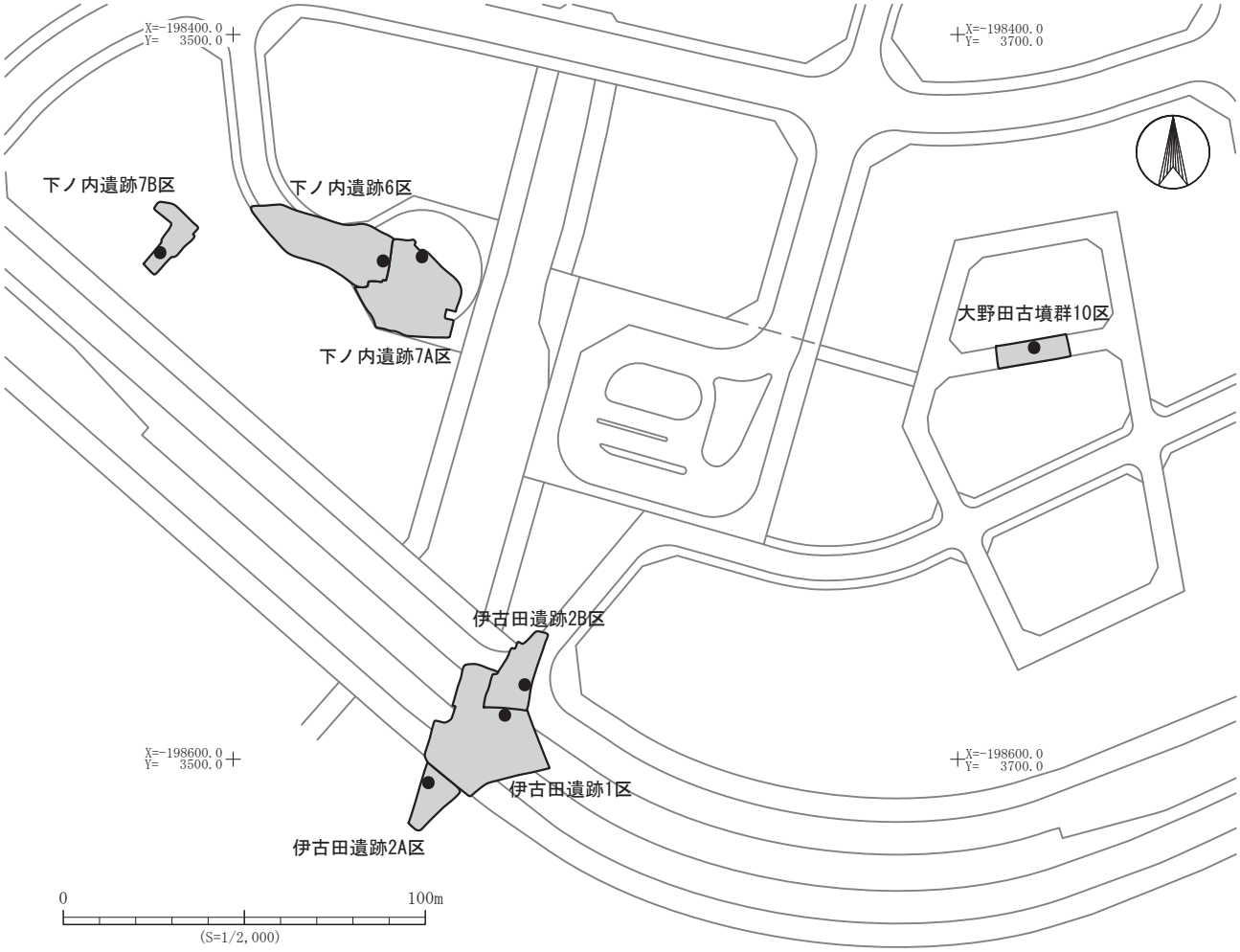
本報告書における富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の調査は、３遺跡７調査区に及ぶ。これらの調査区は、いずれも近・現代の土地造成や畑・水田耕作によって少なからず削平されているものの、各調査区で遺存状況の良好な地点の土層を基本層序とし、検討した。以下、各層の特徴について記載する。

Ⅰ層：現代の畑・水田耕作土である。色調は黒褐色や黄褐色等の褐色系や灰黄色で、土質はシルトや粘土質シルト等、土色および土質ともに各調査区において様相が異なる。下ノ内遺跡６・７Ｂ区、大野田古墳群 10 区では層下部に酸化鉄を含む。層厚は９～ 47cm である。

Ⅱ層：色調は暗褐色または黄灰色、土質はシルト質粘土・シルト・粘土質シルトと調査区により様相が異なる。Ⅰ層と同じく層下部に酸化鉄を多く含む。層厚は２～ 10cm である。

Ⅲ層：にぶい黄褐色シルトでマンガン粒を斑状に多く含む。大野田古墳群 10 区北側で僅かに確認され、層厚は２～ 6cm である。

Ⅳ層：伊古田遺跡２Ｂ区、下ノ内遺跡６・７Ａ区は褐色シルト・シルト質粘土、大野田古墳群 10 区及び下ノ内遺跡７Ｂ区では、暗褐色シルトないし粘土質シルトである。いずれも酸化鉄やマンガン粒を含む点で共通する。層厚は



第１図　富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡基本層序位置図

３～22cm である。

Ⅴ層：古墳時代～古代の遺構検出面である。色調はにぶい黄褐色ないし暗褐色で概ね共通するが、土質はシルトないし砂質シルト・シルト質粘土と調査区で様相が異なる。層厚は３～24cm である。

Ⅵ層：色調はにぶい黄褐色・暗褐色など褐色系を基調とするが、土質はシルト・砂質シルト・粘土質シルト・シルト質粘土と調査区により様相が異なる。下ノ内遺跡７Ａ区では縄文時代後期中葉の遺物包含層である。層厚は 11 ～ 17cm である。

Ⅶ層：色調は褐色ないし暗褐色、土質はシルト・砂質シルト・シルト質粘土である。層厚は 11 ～ 46cm である。伊古田遺跡２Ｂ区では色調の違いにより２層に細分される。Ⅶａ層はにぶい黄褐色シルトで灰色砂質シルトを含み、層厚は４～21cm、Ⅶｂ層は灰黄褐色シルトで層厚は５～22cm である。下ノ内遺跡７Ａ区では縄文時代後期中葉の遺構検出面である。

Ⅷ層：色調は褐色や黒褐色等の褐色系もしくは暗オリーブ黒色で、土質はシルトや砂質シルト・シルト質粘土等、土色および土質ともに各調査区において様相が異なる。大野田古墳群 10 区では炭化物粒を多く含む。下ノ内遺跡６区では調査区東側で部分的に確認される。層厚は７～44cm である。

Ⅸ層：伊古田遺跡２Ｂ区、大野田古墳群 10 区、下ノ内遺跡６・７Ｂ区で確認された。灰黄褐色シルトないし褐色シルトである。層厚は６～35cm である。

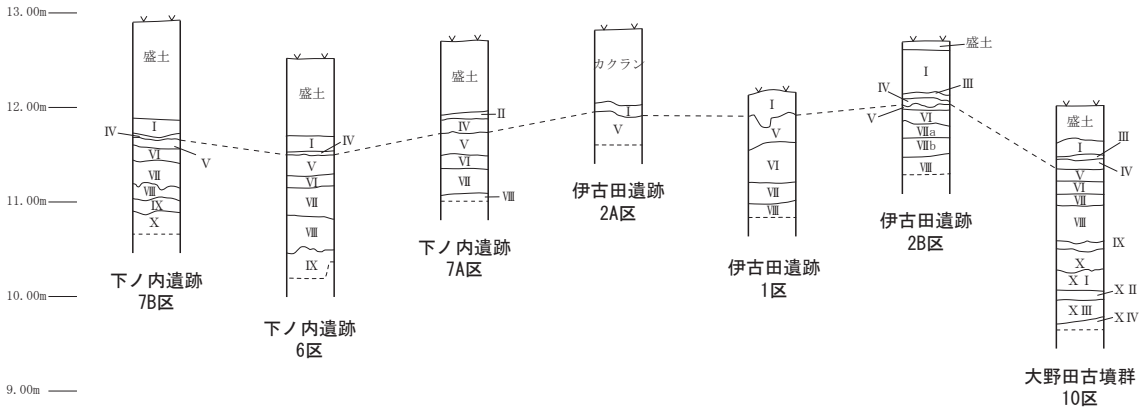
Ⅹ層：伊古田遺跡２Ｂ区、大野田古墳群 10 区、下ノ内遺跡７Ｂ区で確認された。暗褐色のシルトないし粘土質シルトで、伊古田遺跡２Ｂ区、大野田古墳群 10 区では酸化鉄を斑状に含む。層厚は 13 ～ 23cm である。

Ⅺ層：大野田古墳群 10 区で確認された。にぶい黄褐色シルトで、層厚は 17 ～ 31cm である。

Ⅻ層：大野田古墳群 10 区で確認された。マンガンを多く含む暗褐色シルト質砂で、層厚は 13 ～ 28cm である。

ⅩⅢ層：大野田古墳群 10 区で確認された。褐色砂質シルトで、層厚は 14 ～ 25cm である。

ⅩⅣ層：大野田古墳群 10 区で確認された。拳大の円礫等を含む砂礫層で、層厚は不明である。



第２図　富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡基本層序

第２節　伊古田遺跡

１．調査要項

（1）遺 跡 名 ：伊古田遺跡（宮城県遺跡登録番号 01191）
（2）所 在 地 ：仙台市太白区大野田字塚田
（3）調査面積：約 976㎡
　　・平成 17 年度：約 646㎡（1 区）
　　・平成 18 年度：約 330㎡（2A・2B 区）
（4）調査主体：仙台市教育委員会
（5）調査担当：仙台市教育委員会文化財課
（6）担当職員
　　・平成 17 年度：荒井　格・佐々信行　（派遣調査員：青嶋邦夫・村井毅史・脇本博康／国際文化財）
　　・平成 18 年度：荒井　格・門馬有希　（派遣調査員：青嶋邦夫・朝日向忠久／国際文化財）
（7）調査期間
（野外調査）・平成 17 年度：平成 17 年 10 月 11 日～平成 18 年 1 月 11 日
　　・平成 18 年度：平成 18 年 11 月 14 日～平成 19 年 1 月 23 日
（整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。
　　・平成 22 年度：平成 22 年 10 月 8 日～平成 23 年 3 月 31 日
　　・平成 23 年度：平成 23 年 9 月 22 日～平成 24 年 3 月 30 日
　　・平成 24 年度：平成 24 年 6 月 4 日～平成 25 年 3 月 29 日

２．１区の調査

1 区の調査では、Ⅴ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡 2 軒、掘立柱建物跡 1 棟、土坑 3 基、河川跡 1 条、性格不明遺構 2 基、溝跡 13 条、ピット 135 基を検出した。

（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物（第 1 図、図版 1）

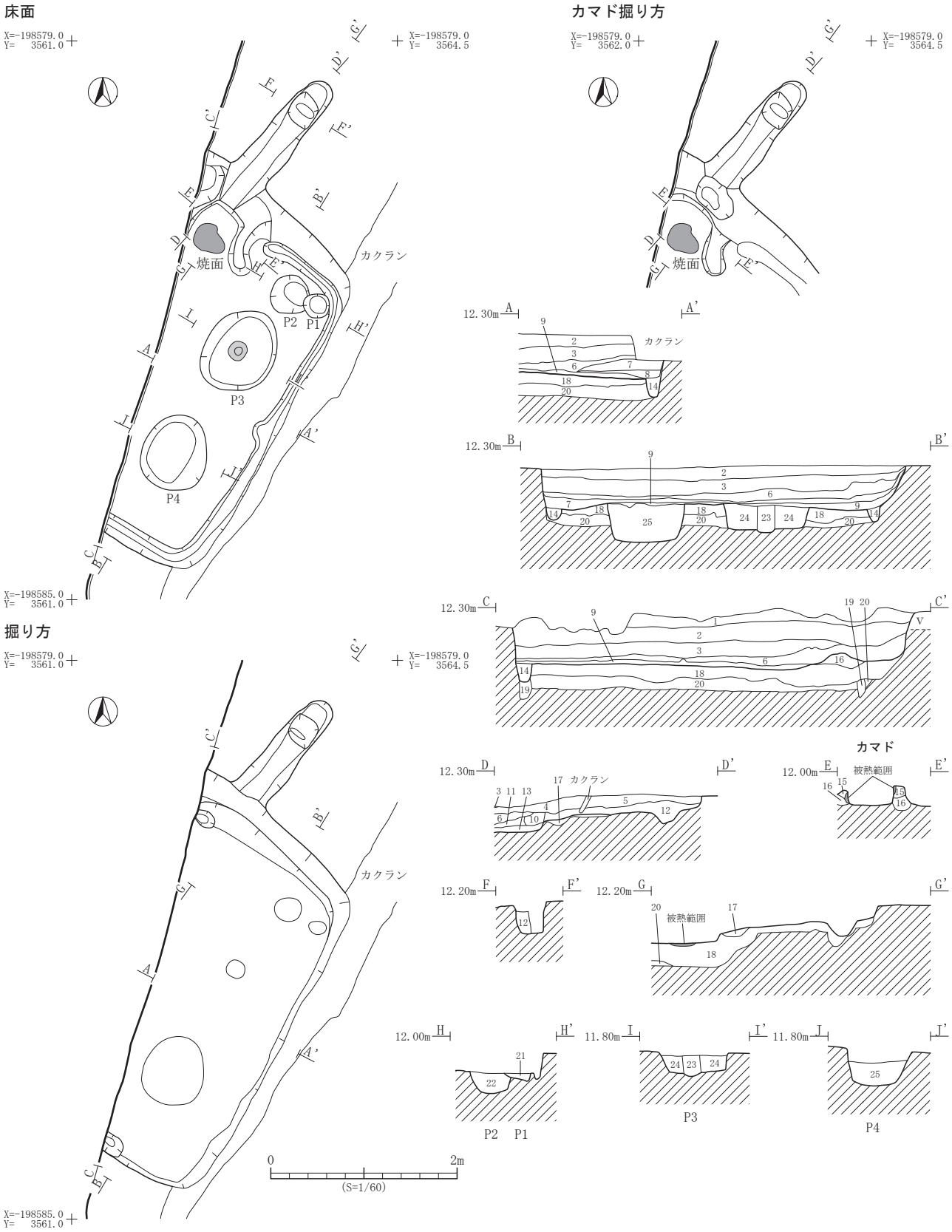
１）竪穴住居跡

SI16 竪穴住居跡（第 2 図、図版 2）

[位置] W230・S170 ～ 180 グリッドに位置し、西側の調査区外に延びる。
[規模・形態] 検出した規模は、東西 2.09m、南北 3.88m で、平面形は方形ないしは長方形と考えられる。
[主軸方位] カマド基準で N-50° -E である。
[堆積土・構築土] 20 層に分層した。1 ～ 9 層は住居跡堆積土、10 ～ 13・15 ～ 17 層はカマド関連層位、14 層は周溝内堆積土、18 ～ 20 層は掘り方埋土である。P1 ～ 4 の堆積土は 21 ～ 25 層に分層した。
[壁面] 周溝底面から急角度に立ち上がる。壁高は床面から 47cm である。
[床面] 18 層上面を床面としている。ほぼ平坦で、特に目立った硬化面等はみられない。
[柱穴] 床面下で 4 基（P1 ～ 4）のピットを検出した。配置・規模から P3・4 は主柱穴と考えられ、P3 では径 8cm の柱痕跡が検出された。柱穴の掘り方は、径 29 ～ 37cm、深さ 24 ～ 39cm である。
[周溝] カマド付設箇所を除いて全周する。断面形は U 字形で、規模は幅 11 ～ 25cm、深さ 13 ～ 20cm である。
[カマド] 北壁に付設されている。袖の規模は、東袖が長さ 84cm、幅 10 ～ 25cm、床面からの高さ 19cm、西袖が長さ 61cm、幅 3 ～ 17cm、床面からの高さ 15cm である。東袖は弯曲する。燃焼部の規模は、奥行き 58cm、幅 54cm である。煙道部は長さ 1.69m、幅 34 ～ 41cm、深さ 14 ～ 21cm で、底面は先端部から緩やかに傾斜し、先端から 25cm の位置に 1 辺 30cm、深さ 15cm のピットが認められる。
[掘り方] 深さ 14 ～ 41cm で、底面はほぼ平坦である。
[出土遺物] 堆積土から土師器・須恵器が出土している。そのうち土師器 2 点、須恵器 5 点を、第 3 図に図示した。1 は土師器の有段丸底坏である。2 は土師器埦の口縁部片である。3 ～ 4 は須恵器甕の胴部片である。いずれも外面

第１図　伊古田遺跡１区Ｖ層遺構配置図

に平行タタキ目が見られ、4 の内面には当て具痕がみられる。7 は須恵器甑の把手片である。本住居跡の時期は不明であるが、煙道内堆積土から出土した 1 の年代は、8 世紀前半～中頃と考えられる。

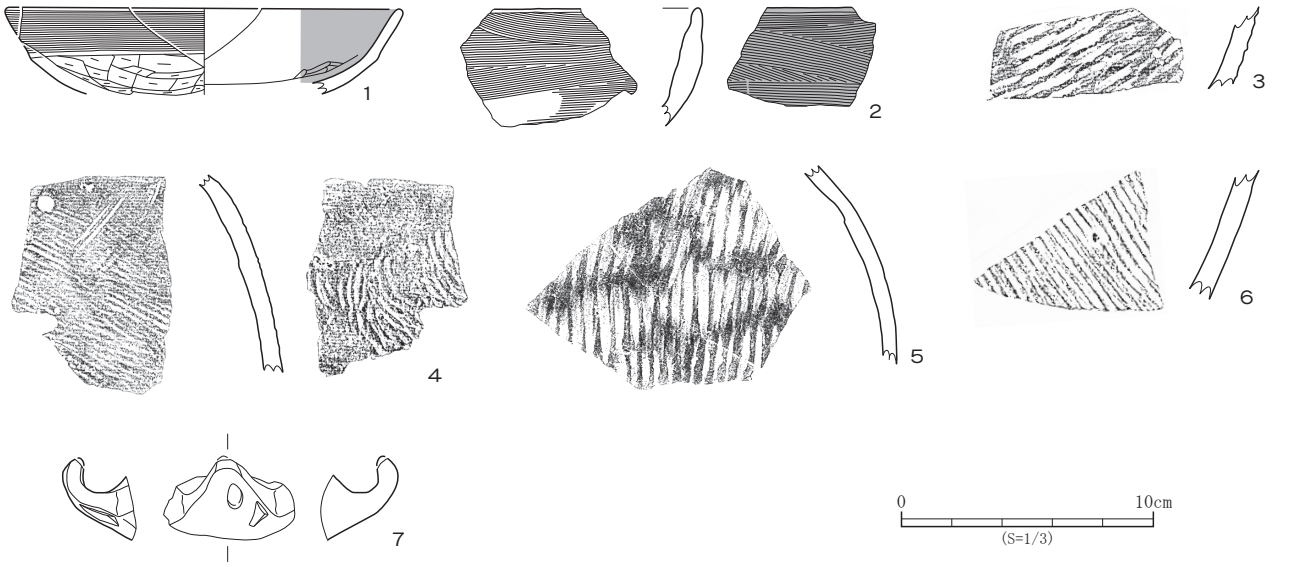


第２図　ＳＩ 16 竪穴住居跡平面図・断面図

SI16 土層注記表

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI16	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色砂粒をわずかに含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色砂粒（φ１～２㎜）をわずかに含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物(φ 1㎜)を多量含む。炭化物(φ５～15㎜)をわずかに含む。
	4	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロックを少量含む。炭化物わずかに含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロックを少量含む。炭化物（φ３～６㎜）を多量含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物（φ２㎜）を多量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色砂質シルトブロックを多量含む。炭化物を少量含む。
	8	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物（φ２～５㎜）を多量含む。
	9	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物を少量含む。
	10	2.5YR5/8 明赤褐色	焼土	炭化物（φ２～５㎜）を多量含む。
	11	2.5YR4/6 赤褐色	焼土	炭化物（φ２～５㎜）を多量含む。
	12	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰白色シルトブロック・炭化物塊（φ10～20㎜）・明赤褐色焼土塊（φ10～20㎜）を多量含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI16	13	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	-
	14	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物(φ２～５㎜)を多量含む。(周溝内堆積土)
	15	10YR3/4 暗褐色	シルト	細砂を少量含む。
	16	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	-
	17	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物（φ10～20㎜）を多量含む。
	18	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色砂質シルトブロックを少量含む。(掘り方埋土)
	19	10YR3/4 暗褐色	シルト	(掘り方埋土)
	20	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色砂質シルトブロックを少量含む。18 層より粘性強い。(掘り方埋土)
P1	21	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物（φ１～２㎜）を少量含む。
P2	22	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物（φ２～４㎜）を多量含む。焼土粒（φ２～４㎜）を少量含む。
P3	23	2.5YR7/6 橙色	粘土質シルト	-
	24	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物（φ２～３㎜）を少量含む。(柱痕)
P4	25	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	粘性あり。



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-2	1	SI16	12	土師器	坏	(15.5) × - ×現 3.4	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理		7-1
2	C-3	1	SI16	3	土師器	埦	- × - ×現 4.8	ナデ・ヘラナデ	ナデ・黒色処理		-
3	E-1	1	SI16	下層	須恵器	甕	- × - ×現 3.1	平行タタキ	当て具痕		-
4	E-2	1	SI16	中層	須恵器	甕	- × - ×現 7.3	平行タタキ・ロクロナデ	当て具痕（青海波文）・ロクロナデ		-
5	E-3	1	SI16	下層	須恵器	甕	- × - ×現 7.9	平行タタキ	ヘラナデ		-
6	E-4	1	SI16	下層	須恵器	甕	- × - ×現 5.1	平行タタキ	ヘラナデ	外面自然釉付着。	-
7	E-6	1	SI16	上層	須恵器	甑	- × - ×現 3.2	ヘラケズリ・ナデ?	-	外面摩滅。	7-2

第３図　ＳＩ 16 竪穴住居跡出土遺物

SI18 竪穴住居跡（第２図、図版２）

[位置] W230・S170 ～ 180 グリッドに位置し、北側の調査区外に延びる。

[重複関係] SR22、SD14 と重複関係にあり、本遺構が新しい。

[規模・形態] 平面形は、東西 4.81m、南北 3.58m 以上の方形を基調としたものである。

[主軸方位] 東・西壁を基準とすると N-17° -E である。

[堆積土・構築土] 15 層に分層した。1 ～ 7 層は住居跡堆積土、8 層は周溝内堆積土、9・10 層はカマド関連層位、11 ～ 15 層は掘り方埋土である。P1 ～ 4 の堆積土は 16 ～ 20 層に分層した。

[壁面] 周溝底面から外傾しながら立ち上がる。壁高は床面から 28cm である。

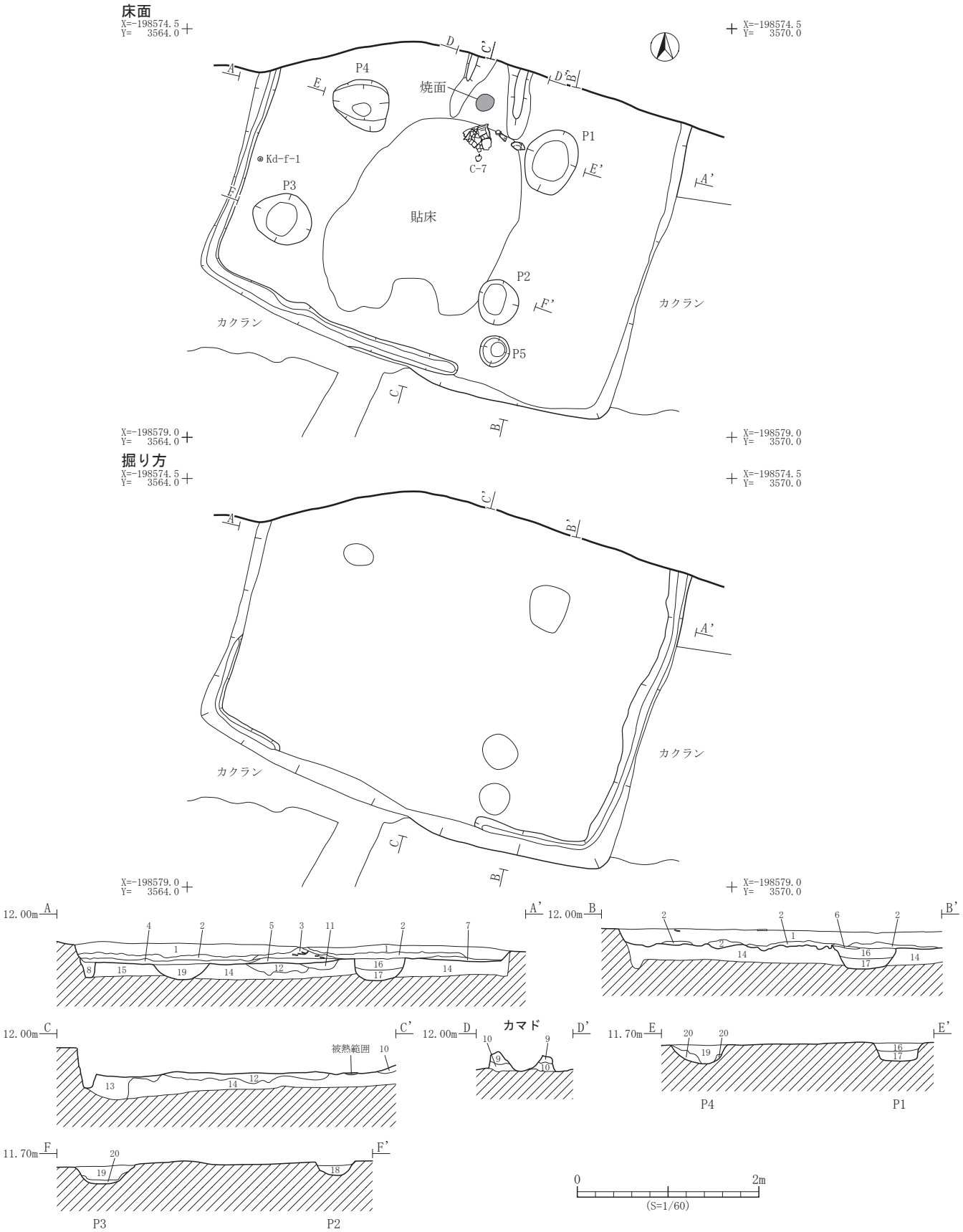
[床面] 掘り方埋土上面を床面としている。ほぼ平坦である。床面中央で、東西 1.75m、南北 2.10 mの範囲で貼床を検出した。

[柱穴] 床面で 5 基のピット（P1 ～ 5）を検出した。配置・規模から P1 ～ 4 は主柱穴と考えられるが、柱痕跡は検出されなかった。柱穴の掘り方は、径 44 ～ 72cm で、深さ 24 ～ 39cm である。

[周溝] 西壁の全て及び南壁中央から西側で検出された。断面形は U 字形で、規模は幅 9 ～ 14cm、深さ 16cm である。

[カマド] 調査区壁際で両袖を検出した。袖の規模は、東袖が長さ 81cm、幅 22 ～ 25cm、床面からの高さ 17cm、西袖が長さ 74cm、幅 15 ～ 31cm、床面からの高さ 23cm である。

[掘り方] 深さ 15 ～ 24cm で、底面はほぼ平坦である。



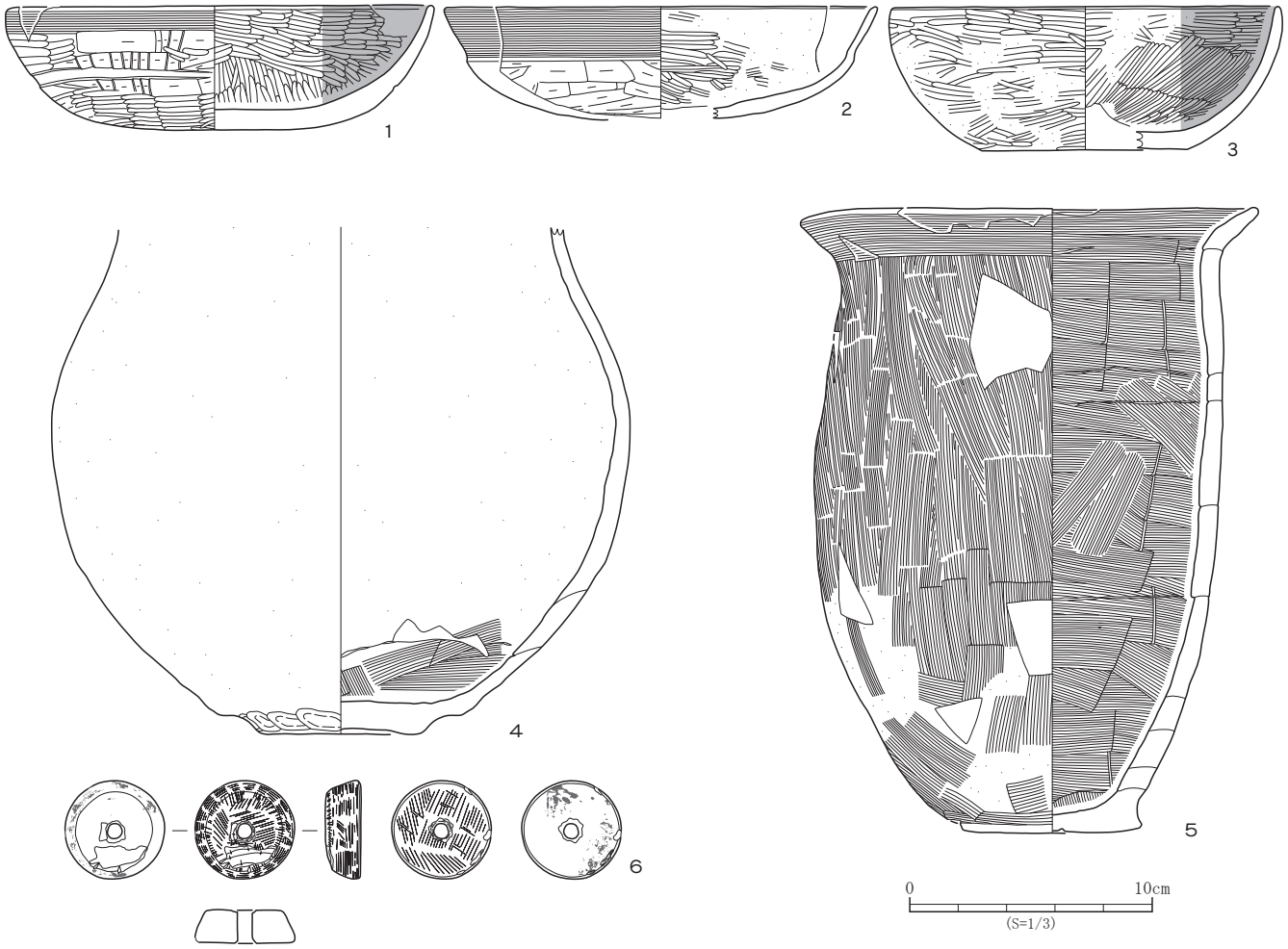
第４図　ＳＩ 18 竪穴住居跡平面図・断面図

SI18 土層註記表

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI18	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘質砂	-
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘質砂	部分的に褐灰色粘土をブロック状に含む。
	3	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物（φ１～2㎜）を少量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	粘質砂	礫（φ５～10㎜）を多量含む。
	5	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	-
	6	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	-
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質砂	-
	8	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	周溝埋土。
	9	10YR6/2 灰黄褐色	粘質砂	-
	10	10YR6/2 灰黄褐色	粘質砂	-
	11	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物（φ１～4㎜）を含む。（貼床）

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI18	12	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物（φ１～4㎜）を少量含む。（貼床）
	13	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	（掘り方埋土）
	14	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	（掘り方埋土）
	15	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色粘土質シルトを部分的に含む。（掘り方埋土）
P1	1	2.5YR3/2 暗赤褐色	粘質砂	炭化物・焼土（φ２～4㎜）を含む。礫（φ２～4㎜）を多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	-
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘質砂	-
P3・P4	1	2.5YR3/2 暗赤褐色	粘質砂	炭化物（φ２～4㎜）・焼土（φ２～4㎜）を含む。小礫（φ２～4㎜）を多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	-

[出土遺物] 堆積土から土師器・須恵器・石製品等が出土している。そのうち土師器５点、石製品１点を、第５図に図示した。1・2 は土師器の有段丸底坏である。1 は、段が形骸化していると考えられる。いずれも内面を黒色処理されているが、2 は摩滅が著しく確認が困難である。3 は平底の土師器坏で、内面黒色処理されている。4 は球胴の土師器甕、５は長胴の土師器甕である。6 は石製紡錘車である。研磨により整形され、漆の付着が見られる。1 ～ 3 の土師器の有段丸底坏および平底坏から、本住居跡の年代は８世紀前半～中頃と考えられる。



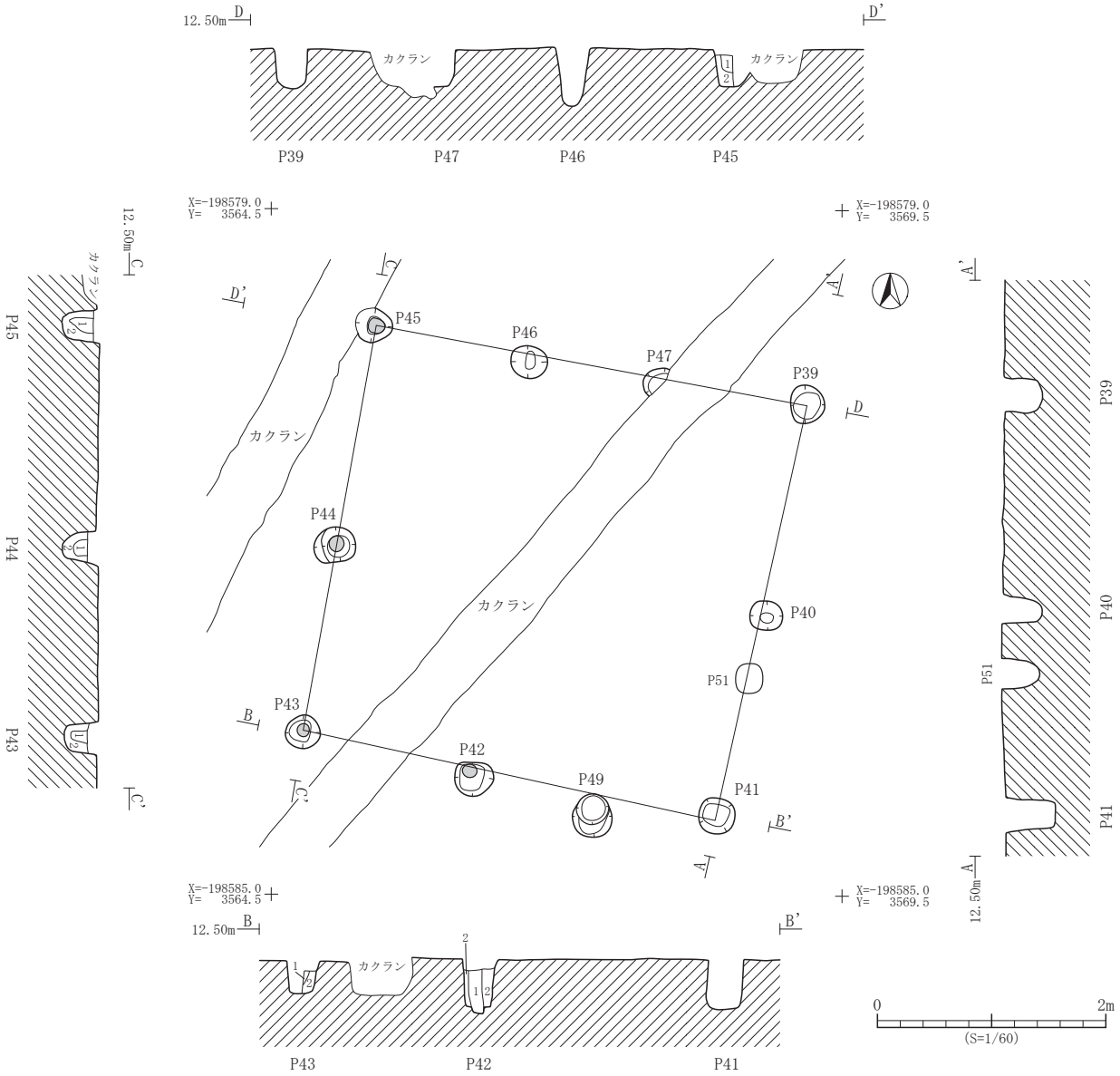
No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-4	1	SI18	下層	土師器	坏	17.7 × - × 5.1	ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヘラミガキ・黒色処理		7-3
2	C-6	1	SI18	下層	土師器	坏	(17.8) × - ×現 4.6	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理？		7-4
3	C-5	1	SI18	下層	土師器	坏	(16.0) × (8.4) × 5.9	ヘラミガキ	ヘラミガキ・黒色処理		7-5
4	C-8	1	SI18	下層	土師器	甕	- × (6.4) ×現 20.9	指オサエ	ヘラナデ	内外面摩滅。	7-6
5	C-7	1	SI18	下層	土師器	甕	18.7 × 7.4 × 25.8	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ・ナデ	ヨコナデ・ヘラナデ・ナデ	底部木葉痕。	7-7

No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ（cm）	重さ（g）	備　考	写真図版
6	Kd-f-1	1	SI18	下層	石製品	紡錘車	緑泥片岩	4.1 × 4.1 × 1.5	39.40	孔径 0.6cm、漆付着。	7-8

第５図　ＳＩ 18 竪穴住居跡出土遺物

２）掘立柱建物跡

SB1 掘立柱建物跡（第６図、図版２）　W230・S180 グリッドに位置する。SR22、SD14 と重複関係にあり、本遺構が新しい。規模は桁行３間（北列西から 1.38m+1.20m+1.27m、総長 3.85m、南列西から 1.50m+1.15m+1.07m、総長 3.72m）、梁行２間（西列北から 1.93m+1.65m、総長 3.58m、東列北から 1.90m+1.82m、総長 3.72m）の側柱建物であり、桁行柱列方向は N-78°-W である。柱穴掘り方の規模は、径 25 ～ 36cm の円形もしくは楕円形で、検出面からの深さは 25 ～ 36cm である。P42 ～ 45 で径 9 ～ 13cm の柱痕跡を検出した。遺物は堆積土から土師器の小片が出土した。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SB1 P42	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロックを多量含む。（柱痕）
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを多量含む。
SB1 P43	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを多量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを１層より多量含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SB1 P44	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロックを多量含む。（柱痕）
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロックを１層より多量含む。
SB1 P45	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロックを多量含む。（柱痕）
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	-

第６図　ＳＢ１掘立柱建物跡平面図・断面図

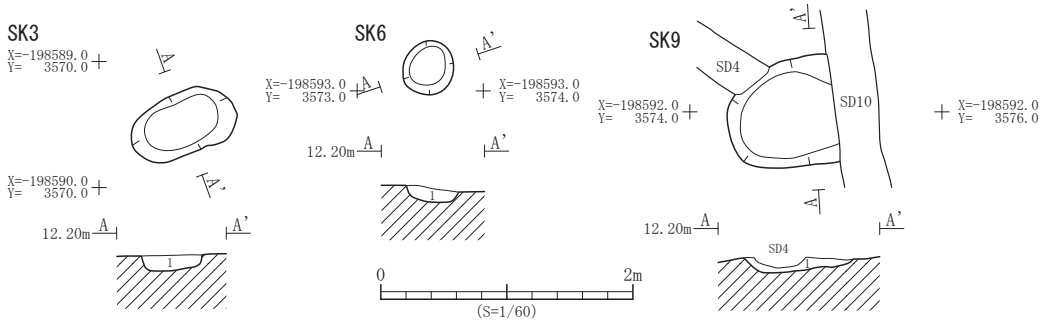
３）土坑

SK3 土坑（第７図、図版２）　W220・S180 グリッドで検出した。SD4 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は N-62°-E である。規模は長軸 85cm、短軸 49cm、深さ 13cm で、壁面は、底面からほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK6 土坑（第７図、図版２）　W220・S190 グリッドで検出した。SD5 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平

面形は円形で、規模は径 44cm、深さ 12cm である。壁面はやや外に開きながら立ち上がり、断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK9 土坑（第７図、図版２）　W220・S190 グリッドで検出した。SD4・5・10 と重複関係にあり、SD5 より新しく、SD4・10 より古い。東側を SD10 に削平されるが、平面形は楕円形と考えられる。長軸方向は N-72° -E である。検出した規模は長軸 86cm、短軸 84cm、深さ 10cm で、壁面は底面から、大きく外に開くように立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



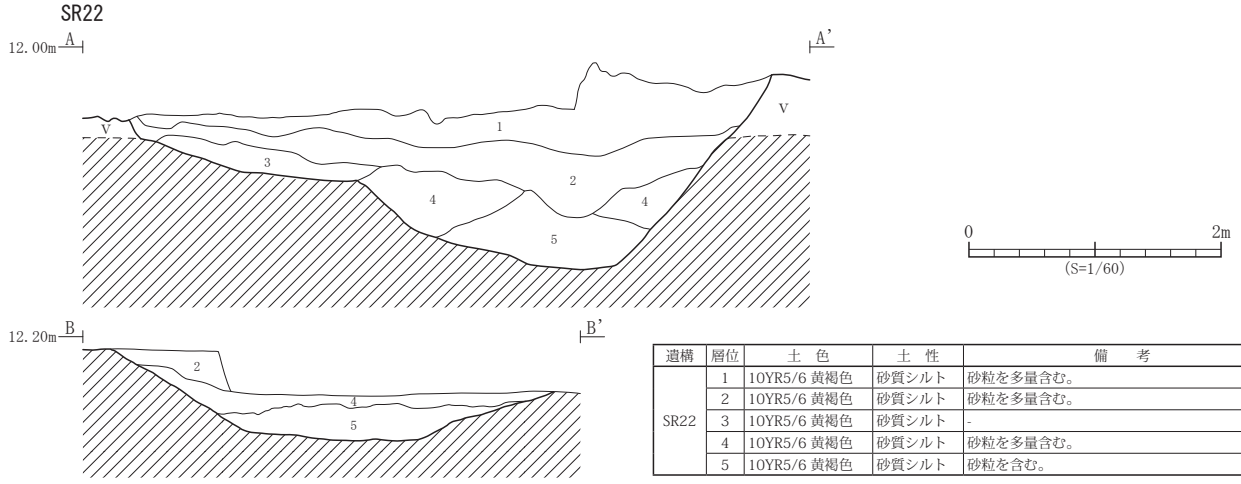
遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄褐色シルトを含む。炭化物粒（φ１～2mm）をわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK6	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物粒（φ１～2mm）をわずかに含む。
SK9	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物粒、焼土粒（φ２～3mm）を多量含む。

第７図　ＳＫ３・６・９土坑平面図・断面図

４）河川跡

SR22 河川跡（第１・８図、図版１・３）　W220 ～ 230・S170 ～ 210 グリッドで検出した。SI18、SB1、SD5・12 ～ 14、P24・48・50 ～ 53 と重複関係にあり、本遺構が古い。南北両側の調査区外に延びる。方向は N-4° -E で、検出長は 35.20m、幅 2.80 ～ 4.90m、深さ 0.68m で、断面形は不整 U 字形である。堆積土は 5 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器・土師器の小片が出土した。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SR22	1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	砂粒を多量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	砂粒を多量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	-
	4	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	砂粒を多量含む。
	5	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	砂粒を含む。

第８図　ＳＲ 22 河川跡断面図

５）性格不明遺構

SX11 性格不明遺構（第 15 図、図版３）　W220・S170 ～ 180 グリッドで検出した。平成 17 年度の調査では、調査区壁際で検出したため性格不明遺構として調査したが、次年度調査を行った隣接する 2B 区で SI1 を検出し、本遺構が SI1 の一部であることを確認した。そのため、伊古田遺跡 2B 区の SI1 として合わせて報告する。

SX17 性格不明遺構（第 15 図、図版３）　W220・S170 ～ 180 グリッドで検出した。本遺構も SX11 と同様、調査区壁際で検出し、次年度調査を行った隣接する 2B 区で検出した、SI1 の一部であることを確認したため、伊古田遺跡 2B 区の SI1 として合わせて報告する。

６）溝跡（第１図）

SD2 溝跡（第１・９図、図版３）　W220・S180 グリッドで検出した。SD4 と重複関係にあり、本遺構が新しい。東西両側を撹乱に削平される。方向は N-69°-E で、検出長 3.97m、幅 44 ～ 64cm、深さ 8 ～ 12cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土した。

SD4 溝跡（第１・９図、図版３）　W220・S180 ～ 190 グリッドで検出した。SK3・9、SD2・5・10 と重複関係にあり、本遺構が SK9、SD5・10 より新しく、SK3、SD2 より古い。北西側を SD2 に削平される。方向は N-53°-W で、検出長 5.90m、幅 28 ～ 43cm、深さ 5 ～ 8cm である。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器の小片が出土している。

SD5 溝跡（第１・９図、図版３）　W210 ～ 240・S180 ～ 200 グリッドで検出した。SK6・9、SR22、SD4・7・10 と重複関係にあり、本遺構が SR22 より新しく、他より古い。W230・S190 ～ 200 グリッドで撹乱に削平される。北東・南西側の調査区外に延び、南西側は 2A 区 SD1 に連続する。方向は N-55°-E で、検出長 27.77m、幅 2.39 ～ 3.03m、深さ 0.90 ～ 1.30m である。断面形は漏斗形である。堆積土は 9 層に分層される。遺物は堆積土から土師器の小片が出土している。

SD7 溝跡（第１・９図、図版３）　W240・S190 ～ 200 グリッドで検出した。SD5 と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は N-28°-E で、長さ 3.72m、幅 30 ～ 50cm、深さ 4 ～ 10cm である。断面形は不整形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD8 溝跡（第１・９図、図版３）　W210・S190 ～ 200 グリッドで検出した。本遺構の北西側上端と、SD20 の同位上端が同じ形状をしていることから、本遺構は SD20 の掘り直しの溝跡の可能性も考えられる。また、本遺跡における平成 21 年度調査の 3 区で検出された SD5 と同一の溝跡と考えられる。ただし、3 区検出の SD5 が本遺構と SD20、どちらに連続するか不明である。SD12・20・21 と重複関係にあり、本遺構が SD20・21 より新しく SD12 より古い。南西側は SD12 に削平され、北東側の調査区外に延びる。方向は N-34°-E で、検出長 4.75m、幅 1.38 ～ 2.14m、深さ 25 ～ 36cm である。断面形は不整な逆台形もしくは U 字形である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から、縄文土器・土師器・須恵器の小片が出土している。

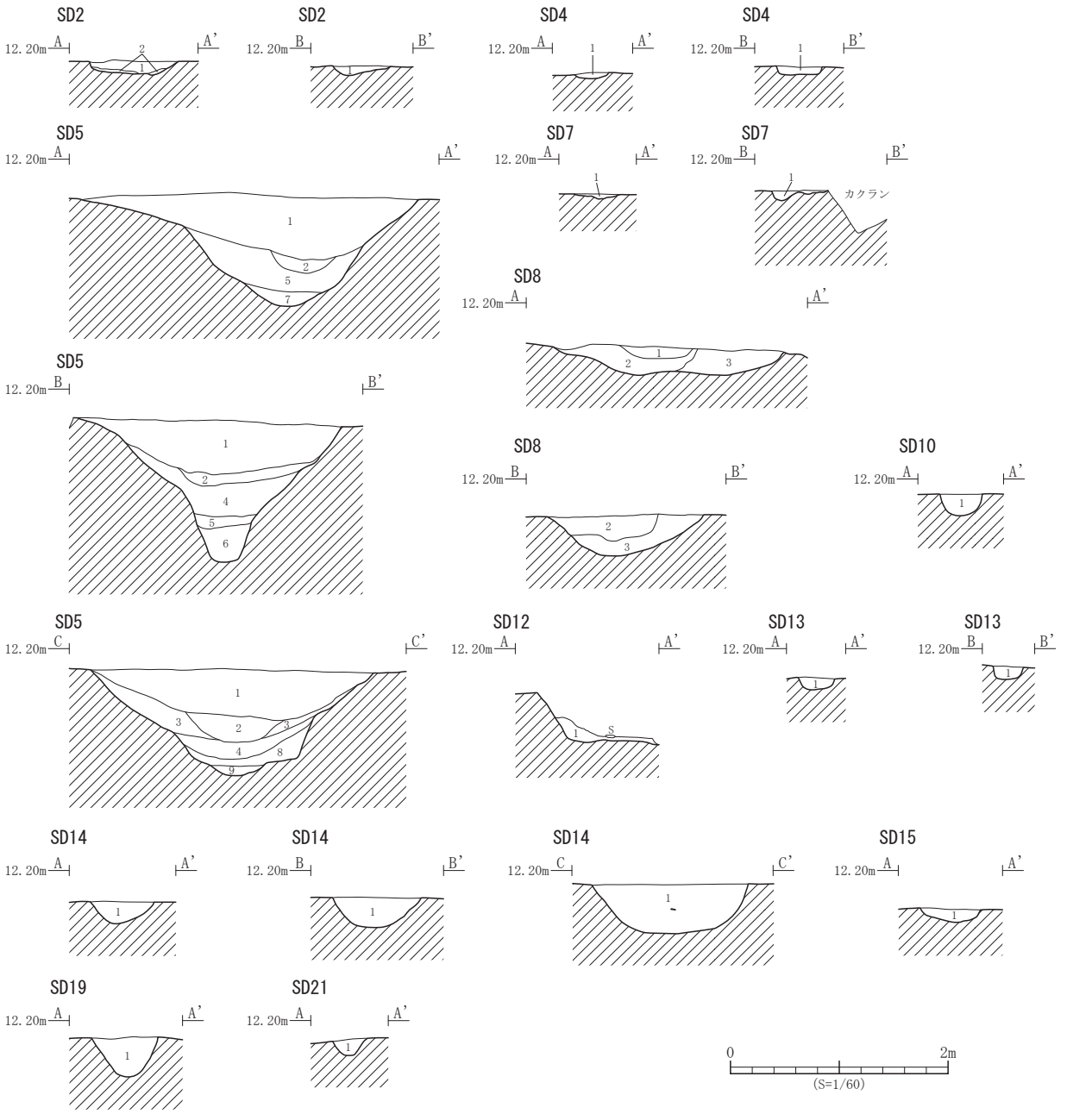
SD10 溝跡（第１・９図、図版３）　W220・S180 ～ 190 グリッドで検出した。SK9、SD4・5 と重複関係にあり、本遺構が SK9、SD5 より新しく SD4 より古い。北側は撹乱に削平される。方向は N-8°-W で、検出長 5.96m、幅 33 ～ 48cm、深さ 19cm である。断面形は U 字形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土している。

SD12 溝跡（第１・９図、図版３）　W210 ～ 220・S200 グリッドで検出した。SD8・20 と重複関係にあり、本遺構が新しい。東側の調査区外に延び、南側は撹乱に削平される。方向は N-79°-E で、検出長 16.39m、幅 0.57 ～ 1.12m、深さ 48cm である。断面形は不明である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土している。

SD13 溝跡（第１・９図、図版３）　W230 ～ 240・S180 ～ 190 グリッドで検出した。SR22、SD14 と重複関係にあり、本遺構が新しい。南西側の調査区外に延び、北東側は撹乱に削平される。方向は南西から北東へ N-41°-E で延び、N-57°-E 方向へ屈曲して延びる。検出長 17.30m、幅 25 ～ 37cm、深さ 10 ～ 12cm である。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器の小片が出土している。

SD14 溝跡（第１・９図、図版３）　W230 ～ 240・S170 ～ 190 グリッドで検出した。SI18、SR22、SD13 と重複関係にあり、本遺構が SR22 より新しく SI18、SD13 より古い。南西側の調査区外に延び、北東側は SI18 に削平される。方向は南西から北東へ N-51°-E で延び、N-22°-E 方向へ屈曲して延びる。検出長 17.42m、幅 0.49 ～ 1.18m、深さ 20 ～ 45cm である。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器が出土した。第 11 図に 2 点を図示した。1 は土師器坩で、底部中央が窪む。2 は、土師器甕口縁部片で、内外面ともに摩滅が顕著で調整の観察は困難である。遺物の年代は、ともに 4 世紀頃と考えられる。

SD15 溝跡（第１・９図、図版３）　W210 ～ 220・S190 ～ 200 グリッドで検出した。本遺跡平成 21 年度に調査した 3 区で検出された SD25 と同一の溝跡である。SD21、P96 ～ 101・108・109・114 と重複関係にあり、本遺構が SD21 より新しく P96 ～ 101・108・109・114 より古い。北東側の調査区外に延び、3 区 SD25 に連続する。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロックを含む。酸化鉄を多量含む。灰白色粒・炭化物（φ１～２㎜）をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロックを含む。
SD4	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物（φ１～２㎜）・焼土（φ２～４㎜）を少量含む。
SD5	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	下位ににぶい黄褐色砂を含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	下位ににぶい黄褐色砂を含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	-
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂ブロック（φ１～５㎜）を含む。
	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物（φ10㎜）を少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	礫（φ10㎜）を含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	-
	8	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物（φ10㎜）を少量含む。
	9	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	-

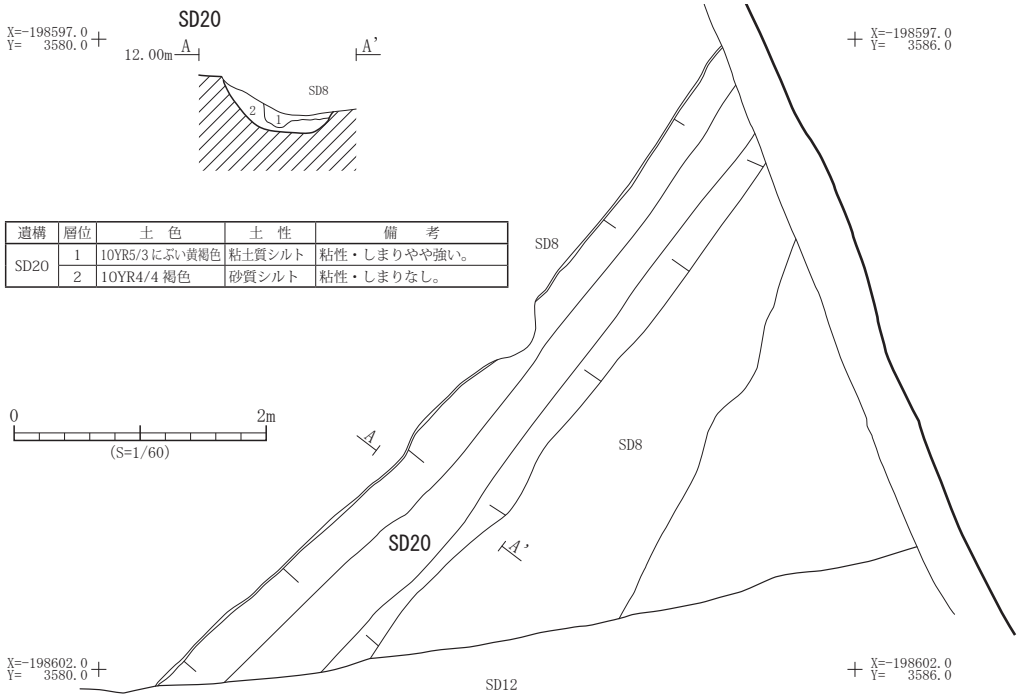
遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD7	1	10YR7/1 灰白色	砂質シルト	上位に灰白色砂質シルトを多量含む。下位に酸化鉄を含む。
SD8	1	10YR8/1 灰白色	シルト	-
	2	2.5Y オリーブ褐色	砂質シルト	上位に灰白色シルトを含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	-
SD10	1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	部分的に灰白色シルトを斑状に含む。
SD12	1	10YR6/1 褐灰色	シルト	酸化鉄を多量含む。
SD13	1	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	灰白色砂質シルトブロック・炭化物（φ２～３㎜）をわずかに含む。褐灰色粘土質シルトを少量含む。
SD14	1	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	上位に褐灰色砂質シルトを多量含む。炭化物（φ１～２㎜）をわずかに含む。
SD15	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色シルトブロックを斑状に含む。灰黄褐色砂を少量含む。
SD19	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	粘性・締りあり。
SD21	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色粘土粒をわずかに含む。

第９図　ＳＤ２・４・５・７・８・１０・１２～１５・１９・２１溝跡断面図

方向は N-49°-E で、検出長 10.70m、幅 34 ～ 56cm、深さ 12cm である。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器の小片・礫石器が出土しており、そのうち礫石器１点を第 11 図の３に図示した。片面にのみ研磨痕や窪み、敲打痕が観察される。

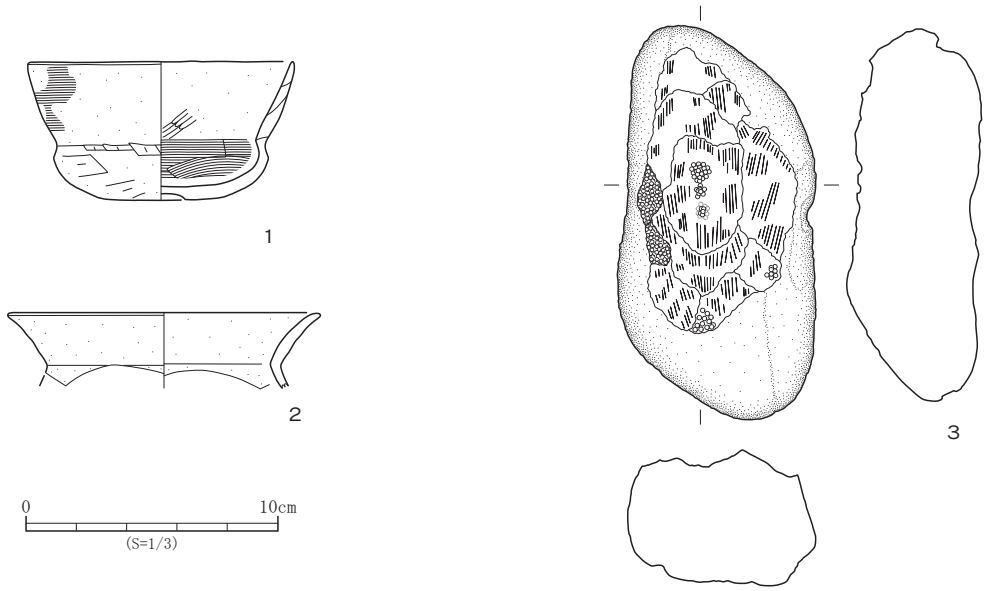
SD19 溝跡（第１・９図、図版３）　W210 ～ 220・S190 ～ 200 グリッドで検出した。本遺跡平成 21 年度に調査した３区で検出された SD24 と同一の溝跡である。SD21、P115・139 と重複関係にあり、本遺構が SD21、P139 より新しく P115 より古い。北東側の調査区外に延び、３区 SD24 に連続する。方向は N-50°-E で、検出長 7.96m、幅 46 ～ 87cm、深さ 36cm である。断面形は U 字形である。堆積土は単層である。遺物は土師器の小片が出土している。

SD20 溝跡（第１・10 図、図版３）　W210・S190 ～ 200 グリッドで検出した。本遺構の北西側上端と、SD8 の同位上端が同じ形状をしていることから、SD8 は本遺構の掘り直しの溝跡と考えられる。また、SD8 の項で記した



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD20	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性・しまりやや強い。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	粘性・しまりなし。

第 10 図　ＳＤ 20 溝跡平面図・断面図



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-9	1	SD14	1	土師器	坩	(11.0) × 3.0 × 5.4	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヘラナデ・ヘラミガキ	内外面摩滅。	7-9
2	C-11	1	SD14	1	土師器	甕	(12.3) × - ×現 3.0	-	-	内外面摩滅。	-

No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
3	Kc-a4-1	1	SD15	1	礫石器	磨＋凹＋敲	石英安山岩質凝灰岩	15.6 × 7.9 × 5.7　428.28	磨表 1、凹表 3、敲表 4。	7-10

第 11 図　ＳＤ 14・15 溝跡出土遺物

ように本遺跡平成 21 年度に調査した３区で検出された SD5 と同一の溝跡と考えられるが、本遺構と SD8、どちらに連続するか不明である。SD8 と重複関係にあり、本遺構が古い。北東・南西側の調査区外に延びる。方向は N-41° -E で、検出長 5.73m、幅 77 ～ 96cm、深さ 45cm である。断面形は逆台形である。堆積土は２層に分層される。遺物は土師器の小片が出土している。

SD21 溝跡（第１・９図、図版４）　W210・S190 ～ 200 グリッドで検出した。SD8・15・19、P111 と重複関係にあり、本遺構が古い。北西側は SD15 に削平され、南東側の調査区外に延びる。方向は N-52° -W で、検出長 5.50m、幅 24 ～ 37cm、深さ 15cm である。断面形は U 字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

７）ピット（第１図､図版１）135 基のピット（P1 ～ 35・38 ～ 123・125 ～ 129・131・133 ～ 140）を検出した。遺構配置図のみに表示した。遺物は堆積土から土師器の小片が出土した。

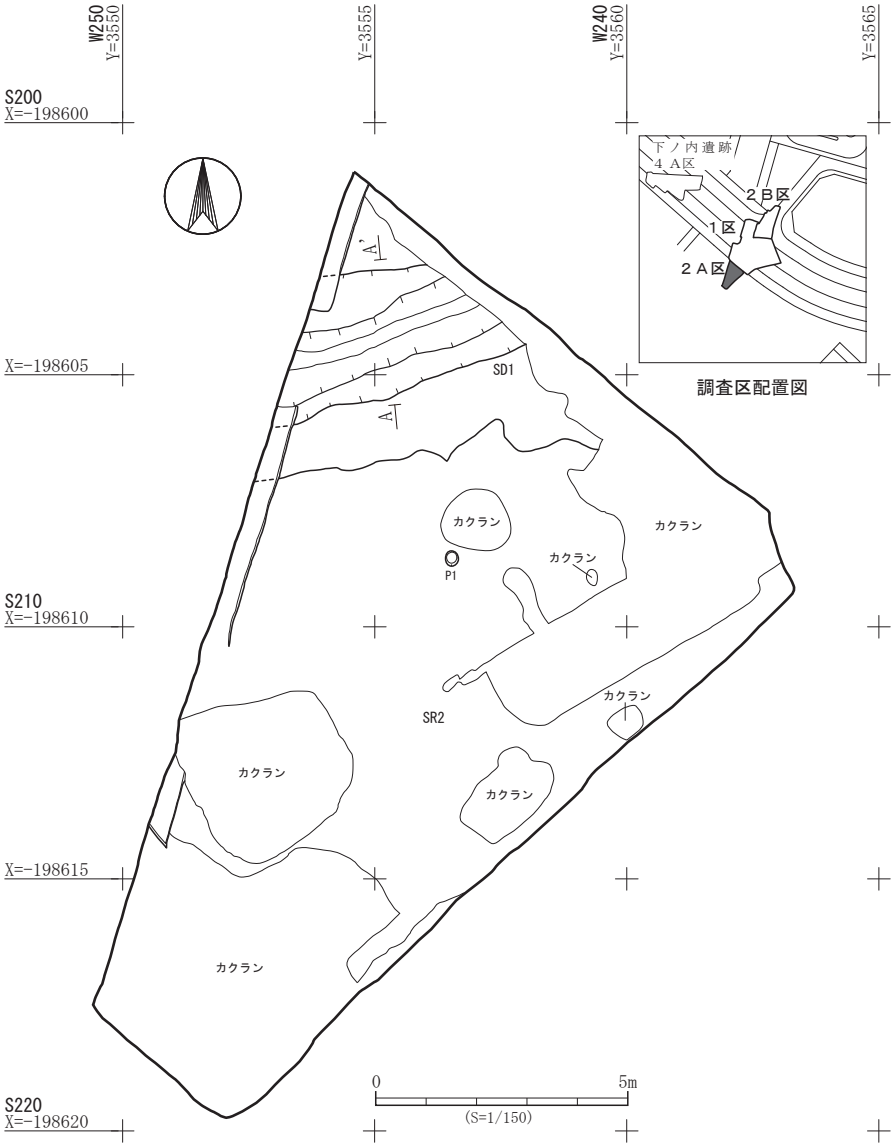
３．２Ａ区の調査

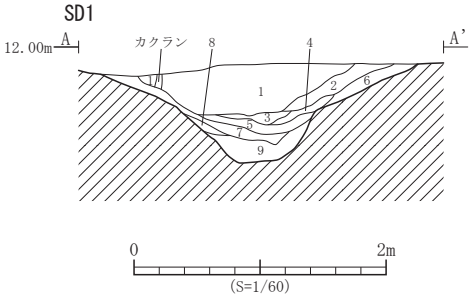
2A 区の調査では、基本層Ｖ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、河川跡１条、溝跡１条、ピット１基を検出した。平面図は遺構配置図のみ表示している。

（１）Ｖ層検出の遺構（第 12 図、図版４）

１）河川跡

SR2 河川跡（第 12 図、図版４）　W230 ～ 240・S200 ～ 210 グリッドで検出した。P1 と重複関係にあり、本遺構が古い。上面のみの検出である。北側上端は検出されたが、南側の調査区外に延びる。北側上端の





遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD1	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰黄色砂質シルトを多量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰黄色砂質シルトを少量含む。
	3	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土を斑状に含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰黄色砂を含む。暗灰黄褐色粘土質シルトを少量含む。
	5	5Y6/1 灰色	粘土	灰黄褐色粘土質シルトをわずかに含む。暗灰黄色粘土質シルトを少量含む。
	6	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰黄色砂をわずかに含む。
	7	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	灰オリーブ色砂質シルトを少量含む。
	8	5Y5/2 灰オリーブ色	砂質シルト	-
	9	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト質粘土	黄灰色粘土と灰オリーブ色砂をわずかに含む。

第 12 図　伊古田遺跡２Ａ区Ｖ層遺構配置図・ＳＤ１溝跡断面図

検出長は 6.86m である。隣接する１区で検出された SR22 と連続する河川跡である。遺物は堆積土から土師器の小片が出土した。

２）溝跡

SD1 溝跡（第 12 図、図版４）　W220・S180 グリッドで検出した。西側の調査区外に延び、東側は隣接する１区の SD15 に連続する溝跡である。方向は N-72°-E で、検出長 5.34m、幅 2.13 ～ 2.64m、深さ 78cm である。断面形は逆台形である。堆積土は９層に分層される。遺物は堆積土から土師器甕の口縁部片が出土した。

３）ピット（第 12 図、図版４）

１基のピット（P1）を検出した。遺物は堆積土から近世の陶器片が出土した。

４．２Ｂ区の調査

２Ｂ区の調査では、基本層Ｖ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡２軒、掘立柱建物跡１棟、土坑８基、溝跡８条、ピット 79 基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

第 13 図　伊古田遺跡２Ｂ区Ｖ層遺構配置図

（１）Ｖ層検出の遺構と遺物（第 13 図、図版５）

１）竪穴住居跡

SI1 竪穴住居跡（第 14・15 図、図版３・５）

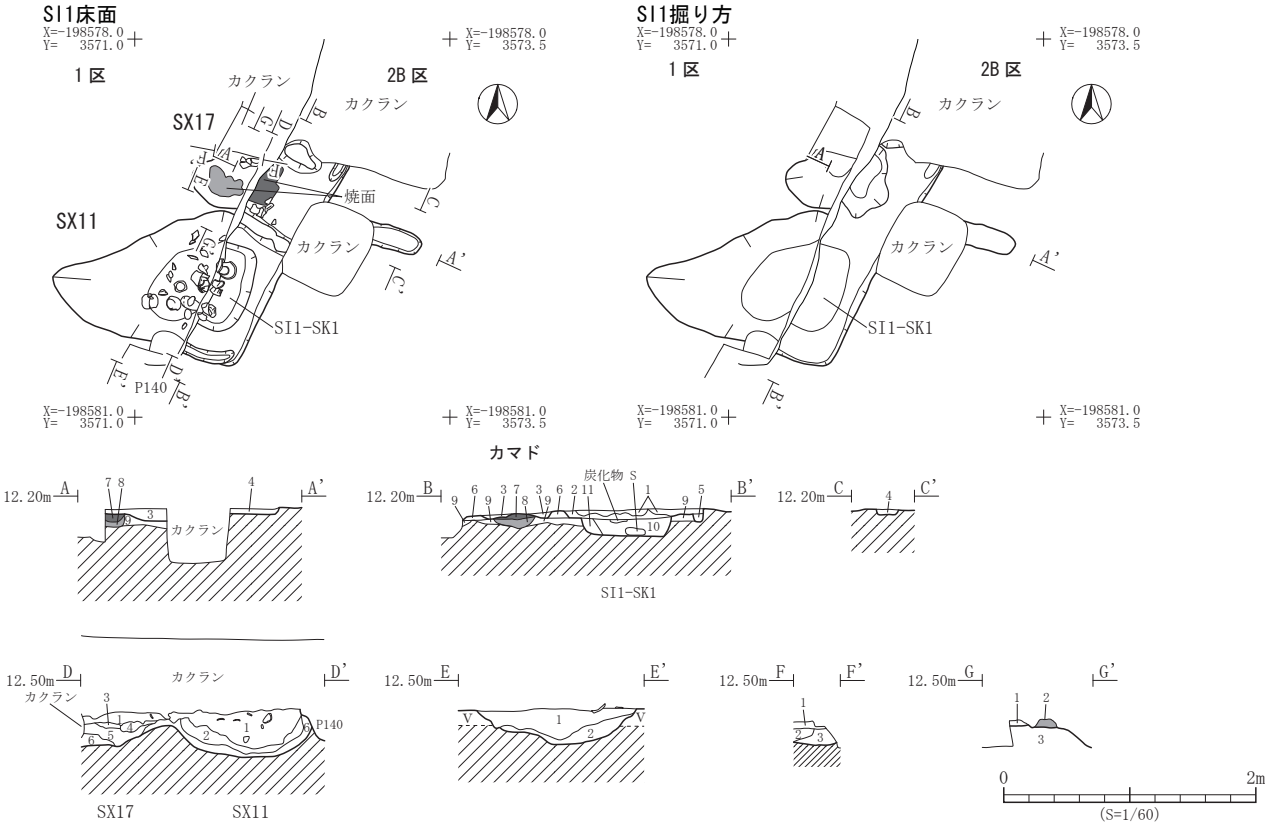
平成 17 年度において、本調査区の西に隣接する 1 区を調査した際、調査区壁際で堆積土中に遺物を多く含む SX11 と被熱範囲を確認した SX17 を検出したが、遺構の性格を把握するにはいたらず性格不明遺構として調査を行った。平成 18 年度の本調査区において SX11・17 に隣接する箇所で、SI1 を検出した。これにより、これら SX が SI1 に連続する遺構であることを確認した。そのため、SX11・17 は本項において報告する。なお、SX11 は SK1 と、SX17 は SI1 のカマドの一部である。

[位置] W220・S170 ～ 180 グリッドに位置する。

[重複関係] SX11 が P140 と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 検出した規模は、東壁 1.83m、南壁 0.43m である。遺構の残存状況が悪いため判然とはしないが、平面形は方形を基調としたものと思われる。

[主軸方位] カマド基準で N-69° -W である。

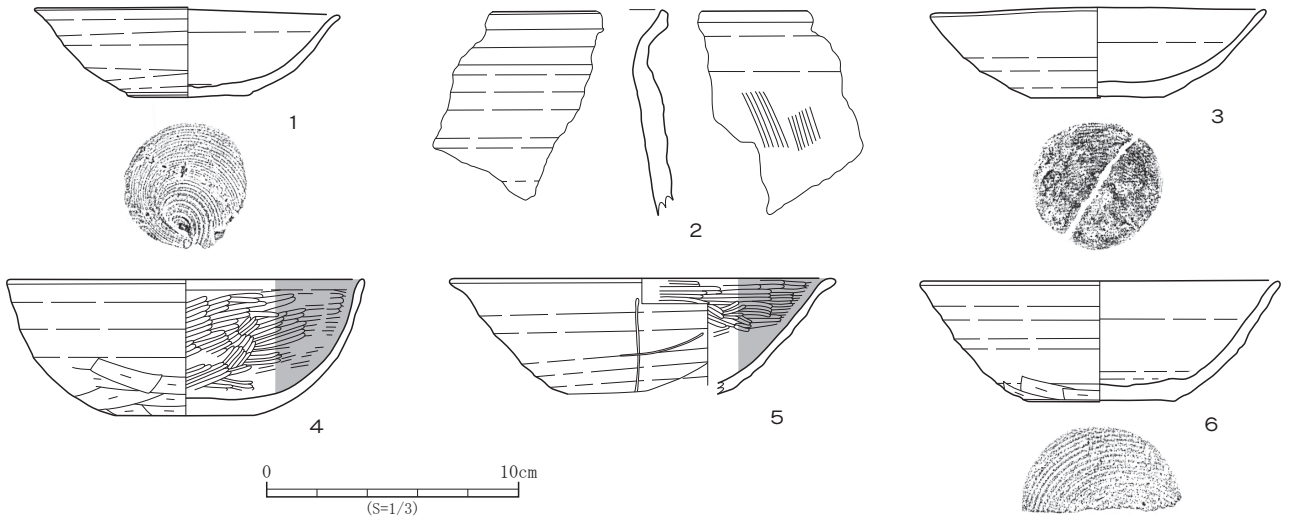


遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI1	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。鉄分を斑状にわずかに含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。鉄分を斑状にわずかに含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	マンガン粒を多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	鉄分を斑状にわずかに含む。炭化物粒を多量含む。（周溝内堆積土）
	6	2.5Y4/4 オリーブ褐色	シルト	（カマド袖構築土）
	7	10R3/6 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。（焼面）
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	（焼面）
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。灰黄褐色シルトブロックを多量含む。（掘り方埋土）

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK1	10	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粒・焼土ブロック・粒をわずかに含む。炭化物を粒状に多量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	暗オリーブ褐色シルトブロックを含む。炭化物粒を多量含む。焼土粒をわずかに含む。
SX11	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	黒褐色シルトを多量含む。炭化物（φ１～ 2mm）を多量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	黒褐色シルトを少量含む。
SX11 SX17	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルトを多量含む。炭化物（φ４～ 14mm）を斑状に含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色砂をを多量含む。
	3	2.5YR5/8 明赤褐色	焼土	灰白色砂をわずかに含む。焼土粒（φ２～ 4mm）を少量含む。
	4	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物（φ２～ 4mm）を多量含む。焼土粒（φ４～ 10mm）を多量含む。
	5	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	砂質シルト	炭化物（φ２～ 4mm）を多量含む。焼土粒（φ２～ 4mm）を少量含む。
	6	2.5YR6/2 灰赤色	砂質シルト	-

第 14 図　ＳＩ１竪穴住居跡・１区ＳＸ 11・17 性格不明遺構平面図・断面図

[堆積土・構築土] ９層に分層した。１～４層は住居跡堆積土、５層は周溝内堆積土、６～８層はカマド関連層位、９層は掘り方埋土である。貯蔵穴の堆積土は２層に分層した。SX11・17 の堆積土は６層に分層した。
[壁面] 周溝底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面からの高さは 6cm である。
[床面] ９層上面を床面としている。床面はほぼ平坦で、特に目立った硬化面などはみられなかった。
[周溝] 南壁と東壁北端で検出した。断面形はＵ字形で、規模は幅６～ 10cm、深さ 6cm である。
[カマド] 東壁に位置する。袖の規模は、北袖が長さ 34cm、幅 15 ～ 27cm、床面からの高さ 3cm、南袖が長さ 44cm、幅 16 ～ 18cm である。床面からの高さ 7cm である。燃焼部の規模は、奥行き 83cm、幅 45cm である。煙道部は長さ 40cm、幅 17cm、深さ 4cm で、底面は平坦である。
[その他の施設] カマドの南側に位置する SK1 は、貯蔵穴と考えられる。平面形は方形もしくは長方形と思われ、規模は南北 69cm、東西 29cm、深さ 15cm である。
[掘り方] 深さ４～ 11cm である。底面はほぼ平坦である。
[出土遺物] 堆積土からロクロ使用の土師器・須恵器が出土しており、そのうち土師器５点、須恵器１点を、第 15 図に図示した。1・3 は赤焼土器の坏である。底部は回転糸切りである。２はロクロ使用の土師器甕の口縁部片である。4・5 はロクロ使用の土師器坏で、いずれも内面を黒色処理されている。4 は外面底部付近に、手持ちヘラケズリの調整がみられる。5 は外面に「十」字状の刻書がみられる。6 は須恵器坏で、底部付近に手持ちヘラケズリと底部に回転糸切りがみられる。１～６の遺物から、本住居跡の年代は９世紀後半～ 10 世紀前半と考えられる。



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	D-5	2B	SI1	2	赤焼土器	坏	12.1 × 4.9 × 3.6	ロクロナデ　底部回転糸切り	ロクロナデ		8-1
2	D-6	2B	SI1	2	土師器	甕	- × - ×現 8.0	ロクロナデ	ロクロナデ・ナデ		-
3	D-1	1	SX11	上層	赤焼土器	坏	13.3 × 5.3 × 3.6	ロクロナデ　底部回転糸切り	ロクロナデ		8-2
4	D-2	1	SX11	下層	土師器	坏	(14.2) × 5.4 × 5.4	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ　底部ヘラミガキ	ヘラミガキ・黒色処理	底部切り離し技法不明。	8-3
5	D-3	1	SX11	下層	土師器	坏	(15.4) × - ×現 4.6	ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理	体部外面に刻書。	8-4
6	E-5	1	SX11	下層	須恵器	坏	(14.3) × (6.0) × 4.8	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ　底部回転糸切り	ロクロナデ		8-5

第 15 図　ＳＩ１竪穴住居跡出土遺物

SI9a・b 竪穴住居跡（第 16 ～ 19 図、図版５・６）

２時期のカマドを検出した新旧２時期の竪穴住居跡である。新しい段階を SI9a、古い段階を SI9 b として報告する。カマドの作り替えは行っているが、住居範囲拡張の痕跡は確認されなかった。

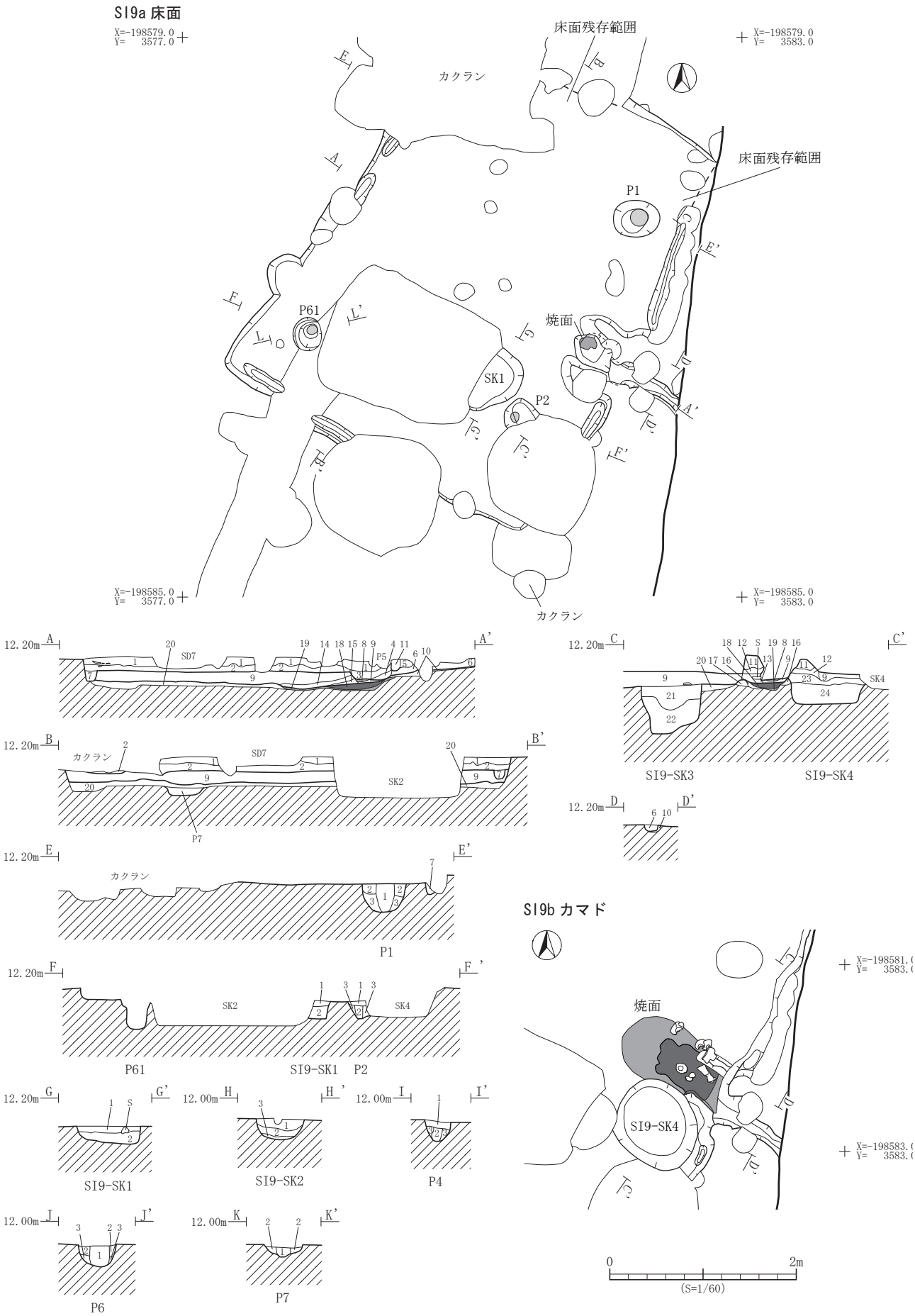
SI9a 竪穴住居跡

[位置] W210 ～ 220・S180 グリッドに位置する。
[重複関係] SB16、SK2 ～ 5、SD6・7、P5・31・58・70・82 と重複関係にあり、本遺構が古い。

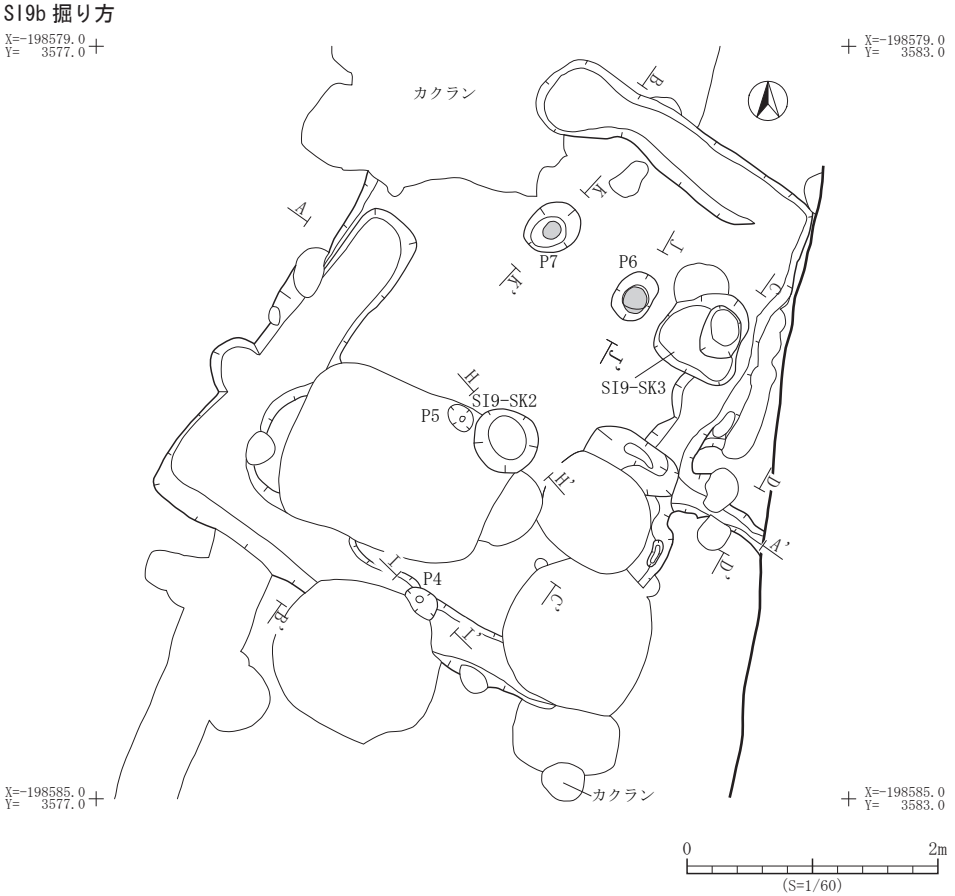
[規模・形態] 東西 3.67m、南北 4.71m である。平面形は長方形である。
[主軸方位] カマド基準で N-59° -W である。
[堆積土・構築土] 11 層に分層した。1・2 層は住居跡堆積土、3 ～ 6・8・10 ～ 13 層はカマド関連層位、7 層は周溝内堆積土、9 層は SI9b の床面を埋めた土である。
[壁面] 周溝底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面からの高さは 12cm である。
[床面] 9 層上面を床面としている。ほぼ平坦で、特に目立った硬化面などはみられなかった。
[柱穴] 床面で 3 基のピット（P1・2・61）を検出した。配置や規模等から 3 基のピットは主柱穴と考えられ、径 10 ～ 19cm の柱痕跡が検出された。柱穴の掘り方は、径 36 ～ 50cm で、深さ 19 ～ 33cm である。
[周溝] 東・西・南壁で断続的に検出した。断面形は U 字形で、規模は幅 11 ～ 15cm、深さ 11cm である。
[カマド] 東壁に位置し、壁のほぼ中央に付設されている。袖の規模は、北袖は長さ 75cm、幅 14 ～ 32cm、床面からの高さ 25cm、南袖は長さ 70cm、幅 18 ～ 32cm である。床面からの高さは 22cm である。燃焼部の規模は、奥行き 49cm、幅 32cm である。北袖寄りに焼成面を検出した。煙道部は東側の調査区外に延びる。検出長は 73cm、幅 12 ～ 27cm、深さ 9cm で、検出長 85cm、幅 20 ～ 35cm、深さ 10cm の掘り方を持つ。底面は先端部から住居跡側へ傾斜している。
[出土遺物] 堆積土から土師器・須恵器が出土している。そのうち土師器 3 点を、第 18 図に図示した。1 はロクロ使用の土師器坏で、内面は黒色処理されており、底部には回転糸切りがみられる。2 はロクロ使用の土師器甕で、内面に輪積み痕跡がみられる。3 はロクロ使用の土師器甑である。

SI9b 竪穴住居跡

[位置] SI9a と同じ。
[重複関係] SI9a より古い。
[規模・形態] SI9a と同じ。周溝は検出されていない。
[主軸方位] SI9a と同じ。
[堆積土・構築土] 9 層に分層した。9 層は本期の床面を埋めた土で、上面が a 期の床面である。14 ～ 19 層はカマド関連層位、20 層は掘り方埋土である。
[壁面] 床面からやや外に広がるように立ち上がる、床面からの高さは 14cm である。
[床面] 締りや硬化面等は検出していない。作り替えの際に削平されている可能性も考えられる。
[柱穴] 床面で 4 基のピット（P4 ～ 7）を検出した。ピットの掘り方は、径 30 ～ 46cm で、深さ 14 ～ 25cm、そのうち、P6・7 では径 14 ～ 22cm の柱痕跡を検出した。P7 は掘り方の底面で検出した。
[カマド] 東壁に位置し、壁のほぼ中央に付設されている。袖は北袖が残存しており、規模は長さ 36cm、幅 13 ～ 16cm、床面からの高さ 4cm である。燃焼部の規模は、奥行き 1.27m、幅 68cm である。燃焼部付近でロクロ使用の土師器坏や甕、須恵器坏等が出土した。
[その他の施設] カマド南に位置する SK4 の平面形は楕円形で、規模は長軸 94cm、短軸 84cm、深さ 32cm である。配置状況や遺物が多く出土していることから、貯蔵穴とも考えられるが、SI9 b のカマド南袖を削平していることや、SI9a の掘り方埋土である 9 層の下部、カマド南袖の下に在ることから、SI9 b 廃棄後から SI9a 改築前に掘られた穴と考えられる。
[掘り方] 残存する深さは 3 ～ 9cm である。検出した住居跡の範囲で、西壁北部を除いた範囲を溝状に深く掘り窪めている。
[出土遺物] 堆積土から土師器・須恵器等が出土している。そのうち土師器 12 点、須恵器 1 点を、第 18・19 図に図示した。第 18 図 4 は土師器甕である。内面に輪積み痕跡がみられる。5 ～ 8 はロクロ使用の土師器坏で、いずれも内面が黒色処理されている。また、5・6・8 の底部は回転糸切りである。9・10 及び第 19 図 1 は、ロクロ使用の土師器甕である。2 はロクロ使用の土師器甑である。3 は須恵器の坏で、底部は回転糸切りで、口径に対し底径比が小さい。第 18 図 5 ～ 8 及び第 19 図 3 から、本住居跡の年代は 9 世紀後半～ 10 世紀前半と考えられる。



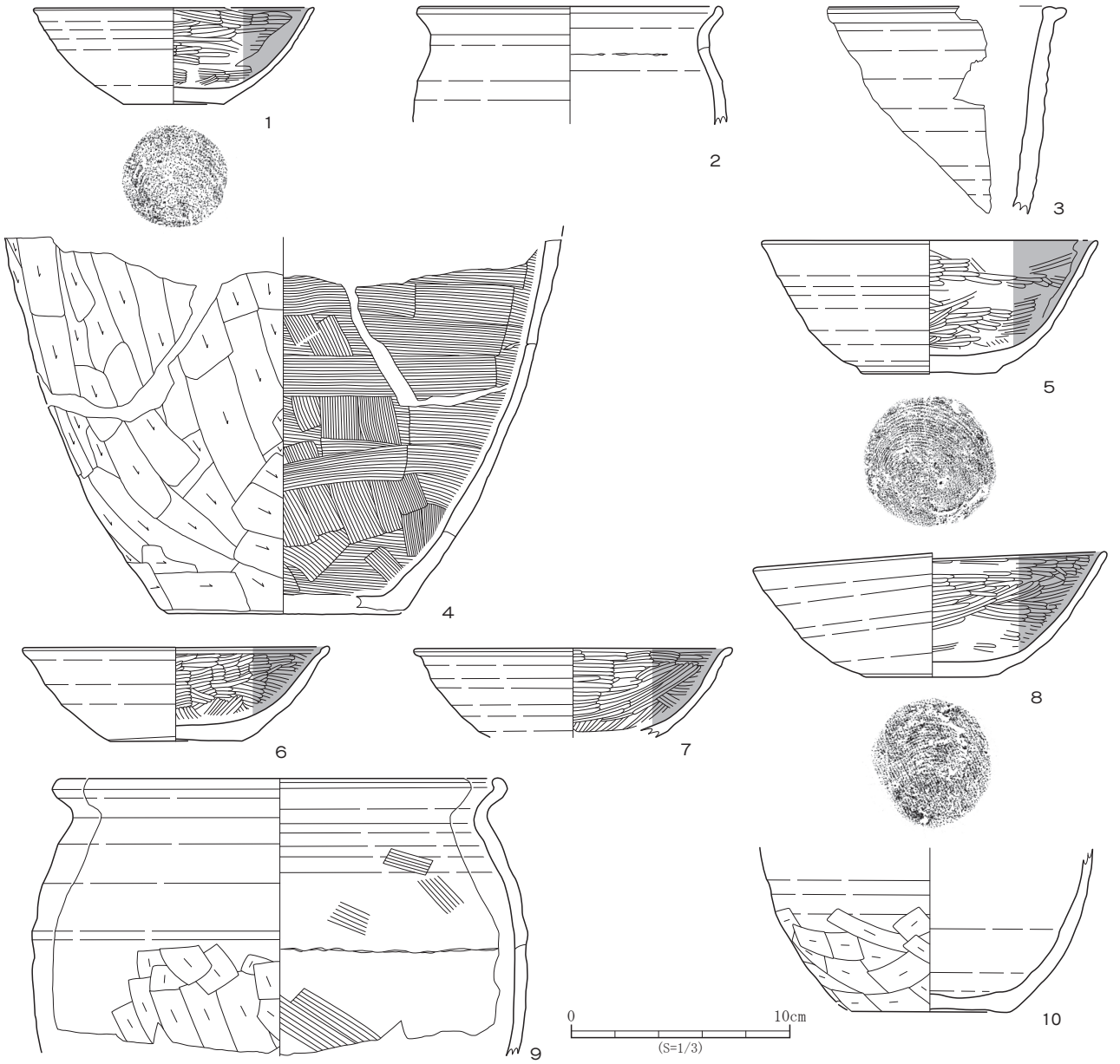
第 16 図　ＳＩ９a・ｂ竪穴住居跡平面図・断面図



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・黒褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。マンガン粒をわずかに含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒を多量含む。焼土粒を含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	7	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	8	10R3/6 暗赤色	シルト	（焼面）
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック・炭化物粒・焼土ブロックを多量含む。
	10	-	-	注記なし。（煙道掘り方）
	11	10YR4/4 褐色	シルト	褐色シルトブロック塊・マンガン粒・炭化物粒をわずかに含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	13	10YR3/1 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト・暗褐色シルトブロックを含む。褐灰色粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	14	10YR3/1 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト・暗褐色シルトブロックを含む。褐灰色粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	15	10YR3/2 黒褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを含む。褐灰色粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを含む。褐灰色粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	17	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	18	10R3/4 暗赤色	シルト	（焼面）
	19	2.5YR3/6 暗赤褐色	シルト	（焼面）
	20	10YR4/3 灰黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。暗褐色シルトブロックを含む。カマド前面は硬く締る。
SK3	21	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・焼土粒をわずかに含む。炭化物粒を多量含む。
	22	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・焼土粒をわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK4	23	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。締りあり。
	24	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。マンガン粒・炭化物粒を多量含む。
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト・黒褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルト・灰色粘土ブロックをわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	暗褐色シルト・灰色粘土ブロックをわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト・褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。炭化物粒を多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒を含む。焼土粒をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。焼土粒をわずかに含む。
SK2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色粘土ブロックを含む。暗褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐灰色粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。

第 17 図　ＳＩ９b 竪穴住居跡平面図

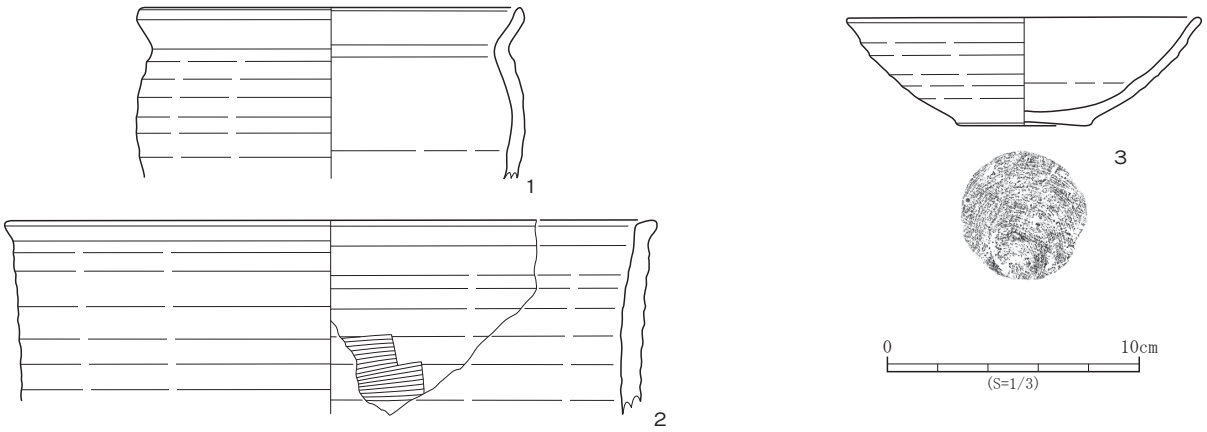


No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	D-10	2B	SI9a	1	土師器	坏	(12.8) × 4.6 × 4.4	ロクロナデ　底部回転糸切り	ヘラミガキ・黒色処理		8-6
2	D-17	2B	SI9a	2	土師器	甕	(14.1) × - ×現 5.4	ロクロナデ	ロクロナデ	外面被熱。	8-7
3	D-18	2B	SI9a	1	土師器	甑	- × - ×現 9.5	ロクロナデ	ロクロナデ	内外面被熱。	-
4	C-10	2B	SI9b-SK4 SI9b	2 9	土師器	甕	- × (10.8) ×現 17.2	ヘラケズリ　底部ナデ	ヘラナデ		8-8
5	D-11	2B	SI9b	カマド	土師器	坏	(15.2) × 6.2 × 6.1	ロクロナデ　底部回転糸切り	ヘラミガキ・黒色処理	内外面被熱。	8-9
6	D-8	2B	SI9b-SK4	2	土師器	坏	(14.1) × 6.0 × 4.3	ロクロナデ　底部回転糸切り	ヘラミガキ・黒色処理		8-10
7	D-9	2B	SI9b-SK4	2	土師器	坏	(14.6) × - ×現 4.1	ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理		8-11
8	D-7	2B	SI9b-SK4	2	土師器	坏	16.0 × 6.3 × 5.7	ロクロナデ　底部回転糸切り →手持ちヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理		8-12
9	D-14	2B	SI9b	カマド	土師器	甕	(20.2) × - ×現 12.7	ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ・ヘラナデ		8-13
10	D-15	2B	SI9b	カマド	土師器	甕	- × 7.5 ×現 7.5	ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ	外面被熱。	8-14

第 18 図　ＳＩ９a・ｂ竪穴住居跡出土遺物（１）

２）掘立柱建物跡

SB16 掘立柱建物跡（第 20 図、図版 6）　W210 ～ 220・S180 グリッドに位置する。SI9、SD7・17、P9・46・74 と重複関係にあり、本遺構が SI9、SD7・17、P46・74 より新しく、P9 より古い。検出規模は桁行３間（北列西から 2.20m+2.19m+1.97m、総長 6.36m、南列西から 2.20m+1.98m+2.15m、総長 6.33m）、梁行２間（西列北から 2.60m+2.26m、総長 4.86m、東列北から 2.65m+2.10m、総長 4.75m）の建物であり、桁行柱列方向は N-71°-W である。柱穴掘り方の規模は、径 30 ～ 69cm の円形もしくは楕円形である。検出面からの深さは 35 ～ 78cm である。



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	D-16	2B	SI9b-SK4	2	土師器	甕	(15.2) × - ×現 6.8	ロクロナデ	ロクロナデ		8-15
2	D-13	2B	SI9b-SK4	2	土師器	甑	(26.0) × - ×現 7.7	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラナデ		8-16
3	E-7	2B	SI9b	9・カマド	須恵器	坏	(14.0) × 5.2 × 4.3	ロクロナデ　底部回転糸切り	ロクロナデ		8-17

第 19 図　ＳＩ９b 竪穴住居跡出土遺物（２）

P4・12・20・35・72・73 で径 7 ～ 20cm の柱痕跡を検出した。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土した。

３) 土坑

SK2 土坑（第 21 図、図版 6）　W220・S180 グリッドで検出した。SK5 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は長方形で、長軸方向は N-72° -W である。規模は長軸 1.84m、短軸 1.33m、深さ 42cm で、壁面は、底面からほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土した。

SK3 土坑（第 21 図、図版 6）　W220・S180 グリッドで検出した。SK5 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-69° -W である。規模は長軸 1.34m、短軸 1.14m、深さ 64cm で、壁面は南側が底面からわずかに外へ広がりながら立ち上がり底面から 15cm 付近で屈曲し、そこから垂直に立ち上がる。北側の壁面も同様の立ち上がりをみせるが、底面から 45cm 付近で屈曲し、外へ開くように立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は 12 層に分層される。2 層及び 4 ～ 12 層では焼土粒・炭化物がわずかに含まれており、4 ～ 12 層まで黒褐色シルト、オリーブ黒色砂質シルトが互層状に堆積する。遺物は堆積土から土師器の小片が出土した。

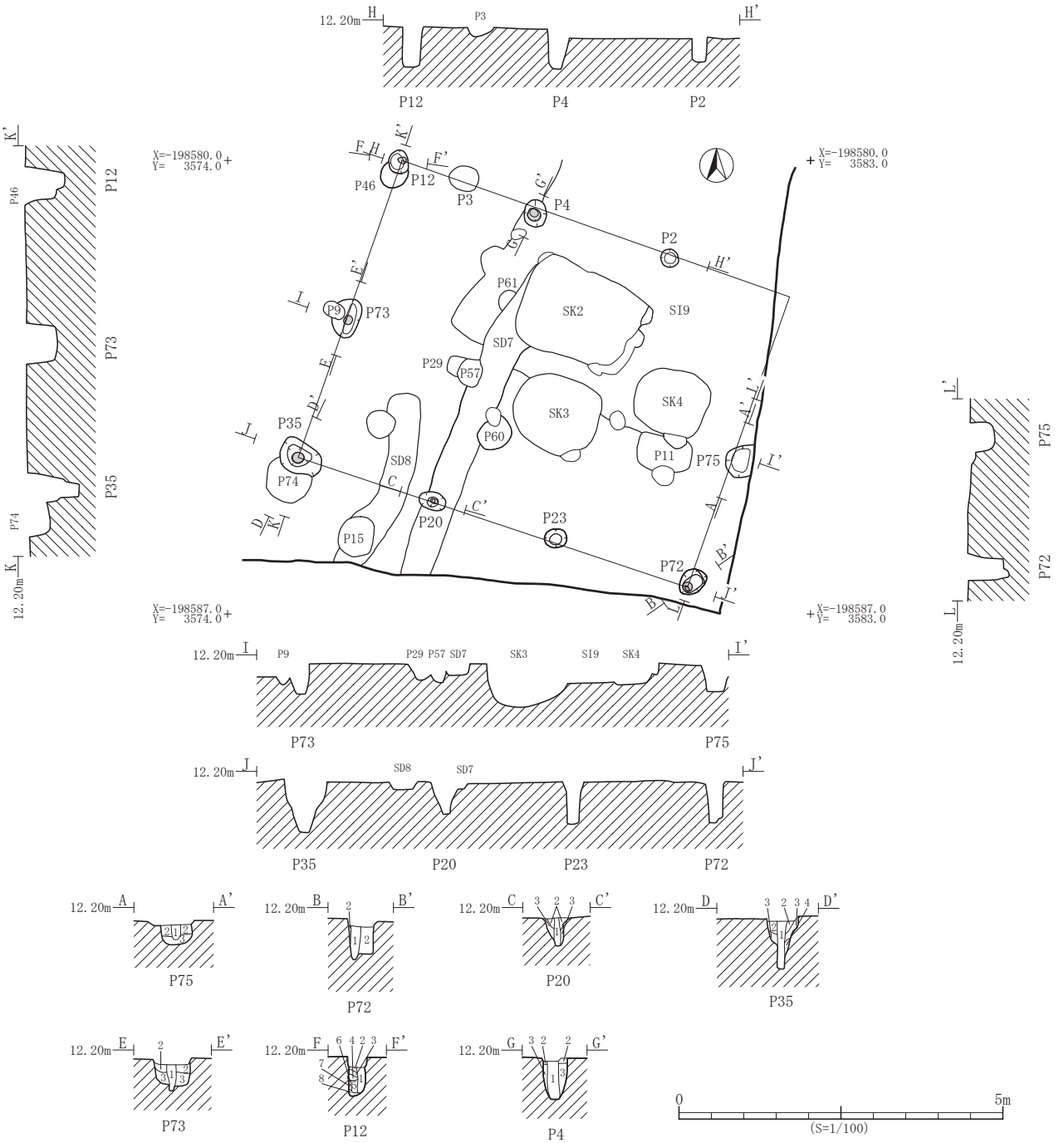
SK4 土坑（第 21 図、図版 6）　W210・S180 グリッドで検出した。SD6 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸方形である。規模は一辺 1.10m、深さ 25cm で、壁面は底面から大きく外へ開くように立ち上がり、底面から 5cm 付近で屈曲しそこから垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器の小片が出土した。

SK5 土坑（第 21 図）　W220・S180 グリッドで検出した。SK2・3、SD6 と重複関係にあり、本遺構が SD6 より新しく、SK2・3 より古い。平面形は不明である。検出した規模は南北約 1.30m、東西 98cm、深さ 22cm で、壁面は底面から緩やかに立ち上がる。断面形は不明であるが底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK12 土坑（第 21 図）　W210・S170 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-46° -E である。規模は長軸 94cm、短軸 40cm、深さ 27cm で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK18 土坑（第 21 図）　W220・S170 グリッドで検出した。平面形は長方形で、長軸方向は N-82° -W である。規模は長軸 2.06m、短軸 98cm、深さ 13cm で、壁面は底面からやや外へ開くように立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

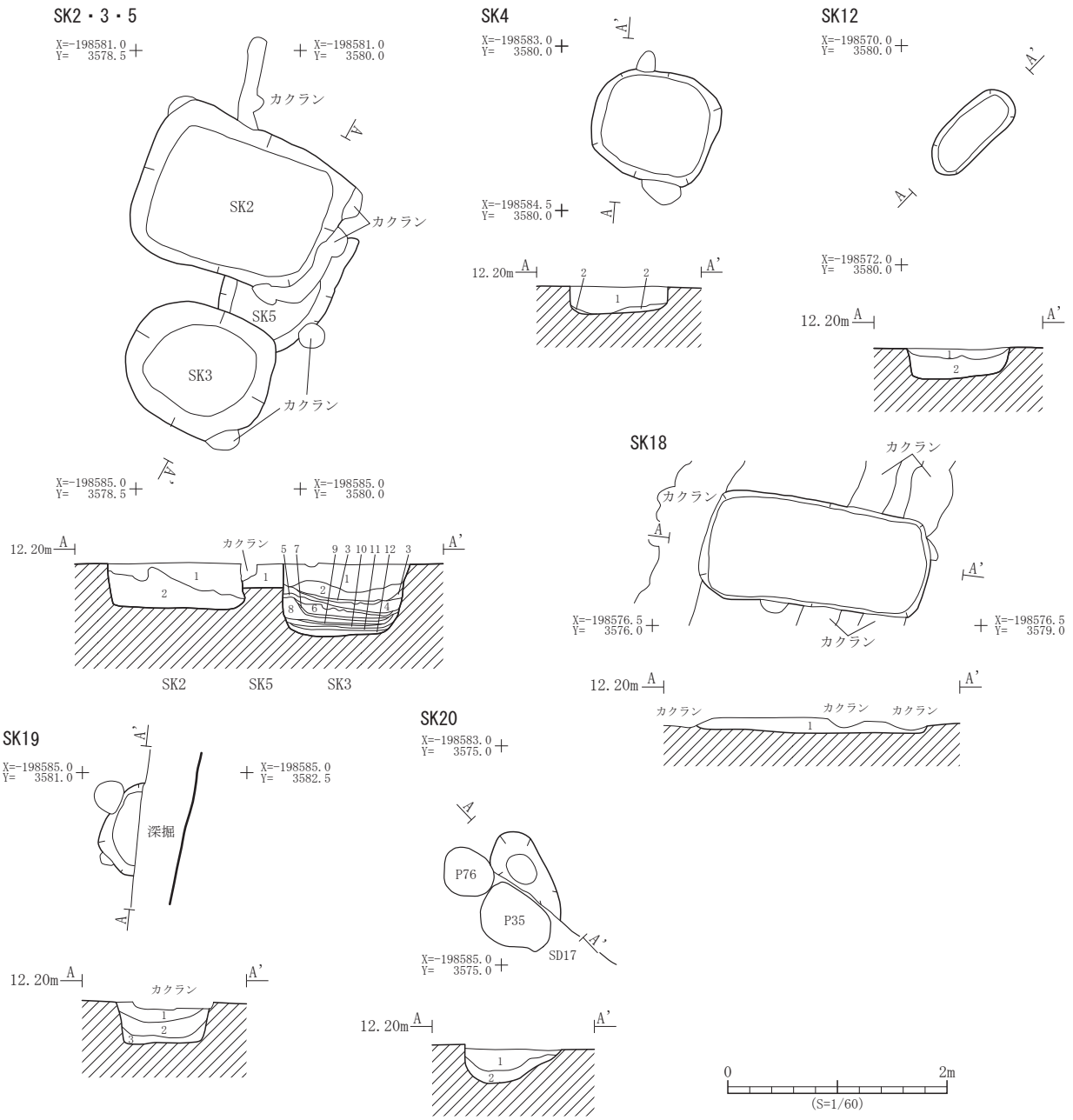
SK19 土坑（第 21 図）　W210・S180 グリッドで検出した。東側は削平され、平面形は不明だが、残存部から円形を基調としたものと考えられる。検出した規模は南北 85cm、東西 30cm、深さ 39cm で、壁面は底面からわずか



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
P4	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。（柱痕）
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐灰色粘土ブロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。
P12	1	10YR2/1 黒色	シルト	褐色シルト粒・褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。（柱痕）
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	5	10YR2/1 黒色	シルト	褐灰色粘土ブロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。
	6	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	7	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	8	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
P20	1	10YR2/1 黒色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。褐灰色粘土ブロックを多量含む。（柱痕）
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。褐灰色粘土ブロックを多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
P35	1	10YR2/1 黒色	シルト	褐色シルトブロック・褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。（柱痕）
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P72	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐灰色粘土ブロックを多量含む。褐色シルトブロックをわずかに含む。（柱痕）
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐灰色粘土ブロック・褐色シルトブロックを多量含む。
P73	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色粘土ブロックを多量含む。マンガン粒をわずかに含む。（柱痕）
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P75	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐灰色粘土ブロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。

第 20 図　ＳＢ 16 掘立柱建物跡平面図・断面図



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK2	1	10YR2/1 黒色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
SK3	1	10YR2/1 黒色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	黒褐色砂質シルト・褐色シルトブロックを多量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	5	5Y2/2 オリーブ黒色	砂質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	7	5Y2/2 オリーブ黒色	砂質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	9	5Y2/2 オリーブ黒色	砂質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK3	11	5Y2/2 オリーブ黒色	砂質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	12	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
SK4	1	10YR2/1 黒色	シルト	褐色シルトブロック・褐灰色粘土ブロック・炭化物ブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK5	1	10YR2/1 黒色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
SK12	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
SK18	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
SK19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐灰色粘土ブロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・黒褐色シルトブロックをわずかに含む。
SK20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。褐灰色粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。

第 21 図　ＳＫ２～５・12・18 ～ 20 土坑平面図・断面図

に外へ開くように立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK20 土坑（第 21 図）　W220・S180 グリッドで検出した。SD17、P76 と重複関係にあり、本遺構が古い。南側を SD17 に削平され、平面形は不明であるが楕円形を基調としたものと考えられ、長軸方向は N-9°-W である。検出した規模は長軸 56cm、短軸 40cm、深さ 35cm で、北西側壁面は底面から緩やかに立ち上がり、底面から 10cm 付近で垂直に立ち上がる。南東側壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は不整な U 字形である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

４）溝跡

SD6 溝跡（第 13・22 図、図版 4）　W210・S180 グリッドで検出した。SI9、SK4・5 と重複関係にあり、本遺構が SI9 より新しく SK4・5 より古い。西側は SK5 に削平される。方向は N-75°-W で、検出長 1.18m、幅 16 ～ 24cm、深さ 6cm である。断面形は逆台形である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SD7 溝跡（第 13・22 図、図版 4）　W210 ～ 220・S180 グリッドで検出した。SI9、SK2、SD17、P20・47・57・60 と重複関係にあり、本遺構が SI9、SD17 より新しく他より古い。南側の調査区外に延びる。方向は南から北へ N-24°-E で延び、途中 N-53°-E へ屈折して延びる。検出長 6.68m、幅 48 ～ 64cm、深さ 15cm である。断面形は逆台形である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SD8 溝跡（第 13・22 図、図版 4）　W220・S180 グリッドで検出した。SD17、P6・15 と重複関係にあり、本遺構が SD17 より新しく P6・15 より古い。南側の調査区外に延びる。方向は N-18°-E で、検出長 2.75m、幅 45 ～ 62cm、深さ 12cm である。断面形は逆台形である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SD10 溝跡（第 13・22 図、図版 4・6）　W210・S170 グリッドで検出した。P43・44 と重複関係にあり、本遺構が新しい。東側の調査区外に延びる。方向は N-76°-W で、検出長 2.98m、幅 53 ～ 85cm、深さ 50cm である。断面形は逆台形である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SD13 溝跡（第 13・22 図、図版 4）　W220・S180 グリッドで検出した。P80 と重複関係にあり、本遺構が新しい。南側の調査区外に延びる。方向は N-4°-E で、検出長 1.34m、幅 39 ～ 45cm、深さ 19cm である。断面形は U 字形である。堆積土は２層に分層される。遺物は堆積土から土師器の小片が出土した。

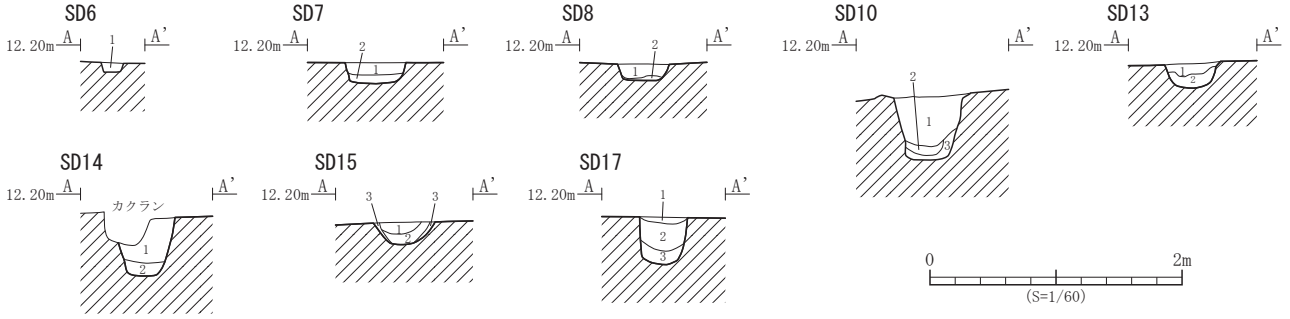
SD14 溝跡（第 13・22 図、図版 4・6）　W210・S170 グリッドで検出した。P51 と重複関係にあり、本遺構が古い。東側の調査区外に延びる。方向は N-46°-W で、検出長 3.30m、幅 24 ～ 43cm、深さ 45cm である。断面形は逆台形である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SD15 溝跡（第 13・22 図、図版 4）　W220・S170 グリッドで検出した。東西両側を、撹乱に削平される。方向は N-55°-W で、検出長は 3.65m、幅 34 ～ 49cm、深さ 17cm である。断面形は逆台形である。堆積土は３層に分層される。遺物は堆積土から須恵器の小片が出土した。

SD17 溝跡（第 13・22 図、図版 4・6）　W220・S180 グリッドで検出した。SK20、SD7・8、P35・74・76 と重複関係にあり、本遺構が SK20 より新しく、他より古い。南側の調査区外に延びる。方向は N-54°-W で、検出長は 6.19m、幅 38 ～ 48cm、深さ 39cm である。断面形は U 字形である。堆積土は３層に分層される。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土した。

５）ピット（第 13 図、図版 4）

79 基のピット（P1 ～ 6・8 ～ 53・55 ～ 57・59 ～ 82）を検出した。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土した。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD6	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
SD7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・褐灰色粘土ブロック・マンガン粒を多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・褐灰色粘土ブロック・マンガン粒を多量含む。
SD8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。マンガン粒・炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
SD10	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土質シルト	鉄分を斑状に含む。褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。粘性あり。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分を斑状にわずかに含む。褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。粘性あり。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分を斑状に多量含む。褐灰色粘土ブロックを多量含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・褐灰色粘土ブロックを多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SD14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
SD15	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・褐灰色粘土ブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SD17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・褐灰色粘土ブロック・マンガン粒を多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。マンガン粒をわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。マンガン粒をわずかに含む。

第 22 図　ＳＤ６～８・10・13 ～ 15・17 溝跡断面図

５．まとめ

伊古田遺跡は、仙台市太白区大野田字塚田にあり自然堤防に立地する縄文時代～平安時代の遺跡である。平成 17 年度に 1 区、平成 18 年度に 2A・B 区で計 976㎡の調査を行い、古墳時代～古代及び近世の遺構を検出した。

（１）遺構について

1）古墳時代～古代の遺構はＶ層上面で検出された。

1 区 － 竪穴住居跡 2 軒、掘立柱建物跡 1 棟、土坑 3 基、河川跡 1 条、性格不明遺構 1 基、溝跡 13 条、ピット 135 基

2A 区 － 河川跡 1 条、溝跡 1 条、ピット 1 基

2B 区 － 竪穴住居跡 2 軒、掘立柱建物跡 1 棟、土坑 8 基、溝跡 8 条、ピット 79 基

2）1 区で検出した SI16・18 は、いずれも竪穴住居跡の北壁にカマドを付設している。

3）1 区で検出した SI18 は、出土遺物から 8 世紀前半～中頃の竪穴住居跡と考えられる。同じく、1 区で検出された SD14 は SI18 より古く、4 世紀頃の遺物が出土していることから 4 世紀以降に機能していたと考えられる。

4）2B 区で検出した SI1・9 は、出土遺物からいずれも 9 世紀後半～ 10 世紀前半の竪穴住居跡と考えられ、東壁にカマドを付設している。

5）2B 区で検出された SB16 は、SI9 より新しいことから、10 世紀以降の掘立柱建物跡と考えられる。

6）2B 区で検出された SD7 は、SI9 より新しく SB16 より古いことから、SI9 廃絶後から SB16 機能以前の溝跡である。

（２）遺物について

出土遺物は、平箱 11 箱である。

1）古墳時代

SD14 からロクロ不使用の土師器甕や、4 世紀頃と考えられるロクロ不使用の土師器坩が出土している。

2）古代

1 区の SI16・18 から土師器の有段丸底坏や長胴・球胴形の甕が出土している。2B 区の SI1・9 からロクロ使用の土師器坏や甕、甑、赤焼土器、須恵器坏が出土している。

3）近世

2A 区の P1 から近世の陶器片が出土している。

第１表　遺構一覧表

1 区Ⅴ層

竪穴住居跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	カマド	時　期
SI16	W230・S170 ～ 180	N-50° -E	東西 [2.09] ×南北 3.88	北壁	
SI18	W230・S170 ～ 180	N-17° -E	東西 4.81 ×南北 [3.58]	北壁中央	8 世紀前半～中頃

掘立柱建物跡

遺構番号	位置（グリッド）	主軸方位	柱間数	建物規模（m）	時　期
SB1	W230・S180	N-78° -W	桁行 3 間×梁行 2 間	3.85 × 3.72	

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SK3	W220・S180	N-62° -E	長軸 85 ×短軸 49 ×深さ 13	楕円・逆台形	
SK6	W220・S190	-	径 44 ×深さ 12	円形・逆台形	
SK9	W220・S190	N-72° -E	長軸 [86] ×短軸 84 ×深さ 10	（楕円形）・逆台形	

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SX11	W220・S170 ～ 180	N-85° -E	長軸 [132] ×短軸 79 ×深さ 38	-	9 世紀後半～10 世紀前半
SX17	W220・S170	N-65° -E	長軸 [57] ×短軸 42 ×深さ 38	-	9 世紀後半～10 世紀前半

河川跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
SR22	W220 ～ 230・S170 ～ 210	N-4° -E	長さ [35.20] ×幅 2.80 ～ 4.90 ×深さ 0.68	ほぼ直線・不整 U 字形	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
SD2	W220・S180	N-69° -E	長さ [3.97] ×幅 0.44 ～ 0.64 ×深さ 0.08 ～ 0.12	ほぼ直線・逆台形	
SD4	W220・S180 ～ 190	N-53° -W	長さ [5.90] ×幅 0.28 ～ 0.43 ×深さ 0.05 ～ 0.08	直線・逆台形	
SD5	W210 ～ 240・S180 ～ 200	N-55° -E	長さ [27.77] ×幅 2.39 ～ 3.03 ×深さ 0.90 ～ 1.30	ほぼ直線・漏斗形	
SD7	W240・S190 ～ 200	N-28° -E	長さ 3.72 ×幅 0.30 ～ 0.50 ×深さ 0.04 ～ 0.10	直線・不整形	
SD8	W210・S190 ～ 200	N-34° -E	長さ [4.75] ×幅 1.38 ～ 2.14 ×深さ 0.25 ～ 0.36	直線・不整逆台形 or U 字形	
SD10	W220・S180 ～ 190	N-8° -W	長さ [5.96] ×幅 0.33 ～ 0.48 ×深さ 0.19	直線・U 字形	
SD12	W210 ～ 220・S200	N-79° -E	長さ [16.39] ×幅 [0.57 ～ 1.12] ×深さ 0.48	ほぼ直線・不明	
SD13	W230 ～ 240・S180 ～ 190	N-41° -E　N-57° -E	長さ [17.30] ×幅 0.25 ～ 0.37 ×深さ 0.10 ～ 0.12	屈曲・逆台形	
SD14	W230 ～ 240・S170 ～ 190	N-51° -E　N-22° -E	長さ [17.42] ×幅 0.49 ～ 1.18 ×深さ 0.20 ～ 0.45	屈曲・逆台形	4 世紀頃
SD15	W210 ～ 220・S190 ～ 200	N-49° -E	長さ [10.70] ×幅 0.34 ～ 0.56 ×深さ 0.12	ほぼ直線・逆台形	
SD19	W210 ～ 220・S190 ～ 200	N-50° -E	長さ [7.96] ×幅 0.46 ～ 0.87 ×深さ 0.36	ほぼ直線・U 字形	
SD20	W220・S190 ～ 200	N-41° -E	長さ [5.73] ×幅 0.77 ～ 0.96 ×深さ 0.45	ほぼ直線・逆台形	
SD21	W210・S190 ～ 200	N-52° -W	長さ [5.50] ×幅 0.24 ～ 0.37 ×深さ 0.15	やや蛇行・U 字形	

2A 区Ⅴ層

河川跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
SR2	W230 ～ 240・S200 ～ 210	-	-	-	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
SD1	W240・S200	N-72° -E	長さ [5.34] ×幅 2.13 ～ 2.64 ×深さ 0.78	ほぼ直線	

2B 区Ⅴ層

竪穴住居跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	カマド	時　期
SI1	W230・S170 ～ 180	N-69° -W	東壁 [1.83] ×南壁 [0.43]	東壁	9 世紀後半～10 世紀前半
SI9	W210 ～ 220・S180	N-59° -W	東西 3.67 ×南北 4.71	東壁中央	9 世紀後半～10 世紀前半

掘立柱建物跡

遺構番号	位置（グリッド）	主軸方位	柱間数	建物規模（m）	時　期
SB16	W210 ～ W220・S180	N-71° -W	桁行 3 間×梁行 2 間	6.36 × 4.86	10 世紀以降

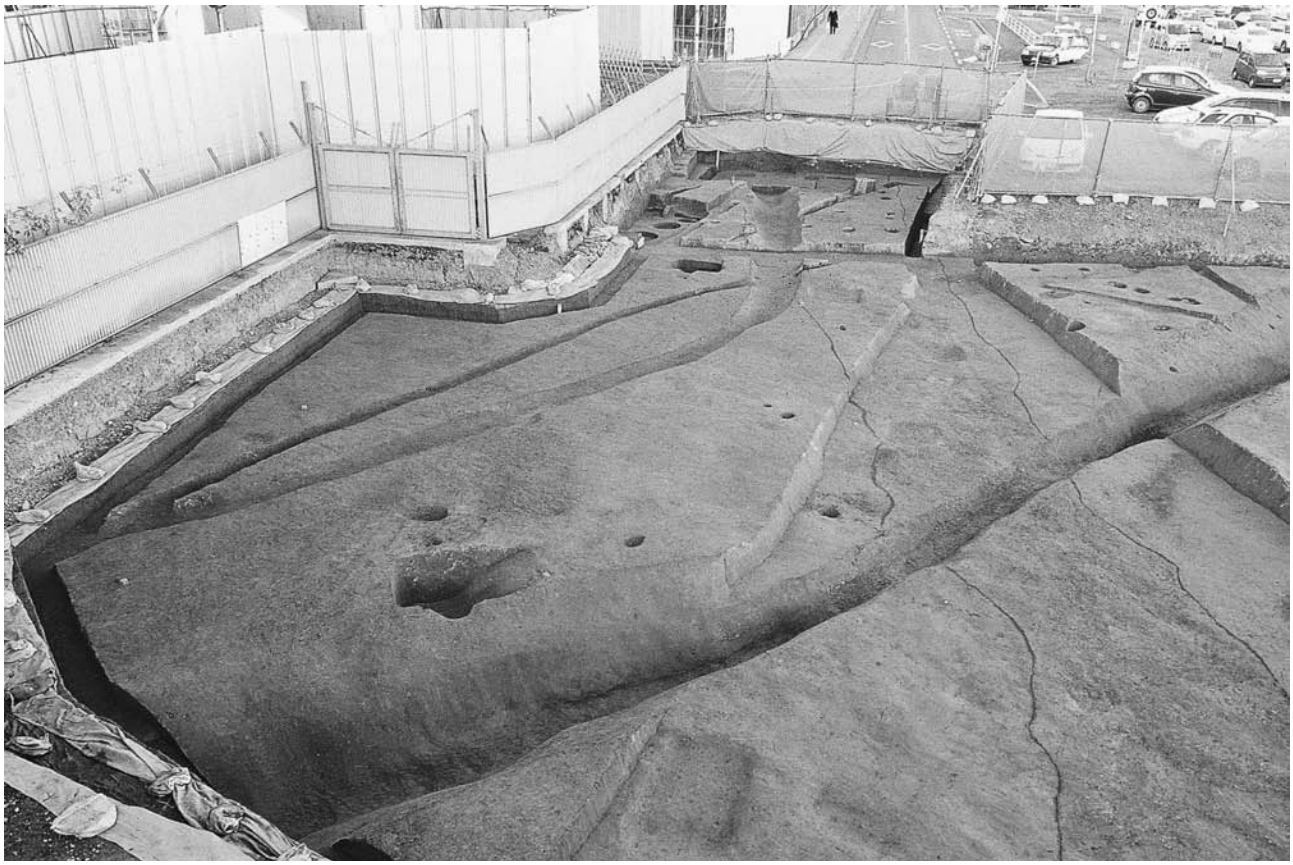
土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SK2	W220・S180	N-72° -W	長軸 [184] ×短軸 133 ×深さ 42	長方形・箱形	
SK3	W220・S180	N-69° -W	長軸 134 ×短軸 114 ×深さ 64	隅丸長方形・箱形	
SK4	W210・S180	-	一辺 110 ×深さ 25	隅丸方形・箱形	
SK5	W220・S180	-	東西 98 ×南北 [130] ×深さ 22	-	
SK12	W210・S170	N-46° -E	長軸 94 ×短軸 40 ×深さ 27	楕円形・逆台形	
SK18	W220・S170	N-82° -W	長軸 [206] ×短軸 98 ×深さ 13	長方形・逆台形	
SK19	W210・S180	N-7° -E	長軸 85 ×短軸 [30] ×深さ 39	円形・逆台形	
SK20	W220・S180	N-9° -W	長軸 [56] ×短軸 40 ×深さ 35	不明・不整 U 字形	

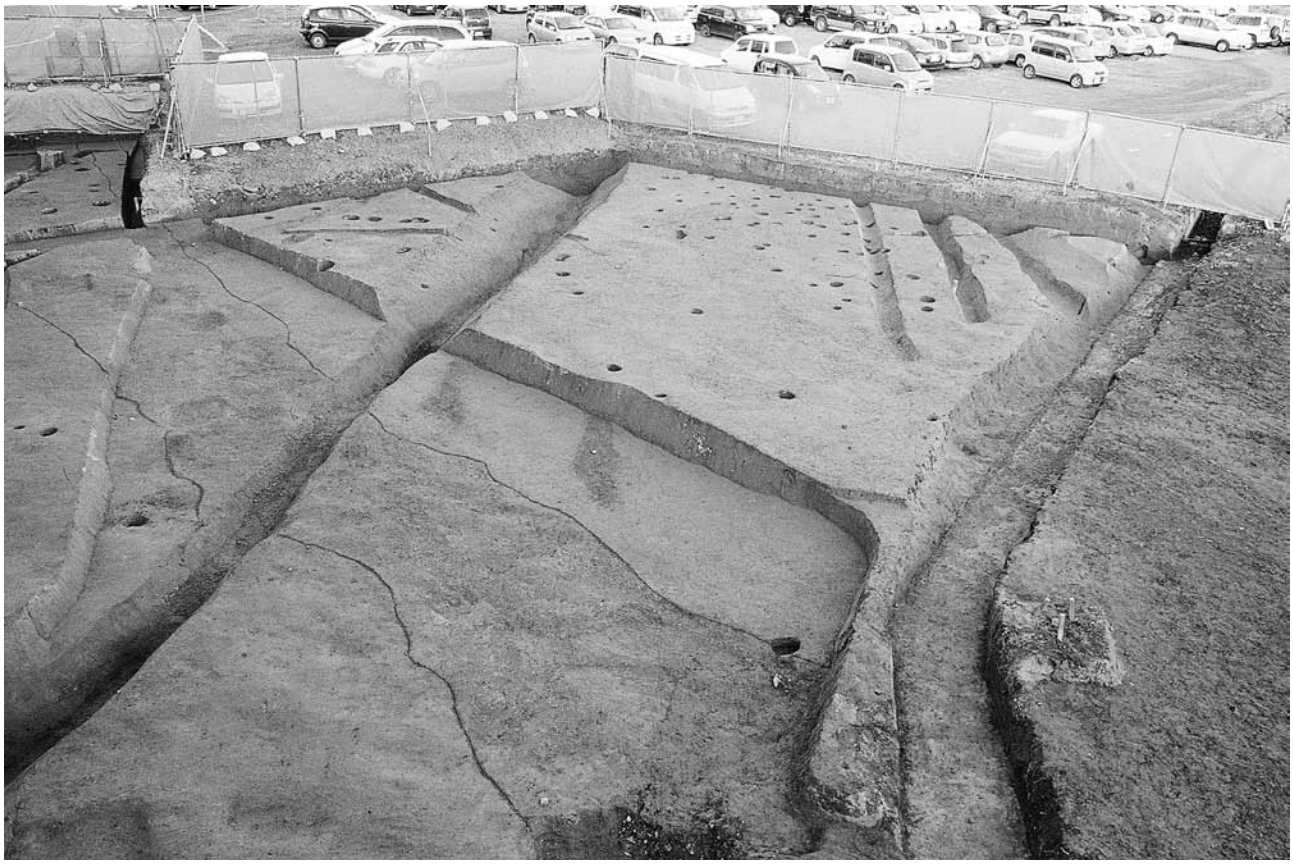
溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
SD6	W210・S180	N-75° -W	長さ [1.18] ×幅 0.16 ～ 0.24 ×深さ 0.06	ほぼ直線・逆台形	
SD7	W210 ～ 220・S180	N-24° -E　N-53° -E	長さ [6.68] ×幅 0.48 ～ 0.64 ×深さ 0.15	屈曲・逆台形	
SD8	W220・S180	N-18° -E	長さ [2.75] ×幅 0.45 ～ 0.62 ×深さ 0.12	屈曲・逆台形	
SD10	W210・S170	N-76° -W	長さ [2.98] ×幅 0.53 ～ 0.85 ×深さ 0.50	ほぼ直線・逆台形	
SD13	W220・S180	N-4° -E	長さ [1.34] ×幅 0.39 ～ 0.45 ×深さ 0.19	直線・U 字形	
SD14	W210・S170	N-46° -W	長さ [3.30] ×幅 0.24 ～ 0.43 ×深さ 0.45	ほぼ直線・逆台形	
SD15	W220・S170	N-55° -W	長さ [3.65] ×幅 0.34 ～ 0.49 ×深さ 0.17	直線・逆台形	
SD17	W220・S180	N-54° -W	長さ [6.19] ×幅 0.38 ～ 0.48 ×深さ 0.39	ほぼ直線・U 字形	

伊古田遺跡写真図版

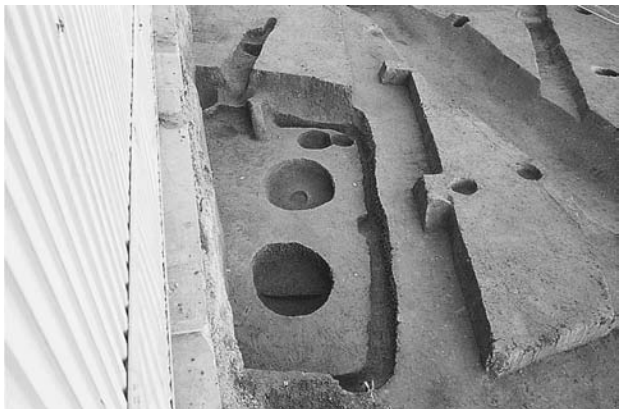


１区Ｖ層全景（南より）



１区Ｖ層全景（南西より）

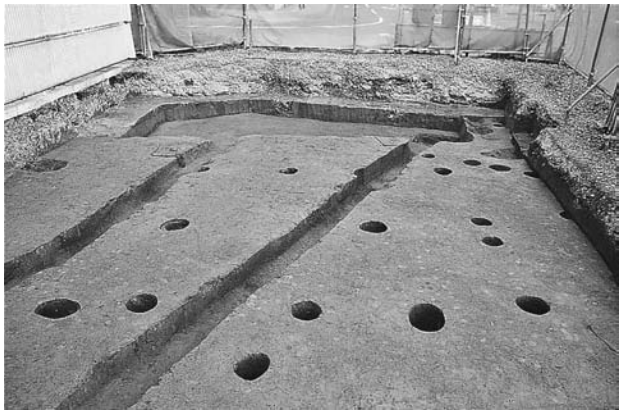
写真図版１　伊古田遺跡（１）

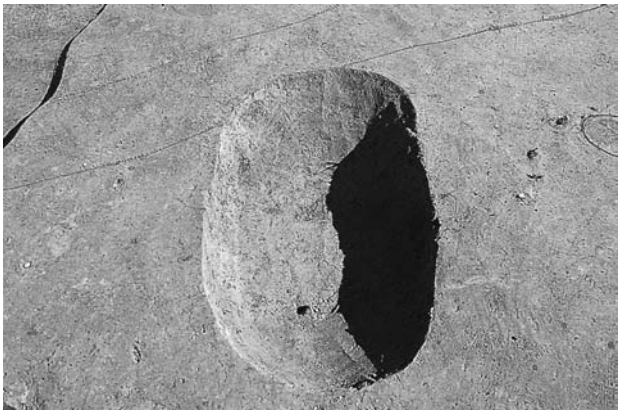

１区Ｖ層 SI16（南より）

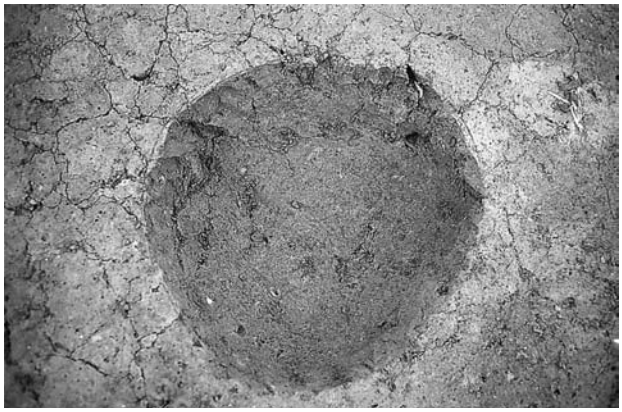
１区Ｖ層 SI16 カマド（南より）

１区Ｖ層 SI18（南より）

１区Ｖ層 SI18 カマド遺物出土状況（南より）


１区Ｖ層 SB1（南より）


１区Ｖ層 SK3（西より）


１区Ｖ層 SK6（東より）

１区Ｖ層 SK9（南より）

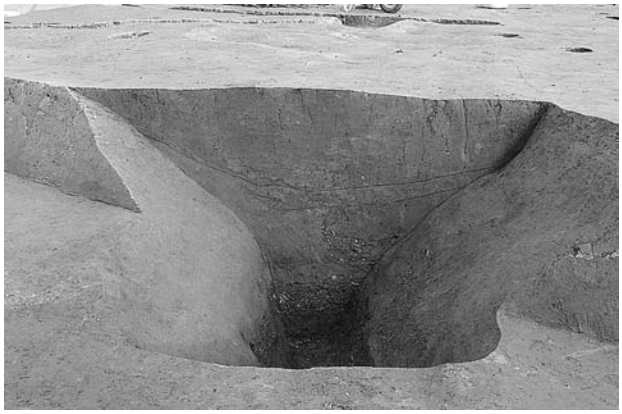
写真図版２　伊古田遺跡（２）

１区Ｖ層 SR22 断面（南より）

１区Ｖ層 SX11・17 遺物出土状況（南西より）

１区Ｖ層 SD4（北西より）

１区Ｖ層 SD5（南西より）


１区Ｖ層 SD5BB' 断面（南西より）

１区Ｖ層 SD10（南より）

１区Ｖ層 SD13・14（南西より）

１区Ｖ層 SD15・19・20（南西より）

写真図版３　伊古田遺跡（３）

１区Ｖ層 SD21（南西より）

２Ａ区Ｖ層全景（南より）

２Ａ区Ｖ層 SD1（東より）

２Ａ区 SD1 断面（東より）

２B 区Ｖ層全景（南より）

写真図版４　伊古田遺跡（４）

２B 区Ｖ層 SI1 遺物出土状況（西より）

２B 区Ｖ層 SI1（西より）

２B 区Ｖ層 SI9a（西より）

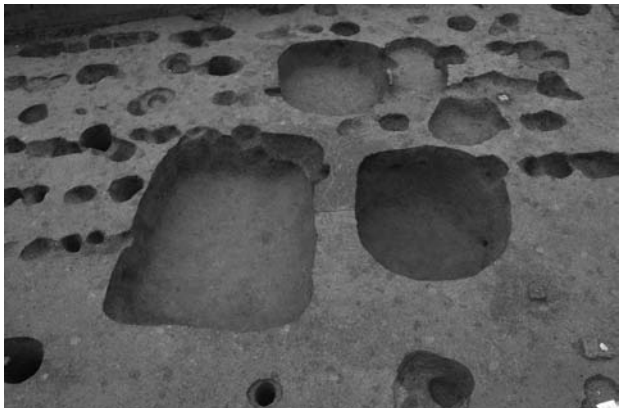
２B 区Ｖ層 SI9a カマド（西より）

２B 区Ｖ層 SI9b カマド・SI9b-SK4 遺物出土状況（西より）

写真図版５　伊古田遺跡（５）

２B 区Ｖ層 SI9b 掘り方（西より）

２B 区Ｖ層 SB16（西より）


２B 区Ｖ層 SK2 ～４（西より）

２B 区Ｖ層 SK2 断面（西より）

２B 区Ｖ層 SK3 断面（西より）

２B 区Ｖ層ＳＤ１０(西より)

２B 区Ｖ層ＳＤ１４(北西より)

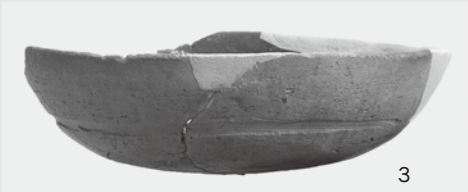
２B 区Ｖ層ＳＤ１７（南東より）

写真図版６　伊古田遺跡（6）

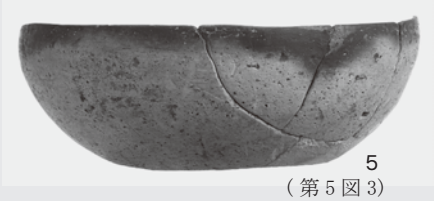
1
（第３図 1）

2
（第３図 7）

1 区Ｖ層 SI16（1･2）

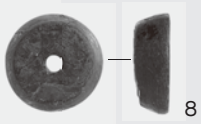

3
（第５図 1）

4
（第５図 2）


5
（第５図 3）

6
（第５図 4）

7
（第５図 5）


8
（第５図 6）

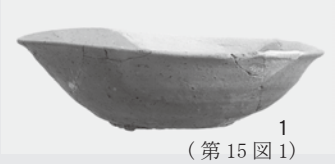
1 区Ｖ層 SI18（3 ～ 8）

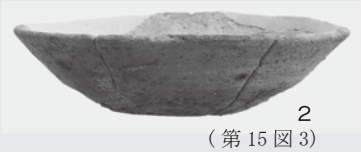
9
（第 11 図 1）

10
（第 11 図 3）

1 区Ｖ層 SD14･15（9 ～ 10）

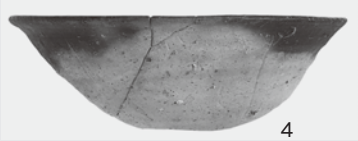
写真図版７　伊古田遺跡出土遺物（１）

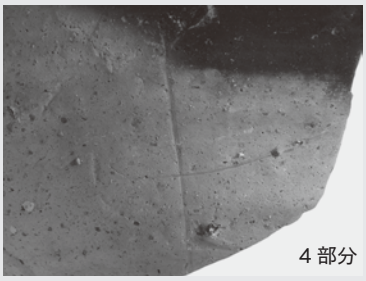

1
（第 15 図 1）

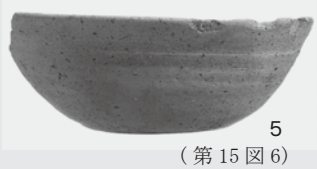

2
（第 15 図 3）

3
（第 15 図 4）

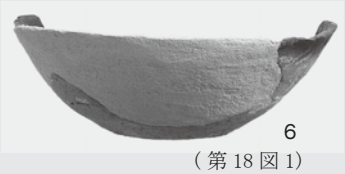
2B 区Ⅴ層 SI1（1）

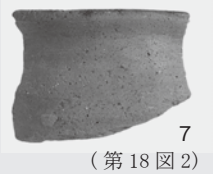

4
（第 15 図 5）

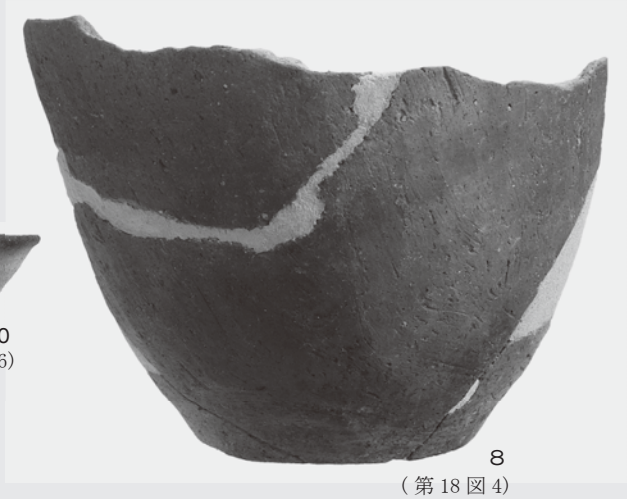

4 部分

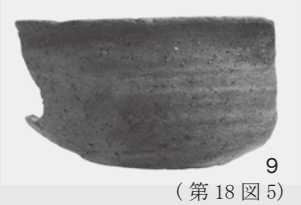

5
（第 15 図 6）

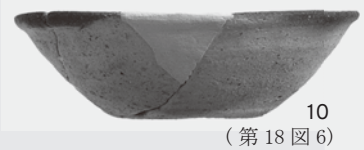
2B 区Ⅴ層 SX11（2 ～ 5）

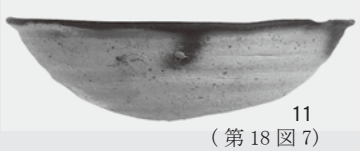

6
（第 18 図 1）

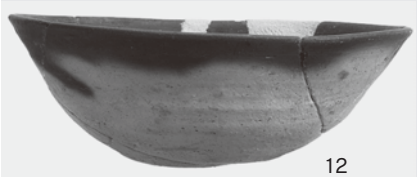

7
（第 18 図 2）


8
（第 18 図 4）


9
（第 18 図 5）

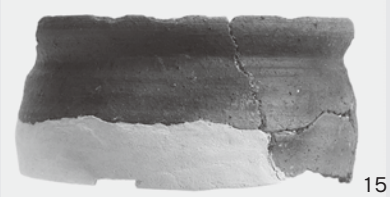

10
（第 18 図 6）

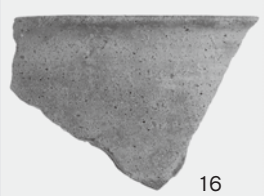

11
（第 18 図 7）


12
（第 18 図 8）

13
（第 18 図 9）

14
（第 18 図 10）


15
（第 19 図 1）


16
（第 19 図 2）

17
（第 19 図 3）

2B 区Ⅴ層 SI9a（6 ～ 7）・SI9b（8 ～ 17）

写真図版８　伊古田遺跡出土遺物（２）

第３節　大野田古墳群

１．調査要項

（1）遺 跡 名 ：大野田古墳群（宮城県遺跡登録番号 01361）
（2）所 在 地 ：仙台市太白区大野田字宮、宮脇、竹松、千刈田
（3）調査面積：約 130㎡（10 区）
（4）調査主体：仙台市教育委員会
（5）調査担当：仙台市教育委員会文化財課
（6）担当職員：荒井　格・門馬有希　（派遣調査員：青嶋邦夫／国際文化財）
（7）調査期間
（野外調査）・平成 17 年 6 月 1 日～ 7 月 20 日
（整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。
・平成 22 年度：平成 22 年 10 月 8 日～平成 23 年 3 月 31 日
・平成 23 年度：平成 23 年 9 月 22 日～平成 24 年 3 月 30 日
・平成 24 年度：平成 24 年 6 月 4 日～平成 25 年 3 月 29 日

２．10 区の調査

10 区の調査では、基本層Ｖ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑３基、小溝状遺構群２群、ピット 15 基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。また、Ｖ層上面の調査が終了した後、下層の状況を確認するため調査区北壁際（W70 ～ 80・S80）に深掘区を設定し下層調査を行った。遺構は検出されず縄文土器の破片数点が出土したのみである。

（１）Ｖ層検出の遺構と遺物（第 1 図、図版 1）

１）土坑

SK515 土坑（第２図、図版 1）　W80・S90 グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅱ -2 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不明である。西側の調査区外に延びる。検出した規模は東西 28cm、南北 1.36m、深さ 52cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は南側が一段高くなっている。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK516 土坑（第２図、図版 1）　W80・S80 グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅱ -7・8・29 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整長方形で、長軸方向は N-43° -E である。規模は長軸 1.12m、短軸 73cm、深さ 14cm で、壁面は底面から急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は北東から南西へ傾斜する。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

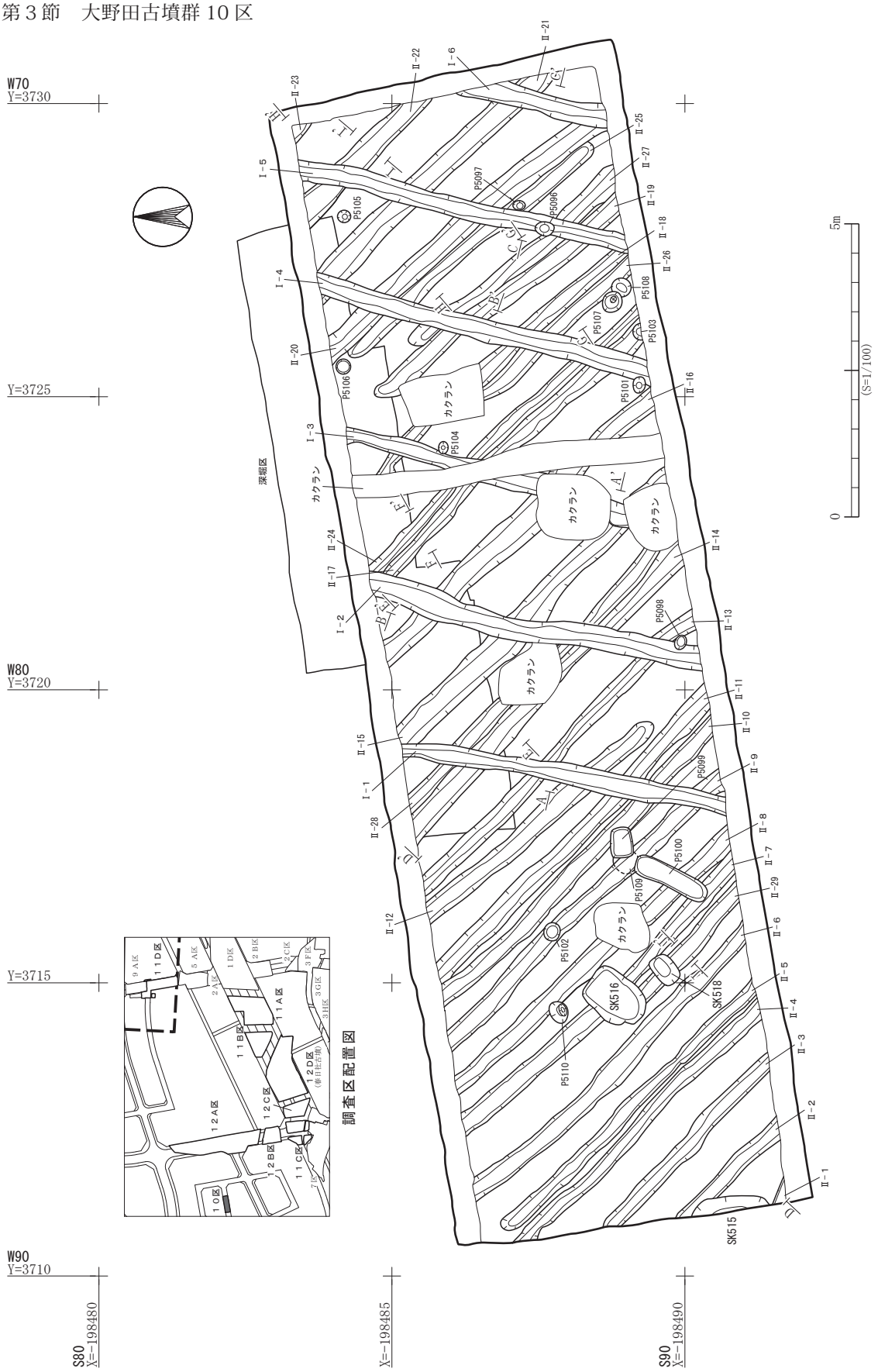
SK518 土坑（第２図、図版 1）　W80・S80 グリッドで検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-46° -E である。規模は長軸 54cm、短軸 38cm、深さ 19cm で、壁面は北側が急角度、南側は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は北東から南西へ傾斜する。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

２）小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向からⅠ・Ⅱ群に分けられる。また、重複関係からⅡ群→Ⅰ群の変遷がたどれる。

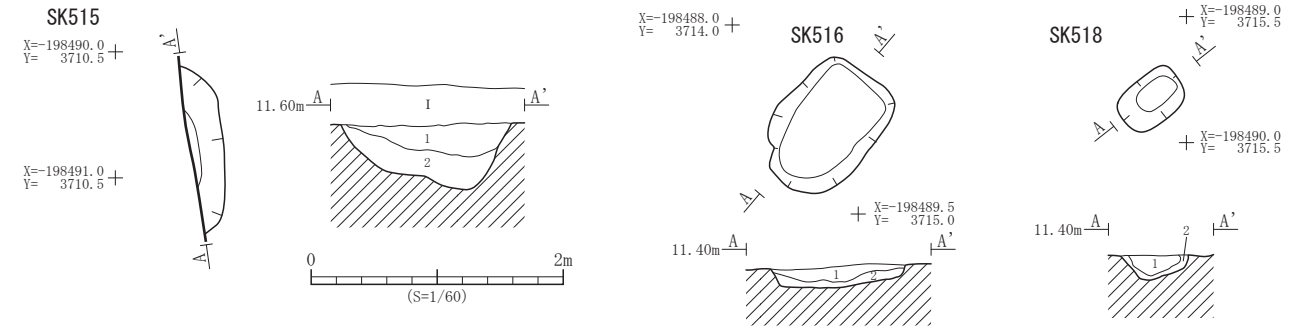
Ⅰ群（第１・３図、図版１）　W60 ～ 80・S80 ～ 90 グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群で、６条の小溝で構成される。方向は N-10 ～ 16° -E で、検出長 2.10 ～ 5.84m、幅 20 ～ 54cm、深さ８～ 25cm である。小溝の間隔は、1.70 ～ 2.00m である。堆積土は、1 ～ 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器の小片が出土している。

Ⅱ群（第１・３図、図版１）　W60 ～ 80・S80 ～ 90 グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、29 条の小溝で構成される。一部に掘り直しと思われる重複がみられる。方向は、Ⅱ -1 が N-68° -W それ以外は N-38 ～



第１図　大野田古墳群 10 区Ⅴ層遺構配置図

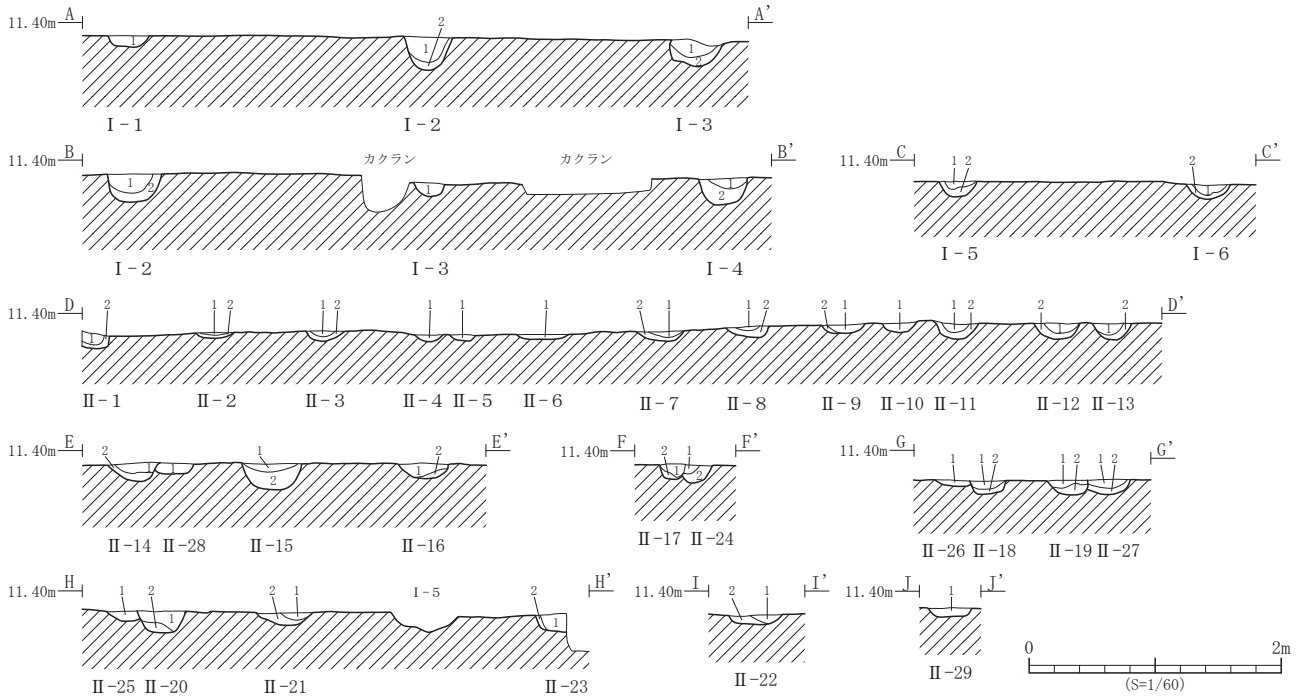
46°-W で、検出長 0.22 ～ 6.60m、幅 8 ～ 56cm、深さ 4 ～ 17cm である。小溝の間隔は、接しているものを除けば、2 ～ 85cm である。堆積土は、1 ～ 2 層に分層される。遺物はⅡ-10・13・15 ～ 20・24 から土師器の小片が出土している。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK515	1	2.5Y5/4 黄褐色	粘土質シルト	鉄分を斑状に含む。
	2	2.5Y5/4 黄褐色	粘土質シルト	鉄分を斑状に含む。マンガンを含む。
SK516	1	2.5Y6/8 明黄褐色	シルト	暗褐色土粒を含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	明褐色シルト粒を含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK518	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土粒を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。

第２図　ＳＫ５１５・５１６・５１８土坑平面図・断面図



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
Ⅰ-1	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
Ⅰ-2・3	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土粒を含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質粘土	灰黄褐色シルト質粘土ブロックを含む。
Ⅰ-4	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト粒を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	褐色粘土質シルトブロックを含む。
Ⅰ-5・6	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土粒を含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質粘土	灰黄褐色シルト質粘土ブロックを含む。
Ⅱ-1	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-2	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-3	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-4・5	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-6	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-7・8	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-9	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-10	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-11・12	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-13	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
Ⅱ-14	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-15	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-16	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-17	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土粒を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロックを含む。
Ⅱ-18・19	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土粒を含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質粘土	灰黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
Ⅱ-20～22	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土粒を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロックを含む。
Ⅱ-23	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土粒を含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト質粘土	灰黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
Ⅱ-24	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土粒を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロックを含む。
Ⅱ-25	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土粒を含む。
Ⅱ-26	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
Ⅱ-27	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土粒を含む。
Ⅱ-28	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-29	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロックを含む。

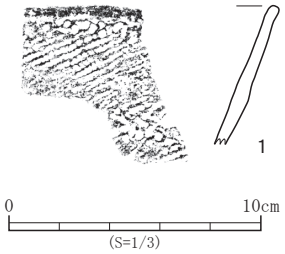
第３図　小溝状遺構群断面図

３）ピット（第１図）

15 基のピット（P5096 ～ 5110）を検出した。遺物は出土していない。

（２）遺構外出土遺物

第４図に深堀区のⅦ層から出土した縄文土器１点を図示した。LR 縄文 +L 縄文の結束第１種縄文が施文される。



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-1	10	W75･S80	Ⅶ	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部 - 結束第１種縄文（LR 縄文＋ L 縄文）		1-5

第４図　遺構外出土遺物

３．まとめ

大野田古墳群は、仙台市太白区大野田字宮、宮脇、竹松、千刈田にあり、自然堤防上に立地する古墳時代～古代の遺跡である。平成 17 年度に 10 区の調査が行われ、古墳時代～古代の遺構が検出された。

（１）遺構について

1）古墳時代～古代の遺構はⅤ層上面で検出された。

土坑３基、小溝状遺構群２群、ピット 15 基

2）小溝状遺構群が検出されていることから、当調査区周辺には畑が広がっていたと考えられる。

（２）遺物について

出土遺物は平箱２箱である。土師器と縄文土器の小破片が多い。小溝状遺構群から土師器片が、Ⅶ層から縄文土器片が数点出土した。

第１表　遺構一覧表

10 区Ⅴ層

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SK515	W80・S90	-	東西 [28] ×南北 [136] ×深さ 52	不明・逆台形	
SK516	W80・S80	N-43° -E	長軸 112 ×短軸 73 ×深さ 14	不整長方形・逆台形	
SK518	W80・S80	N-46° -E	長軸 54 ×短軸 38 ×深さ 19	隅丸長方形・逆台形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
Ⅰ -1	W80・S80 ～ 90	N-10° -E	長さ [5.60] ×幅 0.25 ～ 0.40 ×深さ 0.08	ほぼ直線・U 字形	
Ⅰ -2	W70・S80 ～ 90	N-13° -E	長さ [5.80] ×幅 0.25 ～ 0.54 ×深さ 0.25	ほぼ直線・U 字形	
Ⅰ -3	W70・S80	N-16° -E	長さ [5.00] ×幅 0.20 ～ 0.39 ×深さ 0.1 ～ 0.2	ほぼ直線・U 字形	
Ⅰ -4	W70・S80	N-15° -E	長さ [5.84] ×幅 0.32 ～ 0.39 ×深さ 0.21	ほぼ直線・U 字形	
Ⅰ -5	W70・S80	N-12° -E	長さ [5.70] ×幅 0.28 ～ 0.39 ×深さ 0.12 ～ 0.17	ほぼ直線・U 字形	
Ⅰ -6	W60 ～ 70・S80	N-16° -E	長さ [2.10] ×幅 0.32 ～ 0.42 ×深さ 0.12	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -1	W80・S90	N-68° -W	長さ [0.35] ×幅 [0.19] ×深さ 0.12	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -2	W80・S80 ～ 90	N-43° -W	長さ [2.25] ×幅 0.26 ～ 0.32 ×深さ 0.06	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -3	W80・S80 ～ 90	N-45° -W	長さ [3.84] ×幅 0.28 ～ 0.34 ×深さ 0.09	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -4	W80・S80 ～ 90	N-44° -W	長さ [5.73] ×幅 0.23 ～ 0.34 ×深さ 0.06	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -5	W80・S80 ～ 90	N-43° -W	長さ [5.94] ×幅 0.09 ～ 0.28 ×深さ 0.05	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -6	W80・S80 ～ 90	N-44° -W	長さ [6.36] ×幅 0.28 ～ 0.45 ×深さ 0.04	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -7	W80・S80 ～ 90	N-44° -W	長さ [6.45] ×幅 0.24 ～ 0.39 ×深さ 0.08	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -8	W80・S80 ～ 90	N-42° -W	長さ [6.30] ×幅 0.29 ～ 0.38 ×深さ 0.09	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -9	W80・S80 ～ 90	N-44° -W	長さ [6.45] ×幅 0.26 ～ 0.35 ×深さ 0.07	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -10	W80・S80 ～ 90	N-45° -W	長さ [6.46] ×幅 0.28 ～ 0.35 ×深さ 0.07	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -11	W80・S80 ～ 90	N-46° -W	長さ [6.60] ×幅 0.29 ～ 0.42 ×深さ 0.12	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -12	W80・S80	N-40° -W	長さ [4.98] ×幅 0.30 ～ 0.44 ×深さ 0.12	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -13	W70 ～ 80・S80 ～ 90	N-45° -W	長さ [6.52] ×幅 0.20 ～ 0.34 ×深さ 0.13	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -14	W70 ～ 80・S80 ～ 90	N-46° -W	長さ [6.16] ×幅 0.22 ～ 0.43 ×深さ 0.15	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -15	W70 ～ 80・S80	N-43° -W	長さ [6.30] ×幅 0.39 ～ 0.53 ×深さ 0.2	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -16	W70・S80	N-44° -W	長さ [6.18] ×幅 0.34 ～ 0.56 ×深さ 0.12	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -17	W70・S80	N-44° -W	長さ [6.43] ×幅 0.19 ～ 0.35 ×深さ 0.12	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -18	W70・S80	N-42° -W	長さ [3.22] ×幅 0.28 ～ 0.35 ×深さ 0.12	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -19	W70・S80	N-38° -W	長さ [5.26] ×幅 0.30 ～ 0.37 ×深さ 0.12	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -20	W70・S80	N-40° -W	長さ [6.16] ×幅 0.36 ～ 0.45 ×深さ 0.17	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -21	W60 ～ 70・S80	N-44° -W	長さ [5.18] ×幅 0.42 ～ 0.53 ×深さ 0.1	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -22	W60 ～ 70・S80	N-45° -W	長さ [2.57] ×幅 0.35 ～ 0.38 ×深さ 0.08	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -23	W70・S80	N-46° -W	長さ [0.22] ×幅 [0.25] ×深さ 0.13	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -24	W70・S80	N-44° -W	長さ [6.42] ×幅 [0.26] ×深さ 0.13	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -25	W70・S80	N-41° -W	長さ 5.48 ×幅 [0.32] ×深さ 0.07	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -26	W70・S80	N-43° -W	長さ [5.36] ×幅 0.17 ～ 0.35 ×深さ 0.04	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -27	W70・S80	N-39° -W	長さ [4.52] ×幅 [0.34] ×深さ 0.12	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -28	W70 ～ 80・S80	N-46° -W	長さ [5.98] ×幅 [0.33] ×深さ 0.08	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -29	W80・S80 ～ 90	N-46° -W	長さ [2.36] ×幅 0.30 ～ 0.34 ×深さ 0.07	ほぼ直線・U 字形	

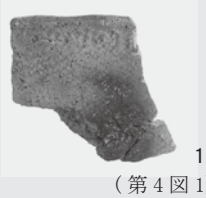
大野田古墳群写真図版

１０ 区Ｖ層全景（東より）

１０ 区Ｖ層SK515 断面（東より）

１０ 区Ｖ層SK516（南東より）

１０ 区Ｖ層SK518（南東より）



1
（第４図１）

出 土 遺 物

写真図版１　大野田古墳群、出土遺物

第４節　下ノ内遺跡

１．調査要項

（1）遺跡名：下ノ内遺跡（宮城県遺跡登録番号 01425）
（2）所在地：仙台市太白区富沢四丁目、大野田字五反田
（3）調査面積：約 1097㎡
・平成 17 年度：約 463㎡（６区）
・平成 18 年度：約 634㎡（７Ａ・７Ｂ区）
（4）調査主体：仙台市教育委員会
（5）調査担当：仙台市教育委員会文化財課
（6）担当職員
・平成 17 年度：荒井　格・門馬有希　（派遣調査員：青嶋邦夫／国際文化財）
・平成 18 年度：荒井　格・門馬有希　（派遣調査員：青嶋邦夫／国際文化財）
（7）調査期間
（野外調査）・平成 17 年度：平成 17 年９月 1 日～ 12 月 22 日
・平成 18 年度：平成 18 年４月 21 日～ 12 月 1 日
（整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。
・平成 22 年度：平成 22 年 10 月 8 日～平成 23 年３月 31 日
・平成 23 年度：平成 23 年 9 月 22 日～平成 24 年３月 30 日
・平成 24 年度：平成 24 年 6 月 4 日～平成 25 年３月 29 日

２．６区の調査

６区では、基本層Ⅴ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡３軒、土坑５基、河川跡１条、溝跡 10 条、小溝状遺構群３群、ピット 144 基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。また、調査区北側と東側に深掘区を設定し、北側深掘区のⅨ層上面で河川跡を１条検出した。

（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物（第１図、図版 1）

１）竪穴住居跡

SI417a ～ c 竪穴住居跡（第２～４図、図版２）

３時期の建て替えを確認した。新しい時期から a ～ c 期として報告する。

SI417a 竪穴住居跡

[位置] W270・S50 ～ 60 グリッドに位置する。

[重複関係] SI417b・c 、SR408、小溝状遺構Ⅲ -6 ～ 8、P1888 ～ 1890 と重複関係にあり、SI417b・c、小溝状遺構Ⅲ群、P1890 より新しく、他より古い。

[規模・形態] 東西 4.07m、南北 4.14m である。平面形は方形である。建て替え前の b 期から拡張・縮小された痕跡は認められない。

[主軸方位] カマド基準で N-65° -W である。

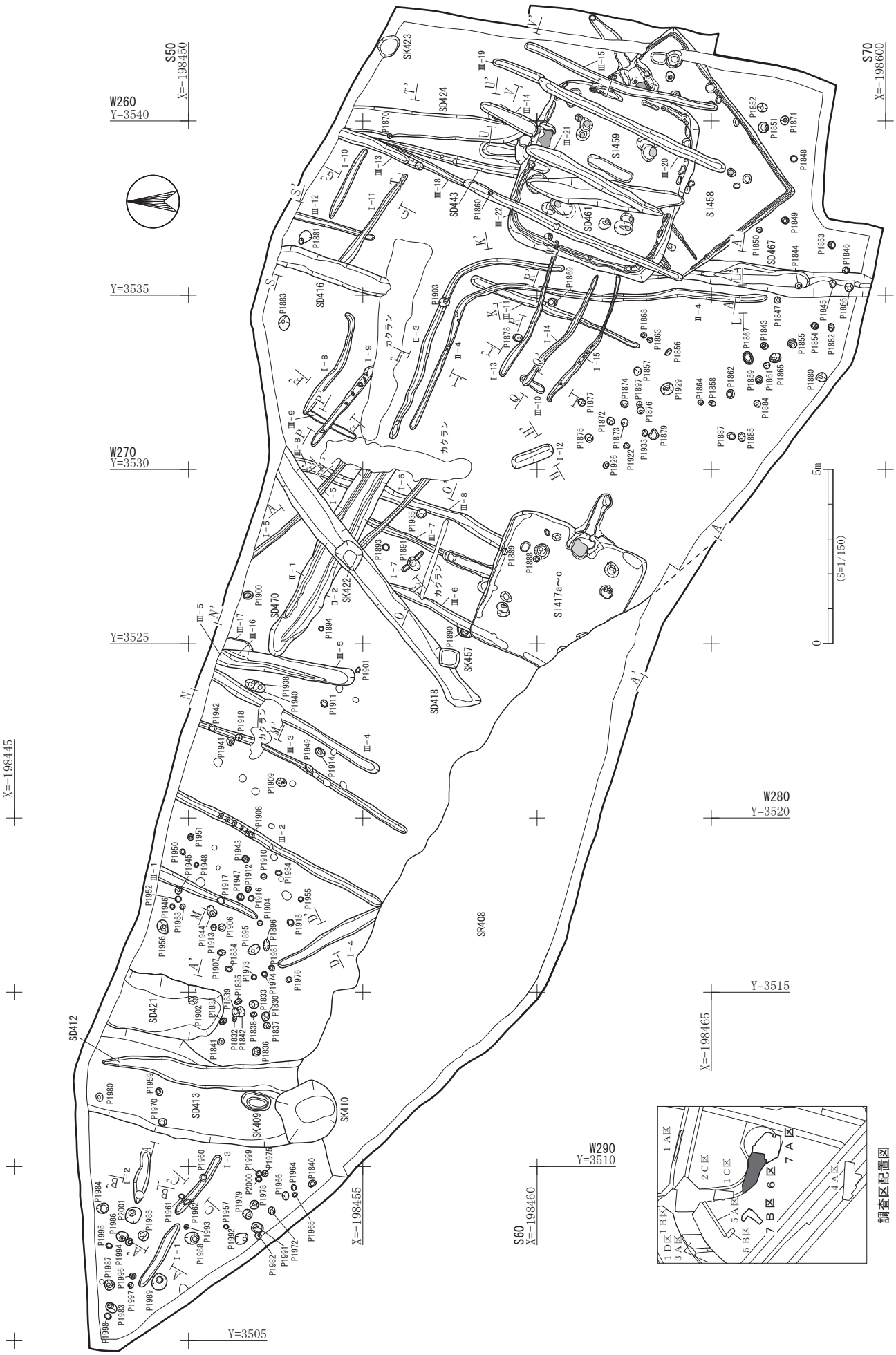
[堆積土・構築土] 18 層に分層した。1 ～ 2 層は住居跡堆積土、3 ～ 11 層はカマド内堆積土、12 層は周溝内堆積土である。a 期のカマドは b 期の新カマドを再利用しているため、14 ～ 19 層は a・b 期共通のカマド関連層位である。

[壁面] 周溝底面から直立気味に立ち上がり 7 ～ 10cm 付近で外傾する。壁高は床面から 10 ～ 16cm である。

[床面] 13 層上面を床面としている。ほぼ平坦で特に目立った硬化面などはみられない。

[柱穴] 床面で２基のピット（P10・11）を検出した。規模は径 15 ～ 18 cm、深さ 4 ～ 12㎝である。周溝に接していることから、補助的な柱の可能性があるが主柱穴は確認できなかった。

[周溝] 西・北・東南壁際で検出した。断面形はＵ字形で、規模は幅 10 ～ 28cm、深さ 9 ～ 25cm である。



第１図　下ノ内遺跡６区Ⅴ層遺構配置図

調査区配置図

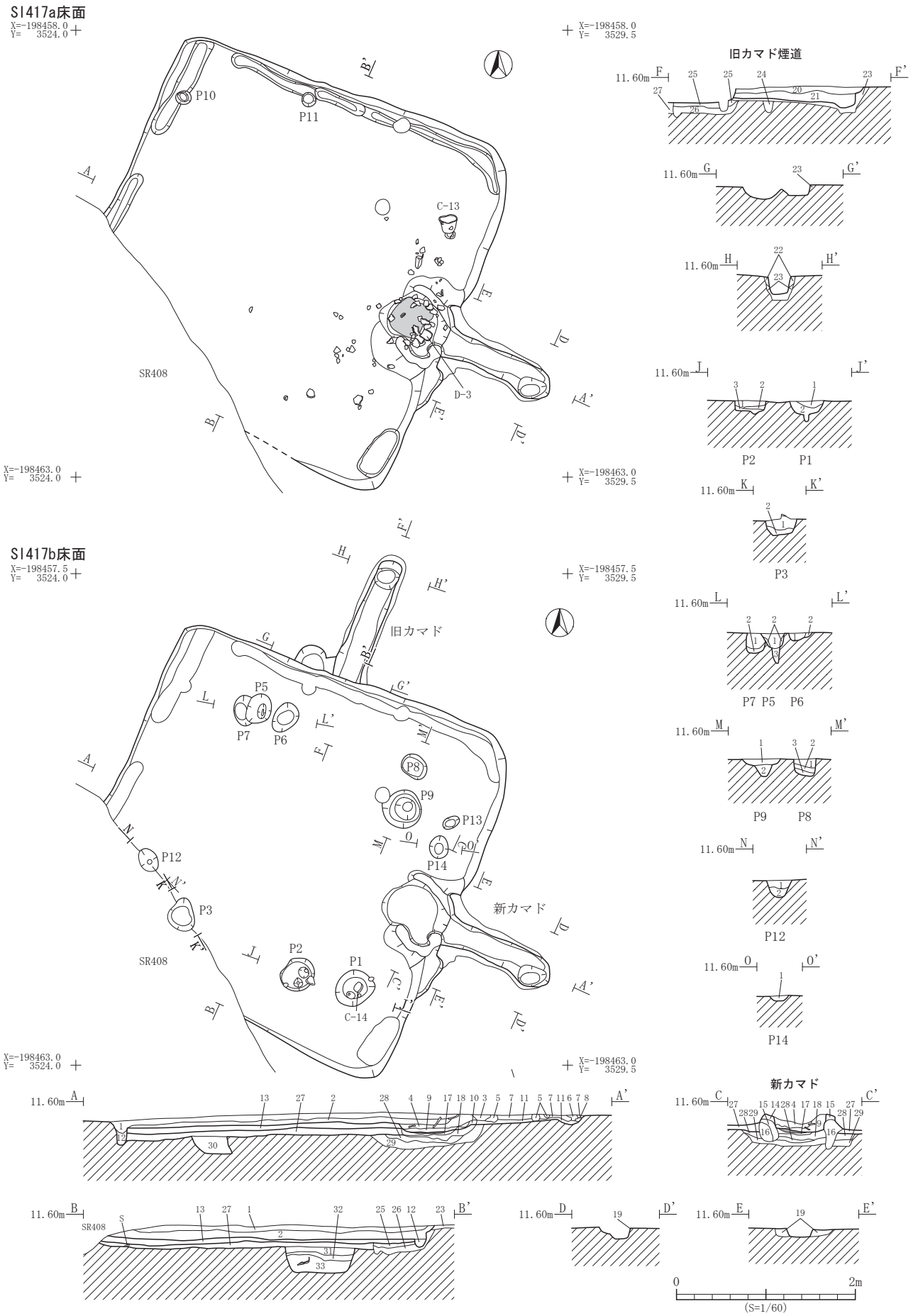
[カマド] 東壁に位置し、壁の中央に付設されている。b 期に機能していたものを継続して使用している。袖の規模は、南袖が長さ 80cm、幅 29 ～ 40cm、床面からの高さ 10cm、北袖が長さ 70cm、幅 25 ～ 33cm、床面からの高さ 10cm である。燃焼部の規模は、奥行 80cm、幅 60cm である。a 期の貼床によって焚口と燃焼部の境に約 10㎝の段がある。煙道部は長さ 1.29m、幅 26 ～ 37cm、深さ 5 ～ 10cm で、底面は平坦で、先端部南側に長さ 42cm、幅 24cm、底面からの深さ 8cm のピット状に落ち込む部分があり、煙出しのピットと考えられる。
[出土遺物] 堆積土及び床面から縄文土器・土師器・須恵器・打製石器が出土している。このうち土師器 6 点、須恵器 2 点、礫石器 1 点を第 4 図に図示した。1･2 は土師器甕で底部に木葉痕がある。3 は単孔の土師器甑で把手が付く。4 ～ 6 はロクロ使用の土師器甕である。 7 ～ 8 は須恵器甕で、8 は外面に櫛描波状文が施される。11 は磨面に光沢が観察される礫石器である。ロクロ使用と不使用の土師器が混在していることから、本竪穴住居跡の年代は 8 世紀後葉～ 9 世紀初頭頃と考えられる。

SI417b 竪穴住居跡

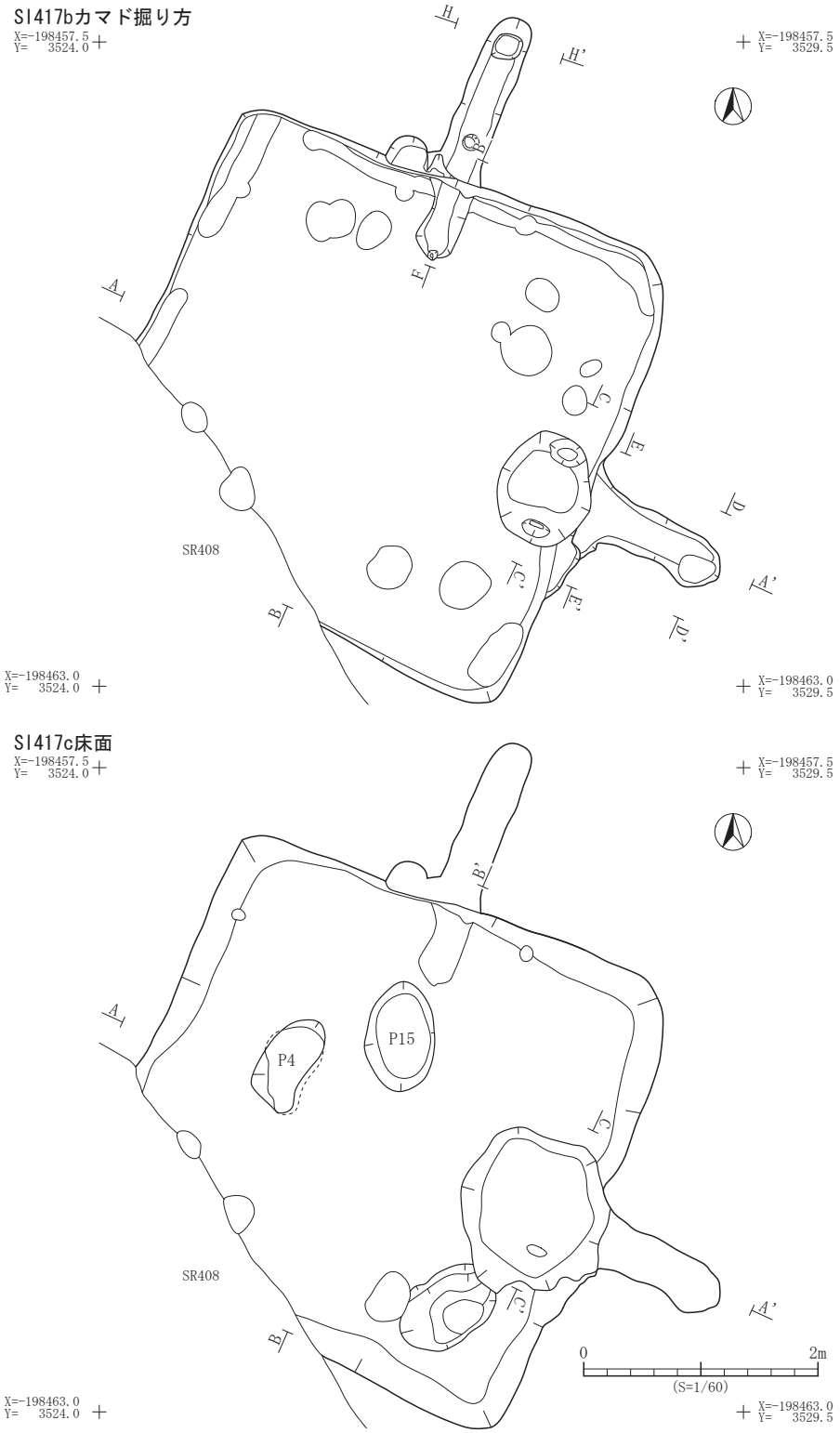
[位置] a 期と同じ。
[重複関係] SI417c より新しく、SI417a より古い。また、本住居機能時に北壁から東壁にカマドを造り替えており、b 期の段階でも 2 時期に細分される。
[規模・形態] a 期と同じ。建て替え前の c 期から拡張・縮小された痕跡は認められない。
[主軸方位] 新カマド基準で N-65° -W、旧カマド基準で N-22° -E である。
[堆積土・構築土] 14 層に分層した。13 層は本期の床面を埋めた土で、上面が a 期の床面である。14 ～ 19 層は新カマド関連層位、20・21 層は旧カマド内堆積土、22 ～ 26 層は旧カマド関連層位である。
[壁面] 底面から直立気味に立ち上がり、壁高は床面から 14 ～ 24cm である。
[床面] 27 層上面を床面としている。ほぼ平坦で特に目立った硬化面などはみられない。
[柱穴] 床面で 11 基のピット（P1 ～ 3・5 ～ 9・12 ～ 14）を検出した。規模は径 13 ～ 44cm、深さ 5 ～ 36cm である。北西側は P5 ～ 7、北東側は P8・9、南西側は P3・12、南東側は P1・2 のいずれかが主柱穴として組み合う可能性がある。
[カマド] 2 時期の造り替えがある。新カマドは東壁に位置し、壁の中央に付設されている。新カマド袖部は溝状の掘り方を持ち、袖の規模は、南袖は長さ 56cm、幅 21 ～ 31cm、床面からの高さ 17cm で、北袖は長さ 65cm、幅 20 ～ 45cm、床面からの高さ 10cm である。燃焼部の規模は、奥行 80cm、幅 60cm で、長軸 95cm、短軸 83cm、深さ 12cm の掘り方を持つ。煙道部は長さ 1.29m、幅 26 ～ 37cm、深さ 5 ～ 10cm で、長さ 1.20m、幅 47 ～ 84cm、深さ 10cm の掘り方を持つ。旧カマドは残存する燃焼部の掘り方と煙道部のみを検出した。北壁に位置し、壁の中央に付設されている。燃焼部の掘り方の規模は、長軸 64cm、短軸 34cm、深さ 10 ～ 14cm で、底面には凹凸がある。煙道部は、長さ 1.43m、幅 25 ～ 32cm、深さ 10 ～ 24cm で、長さ 1.47m、幅 39 ～ 50cm、深さ 3 ～ 15cm の掘り方を持つ。底面はほぼ平坦である。
[出土遺物] 堆積土、ピット内堆積土から土師器・須恵器が出土している。このうち土師器 1 点、須恵器 1 点を第 4 図 9・10 に図示した。9 は P1 から出土したロクロ不使用の土師器坏である。10 は須恵器甕の口縁部である。出土遺物の特徴とカマドが再利用されていることから、a 期と大きな時間差は無いとみられ、本竪穴住居跡の年代も 8 世紀後葉～ 9 世紀初頭頃と考えられる。

SI417c 竪穴住居跡

b 期床面の下層の埋土除去後に掘り方底面の凹凸とは異なる面を検出したため、b 期より古い c 期の床面とした。
[位置] a 期と同じ。
[重複関係] SI417a・b より古い。
[規模・形態] a 期と同じ。
[主軸方位] 西壁基準で N-65° -W である。
[堆積土・構築土] 3 層に分層した。27 層は本期の床面を埋めた土で、上面が b 期の床面である。28・29 層は掘り方埋土である。
[壁面] 底面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は底面から 27cm である。



第２図　ＳＩ 417a・ｂ竪穴住居跡平面図・断面図



第３図　ＳＩ 417b・c 竪穴住居跡平面図

[床面] b 期のカマド掘り方により床面の一部が削平されるが、東壁の中央部を除いて掘り方の底面を直接床面としている。

[柱穴] 床面で２基のピット（P4・15）を検出した。規模は径 40 ～ 94cm、深さ 20 ～ 30cm である。配置関係から柱穴とは考えられない。

SI417a・b・c 土層註記表

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI417a	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰オリーブ色砂質シルト粒を多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	マンガン粒・炭化物粒を含む。灰オリーブ色砂質シルト粒をわずかに含む。
	3	2.5YR2/1 赤黒色	シルト	焼土ブロックをわずかに含む。
	4	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・焼土粒を含む。
	5	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	-
	6	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	-
	7	2.5YR2/1 赤黒色	シルト	焼土ブロックをわずかに含む。
	8	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒を含む。焼土粒をわずかに含む。
	9	7.5Y4/1 灰色	シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	10	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物粒・焼土ブロックを多量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	赤黒色シルトブロックを含む。
	12	-	-	註記なし。（a 期周溝内堆積土）
SI417 a・b	13	10YR3/4 暗褐色	シルト	鉄分を多量含む。暗オリーブ色砂質シルトを粒状に含む。暗褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。（b 期床面埋土）
	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・赤黒色シルトブロックをわずかに含む。
	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒を多量含む。赤黒色シルトブロックを含む。
	16	10YR4/4 褐色	シルト	砂粒をわずかに含む。
	17	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	焼土粒をわずかに含む。
	18	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土ブロック・焼土粒を多量含む。
	19	10YR6/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	-
SI417b	20	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	赤黒色シルトブロック・わずかな炭化物粒の混合土。浅黄橙色シルトブロック・褐色シルトブロックを多量含む。
	21	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト・赤黒色シルト・浅黄橙色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。
	22	10YR8/4 浅黄橙色	粘土質シルト	カマド煙道掘り方。鉄分・炭化物粒をわずかに含む。
	23	10YR8/4 浅黄橙色	粘土質シルト	カマド煙道掘り方。鉄分を含む。炭化物粒をわずかに含む。
	24	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	赤黒色シルトブロックを多量含む。褐色シルトブロック・暗褐色シルトブロックを含む。
	25	10YR3/2 黒褐色	シルト	粘土ブロックを多量含む。マンガン粒・炭化物粒をわずかに含む。
	26	10YR4/1 褐灰色	シルト	粘土ブロックを多量含む。鉄分･炭化物粒を含む。
SI417c	27	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	粘土ブロック・鉄分・炭化物粒をわずかに含む。（c 期床面埋土）
	28	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	鉄分を含む。赤黒色シルトブロック・砂粒・炭化物粒･焼土粒をわずかに含む。（c 期掘り方埋土）

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI417c	29	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	赤黒色シルトブロック・炭化物粒・焼土粒を多量含む。鉄分含む。砂粒をわずかに含む。（c 期掘り方埋土）
P4	30	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	赤黒色シルトブロック・焼土ブロックを多量含む。炭化物粒を含む。
P15	31	10YR3/4 暗褐色	シルト	粘土ブロック・鉄分・炭化物粒をわずかに含む。
	32	10YR3/4 暗褐色	シルト	粘土ブロックを多量含む。鉄分・炭化物粒をわずかに含む。
	33	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粘土ブロック･炭化物粒を多量含む。鉄分を含む。
P1	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。砂粒･炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	鉄分を含む。炭化物粒をわずかに含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	砂粒をわずかに含む。鉄分を多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロックを含む。鉄分・炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色土ブロック・鉄分・炭化物粒をわずかに含む。
P3	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	砂粒・褐色シルトブロックを含む。鉄分を多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土ブロック・粘土ブロックを含む。鉄分を斑状にわずかに含む。
P5	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分・炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分・炭化物粒をわずかに含む。
P6	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	砂粒・鉄分をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。
P7	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。
P8	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。にぶい黄褐色粘土ブロックをわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
P9	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を含む。褐色シルト粒をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。粘土ブロックをわずかに含む。
P10	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	鉄分を多量含む。暗褐色土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
P11	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	鉄分を多量含む。暗褐色土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
P12	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。暗褐色土ブロック・粘土ブロックをわずかに含む。
P13	1	-	-	註記なし。
P14	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	鉄分を多量含む。炭化物粒をわずかに含む。

[掘り方] 深さ 16 ～ 20cm である。底面はほぼ平坦である。

[出土遺物] 本期に属する遺物は出土しなかった。

SI458 竪穴住居跡（第 5 ～ 9 図、図版 2・3）

[位置] W250 ～ 260・S60 グリッドに位置する。

[重複関係] SI459、SD467、小溝状遺構Ⅲ -15・20・22 と重複関係にあり、SD467 より新しく、他より古い。

[規模・形態] 東西 5.93m、南北 4.31m である。北西から中央部を SI459 に削平されるが、平面形は長方形と考えられる。

[主軸方位] カマド基準で N-56°-E である。

[堆積土・構築土] 38 層に分層した。1 ～ 3 層は住居跡堆積土、4 ～ 13 層は新カマド内堆積土、14 層は周溝内堆積土、15 ～ 31 層は新カマド関連層位、32 ～ 35 層は旧カマド内堆積土、36・37 層は旧カマド関連層位、38 層は掘り方埋土である。3 層中の床面直上から多くの炭化材・焼土が出土している。炭化材は住居の壁に平行または直行した状態で出土したものが多く、火災で倒壊した部材と考えられる。

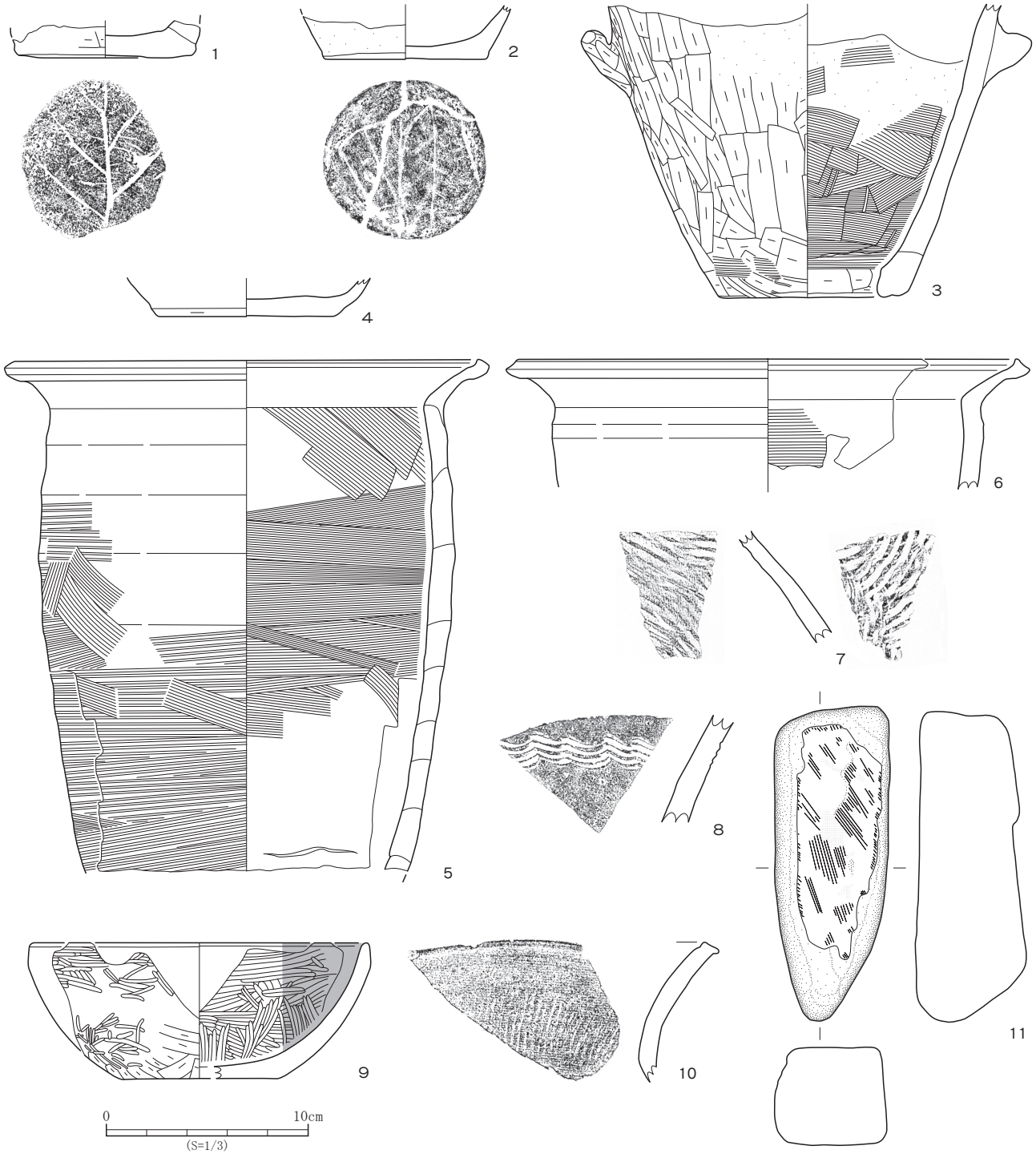
[壁面] 周溝底面から直立気味に立ち上がる。壁高は床面から 20 ～ 34cm である。

[床面] 38 層上面を床面としている。ほぼ平坦で特に目立った硬化面などはみられない。

[柱穴] 床面で 17 基のピット（P1 ～ 12・14 ～ 17・19）を検出した。配置・規模から P1・16・17・19 が主柱穴の可能性があり、規模は径 21 ～ 31 cm、深さ 20 ～ 72㎝である。P1・16・19 では径 10 ～ 15cm の柱痕跡が認められた。その他のピットの規模は径 11 ～ 43cm、深さ 5 ～ 86cm で、P8 では径 10cm、P11 では径 8cm の柱痕跡が認められた。それらは住居の隅や壁際に位置するものが多く、補助的な柱や貯蔵穴の可能性がある。

[周溝] カマド周辺と西隅を除き検出範囲を全周する。断面形はＵ字形で、規模は幅 10 ～ 13cm、深さ 5 ～ 41cm である。

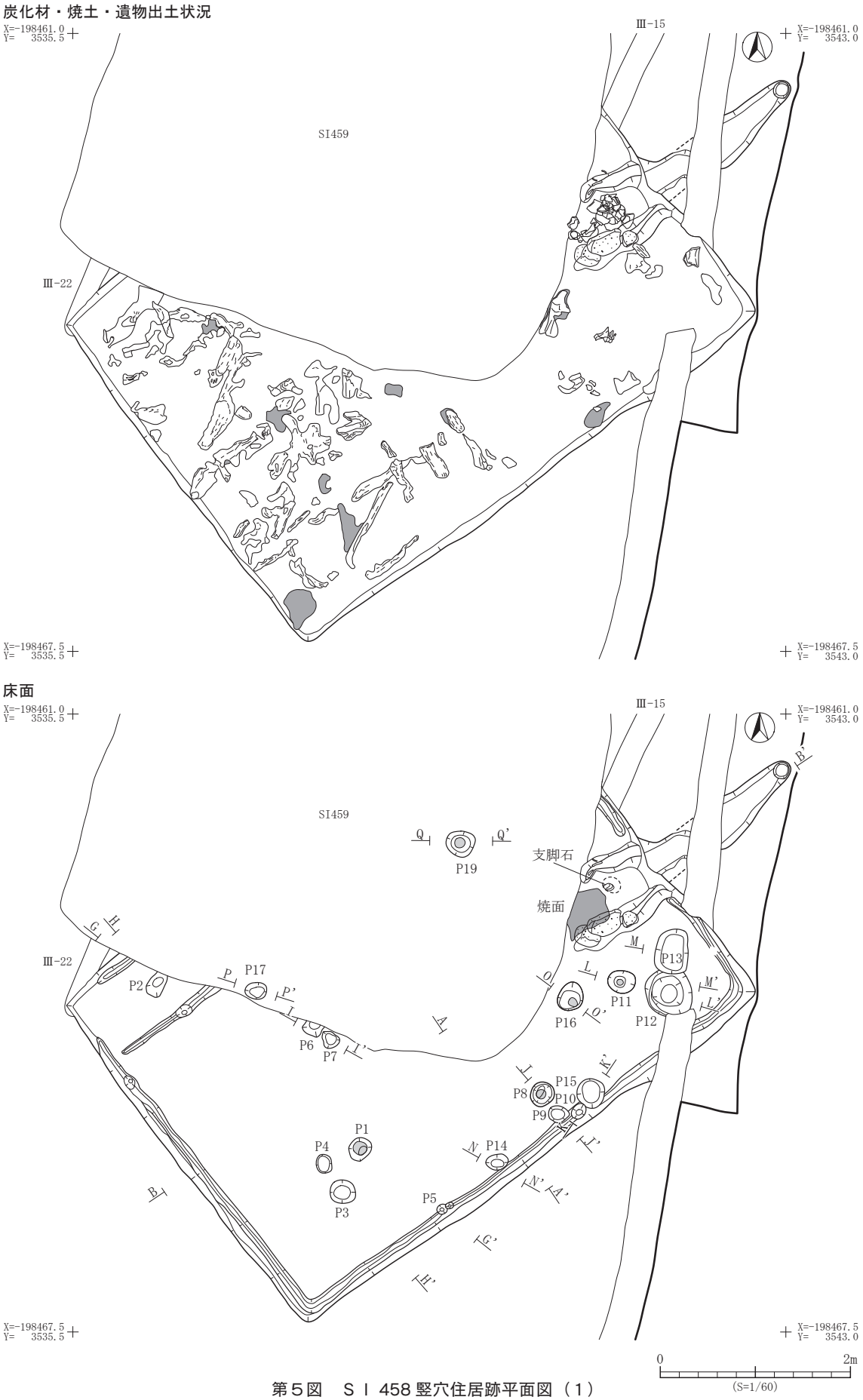
[カマド] 東壁に位置し、壁の中央に付設されている。新旧 2 時期あり、同位置で造り替えが行われている。新カマ



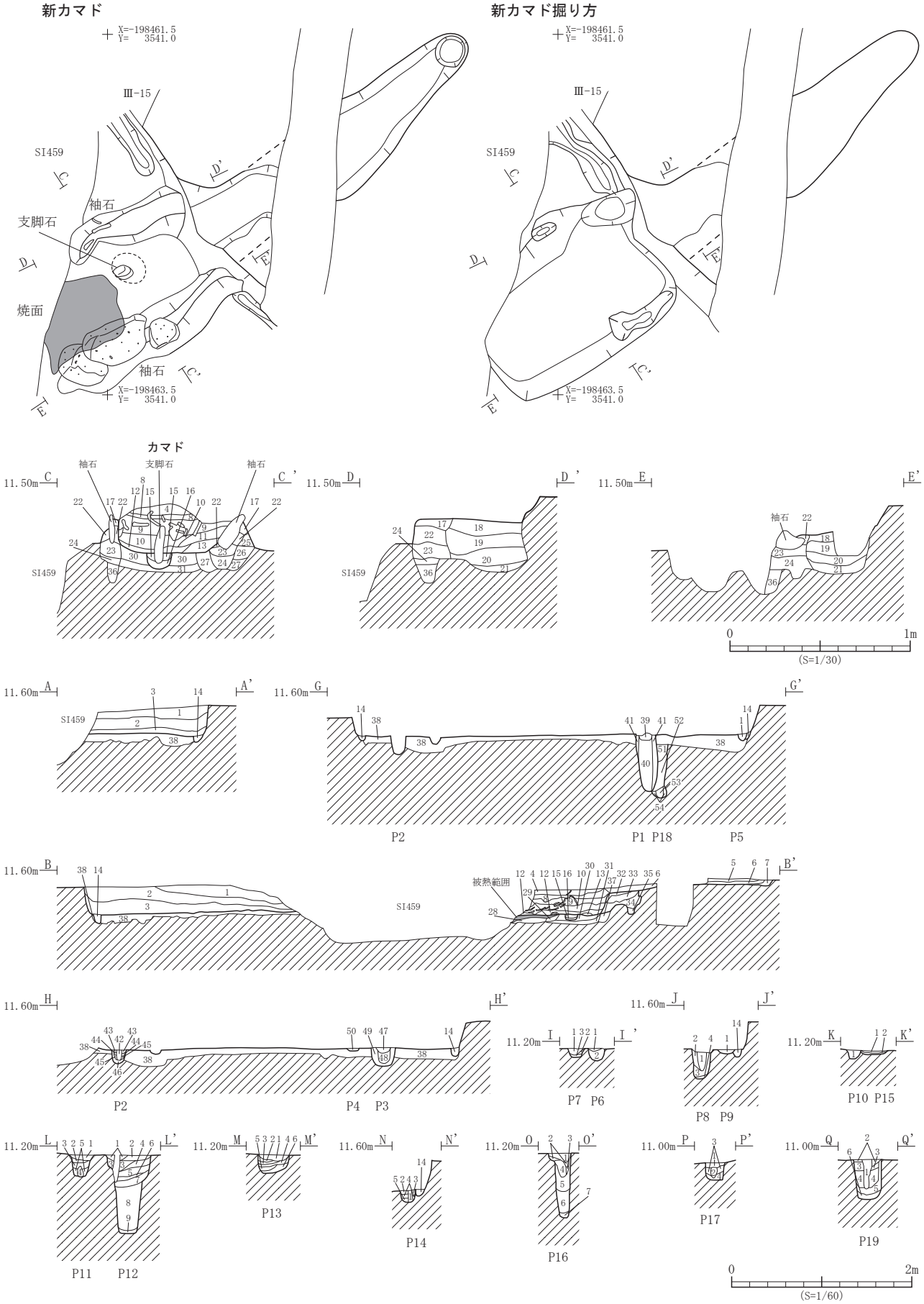
No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-15	6	SI417a	カマド	土師器	甕	- × (8.6) ×現 1.9	ヘラケズリ	ナデ？	底部木葉痕、内外面被熱。	-
2	C-16	6	SI417a	床面	土師器	甕	- × 8.0 ×現 2.7	-	-	底部木葉痕、内外面被熱。	-
3	C-13	6	SI417a	床面	土師器	甑	- × 9.4 ×現 14.5	把手貼付・ヘラケズリ・ナデ	ヘラナデ・ヘラケズリ	単孔、内外面被熱。	19-1
4	D-6	6	SI417a	2	土師器	甕	- × 8.8 ×現 1.9	ロクロナデ・回転ヘラケズリ　底部ナデ？	ロクロナデ		19-2
5	D-3	6	SI417a	カマド	土師器	甕	(23.0) × - ×現 25.2	ロクロナデ・回転ハケメ・ヘラナデ	ロクロナデ・回転ヘラナデ・ヘラナデ		19-4
6	D-5	6	SI417a	床面	土師器	甕	(24.8) × - ×現 6.6	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラナデ	内面剝落。	19-3
7	E-17	6	SI417a	2	須恵器	甕	- × - ×現 5.7	平行タタキ	当て具痕（青海波文）		-
8	E-16	6	SI417a	1	須恵器	甕	- × - ×現 5.6	ロクロナデ・櫛描波状文	ロクロナデ・ヘラナデ		-
9	C-14	6	SI417b-P1	2	土師器	坏	(16.5) × (7.9) × 6.7	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヘラミガキ・黒色処理		19-6
10	E-15	6	SI417b-P3	1	須恵器	甕	- × - ×現 6.9	平行タタキ・ロクロナデ	ロクロナデ		19-7

No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
11	Kc-a1-1	6	SI417a	床面	礫石器	磨	石英安山岩	12.6 × 5.6 × 4.8　794.59	磨 1、光沢あり。	19-5

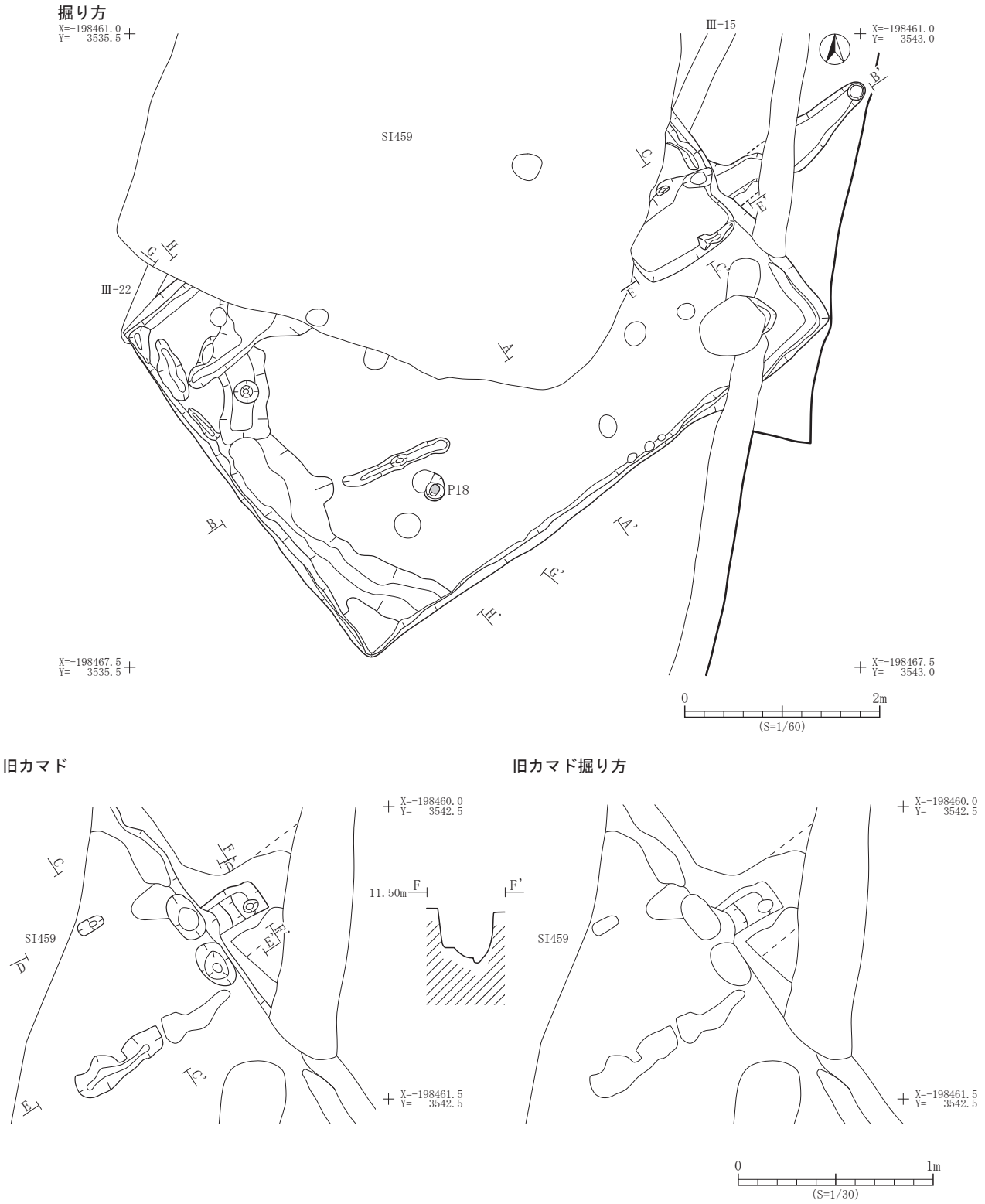
第４図　ＳＩ 417a・b 竪穴住居跡出土遺物



第５図　ＳＩ 458 竪穴住居跡平面図（１）



第６図　ＳＩ 458 竪穴住居跡平面図（２）・断面図



第７図　ＳＩ 458 竪穴住居跡平面図（３）

ド袖部は溝状の掘り方を持ち、凝灰岩が構築材として用いられている。規模は、南袖が長さ 118cm、幅 20 ～ 28cm、床面からの高さ 18cm で、北袖は長さ 71cm、幅 13 ～ 30cm、床面からの高さ 14cm である。燃焼部の規模は、奥行 1.00m、幅 46cm である。燃焼部のほぼ中央で自然礫を使用した支脚を検出した。支脚は径 20cm、深さ 10cm の円形の掘り方を持つ。煙道部は長さ 1.83m、幅 25 ～ 32cm、深さ 5 ～ 7cm である。旧カマドは燃焼部の一部が残存するのみで、規模は奥行 45cm、幅 36cm、深さ 14 ～ 27cm である。

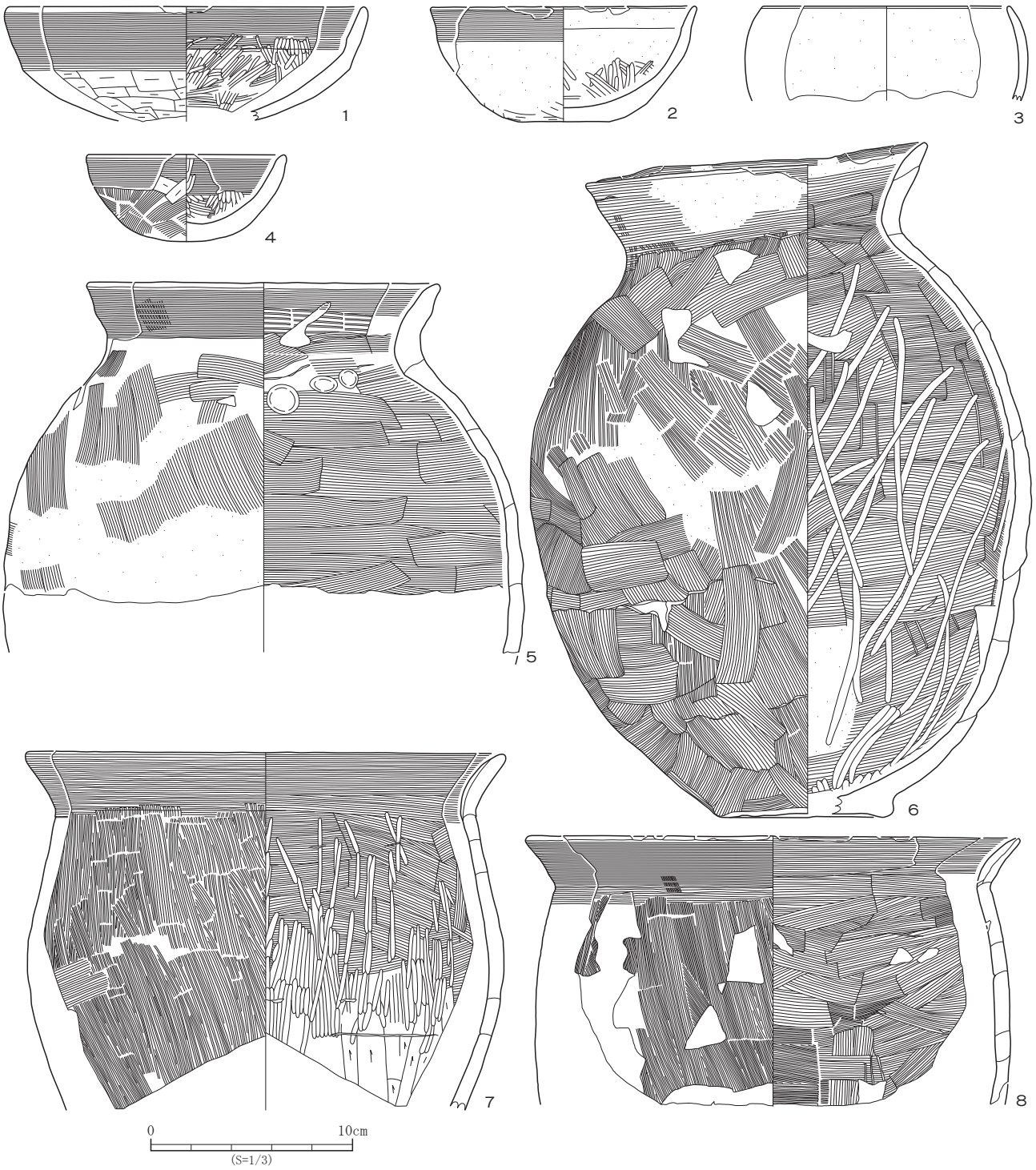
SI458 土層註記表

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI458	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	マンガン粒を多量含む。炭化物粒を含む。褐色シルト粒・白色粒子をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を多量含む。マンガン粒を含む。褐色シルトブロックをわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	下部に炭化材を多量含む。褐色シルト粒・炭化物・焼土粒を含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒を含む。炭化物粒をわずかに含む。
	5	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	赤黒色ブロックを含む。マンガン粒・炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	6	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	赤黒色ブロック・マンガン粒・炭化物粒をわずかに含む。
	7	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	赤黒色ブロック・マンガン粒をわずかに含む。
	8	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を多量含む。焼土粒を含む。
	9	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒を多量含む。褐色シルト・粘土ブロックを含む。
	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物・焼土粒を多量含む。
	11	2.5YR4/6 赤褐色	シルト	炭化物粒を含む。
	12	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒をわずかに含む。
	13	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	粘土ブロック・焼土粒を多量含む。炭化物粒を含む。
	14	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト・炭化物粒を含む。（周溝内堆積土）
	15	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒をわずかに含む。（支脚掘り方）
	16	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒をわずかに含む。（支脚掘り方）
	17	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	18	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルト粒をわずかに含む。
	19	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	20	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルト粒・粘土ブロックをわずかに含む。
	21	10YR3/4 暗褐色	シルト	-
	22	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒をわずかに含む。
	23	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒をわずかに含む。
	24	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒をわずかに含む。
	25	-	-	註記なし。
	26	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物をわずかに含む。
	27	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
	28	10YR3/6 暗赤色	シルト	-
	29	10YR3/6 暗赤色	シルト	黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
	30	10YR3/6 暗赤色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物・焼土粒をわずかに含む。
	31	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	32	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物・焼土粒をわずかに含む。
	33	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物・焼土粒を多量含む。
	34	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・焼土粒を多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	35	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物・焼土粒をわずかに含む。
	36	-	-	註記なし。
	37	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	黒褐色ブロック・焼土粒をわずかに含む。
	38	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物・焼土粒をわずかに含む。（掘り方埋土）
P1	39	-	-	炭化した柱材。
	40	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。（柱痕）
	41	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。鉄分を含む。
P2	42	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒を多量含む。
	43	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルト・粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	44	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	45	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	46	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒をわずかに含む。
P3	47	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒を多量含む。
	48	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	49	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒をわずかに含む。
P4	50	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。炭化物粒を多量含む。
P18	51	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を多量含む。
	52	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。
	53	10YR4/6 褐色	砂質シルト	鉄分を多量含む。締りあり。
	54	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒を含む。
P5	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	鉄分・炭化物粒をわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
P6	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。
P7	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒をわずかに含む。
P8	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。（柱痕）
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・鉄分を含む。
	4	10YR4/6 褐色	砂質シルト	鉄分を多量含む。締りあり。
P9	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒を多量含む。粘土ブロック・焼土粒を含む。褐色シルトブロックをわずかに含む。
P10	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を多量含む。焼土粒をわずかに含む。
P11	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒を多量含む。褐色シルトブロックをわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。粘土ブロックをわずかに含む。（柱痕）
	5	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
P12	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒を含む。褐色シルトブロックをわずかに含む。
	3	7.5YR3/3 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒を多量含む。褐色シルト粒を含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	-
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒を多量含む。焼土粒をわずかに含む。
	6	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	7	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土ブロックを含む。
	9	N4/0 灰色	粘土	-
P13	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	-
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒を含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロックを多量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロックをわずかに含む。
P14	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	2	7.5YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	-
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒をわずかに含む。
P15	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒を多量含む。焼土粒をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
P16	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物・焼土粒をわずかに含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒をわずかに含む。
	5	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	6	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	7	10YR4/6 褐色	砂質シルト	鉄分を多量含む。締りあり。
P17	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。炭化物粒を多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	4	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
P19	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。焼土粒をわずかに含む。（柱痕）
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	4	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。粘土ブロックを含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	-

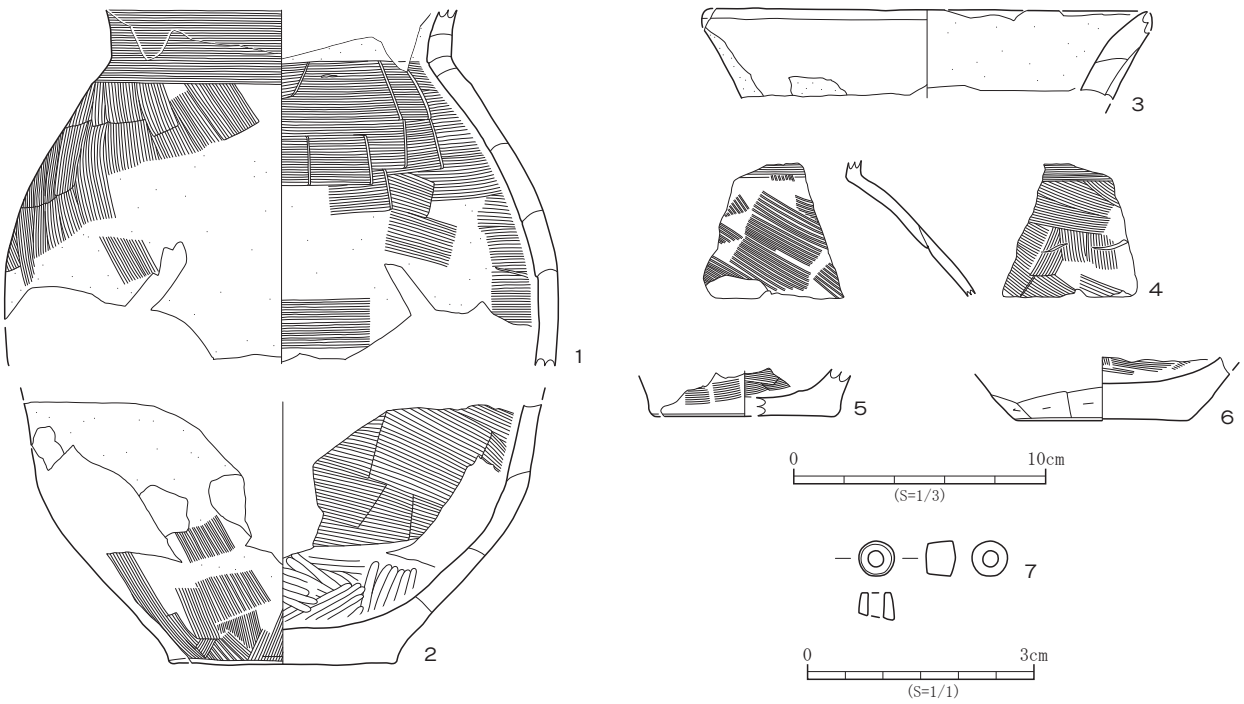
[その他の施設] 住居跡北東隅で検出した P13 が貯蔵穴と考えられる。平面形は楕円形で、規模は長軸 48cm、短軸 35cm、深さ 21cm である。また、南西部で長さ 1.16m、幅 8 ～ 13cm、深さ 5 ～ 13cm の溝を 1 条検出した。間仕切り溝の可能性がある。

[掘り方] 深さ 5 ～ 14cm である。底面は凹凸があり、南側は溝状に掘り込まれている。掘り方底面で検出した P18 の規模は径 28cm、深さ 59cm で、径 10㎝の柱痕跡が認められた。



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-11	6	SI458	カマド	土師器	坏	(18.0) × - ×現 5.6	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミガキ		19-8
2	C-12	6	SI458	カマド	土師器	坏	(13.1) × (4.4) × 6.6	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヘラナデ・ヘラミガキ	内外面被熱、内外面タール状物質付着(灯明具に転用？)。	19-9
3	C-7	6	SI458	3	土師器	坏	(12.2) × - ×現 4.7	-	-	内外面摩滅。	19-10
4	C-9	6	SI458	3	土師器	坏	(9.7) × - × 4.3	ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ		19-11
5	C-1	6	SI458	カマド	土師器	甕	(17.6) × - ×現 18.3	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ・指オサエ	内外面被熱。	19-12
6	C-3	6	SI458	カマド	土師器	甕	16.1 ～ 17.5 × 8.5 × 35.5	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ　底部ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	外面被熱。	20-1
7	C-17	6	SI458	2	土師器	甕	(23.8) × - ×現 17.7	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ		20-2
8	C-19	6	SI458	2	土師器	甕	(24.6) × - ×現 13.3	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ	内外面剥落。	20-3

第８図　ＳＩ 458 竪穴住居跡出土遺物（１）



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-20	6	SI458	カマド	土師器	甕	- × - ×現 14.0	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラナデ		20-4
2	C-21	6	SI458	-	土師器	甕	- × 8.2 ×現 10.4	ハケメ・ヘラナデ　底部ヘラケズリ	ヘラナデ・ヘラミガキ		-
3	C-8	6	SI458	3	土師器	甕	(17.9) × - ×現 3.5	-	-	内外面摩滅、外面剝落顕著。	-
4	C-18	6	SI458	3	土師器	甕	- × - ×現 5.4	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ヘラナデ		-
5	C-22	6	SI458	掘り方	土師器	甕	- × 6.8 ×現 2.5	ヘラケズリ	ナデ		-
6	C-10	6	SI458	1	土師器	甕	- × (7.2) ×現 1.9	ナデ	ヘラナデ	底部木葉痕？	-

№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ（cm）	重さ（g）	備　考	写真図版
7	Kd-d-2	6	SI458	床面	石製品	小玉	滑石	0.46 × 0.46 × 3.6	0.11	孔径 1.8 ～ 2.0㎜	20-5

第９図　ＳＩ 458 竪穴住居跡出土遺物（２）

[出土遺物] 堆積土、カマド及び床面から縄文土器片・土師器・打製石器・石製品が出土している。このうち土師器 14 点、石製品 1 点を第 8・9 図に図示した。第 8 図 1 ～ 4 は土師器坏である。1 は丸底で内外面とも体部と口縁部の境に段を持つ。2 は平底で体部は外傾しながら立ち上がり口縁部が短く外反する。3 は体部から口縁部にかけて内弯しながら立ち上がる。4 は丸底で口縁部は外傾しながら立ち上がる。第 8 図 5 ～ 8、第 9 図 1 ～ 6 は土師器甕である。第 8 図 5・6、第 9 図 1・2 は胴部の長胴化がみられる球胴甕、第 8 図 7・8 は口径と胴部の最大径がほぼ同じ広口甕である。第 9 図 7 は滑石製の小玉である。出土遺物の特徴から本住居跡の年代は 5 世紀後半～ 6 世紀初頭頃と考えられる。

SI459 竪穴住居跡（第 10 ～ 12 図、図版 2・3）

[位置] W250 ～ 260・S50 ～ 60 グリッドに位置する。

[重複関係] SI458、SD424・443・461・467、小溝状遺構Ⅰ -15・17、Ⅲ -14・20 ～ 22 と重複関係にあり、SI458、SD467 より新しく、他より古い。

[規模・形態] 東西 5.15m、南北 4.70m である。平面形は方形である。

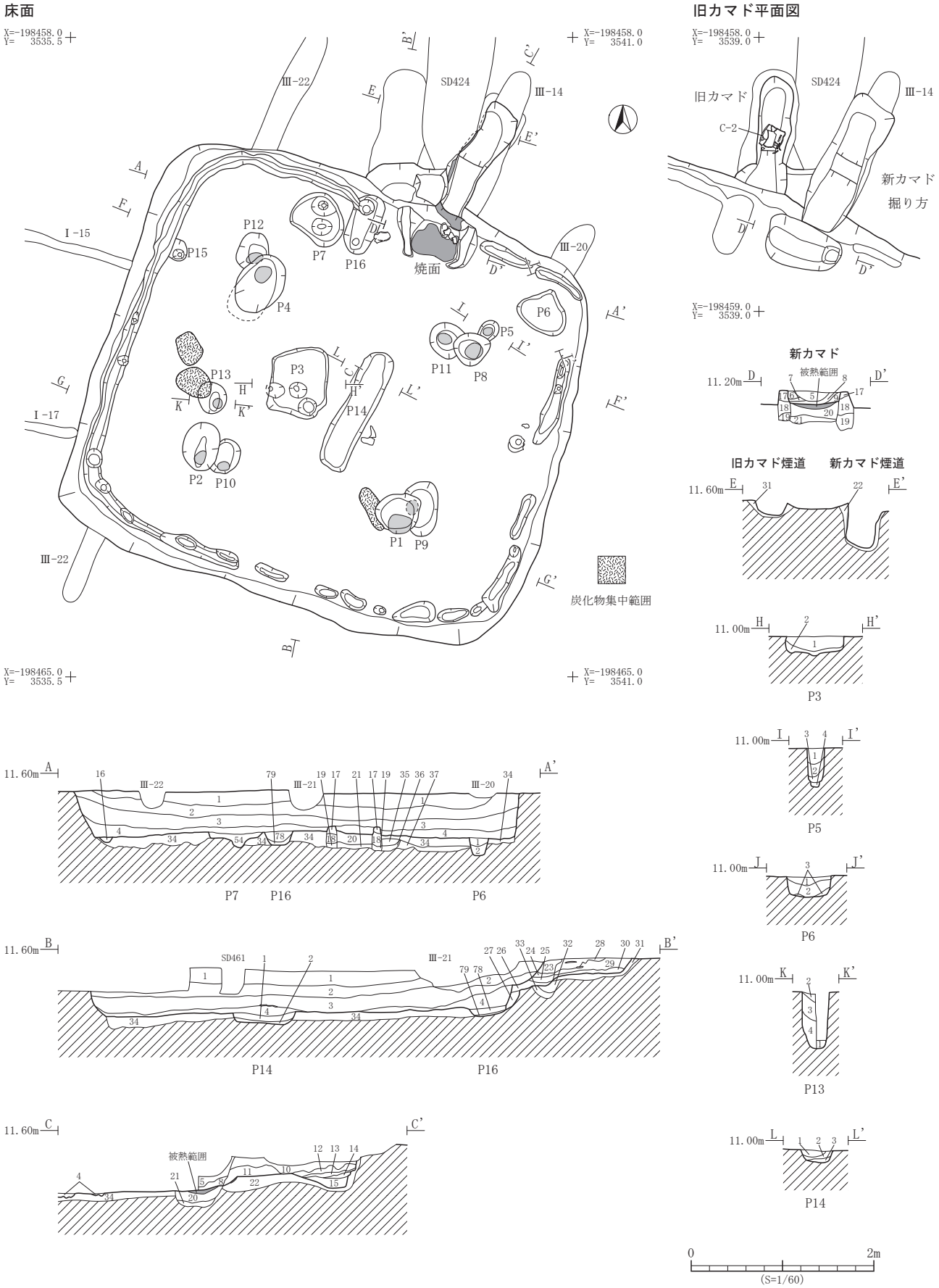
[主軸方位] 新カマド基準で N-36° -E、旧カマド基準で N-5° -E である。

[堆積土・構築土] 37 層に分層した。1 ～ 4 層は住居跡堆積土、5 ～ 15 層は新カマド内堆積土、16 層は周溝内堆積土、17 ～ 22 層は新カマド関連層位、23 ～ 30 層は旧カマド内堆積土、31 ～ 33 層は旧カマド関連層位、34 ～ 37 層は掘り方埋土である。

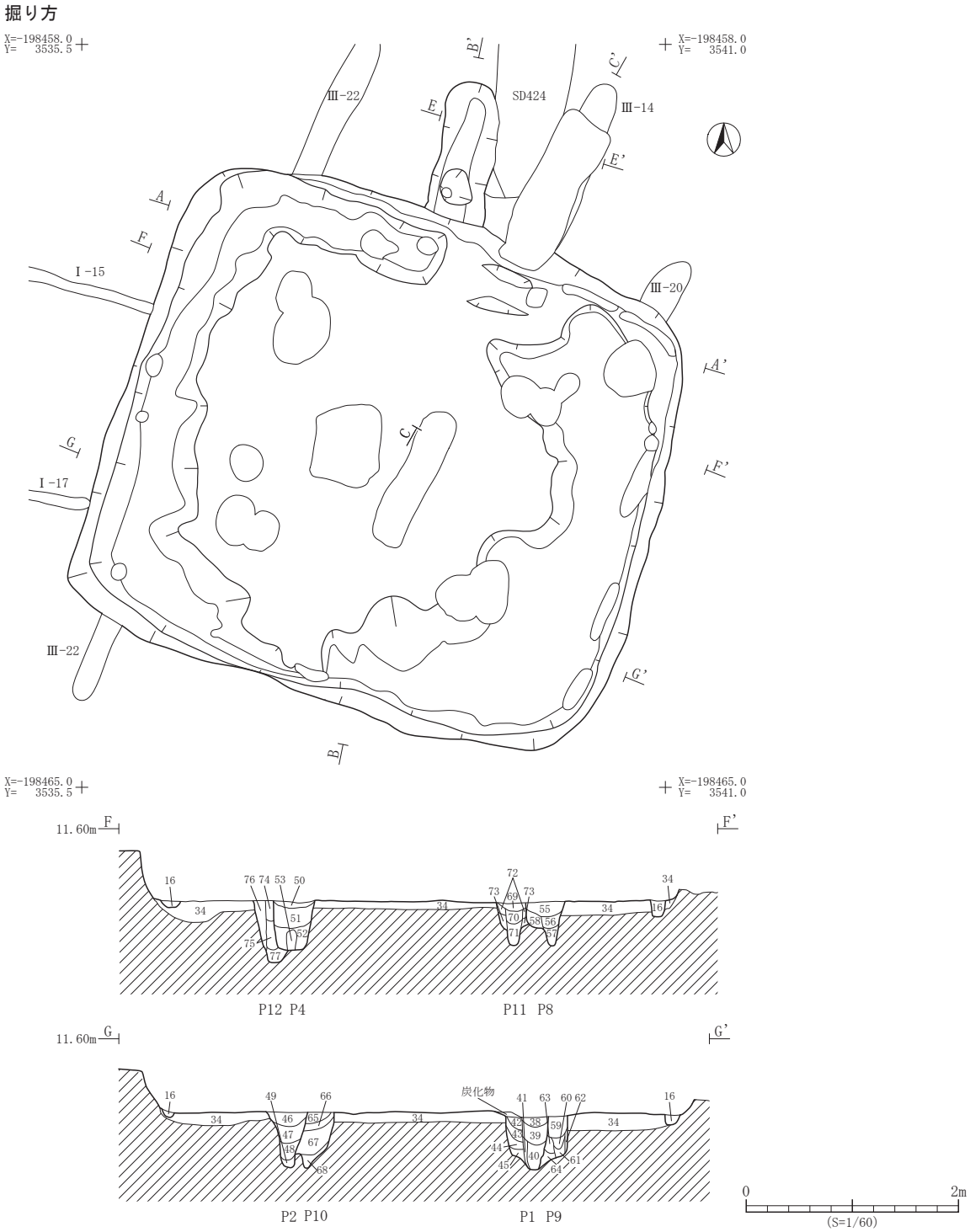
[壁面] 周溝底面から直立気味に立ち上がる。壁高は床面から 50 ～ 56cm である。

[床面] 34 層上面を床面としている。多少の凹凸はあるが、ほぼ平坦で特に目立った硬化面などはみられない。

[柱穴] 床面で 15 基のピット（P1 ～ 5・7 ～ 16）を検出した。配置・規模・柱痕跡から主柱穴と考えられるピット



第 10 図　ＳＩ 459 竪穴住居跡平面図・断面図（1）



第 11 図　ＳＩ 459 竪穴住居跡平面図・断面図（２）

には重複が認められ、同一床面で建て替えが行われている。新段階の主柱穴は P1・2・4・8 で、規模は径 36 ～ 69cm、深さ 44 ～ 51㎝で、すべての柱穴で径 12 ～ 25cm の柱痕跡が認められた。古段階の主柱穴は P9 ～ 12 で、規模は 36 ～ 60cm、深さ 40 ～ 59cm で、すべての柱穴に径 10 ～ 17cm の柱痕跡が認められた。その他のピットの規模は径 24 ～ 60cm、深さ 15 ～ 60cm で、P5・13 では径 10cm の柱痕跡が認められた。それらは補助的な柱あるいは内部施設に伴うものとみられる。

[周溝] カマド周辺を除き断続的に全周する。断面形はＵ字形で、規模は幅 10 ～ 18cm、深さ 5 ～ 15cm である。

[カマド] 新旧２時期ある。いずれも北壁に位置し、古段階は壁の中央に、新段階は中央東寄りに付設されている。新カマド煙道と壁が接する部分の西側に、幅 90cm、深さ 25cm のくぼみがあり、中に約 10㎝の段がある。新カマ

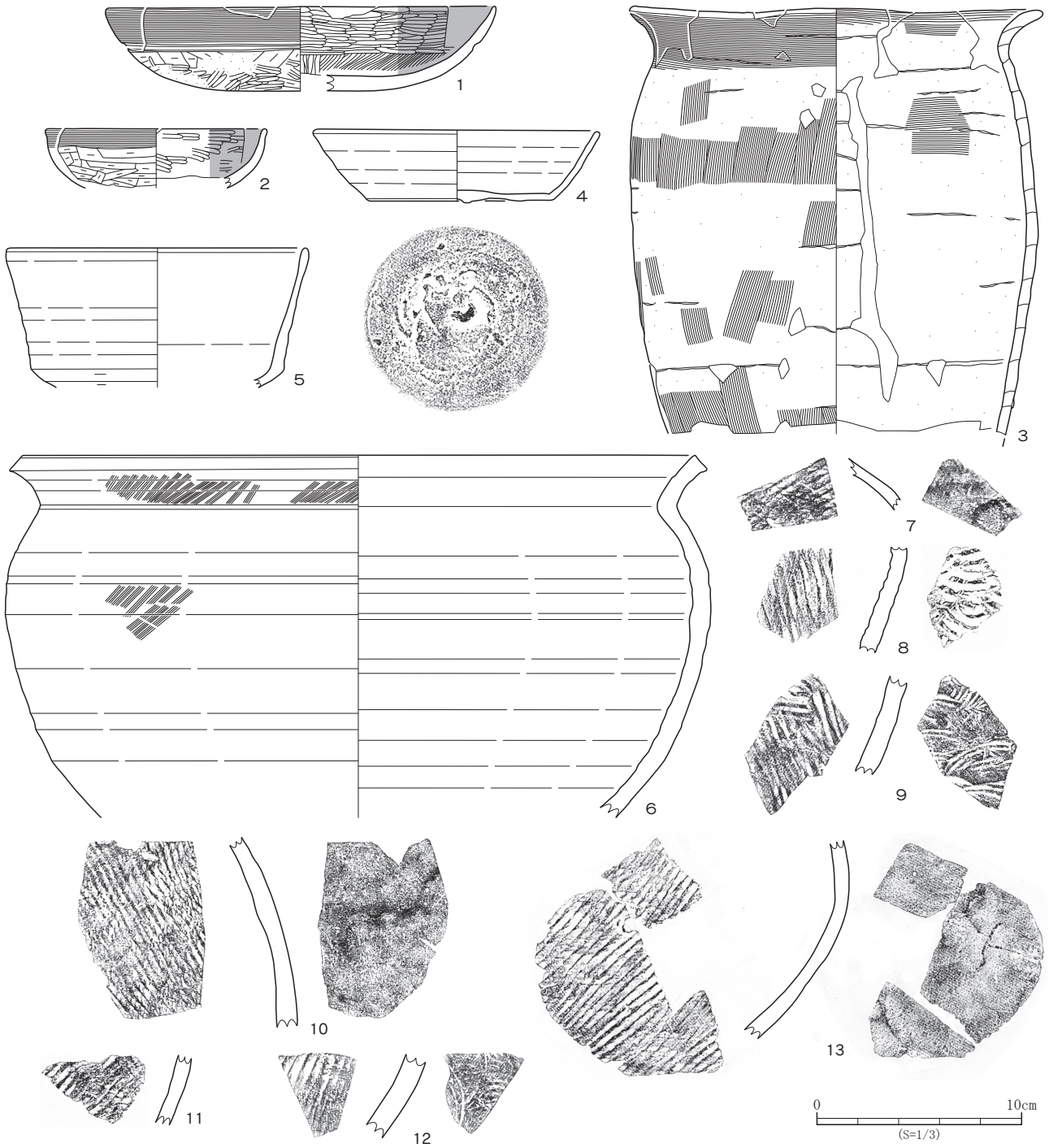
SI459 土層註記表

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI459	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	白色砂粒・マンガン粒を多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	マンガン粒を含む。白色砂粒・褐色シルト粒・炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を含む。マンガン粒をわずかに含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒を含む。マンガン粒をわずかに含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤黒色シルトブロック・炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤黒色シルトブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒を多量含む。
	8	7.5Y4/1 灰色	粘土質シルト	焼土粒を多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒を含む。
	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	赤黒色シルトブロックを含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤黒色シルトブロック・炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤黒色シルトブロックを含む。焼土粒をわずかに含む。
	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒をわずかに含む。
	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤黒色シルトブロックをわずかに含む。
	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	赤黒色シルトブロックを多量含む。
	16	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を含む。褐色シルト粒をわずかに含む。（周溝内堆積土）
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを含む。
	18	10YR4/6 褐色	シルト	-
	19	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色シルトブロックをわずかに含む。
	20	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒を多量含む。
	21	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物・焼土粒をわずかに含む。
	22	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	赤黒色シルトブロックをわずかに含む。
	23	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	赤黒色シルトブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。
	24	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト・赤黒色シルトブロックを含む。炭化物粒を多量含む。
	25	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。赤黒色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。
	26	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色粘土質シルト・赤黒色シルトブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。
	27	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を含む。赤黒色シルトブロックをわずかに含む。
	28	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。焼土・炭化物粒をわずかに含む。
	29	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤黒色シルトブロックを多量含む。褐色シルト・暗褐色シルトブロックを含む。
	30	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色粘土質シルト・赤黒色シルトブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。
	31	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色粘土質シルトブロック・炭化物粒を含む。
	32	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を含む。
	33	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤黒色シルトブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。
	34	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。（掘り方埋土）
	35	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト・焼土ブロックを含む。（掘り方埋土）
	36	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロックを含む。赤黒色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。（掘り方埋土）
	37	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色土シルトブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。（掘り方埋土）
P1	38	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。（柱痕）
	39	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒をわずかに含む。（柱痕）
	40	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。底面硬く締まる。（柱痕）
	41	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。（柱痕）
	42	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
P1	43	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	44	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	45	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P2	46	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。（柱痕）
	47	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	48	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	49	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	鉄分を多量含む。締りあり。
P4	50	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	51	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	52	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	53	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	（柱痕）
P7	54	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒ブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
P8	55	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	56	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。（柱痕）
	57	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。（柱痕）
	58	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P9	59	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	60	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	61	10YR4/6 褐色	砂質シルト	鉄分を多量含む。締りあり。
	62	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	63	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	64	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P10	65	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	66	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	67	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	68	10YR4/6 褐色	シルト	鉄分を多量含む。
P11	69	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	70	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。（柱痕）
	71	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。（柱痕）
	72	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	73	-	-	註記なし。
P12	74	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒をわずかに含む。（柱痕）
	75	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。（柱痕）
	76	-	-	註記なし
	77	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
P16	78	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロックを含む。赤黒色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	79	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。赤黒色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
P3	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
P5	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	3	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	4	10YR4/6 褐色	砂質シルト	鉄分を多量含む。（柱痕）
P6	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒ブロックを多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P13	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。（柱痕）
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。粘土ブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。
P14	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒・褐色シルトブロック・焼土粒をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒をわずかに含む。
P15	1	-	-	註記なし。

ド袖部は溝状の掘り方を持つ。規模は、東袖が長さ 51cm、幅 20cm、床面からの高さ 10 ～ 15cm で、西袖が長さ 56cm、幅 10 ～ 30cm、床面からの高さ 5 ～ 16cm である。燃焼部の規模は、奥行 45cm、幅 50cm で、掘り方は東西方向の楕円形で、長軸 85cm、短軸 52㎝、深さ 20cm である。煙道部は長さ 1.31m、幅 25 ～ 35cm、深さ 21 ～ 35cm で、掘り方は長さ 1.55m、幅 50 ～ 57cm、深さ 5 ～ 17cm である。旧カマドは煙道部が残存するのみで、新カマドを構築する際に埋め戻されている。煙道部の規模は長さ 1.24m、幅 35 ～ 58cm、深さ 16 ～ 28cm で、掘り方は長さ 1.45m、幅 45 ～ 52cm、深さ 5 ～ 14cm で、ピット状に落ち込む部分がある。

[その他の施設] 住居跡北東隅で検出した P6 が貯蔵穴と考えられる。平面形は楕円形で、規模は長軸 57cm、短軸 47cm、深さ 22cm である。

[掘り方] 深さ 5 ～ 20cm である。底面は凹凸があり、中央がやや高まる。



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-5	6	SI459	3･4	土師器	坏	(19.0) × - × 4.1	ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヘラミガキ・黒色処理		20-6
2	C-6	6	SI459	4	土師器	坏	(10.8) × - ×現 2.9	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理		20-7
3	C-2	6	SI459	旧カマド	土師器	甕	19.8 × - ×現 20.9	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ナデ	内外面被熱。	20-8
4	E-5	6	SI459	1	須恵器	坏	14.2 × 9.0 × 3.7	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り	ロクロナデ	内外面火襷痕。	20-11
5	E-13	6	SI459	4	須恵器	高台付坏？	(14.8) × - ×現 6.8	ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ	ロクロナデ		20-10
6	E-4	6	SI459	4	須恵器	甕	(32.9) × - ×現 17.8	平行タタキ・ロクロナデ	ロクロナデ	内面自然釉付着。	20-9
7	E-7	6	SI459	1	須恵器	甕	- × - ×現 2.5	平行タタキ	当て具痕・ヘラナデ		-
8	E-9	6	SI459	-	須恵器	甕	- × - ×現 5.2	平行タタキ	当て具痕（青海波文）		-
9	E-11	6	SI459	3	須恵器	甕	- × - ×現 4.8	平行タタキ	当て具痕（青海波文）		-
10	E-8	6	SI459	4	須恵器	甕	- × - ×現 9.2	平行タタキ	当て具痕・ヘラナデ		-
11	E-10	6	SI459	-	須恵器	甕	- × - ×現 3.4	平行タタキ	当て具痕		-
12	E-12	6	SI459	4	須恵器	甕	- × - ×現 4.1	平行タタキ	当て具痕（青海波文）		-
13	E-6	6	SI459	2	須恵器	甕	- × - ×現 9.7	平行タタキ	当て具痕		-

第 12 図　ＳＩ 459 竪穴住居跡出土遺物

[出土遺物] 堆積土から縄文土器片・土師器・須恵器・打製石器・礫石器が出土している。このうち土師器３点、須恵器 10 点を第 12 図に図示した。1 ～ 2 は土師器坏である。1 は有段丸底で内面黒色処理され、2 は丸底で口縁部が短く外反する。3 は口縁部と胴部の境に段を持たない土師器長胴甕で、内外面に粘土積み上げ痕が明瞭に観察される。4 は須恵器坏である。口径に対する底径の比率が大きく、底部の切り離し回転ヘラ切り無調整である。5 は須恵器坏もしくは高台部を欠損した高台付坏である。外面体下部に回転ヘラケズリ調整が見られる。6 ～ 13 は須恵器甕である。いずれも外面に平行タタキ目がみられる。出土遺物の特徴から、本住居跡の年代は 8 世紀前半～ 8 世紀中頃と考えられる。

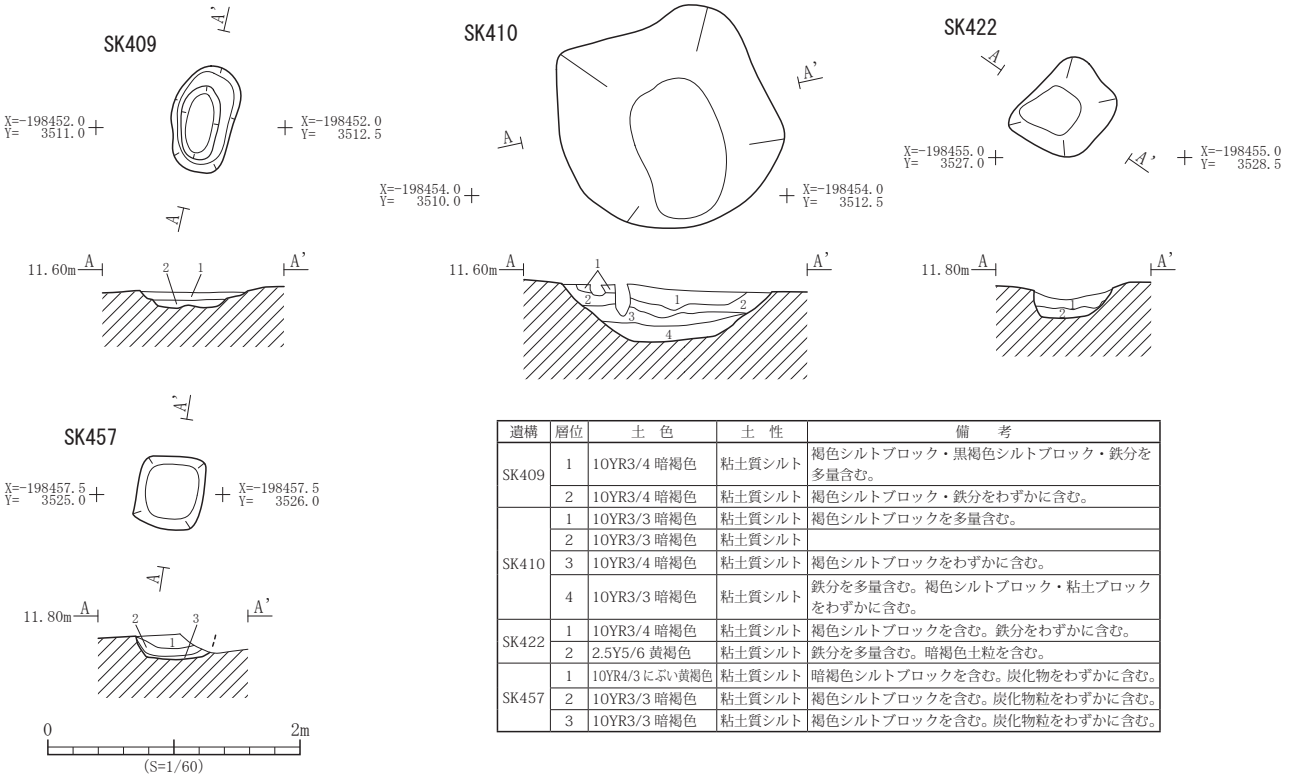
２）土坑

SK409 土坑（第 13 図、図版 3）　W280・S50 グリッドで検出した。SD413 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で中端を持ち、長軸方向は N-14° -E である。規模は長軸 85cm、短軸 49cm、深さ 12cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は中央が高まる。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SK410 土坑（第 13 図、図版 3）　W280・S50 グリッドで検出した。SR408、SD412・413 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形で、長軸方向は N-16° -W である。規模は長軸 1.72m、短軸 1.68m、深さ 44cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 4 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・須恵器片が出土している。

SK422 土坑（第 13 図、図版 3）　W270・S50 グリッドで検出した。SD418 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形で、長軸方向は N-52° -E である。規模は長軸 75cm、短軸 61cm、深さ 17cm で、壁面は西側が急角度、東側が緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK423 土坑（第 14 図、図版 3）　W250・S50 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-38° -W である。北東側を側溝に削平される。検出した規模は長軸 66cm、短軸 55cm、深さ 20cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・打製石器が出土しており、このうち土師器 1 点を第 14 図に図示した。ロクロ使用の土師器甑で、底部は欠損しているが

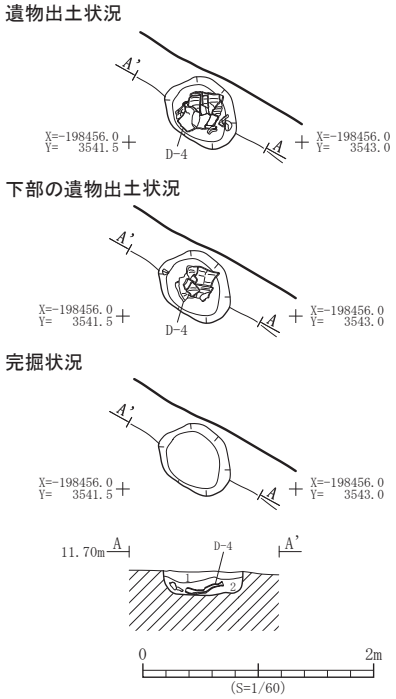


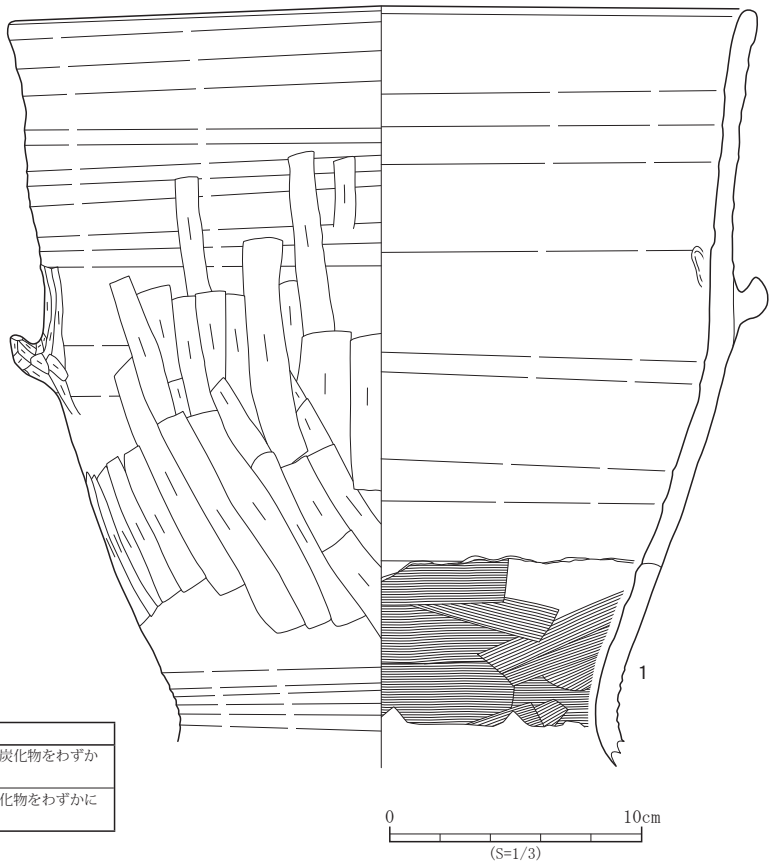
遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK409	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・黒褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
SK410	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック・粘土ブロックをわずかに含む。
SK422	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。鉄分をわずかに含む。
	2	2.5Y5/6 黄褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。暗褐色土粒を含む。
SK457	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。

第 13 図　ＳＫ 409・410・422・457 土坑平面図・断面図

底部に向かって外反する状況がみられる。胴部には形骸化した把手が付く。出土遺物の特徴から、本遺構の年代は 9 世紀後半～ 10 世紀前半頃と考えられる。

SK457 土坑（第 13 図、図版 4）　W270・S50 グリッドで検出した。SD418 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は方形である。規模は一辺 58cm、深さ 22cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。





遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK423	1	7.5YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。

No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	D-1	6	SK423	2	土師器	甑	29.5 × - ×現 30.1	ロクロナデ・把手貼付・ヘラケズリ	ロクロナデ・ヘラナデ・指オサエ	内面被熱。	21-1

第 14 図　ＳＫ 423 土坑平面図・断面図・出土遺物

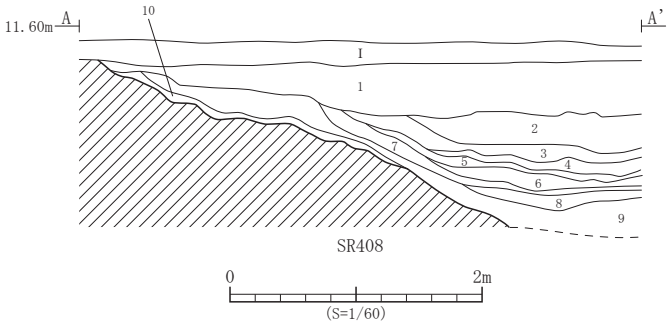
３）河川跡

SR408 河川跡（第 1・15・16 図、図版 1）　W270 ～ 290・S50 ～ 60 グリッドで検出した。後述する本遺跡 7A 区 SR1 と連続する河川跡である。SI417、SK410、SD412、小溝状遺構Ｉ -4 と重複関係にあり、SI417、SD412、小溝状遺構Ｉ群より新しく、SK410 より古い。トレンチを設定して調査を行ったが、底面まで完掘していない。検出長 20.80m、幅 5.15m、深さは最深部で 1.30m 以上である。堆積土は 10 層以上に分層される。遺物は堆積土から縄文土器・土師器・須恵器・打製石器が出土しており、このうち縄文土器深鉢片 1 点、須恵器甕胴部片 1 点を第 14 図に図示した。いずれも河川の時期を示すものではない。

４）溝跡

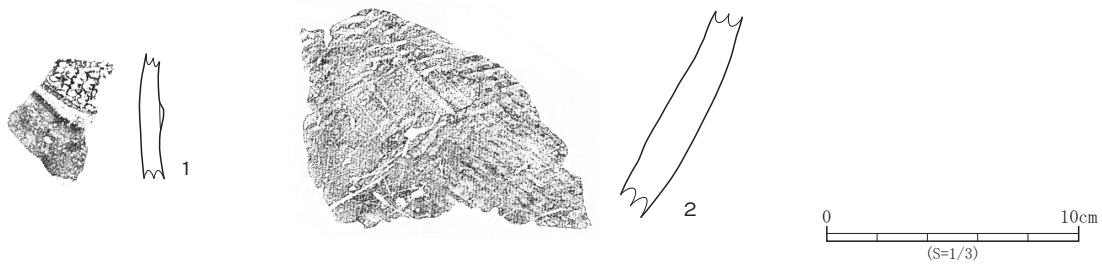
SD412 溝跡（第 1・17 図、図版 3）　W280・S40 ～ 50 グリッドで検出した。SK410、SR408、SD413 と重複関係にあり、SD413 より新しく、SK410、SR408 より古い。北側は調査区内で途切れ、南側は SK410、SR408 に削平される。方向は N-6° -E で、検出長 5.67m、幅 40 ～ 84cm、深さ 5cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・須恵器片が出土している。

SD413 溝跡（第 1・17・18 図）　W280・S40 ～ 50 グリッドで検出した。SK409・410、SD412・421 と重複関係にあり、SD421 より新しく、SK409･410、SD412 より古い。南側は SK410 に削平され、北側の調査区外に延びる。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SR408	1	5BG4/1 暗青灰色	砂質シルト	鉄分を含む。
	2	5BG4/1 暗青灰色	砂質シルト	鉄分を含む。灰色粘土を互層状に含む。
	3	10BG4/1 暗青灰色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。
	4	N5/0 灰色	砂質シルト	-
	5	5BG4/1 暗青灰色	砂質シルト	鉄分を含む。
	6	5B5/1 青灰色	砂質シルト	灰白色シルト粒・鉄分を多量含む。
	7	10BG4/1 暗青灰色	粘土質シルト	-
	8	5BG4/1 暗青灰色	砂質シルト	鉄分を含む。
	9	N3/0 暗灰色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。灰色粘土を互層状に含む。
	10	5B5/1 青灰色	砂質シルト	灰白色シルト粒・鉄分多量含む。灰色粘土ブロックをわずかに含む。

第 15 図　ＳＲ 408 河川跡断面図



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-2	6	SR408	9	縄文土器	深鉢	胴部 - 隆線文区画・RLR 縄文		21-2

No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
2	E-1	6	SR408	1	須恵器	甕	- × - ×現 8.2	平行タタキ	ヘラナデ		-

第 16 図　ＳＲ 408 河川跡出土遺物

方向は N-17° -E で、検出長 7.22m、幅 2.27 ～ 2.60m、深さ 20cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・須恵器片が出土しており、そのうち須恵器甕胴部片 1 点を第 18 図に図示した。外面に平行タタキ目、内面に小型の同心円状当具痕がみられる。

SD416 溝跡（第 1・18・20 図）　W260・S50 グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ -11 と重複関係にあり、本遺構が新しい。北側の調査区外に延び、南側を撹乱に削平される。方向は N-15° -E で、検出長 3.34m、幅 59 ～ 63cm、深さ 15cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土しており、このうち土師器甕口縁部片 1 点を第 18 図に図示した。

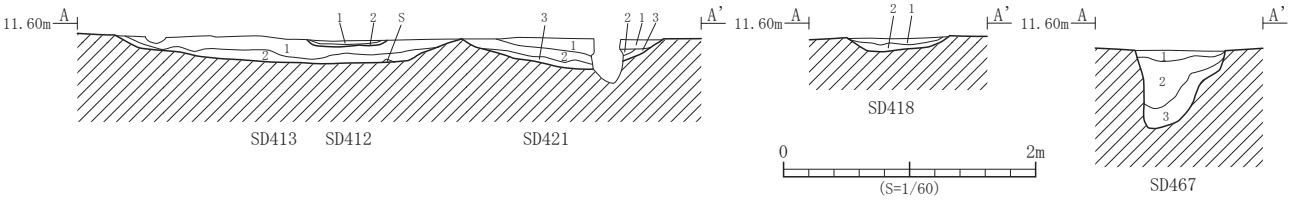
SD418 溝跡（第 1・17 図）　W280・S40 ～ 50 グリッドで検出した。SK422・457、SD470、小溝状遺構Ⅰ -5・6、Ⅱ -1・2、Ⅲ -6 ～ 8 と重複関係にあり、SD470、小溝状遺構Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ群より新しく、SK422・457 より古い。北側の調査区外に延びる。方向は N-52° -E で、検出長 8.79m、幅 65 ～ 82cm、深さ 10cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・須恵器片が出土している。

SD421 溝跡（第 1・17 図）　W280・S40 ～ 50 グリッドで検出した。SD413、P1902 と重複関係にあり、本遺構が古い。北側の調査区外に延びる。方向は N-7° -E で、検出長 3.06m、幅 1.56 ～ 1.65m、深さ 25cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

SD424 溝跡（第 1・20 図、図版 4）　W250 ～ 260・S50 グリッドで検出した。SI459、小溝状遺構Ⅲ -13・14 と重複関係にあり、SI459 より新しく、小溝状遺構Ⅲ群より古い。北側の調査区外に延びる。方向は N-4° -E で、検出長 4.84m、幅 70 ～ 73cm、深さ 5cm である。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SD443 溝跡（第 1・20 図）　W260・S50 グリッドで検出した。SI459・小溝状遺構Ⅲ -13・18 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-13° -E で、検出長 3.97m、幅 19 ～ 28cm、深さ 2cm である。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

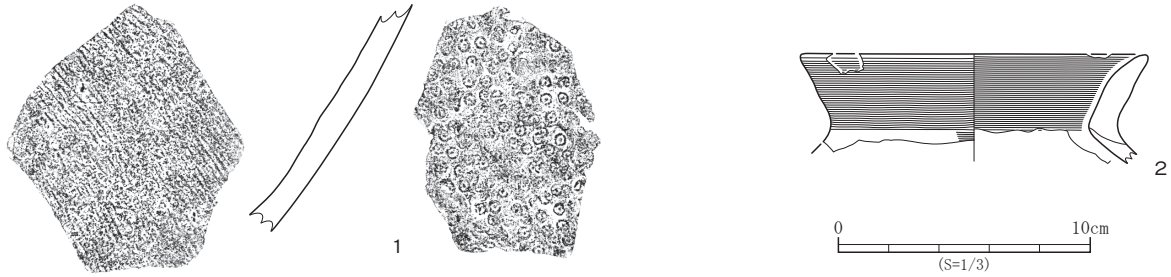
SD461 溝跡（第 1・20 図）　W260・S50 ～ 60 グリッドで検出した。SI459、小溝状遺構Ⅲ -21 と重複関係にあり、SI459 より新しく、小溝状遺構Ⅲ群より古い。方向は N-7° -E で、長さ 4.56m、幅 48 ～ 74cm、深さ 10cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD412	1	2.5Y5/6 黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック・マンガン粒を含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	鉄分をわずかに含む。
SD413	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	-
	2	10YR6/8 明黄褐色	シルト	鉄分をわずかに含む。
SD418	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。鉄分・炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・鉄分を含む。炭化物粒をわずかに含む。

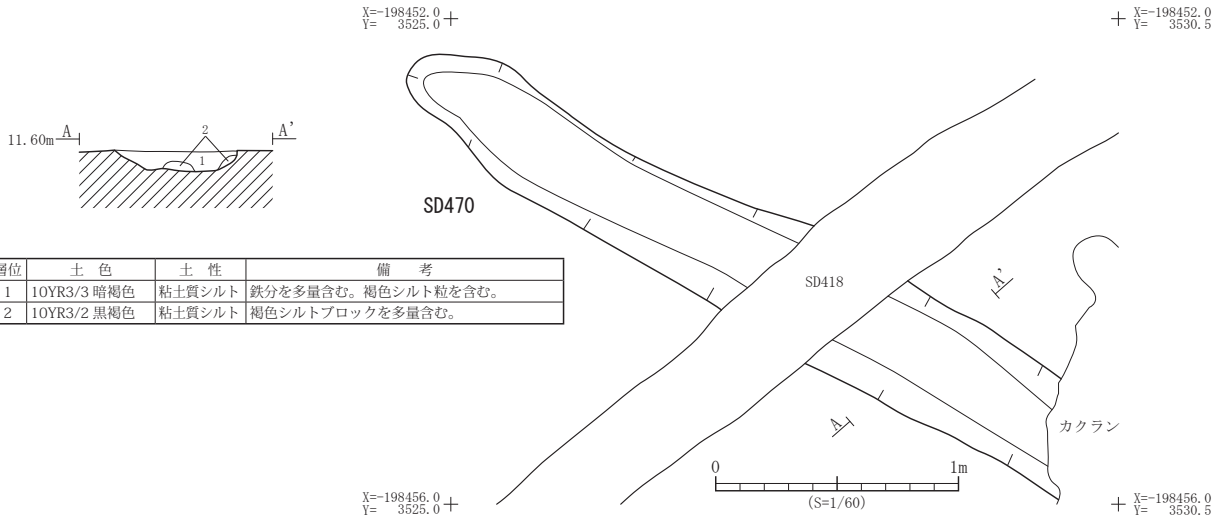
遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD421	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。粘性あり。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	灰黄褐色粘土質シルトブロック・鉄分を多量含む。
SD467	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色粘土質シルト粒・褐色シルト粒・暗褐色シルトブロックを含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	マンガン粒を多量含む。褐色シルトブロックをわずかに含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	マンガン粒をわずかに含む。

第 17 図　ＳＤ 412・413・418・421・467 溝跡断面図



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	E-2	6	SD413	1	須恵器	甕	- × - ×現 9.0	平行タタキ	当て具痕	外面自然釉付着。	21-3
2	C-4	6	SD416	2	土師器	甕	(13.6) × - ×現 4.3	ヨコナデ・ヘラナデ？	ヨコナデ・ヘラナデ？	口縁部外面タール状物質付着。	21-4

第 18 図　ＳＤ 413・416 溝跡出土遺物



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD470	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルト粒を含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。

第 19 図　ＳＤ 470 溝跡平面図・断面図

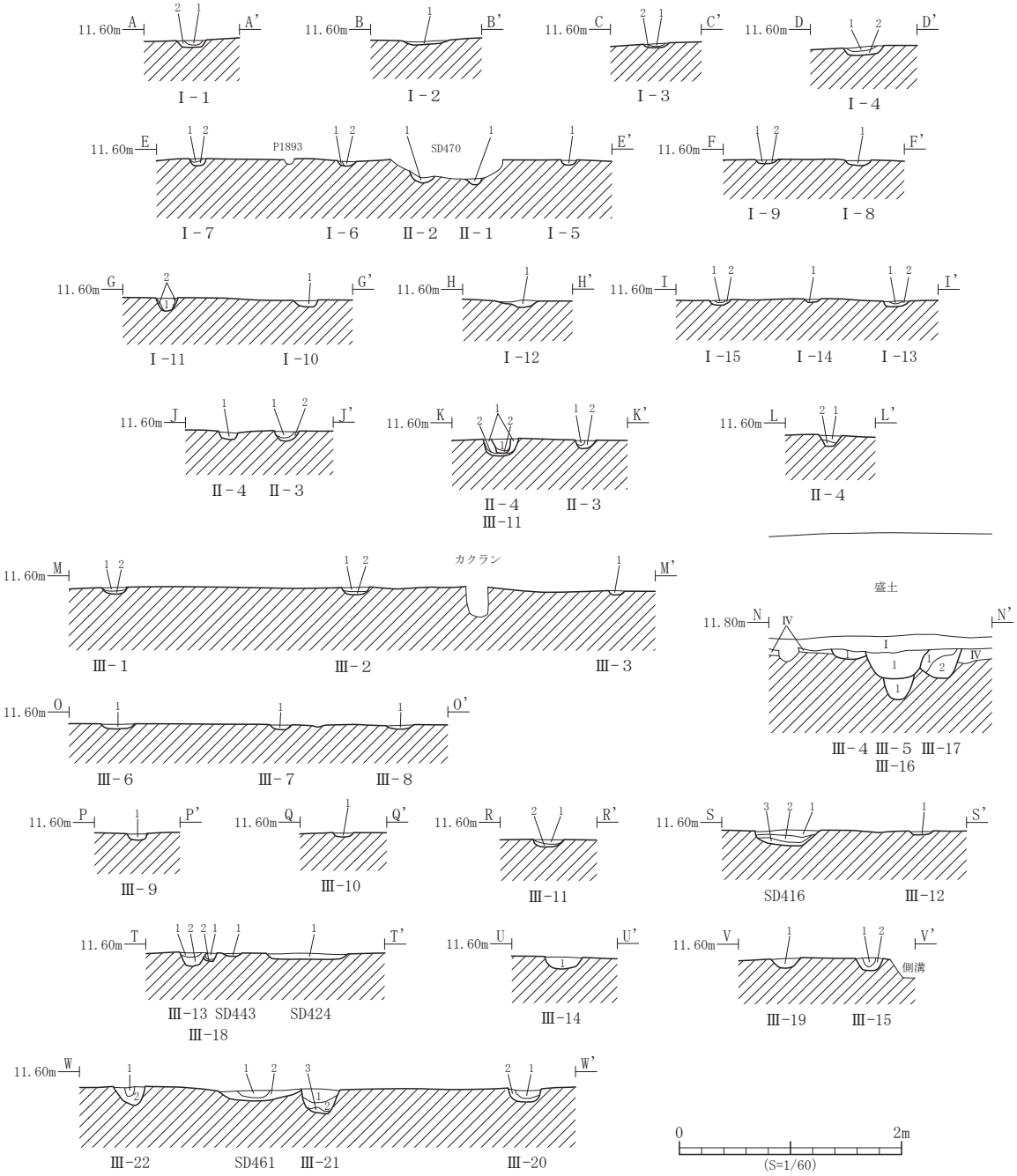
SD467 溝跡（第 1・17 図、図版 4）　W260・S60 グリッドで検出した。SI458・459、小溝状遺構Ⅲ -22、P1844 ～ 1846・1866 と重複関係にあり、本遺構が古い。南側の調査区外に延び、後述する本遺跡 7 A区 SD39 と連続する遺構である。方向は N-7° -E で、検出長 6.23 m、幅 69 ～ 78cm、深さ 62cm である。断面形は不整 U 字形である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片、土師器片が出土している。SI458 との重複関係から、本遺構の時期は 5 世紀後半～ 6 世紀初頭以前と考えられ、本調査区内で検出されたⅤ層上面遺構の中で最も古い段階の遺構である。

SD470 溝跡（第 19 図）　W260 ～ 270・S50 グリッドで検出した。SD418、小溝状遺構Ⅱ -1・2、Ⅲ -7・8 と重複関係にあり、小溝状遺構Ⅱ・Ⅲ群より新しく、SD418 より古い。東側を撹乱に削平される。方向は N-61° -W で、検出長 5.95m、幅 74 ～ 95cm、深さ 15cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

５）小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係からⅠ～Ⅲ群に分けられる。また、重複関係からⅢ群→Ⅱ群→Ⅰ群の変遷がたどれる。

Ⅰ群（第 1・20 図、図版 4）　W260 ～ 290・S40 ～ 60 グリットで検出した北西から南東方向の遺構群で、15 条の小溝で構成される。方向は N-21 ～ 86° -W で、検出長は 0.82 ～ 4.25m、幅 4 ～ 44cm、深さ 2 ～ 13cm である。小溝の間隔は、0.80 ～ 10.75m である。堆積土は、2 層に分層される。遺物は出土していない。



第 20 図　ＳＤ 416・424・443・461 溝跡、小溝状遺構群断面図

SD416・424・443・461、小溝状遺構群土層註記表

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD416	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SD424	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	-
SD443	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。
SD461	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分・マンガン粒を多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。
Ⅰ-1	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルト粒を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。暗褐色土シルトブロックを含む。
Ⅰ-2	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルト粒を含む。
Ⅰ-3	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。鉄分をわずかに含む。
	2	10YR3/2 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。
Ⅰ-4	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。白色粒子・砂粒を含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。白色粒子・砂粒を含む。
Ⅰ-5	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅰ-6	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅰ-7	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
Ⅰ-8	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分・炭化物粒をわずかに含む。
Ⅰ-9	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分・炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	鉄分・炭化物粒をわずかに含む。
Ⅰ-10	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅰ-11	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。鉄分をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅰ-12	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅰ-13	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色粘土質シルト粒・褐色シルト粒・暗褐色シルトブロックを含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルト粒を含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅰ-14	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色粘土質シルト粒・褐色シルト粒・暗褐色シルトブロックを含む。
Ⅰ-15	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色粘土質シルト粒・褐色シルト粒・暗褐色シルトブロック含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルト粒を含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅱ-1	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-2	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
Ⅱ-3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒を含む。砂粒・鉄分をわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
Ⅱ-4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒・鉄分をわずかに含む。
Ⅲ-1	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。暗褐色シルトブロックを含む。
Ⅲ-2	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。暗褐色シルトブロックを含む。
Ⅲ-3	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
Ⅲ-4	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰色粘土質シルトブロックを含む。
Ⅲ-5	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅲ-6	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック・灰色粘土質シルトブロックを含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅲ-7	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック・灰色粘土質シルトブロックを含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅲ-8	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック・灰色粘土質シルトブロックを含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅲ-9	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	暗褐色土シルトブロックを含む。
Ⅲ-10	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。白色粒子・砂粒・鉄分をわずかに含む。
Ⅲ-11	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	白色粒子・砂粒多量含む。褐色シルト粒を含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロックを含む。白色粒子・砂粒をわずかに含む。
Ⅲ-12	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
Ⅲ-13	1	2.5Y5/6 黄褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロックを含む。鉄分をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。
Ⅲ-14	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。
Ⅲ-15	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。鉄分をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅲ-16	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
Ⅲ-17	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
	2	-	-	註記なし。
Ⅲ-18	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロックを含む。鉄分をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト粒を含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅲ-19	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。鉄分をわずかに含む。
Ⅲ-20	1	2.5Y5/6 黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	鉄分を多量含む。
Ⅲ-21	1	2.5Y5/6 黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。
	3	10YR4/1 黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。
Ⅲ-22	1	2.5Y5/6 黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	鉄分を多量含む。

Ⅱ群（第１・20 図）　W260 ～ 270・S50 ～ 60 グリットで検出した北西から南東方向に屈曲する遺構群で、４条の小溝で構成される。方向は１・２が N-58 ～ 60° -W で、３・４は南北正方位で、N-65 ～ 67° -W に屈曲する。検出長は 4.90 ～ 12.77m、幅 23 ～ 44cm、深さ 5 ～ 24cm である。小溝の間隔は、43 ～ 70cm である。堆積土は、2 層に分層される。遺物は出土していない。

Ⅲ群（第１・20 図、図版 4）　W250 ～ 280・S40 ～ 60 グリットで検出した北東から南西方向の遺構群で、22 条の小溝で構成される。一部に掘り直しと考えられる重複がみられる。方向は N-8 ～ 32° -E で、検出長は 0.80 ～ 6.88m、幅 14 ～ 52cm、深さ 2 ～ 44cm である。小溝の間隔は、最大 4.00m 程である。堆積土は 2 層に分層される。遺物はⅢ-14・15 から土師器片が出土している。

小溝状遺構群の年代は、SI417、SI459 との重複関係からⅢ群は 8 世紀後半頃、Ⅰ・Ⅱ群が 9 世紀以降と考えられる。

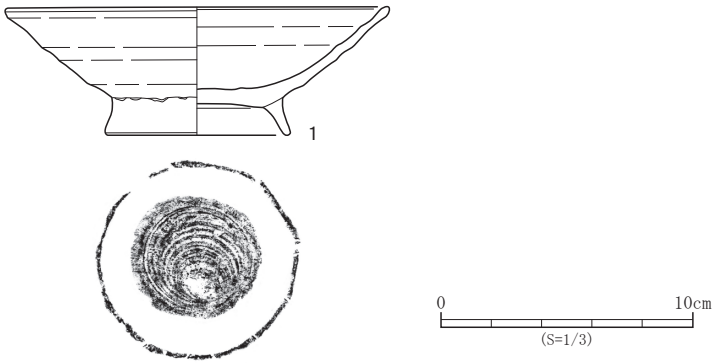
６）ピット（第１・21 図）

144 基のピット（P1830 ～ 1885・1887 ～ 1891・1893 ～ 1897・1900 ～ 1904・1906 ～ 1918・1922・1926・1929・1933・1935・1938・1940 ～ 1957・1959 ～ 1962・1964 ～ 1966・1970・1972 ～ 1976・1978 ～ 1989・1991 ～ 2001）を検出した。遺物は縄文土器片・土師器・打製石器が出土している。このうち 1 点を第 21 図に図示した。1 は P1879 から出土した赤焼土器高台付坏である。

（２）Ⅸ層検出の遺構と遺物（第 22 図）

１）河川跡

SR471 河川跡（第 22 図）　W260・S50 グリッドで検出した。トレンチを設定して調査を行ったが、底面まで完掘しておらず平面確認にとどめた。規模は不明である。遺物は出土していない。



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	D-4	6	P1879	1	赤焼土器	高台付坏	(15.2) × 7.4 × 5.1	ロクロナデ　底部回転糸切り→高台貼付	ロクロナデ		21-5

第 21 図　P1879 出土遺物

（３）遺構外出土遺物（第 23 ～ 26 図、図版 21）

基本層Ⅴ層からは縄文土器・土師器・須恵器・陶器・打製石器・石製品・金属製品、基本層Ⅵ・Ⅷ・Ⅸ層からは縄文土器が出土している。この他に出土位置・層位が不明なものに縄文土器・石製品・金属製品がある。そのうち縄文土器 13 点、須恵器 2 点、打製石器 1 点、石製品 1 点、金属製品 1 点を第 23 ～ 26 図に図示した。以下、縄文時代の遺物から説明する。

縄文時代

Ⅸ層出土土器（第 23 図、図版 21）

縄文土器 2 点を第 23 図に図示した。1 はキャリパー形の深鉢で、口縁部に山形小突起を持つ。文様は口縁部に渦巻隆沈線文、頸部は無文、胴部に沈線文が施文される。2 は剝落した深鉢の突起である。

Ⅵ層出土土器（第 24 図、図版 21）

縄文土器 3 点を第 24 図に図示した。いずれも縄文土器深鉢片である。1 は地文のみ、2 は沈線文のみで波状口縁である。3 は隆線文上に円形の連続刺突文が施文される。

Ⅴ層出土遺物（第 25 図、図版 21）

基本層Ⅴ層または、Ⅴ層検出遺構の堆積土中から出土した縄文時代の遺物のうち、縄文土器 8 点、縄文時代の土製品 3 点、打製石器 1 点を第 25 図に図示した。1 ～ 6 は深鉢片で、1 ～ 3 は口縁部片、4 ～ 6 は胴部の破片である。1 は山形突起、2 は有刻柱状突起、3 は波状口縁で波頂部に柱状突起が付く。4 は沈線文による区画がみられ、上部に RL 縄文、下部に LR 縄文が施文される。5 は L 撚糸文が施文される。6 は沈線文で区画され、磨消縄文の区画と無文帯が交互にみられる。7 は壺の頸部から胴部の破片である。8 は注口土器の胴部片で、沈線文の変化点に刺突文が施文される。9 ～ 11 は土製円盤で、いずれも縄文土器胴部片を素材としている。10 は抉りが明瞭である。12 は珪質頁岩製の石匙である。

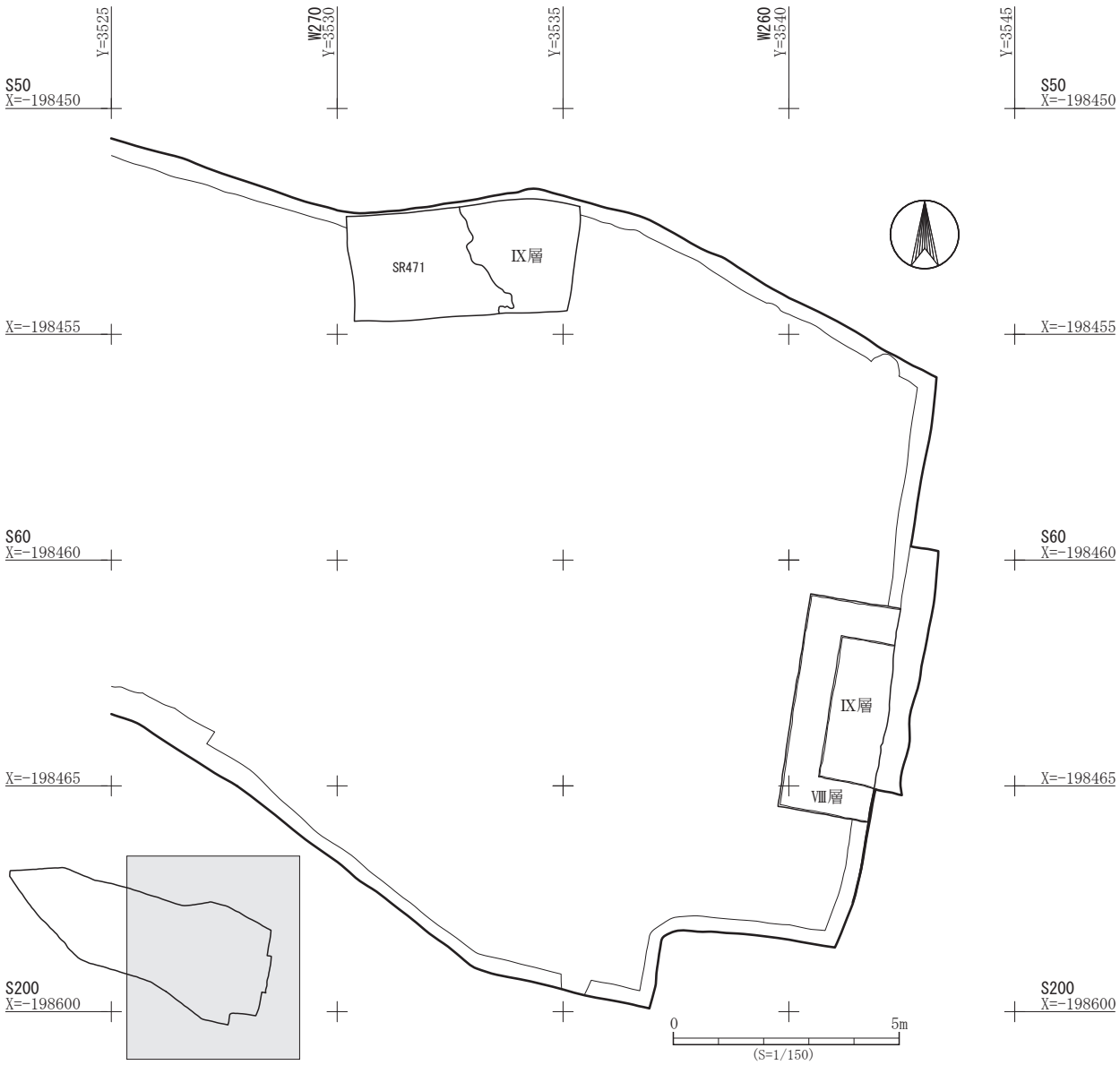
古墳時代～古代（第 25・26 図、図版 21）

Ⅴ層出土遺物（第 25 図、図版 21）

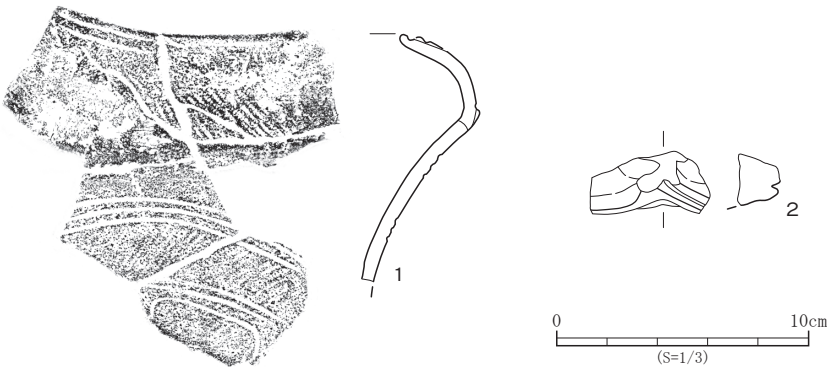
須恵器 2 点を第 25 図に図示した。13 は須恵器坏蓋で口径、丸味を持つ天井、明瞭な稜などから、陶邑古窯跡群田辺編年の TK47 型式期と考えられる。14 は甕の胴部片である。

出土位置・層位不明遺物（第 24 図、図版 21）

石製品 1 点、金属製品 1 点を第 26 図に図示した。1 は面取り加工された砂岩製の砥石で片面を欠損している。擦痕より古い敲打痕と新しい敲打痕、敲打に伴う剝離痕がある。2 は残存状態が悪いが、断面形から鉄製の鎌と考えられる。

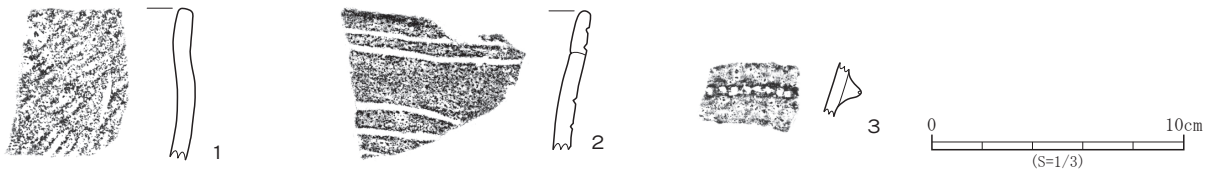


第 22 図　深掘区配置図



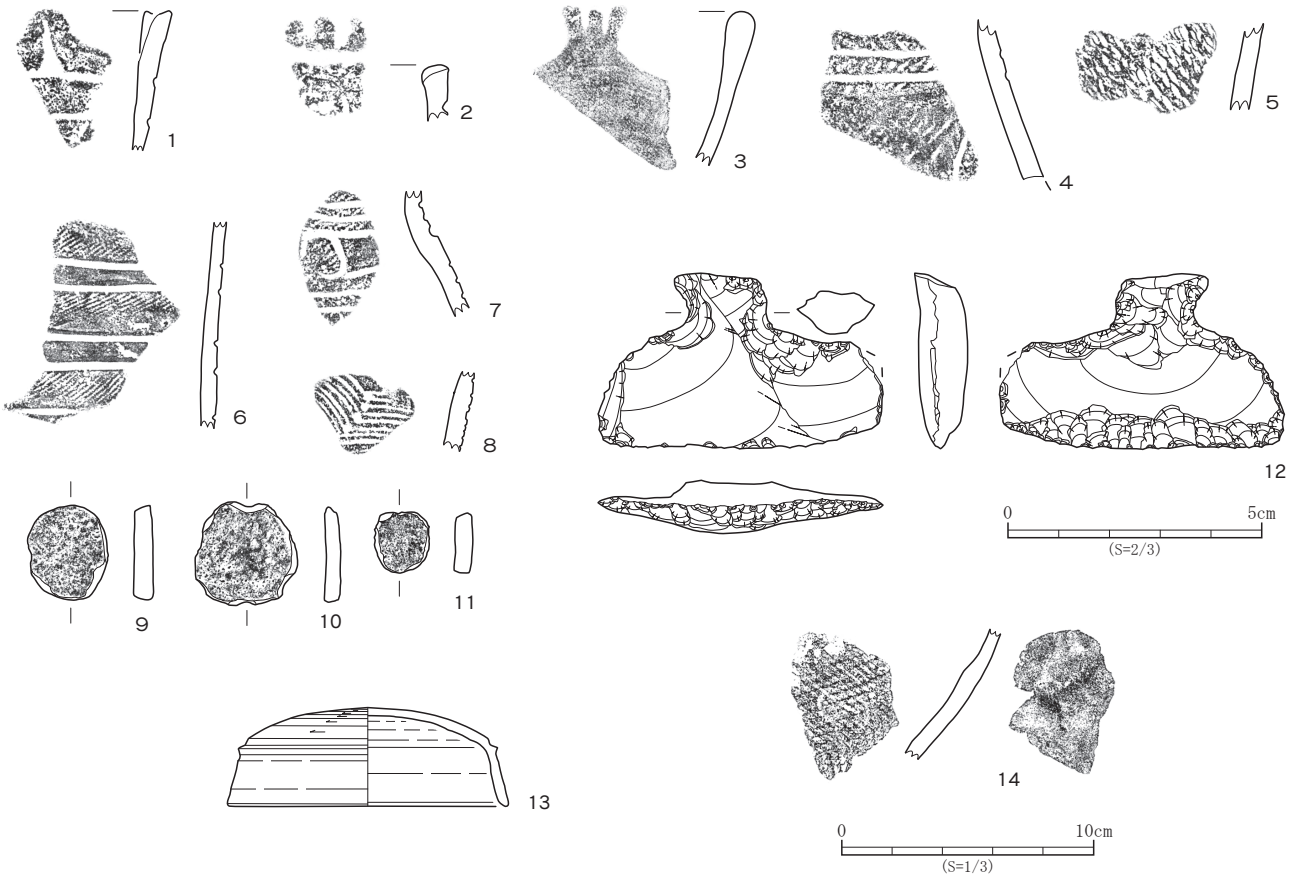
No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-14	6	Ⅸ	深掘区	縄文土器	深鉢	口縁部 - 山形小突起・渦巻隆沈線文区画・沈線文・RL 縄文　頸部 - 無文 胴部 - 沈線文・RL 縄文	外面剝落顕著。	21-6
2	A-15	6	Ⅸ	深掘区	縄文土器	深鉢・突起	隆沈線文	炭化物付着。	-

第 23 図　Ⅸ層出土遺物



No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-3	6	Ⅵ	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -LR 縄文	内外面黒色付着物。	21-7
2	A-5	6	Ⅵ	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・沈線文		21-8
3	A-6	6	Ⅵ	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 隆線文・刺突文		21-9

第 24 図　Ⅵ層出土遺物



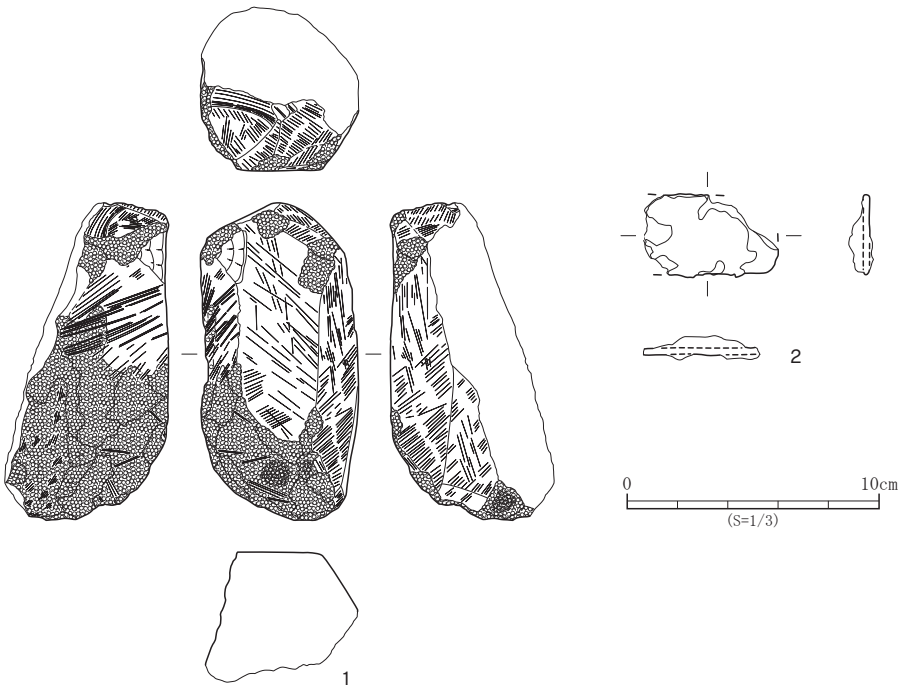
No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-17	6	Ⅴ	SI417-P15	縄文土器	深鉢	口縁部 - 山形突起・波状口縁・沈線文 •L 縄文？	外面摩滅。	21-10
2	A-19	6	Ⅴ	SI417	縄文土器	深鉢	口縁部 - 有刻柱状突起・刺突文		21-11
3	A-1	6	Ⅴ	SD467	縄文土器	深鉢	口縁部 - 柱状突起・波状口縁・ミガキ　突起頂部 - 切れ込み		21-12
4	A-4	6	Ⅴ	W270•S55	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文 •RL 縄文 •LR 縄文		21-13
5	A-8	6	Ⅴ	W260•S65	縄文土器	深鉢	胴部 -L 撚糸文	内外面炭化物付着。	-
6	A-16	6	Ⅴ	SI417	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文区画 •LR 縄文		21-14
7	A-7	6	Ⅴ	-	縄文土器	壺	胴部 - 沈線文 •LR 縄文		21-15
8	A-18	6	Ⅴ	SI458	縄文土器	注口土器	胴部 - 沈線文・刺突文	内外面黒色付着物。	21-16

No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
9	P-1	6	Ⅴ	-	土製品	土製円盤	無文？　摩滅顕著	38 × 32 × 8㎜　11.6g	21-17
10	P-2	6	Ⅴ	SI458	土製品	土製円盤	RL 縄文？　摩滅顕著	41 × 41 × 7㎜　12.0g	21-18
11	P-3	6	Ⅴ	Ⅲ -11	土製品	土製円盤	ミガキ	22 × 24 × 8㎜　4.7g	21-19

No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
12	Ka-d2-1	6	Ⅴ	-	打製石器	石匙	珪質頁岩	3.5 × (5.7) × 1.1　(14.81)	横型、端部欠損。	21-20

No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
13	E-3	6	Ⅴ	-	須恵器	蓋	(11.2) × - × 3.9	ロクロナデ・回転ヘラケズリ	ロクロナデ		21-21
14	E-14	6	Ⅴ	-	須恵器	甕	- × - ×現 5.2	平行タタキ	当て具痕		-

第 25 図　Ⅴ層出土遺物



No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Kd-a-1	6	-	-	石製品	砥石	凝灰質砂岩	12.6 × 6.1 × (5.1)　(615.35)	片面を欠損。	21-22

No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
2	N-1	6	-	-	金属製品	鎌？	(5.35) × (3.15) × 0.9　(13.92)		21-23

第 26 図　古墳時代～古代出土遺物

３．７Ａ区の調査

７Ａ区では、基本層Ⅴ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡２軒、掘立柱建物跡１棟、土坑８基、河川跡２条、性格不明遺構１基、溝跡 15 条、小溝状遺構群６群、ピット 108 基を検出した。基本層Ⅵ層上面（縄文時代後期の遺構検出面）において、性格不明遺構１基、遺物包含層を検出した。基本層Ⅶ層上面（縄文時代後期の遺構検出面）において、集石３群、土坑 43 基、性格不明遺構２基、ピット５基を検出した。Ⅵ層上面、Ⅶ層上面のピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。また、調査区北東側に深掘区を設定してⅧ層以下の調査を行い、Ⅸ層上面で倒木痕（SX93）を検出したところで下層調査を終えた。

（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物（第 27 図、図版５）

１）竪穴住居跡

SI5 竪穴住居跡（第 28・29 図、図版６）

[位置] W240 ～ 250・S70 グリッドに位置する。

[重複関係] SK4、小溝状遺構Ⅳ -5 と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 東西 3.40m、南北 3.35m である。平面形は方形である。

[主軸方位] カマド基準で N-32° -E である。

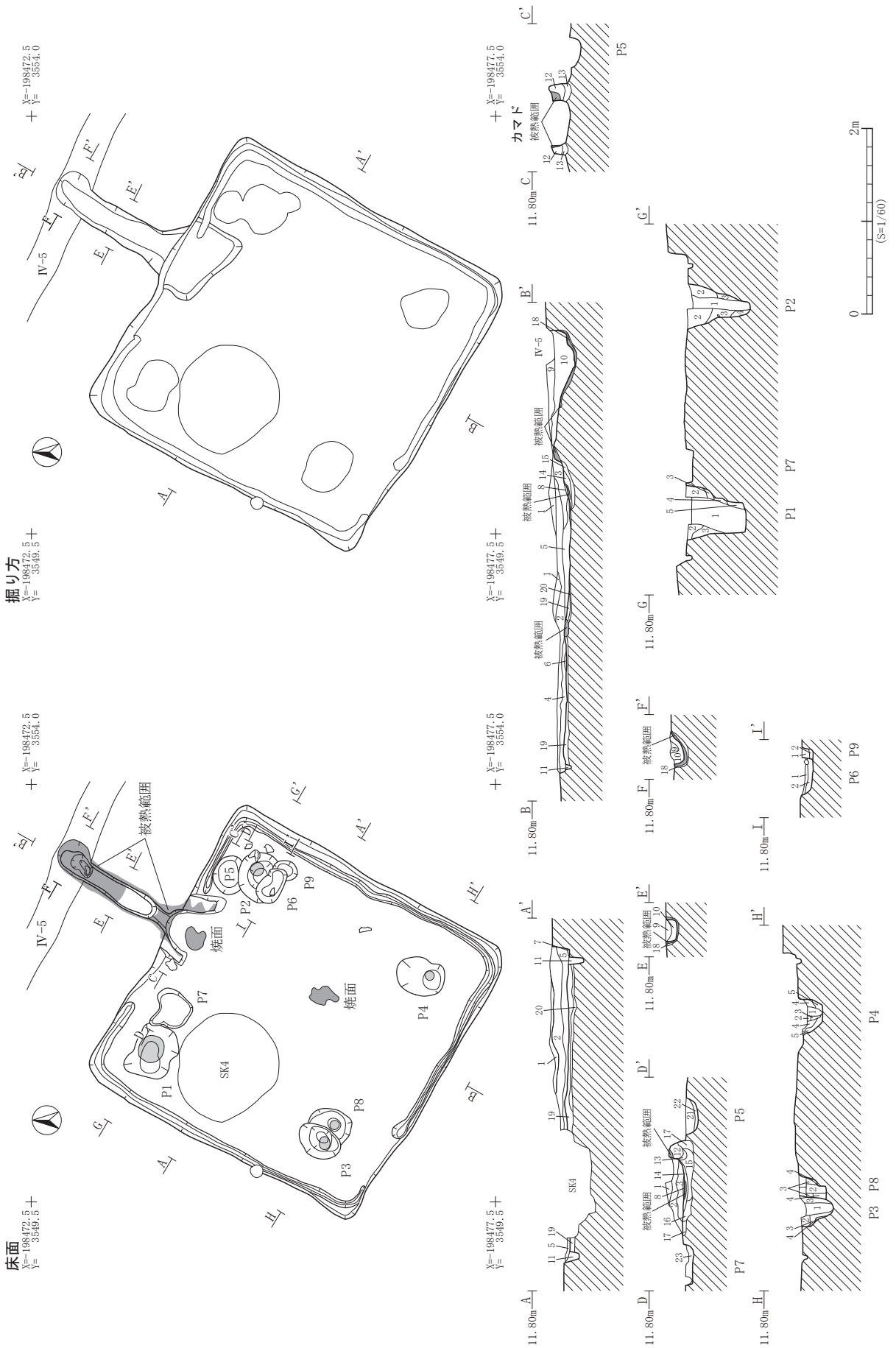
[堆積土・構築土] 20 層に分層した。1 ～ 10 層は住居・カマド内堆積土、11 層は周溝内堆積土、12 ～ 18 層はカマド関連層位、19 ～ 20 層は掘り方埋土である。

[壁面] 周溝底面から直立気味に立ち上がる。壁高は床面から 14 ～ 21cm である。

[床面] 19 層上面を床面としている。特に目立った硬化面はみられないが、やや起伏がある。

[柱穴] 床面で９基のピット（P1 ～ 9）を検出した。配置・規模から、北西側は P1、北東側は P2、南西側は P3 または 8、南東側は P4 が主柱穴と考えられ、規模は径 35 ～ 57cm、深さ 28 ～ 79cm である。P2 ～ 4・8 には径 10 ～ 15cm の柱痕跡が認められた。P1 の柱は抜き取られている。その他は住居北側に位置し、補助的な柱やカマドに関連するピットの可能性がある。規模は径 29 ～ 42cm、深さ８～ 13cm である。

第 27 図　下ノ内遺跡７Ａ区Ｖ層遺構配置図

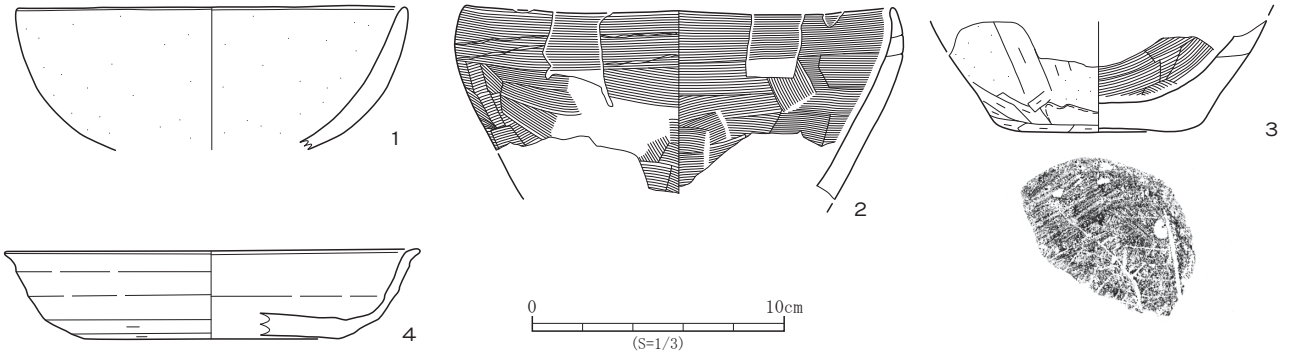


第28図　ＳＩ５竪穴住居跡平面図・断面図

SI5 土層註記表

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI5	1	10YR4/4 褐色	シルト	褐色シルト粒・白色粒子をわずかに含む。マンガン粒を多量含む。炭化物粒を含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。マンガン粒を含む。炭化物粒を多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤黒色シルトブロックをわずかに含む。灰色シルト・焼土ブロックを多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	鉄分をわずかに含む。炭化物を多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロックを多量含む。褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。炭化物粒を多量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	8	-	-	註記なし。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	赤黒色シルトブロック・焼土粒を多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤黒色シルトブロックを多量含む。炭化物・焼土をわずかに含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・白色砂粒を多量含む。（周溝内堆積土）
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物をわずかに含む。
	14	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物・焼土をわずかに含む。
	15	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土をわずかに含む。
	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	-
	17	2.5YR4/8 赤褐色	シルト	-
	18	10YR4/4 褐色	シルト	-
	19	10YR4/4 褐色	シルト	（掘り方埋土）
	20	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物多量含む。（掘り方埋土）
P5	21	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。焼土ブロックを多量含む。
	22	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土をわずかに含む。
P7	23	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。暗褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰色粘土ブロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。（柱抜取）
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	-
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	4	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
P2	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰色粘土ブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	（柱痕）
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P4	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	（柱痕）
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロックをわずかに含む。
	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
P6	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。焼土ブロックを多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土をわずかに含む。
P8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	（柱痕）
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを含む。
P9	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高（cm）	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-33	7A	SI5-P6	1	土師器	坏	(15.6) × - ×現 5.7	-	-	内外面摩滅。	21-24
2	C-31	7A	SI5	5	土師器	鉢	(17.0) × - ×現 7.4	ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ？	ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ？	内外面被熱。	21-25
3	C-32	7A	SI5	5	土師器	甕	- × (6.6) ×現 4.4	ヘラケズリ	ヘラナデ	底部木葉痕、内外面被熱。	-
4	E-27	7A	SI5-P6	1	須恵器	坏	(16.5) × (10.2) × 3.5	ロクロナデ　体部下端～底部回転ヘラケズリ	ロクロナデ		21-26

第 29 図　ＳＩ５竪穴住居跡出土遺物

[周溝] カマド周辺と南西壁の西側を除き全周する。断面形はＵ字形で、規模は幅 5 ～ 13cm、深さ 6 ～ 17cm である。

[カマド] 北壁に位置し、壁の中央東寄りに付設されている。袖の規模は、東袖が長さ 43cm、幅 30cm、床面からの高さ 20cm で、西袖が長さ 32cm、幅 15 ～ 20cm、床面からの高さ 15cm である。燃焼部の規模は、奥行 41cm、幅 45cm で、掘り方は東西方向に長軸を持つ不整方形で、長軸 88cm、短軸 44 ～ 60cm、深さ 10cm である。煙道部は長さ 1.40m、幅 15 ～ 34cm、深さ 10 ～ 28cm で、底面は先端に向かって傾斜し、先端近くでピット状になっている。掘り方は長さ 1.42m、幅 34 ～ 38cm、深さ 5cm である。

[その他の施設] 中央で長軸 32cm、短軸 22cm の不整形な焼面を 1 箇所検出した。

[掘り方] 深さ 2 ～ 10cm である。底面は凹凸がある。

[出土遺物] 堆積土から縄文土器片・土師器・須恵器・打製石器が出土している。そのうち土師器 3 点、須恵器 1 点

を第 29 図に図示した。1 は土師器坏で底部から口縁部まで緩やかに内弯しながら立ち上がる。2 は土師器鉢で体部は外傾しながら立ち上がり、口縁部で内弯する。3 は土師器甕で底部に木葉痕がある。4 は須恵器坏で体部下端から底部が回転ヘラケズリ調整される。1・2・4 の特徴から、本住居跡の年代は 8 世紀前半～中頃と考えられる。

SI29 竪穴住居跡（第 30・31 図、図版 7）

[位置] W240・S60 ～ 70 グリッドに位置する。

[重複関係] 小溝状遺構Ⅱ -3、Ⅳ -2、P58・59 と重複関係にあり、本遺構が古い。

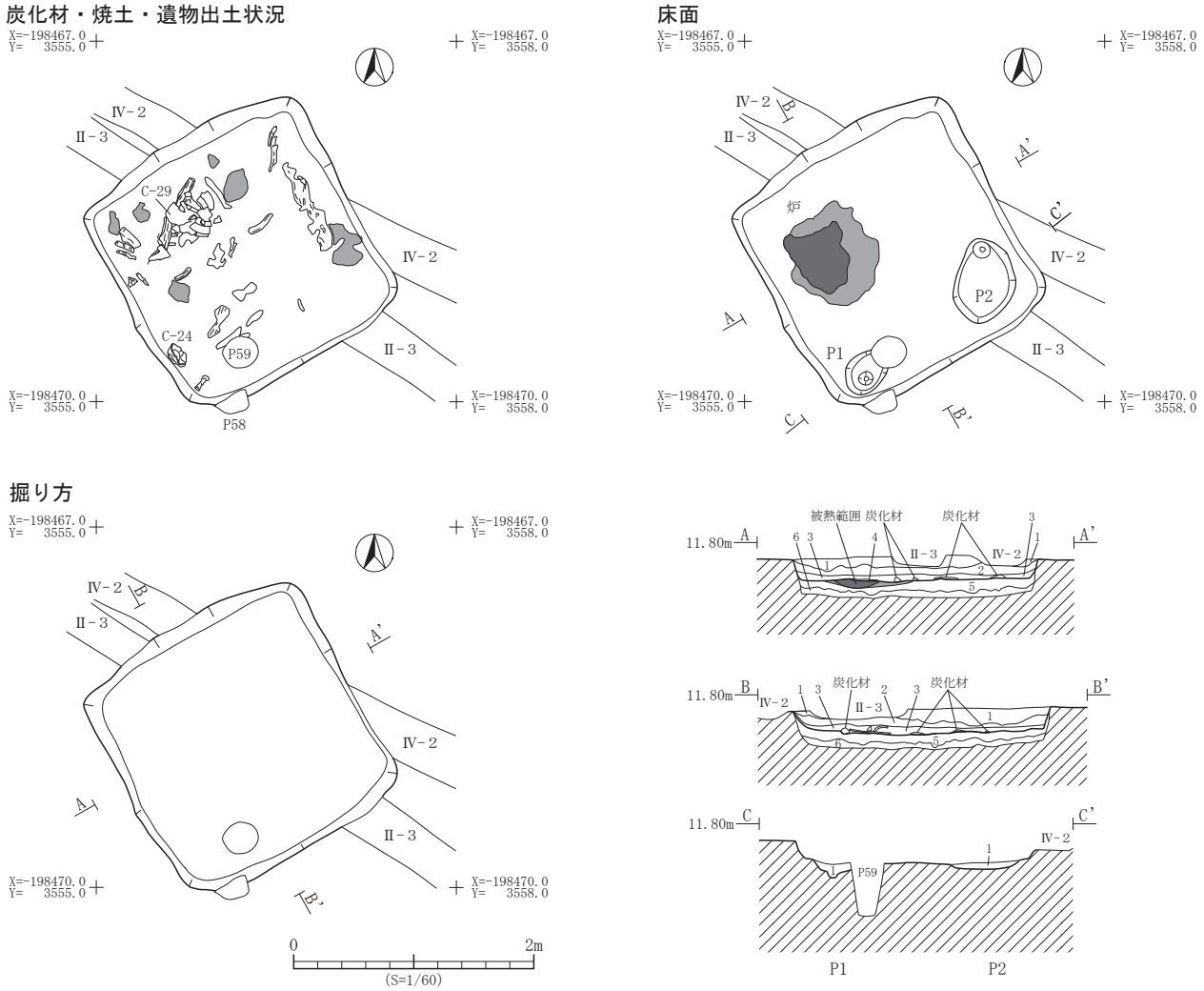
[規模・形態] 東西 2.07m、南北 2.15m である。平面形は方形である。周溝は検出されていない。

[主軸方位] 西壁基準で N-30° -W である。

[堆積土・構築土] 6 層に分層した。1 ～ 4 層は住居内堆積土、5・6 層は掘り方埋土である。3 層中の床面直上から多くの炭化材･焼土が出土している。炭化材は住居の壁に平行または直行した状態で出土したものが多く､火災にあって倒壊した住居の部材と考えられる。

[壁面] 底面から直立気味に立ち上がる。壁高は床面から 15 ～ 18cm である。

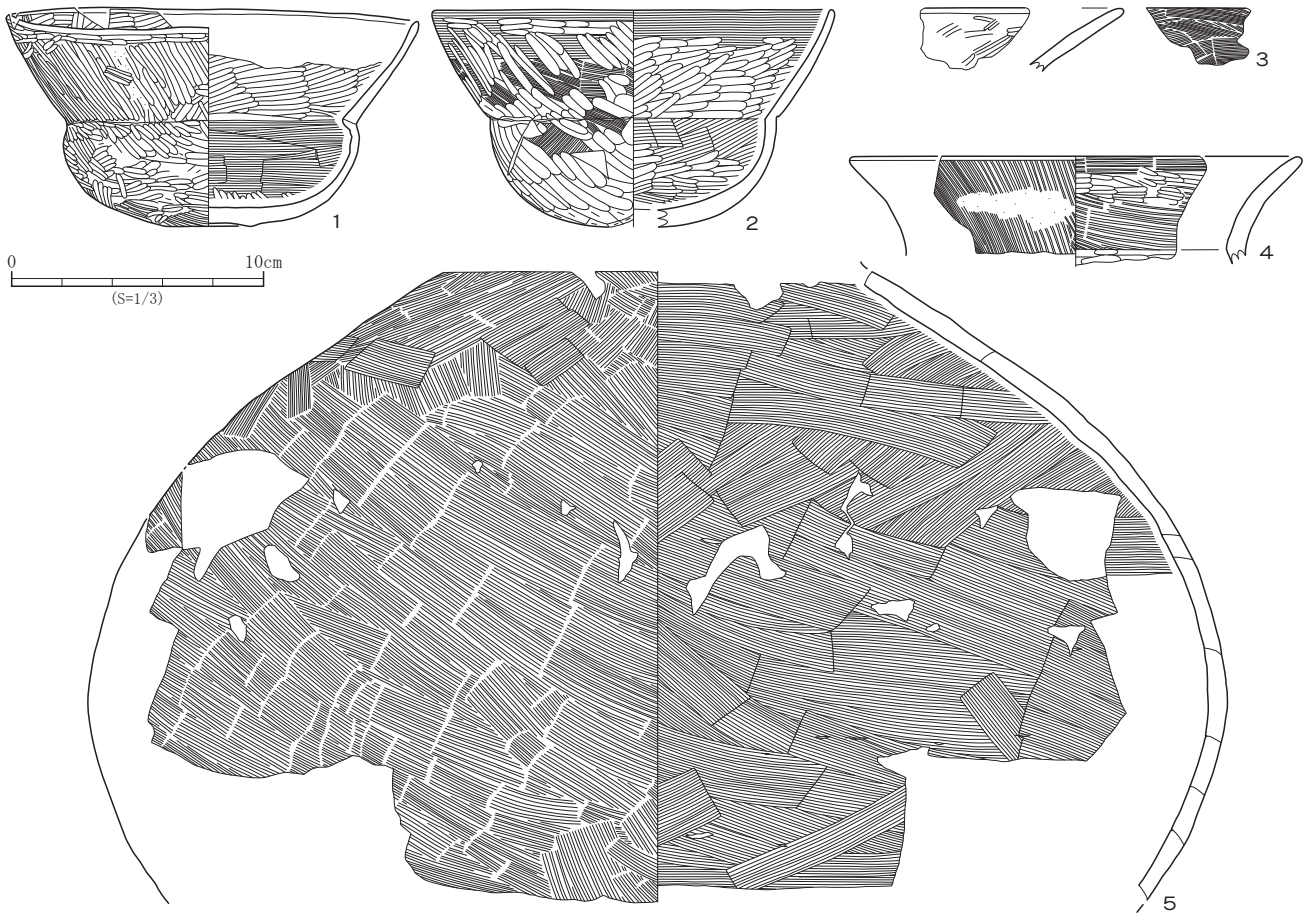
[床面] 5 層上面を床面としている。ほぼ平坦で中央付近に硬化面がある。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI29	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。焼土粒を含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。炭化材・焼土を含む。
	4	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。焼土を含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI29	5	10YR4/6 褐色	シルト	炭化物を含む。暗褐色シルトブロックをわずかに含む。中央の最上部締りあり。
	6	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
P1	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。炭化物を含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。

第 30 図　ＳＩ 29 竪穴住居跡平面図・断面図



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-24	7A	SI29	3	土師器	坩	(16.3) × 3.4 × 7.9	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヘラナデ・ヘラミガキ	内外面赤彩？	22-1
2	C-30	7A	SI29	床面	土師器	坩	(16.0) × - ×現 8.6	ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	内外面被熱。	22-2
3	C-28	7A	SI29	床面	土師器	壺	- × - ×現 2.5	ヘラミガキ	ハケメ	外面赤彩。	-
4	C-27	7A	SI29	床面	土師器	甕	(17.8) × - ×現 4.3	ハケメ	ハケメ・ヘラミガキ		22-3
5	C-29	7A	SI29	床面	土師器	壺	―×―×現 25.0	ハケメ・ヘラナデ	ヘラナデ		22-4

第 31 図　ＳＩ 29 竪穴住居跡出土遺物

[柱穴] 床面で 2 基のピット（P1･2）を検出した。規模は径 30 ～ 71cm､深さ 6 ～ 14cm である。いずれもコーナー付近に位置しており、補助的な柱や貯蔵穴の可能性がある。

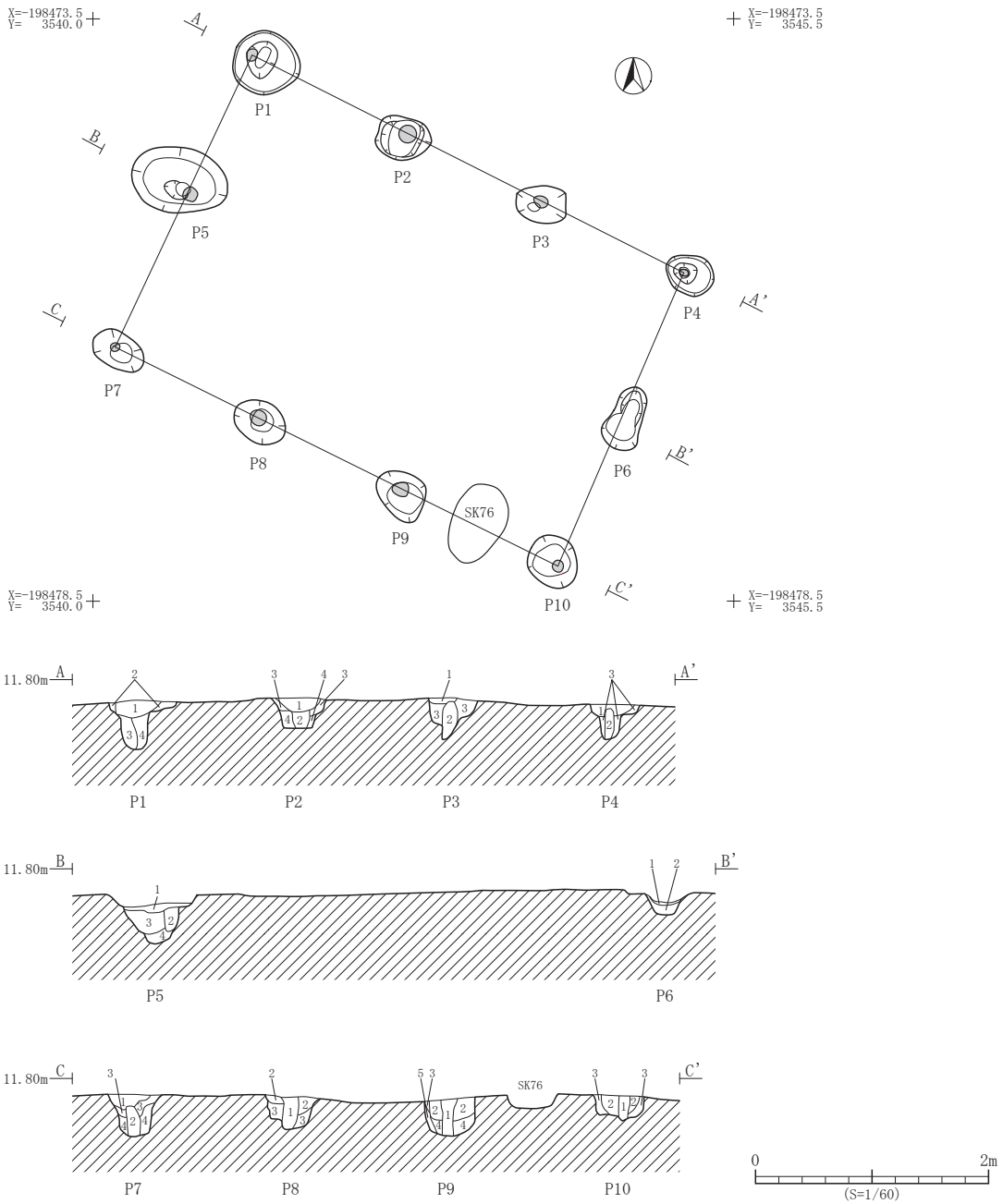
[炉] 住居内北西に位置する地床炉である。被熱で変色した範囲は、長軸 80cm、幅 72cm で、中央部から西側は熱を強く受けて橙色に硬化している。

[掘り方] 深さ 11 ～ 15cm である。底面はほぼ平坦である。

[出土遺物] 堆積土及び床面より縄文土器片･土師器が出土している。そのうち土師器 5 点を第 31 図に図示した。1･2 は坩で、器面の最終調整にヘラミガキ調整されるが、簡略化されそれ以前の調整が残る。1 は内外面赤彩されている可能性がある。3 は壺の口縁部片で外面が赤彩されている。5 は土師器壺胴部で、外面ハケメ・ヘラナデ調整、内面ヘラナデ調整される。本住居跡の年代は地床炉を伴うことや出土遺物の特徴から、4 世紀後半～末頃と考えられる。

２）掘立柱建物跡

SB21 掘立柱建物跡（第 32 図、図版 8）W250･S70 グリッドに位置する。桁行 3 間（北列西から 1.50m+1.29m+1.36m、総長 4.15m、南列西から 1.37m+1.38m+1.47m、総長 4.22m）、梁行 2 間（西列北から 1.30m+1.45m、総長 2.75m､東列北から 1.30m+1.42m､総長 2.72m）の東西棟側柱建物跡である。桁行柱列方向は北列基準で N-63° -W である。柱穴掘り方の規模は径 57cm の円形または長軸 43 ～ 85cm、短軸 35 ～ 55cm の楕円形で、深さ 22 ～ 43cm である。P6 を除く 9 基から径 8 ～ 16cm の柱痕跡が認められた。遺物は堆積土・掘り方埋土から縄文土器片・土師器片・打製石器が出土している。



第 32 図　ＳＢ 21 掘立柱建物跡平面図・断面図

３）土坑

SK3 土坑（第 33 図、図版 8）　W240 ～ 250・S60 グリッドで検出した。SD22 と重複関係にあり、本遺構が古い。北側を撹乱に削平されるが、平面形は不整楕円形を基調としたものと考えられ、長軸方向は N-30° -W である。検出した規模は長軸 1.90m、短軸 89cm、深さ 35 ～ 77cm で、壁面は西側が緩やかに、東側は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、長軸の底面は凹凸や段があり、南東から北西に傾斜する。堆積土は 10 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土したほか、4 層から炭化物がまとまって出土している。

SK4 土坑（第 33 図、図版 8）　W240・S70 グリッドで検出した。SI5 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は N-71° -W である。規模は長軸 1.16m、短軸 1.06m、深さ 30 cm で、壁面は急角度に立ち上がり、底面から 16cm 付近で段を持つ。断面形は逆台形状で、底面は凹凸がある。堆積土は 5 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・須恵器片が出土している。

SK6 土坑（第 33 図、図版 8）　W250・S70 グリッドで検出した。SD22 と重複関係にあり、本遺構が古い。西半部を SD22 によって削平されているため、平面形は不明である。検出した規模は東西 96cm、南北 2.64m、深さ 44

SB21 土層註記表

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SB21 P1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色粘土ブロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粒・鉄分をわずかに含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰色粘土ブロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。（柱痕）
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
SB21 P2	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色粘土ブロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粒・鉄分をわずかに含む。（柱痕）
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	マンガン粒・鉄分を多量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。
SB21 P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・マンガン粒をわずかに含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	マンガン粒をわずかに含む。（柱痕）
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロック・鉄分をわずかに含む。
SB21 P4	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・マンガン粒をわずかに含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	マンガン粒をわずかに含む。（柱痕）
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロック・鉄分をわずかに含む。
SB21 P5	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロック・マンガン粒をわずかに含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	マンガン粒をわずかに含む。（柱痕）
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロック・鉄分をわずかに含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	鉄分・マンガン粒を多量含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SB21 P6	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	灰色粘土ブロック・褐色シルト粒をわずかに含む。マンガン粒を多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SB21 P7	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色粘土ブロックをわずかに含む。鉄分・マンガン粒を多量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粒・鉄分をわずかに含む。（柱痕）
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
SB21 P8	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粒・鉄分をわずかに含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色粘土ブロックをわずかに含む。マンガン粒・鉄分を多量含む。（柱痕）
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。
SB21 P9	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粒・鉄分をわずかに含む。（柱痕）
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色粘土ブロックをわずかに含む。鉄分・マンガン粒を多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	マンガン粒を多量含む。
	4	10YR2/3 黒褐色	シルト	灰色粘土ブロックをわずかに含む。鉄分・マンガン粒を多量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。
SB21 P10	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粒をわずかに含む。（柱痕）
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロック・鉄分をわずかに含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。

～ 50cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は凹凸がある。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SK35 土坑（第 33・34 図、図版 8）　W250 ～ 260・S70 グリッドで検出した。SR1、P94 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向は N-35°-E である。検出した規模は長軸 95cm、短軸 51cm、深さ 27 cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片、底面から、ロクロ使用で内面黒色処理された土師器坏と土師器高台付坏が出土しており、そのうち土師器坏 1 点を第 34 図に図示した。1 は底部が回転糸切り無調整で、口径に対する底径の比が小さい。出土遺物の特徴から、本遺構の年代は 9 世紀後半～ 10 世紀前半頃と考えられる。

SK36 土坑（第 33 図、図版 8）　W250・S70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-26°-E である。規模は長軸 69cm、短軸 44cm、深さ 13 cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

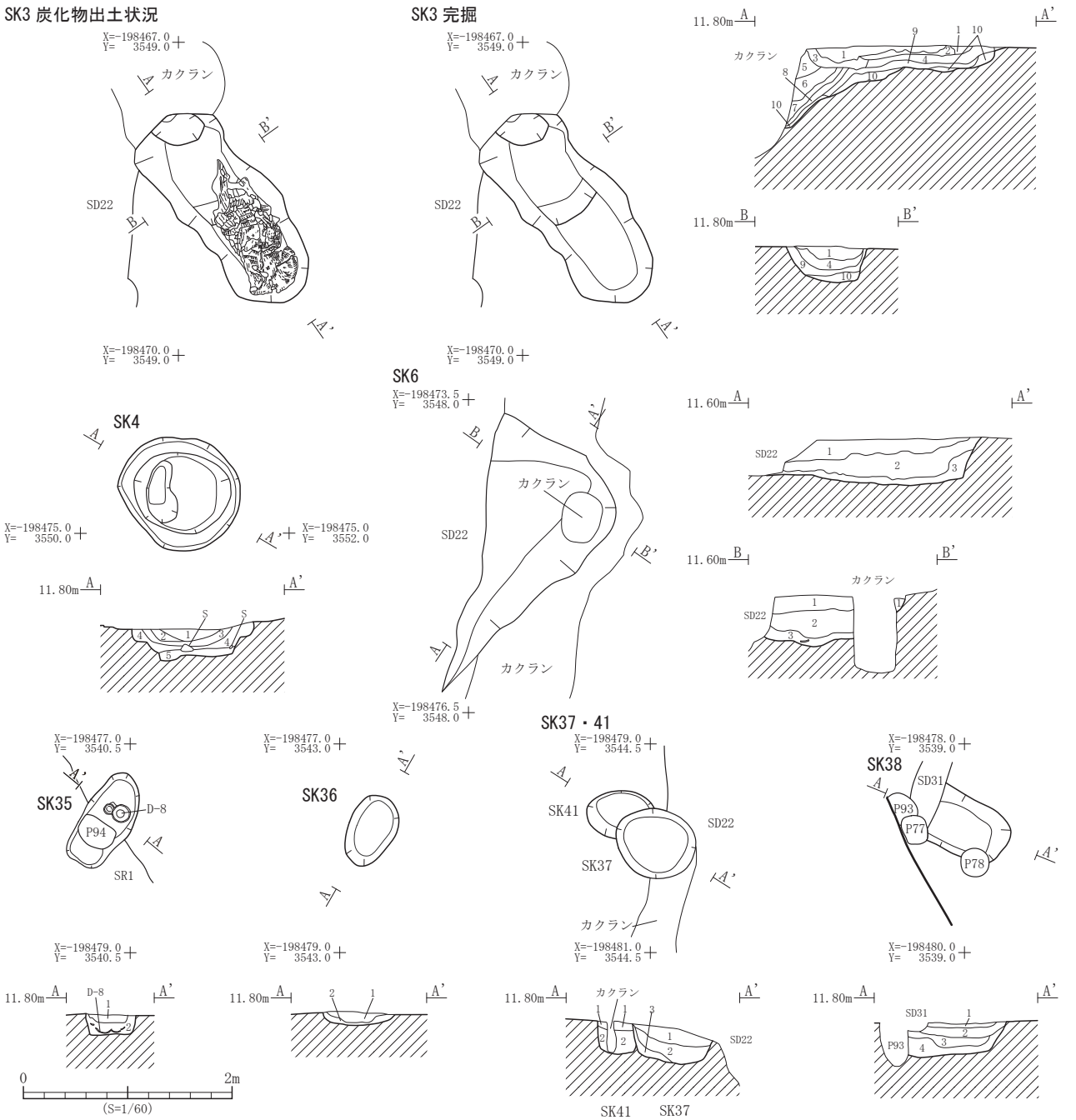
SK37 土坑（第 33 図、図版 8）　W250・S70 ～ 80 グリッドで検出した。SK41、SD22 と重複関係にあり、SK41 より新しく、SD22 より古い。平面形は楕円形で、長軸方向は N-56°-W である。検出した規模は長軸 72cm、短軸 63cm、深さ 33cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

SK38 土坑（第 33 図、図版 9）　W260・S70 グリッドで検出した。SR1、SD31、P77・78・93 と重複関係にあり、本遺構が古い。北西側を SD31 に削平されるが、平面形は隅丸長方形を基調としたものと考えられ、長軸方向は N-62°-W である。検出した規模は長軸 73cm、短軸 55cm、深さ 30cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 4 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片が出土している。

SK41 土坑（第 33 図、図版 9）　W250・S70 グリッドで検出した。SK37 と重複関係にあり、本遺構が古い。南東側を SK37 に削平されるが、平面形は楕円形と考えられ、長軸方向は N-62°-W である。検出した規模は長軸 60cm、短軸 46cm、深さ 30cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

４）河川跡

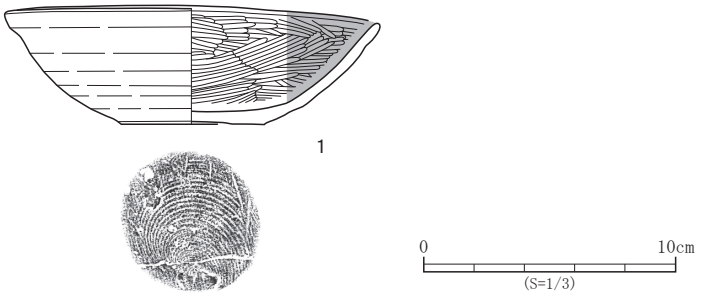
SR1 河川跡（第 27・35 図、図版 5）　W230 ～ 270・S70 ～ 90 グリッドで検出した。調査区内で大きく蛇行しており、東側と西側で検出した。SK35・38、SX43、SD15・16・22・31・34・39・40、小溝状遺構Ⅰ-1 ～ 4、Ⅱ-3・4、Ⅳ-1・2、P28・29・47・76 ～ 78・91・93・94・96 ～ 98・100・122 と重複関係にあり、SD22 より古く、



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK3	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物を多量含む、褐色シルトブロック・焼土をわずかに含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物をわずかに含む。
	4	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物層。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	鉄分を含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	8	10YR4/1 褐灰色	シルト	鉄分・炭化物をわずかに含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。
SK4	1	10YR5/8 黄褐色	シルト	灰黄褐色シルト粒を含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	灰黄褐色シルト粒を含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	鉄分をわずかに含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	褐灰色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐灰色シルトブロックをわずかに含む。
SK6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	暗褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロック・鉄分をわずかに含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロックを多量含む。褐色シルトブロックをわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK35	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物・鉄分をわずかに含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。鉄分をわずかに含む。
SK36	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分・マンガン粒をわずかに含む。炭化物粒を多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	鉄分・炭化物をわずかに含む。
SK37	1	10YR2/1 黒色	シルト	鉄分・炭化物を多量含む。焼土ブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物をわずかに含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物・鉄分をわずかに含む。
SK38	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	鉄分をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	鉄分・マンガン粒をわずかに含む。
SK41	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック多量含む。マンガン粒をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・マンガン粒をわずかに含む。

第 33 図　ＳＫ３・４・６・35 ～ 38・41 土坑平面図・断面図

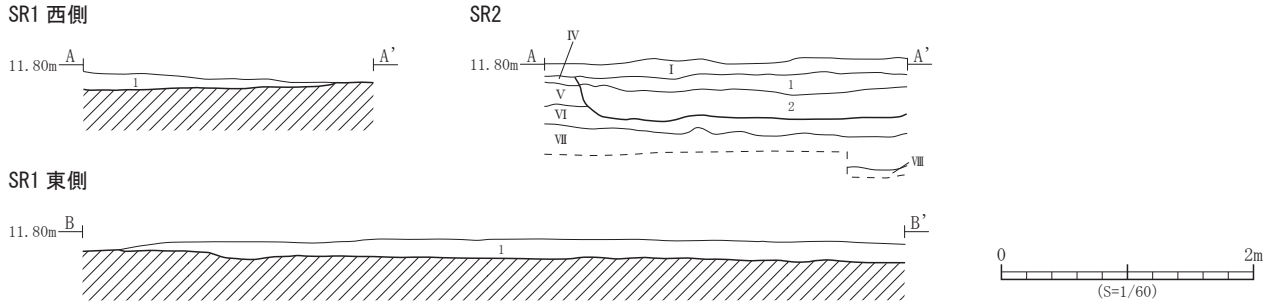


No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	D-8	7A	SK35	2	土師器	坏	14.8 × 5.8 × 4.7	ロクロナデ　底部回転糸切り	ヘラミガキ・黒色処理		22-5

第 34 図　ＳＫ 35 土坑出土遺物

他より新しい。東側・西側の調査区外に延び、西側は本遺跡６区 SR408 と連続する。規模は東側が検出長 16.36m、幅 6.05m、深さ 15cm 以上、西側が検出長 12.68m、幅 2.93m、深さ 15 ～ 40㎝以上である。堆積土は本調査区では掘削深度が浅く単層であるが、６区では 10 層以上に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片・須恵器片・打製石器が出土している。

SR2 河川跡（第 27・35 図、図版５）　W250・S50 ～ 60 グリッドで検出した。検出面はⅤ層であるが、壁面の観察で基本層Ⅳ層上面から掘り込まれていることが確認された。SD22・42、小溝状遺構Ⅲ -1・8、Ⅵ -1 と重複関係にあり、SD42、小溝状遺構Ⅲ・Ⅵ群より新しく、SD22 より古い。北西側の調査区外に延びるが、西側に隣接する本遺跡６区では検出されなかった。規模は検出長 4.55m、幅 2.56m、深さ 37cm である。堆積土は２層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片が出土している。



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SR1	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	鉄分を含む。マンガン粒をわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SR2	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	鉄分を含む。マンガン粒をわずかに含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	鉄分を含む。マンガン粒をわずかに含む。

第 35 図　ＳＲ１・２河川跡断面図

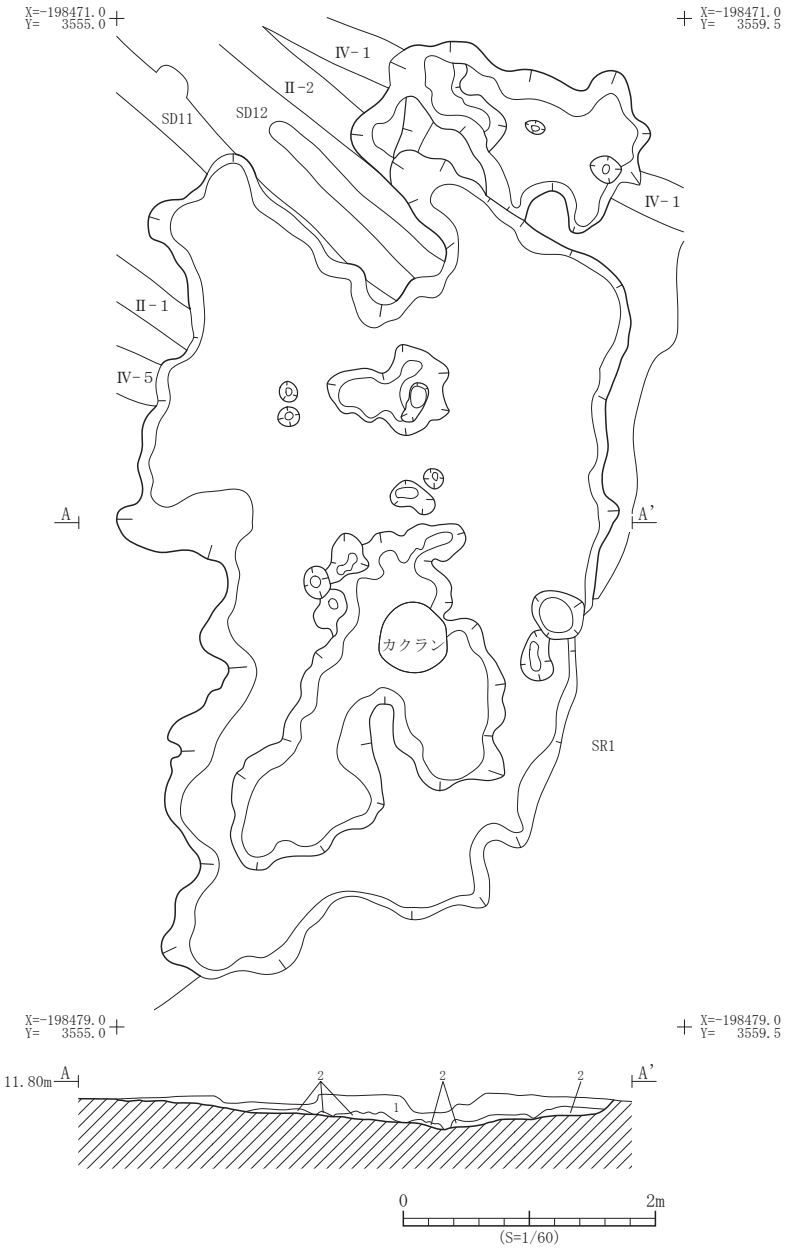
５）性格不明遺構

SX43 性格不明遺構（第 36・37 図、図版９）　W240・S70 グリッドで検出した。SR1、SD11・12・23、小溝状遺構Ⅱ -1・2、Ⅳ -1・5・6 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向は北東から南西である。規模は長軸 7.65m、短軸 2.80 ～ 3.52m、深さ 24cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は不整逆台形で、底面は凹凸や段がある。堆積土は２層に分層される。遺構の状況から、倒木痕の可能性がある。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片・打製石器・礫石器が出土しており、そのうち土師器鉢１点を第 37 図に図示した。体部から外傾しながら立ち上がり、口縁部で直立する。

６）溝跡

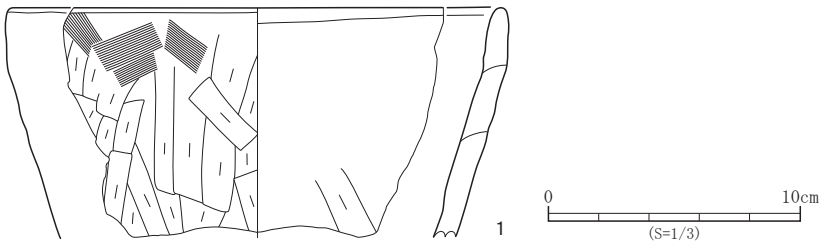
SD11 溝跡（第 27・38 図、図版５）　W240・S60 ～ 70 グリッドで検出した。SX43、小溝状遺構Ⅱ -2、P1・3・27 と重複関係にあり、SX43 より新しく、他より古い。方向は N-45° -W で、長さ 7.12m、幅 29 ～ 35cm、深さ 9cm である。断面形はＵ字形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SD12 溝跡（第 27・38 図、図版５）　W240・S70 グリッドで検出した。SX43 と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は N-48° -W で、長さ 2.37m、幅 18 ～ 24cm、深さ 8cm である。断面形はＵ字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SX43	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。

第 36 図　ＳＸ 43 性格不明遺構平面図・断面図



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-23	7A	SX43	1	土師器	鉢	(19.6) × - × 現 9.1	ナデ・ヘラケズリ	ヘラケズリ		22-6

第 37 図　ＳＸ 43 性格不明遺構出土遺物

SD13 溝跡（第 27・38 図、図版 5）　W250・S60 グリッドで検出した。SD42 と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は N-76° -W で、長さ 2.00m、幅 25 ～ 28cm、深さ 10cm である。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。

遺物は出土していない。

SD15 溝跡（第 27・38 図、図版 5）　W240・S80 グリッドで検出した。SR1、P29 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-85°-W で、検出長 1.40m、幅 29 ～ 80cm、深さ 4cm である。断面形は U 字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD16 溝跡（第 27・38 図、図版 5）　W240・S70 グリッドで検出した。SR1 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-78°-W で、検出長 2.26m、幅 30 ～ 41cm、深さ 14cm である。断面形は U 字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD19 溝跡（第 27・38 図、図版 5）　W250・S60 グリッドで検出した。P55 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-67°-W で、検出長 1.29m、幅 25cm、深さ 5cm である。断面形は U 字形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SD22 溝跡（第 27・38 図、図版 5・9）　W250・S50 ～ 80 グリッドで検出した。SK3・6・37、SR1・2、小溝状遺構Ⅱ-1・3、Ⅲ-1 ～ 4・7・8、P32・34・53・54 と重複関係にあり、本遺構が新しい。南北の調査区外に延びる。方向は N-7°-E で、検出長 26.40m、幅 1.54 ～ 2.66m、深さ 1.34m である。断面形は逆台形である。堆積土は 7 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片・須恵器片・打製石器が出土している。

SD23 溝跡（第 27・38 図、図版 5）　W240・S70 グリッドで検出した。SX43、小溝状遺構Ⅱ-1、Ⅳ-6 と重複関係にあり、SX43、小溝状遺構Ⅳ群より新しく、Ⅱ群より古い。方向は N-23°-E で、長さ 3.65m、幅 26 ～ 34cm、深さ 9cm である。断面形は U 字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD31 溝跡（第 27・38 図、図版 5）　W250 ～ 260・S70 グリッドで検出した。SK38、SR1、P77・91・93・111 と重複関係にあり、SK38、P93・111 より新しく、SR1、P77・91 より古い。方向は N-21°-E で、検出長 4.25m、幅 23 ～ 50cm、深さ 13cm である。断面形は U 字形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片が出土している。

SD32 溝跡（第 27・38 図、図版 5）　W260・S70 グリッドで検出した。方向は N-28°-E で、長さ 80cm、幅 15cm、深さ 10cm である。断面形は U 字形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SD33 溝跡（第 27・38 図、図版 5）　W260・S70 グリッドで検出した。P73・74・107・108 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-30°-E で、長さ 2.00m、幅 29 ～ 35cm、深さ 8cm である。断面形は U 字形である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は縄文土器片が出土している。

SD34 溝跡（第 27・38 図、図版 5）　W260・S70 グリッドで検出した。SR1、SD39 と重複関係にあり、SD39 より新しく、SR1 より古い。方向は N-6°-E で、検出長 1.75m、幅 16 ～ 26cm、深さ 4cm である。断面形は U 字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD39 溝跡（第 27・38 図、図版 5・9）　W260・S60 ～ 70 グリッドで検出した。SR1、SD34、P49・69 ～ 72 と重複関係にあり、本遺構が古い。南北の調査区外に延び、北側は本遺跡 6 区 SD467 に連続する。方向は N-5°-E で、検出長 3.35m、幅 90 ～ 96cm、深さ 92cm である。断面形は U 字形である。堆積土は 6 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片・打製石器が出土している。

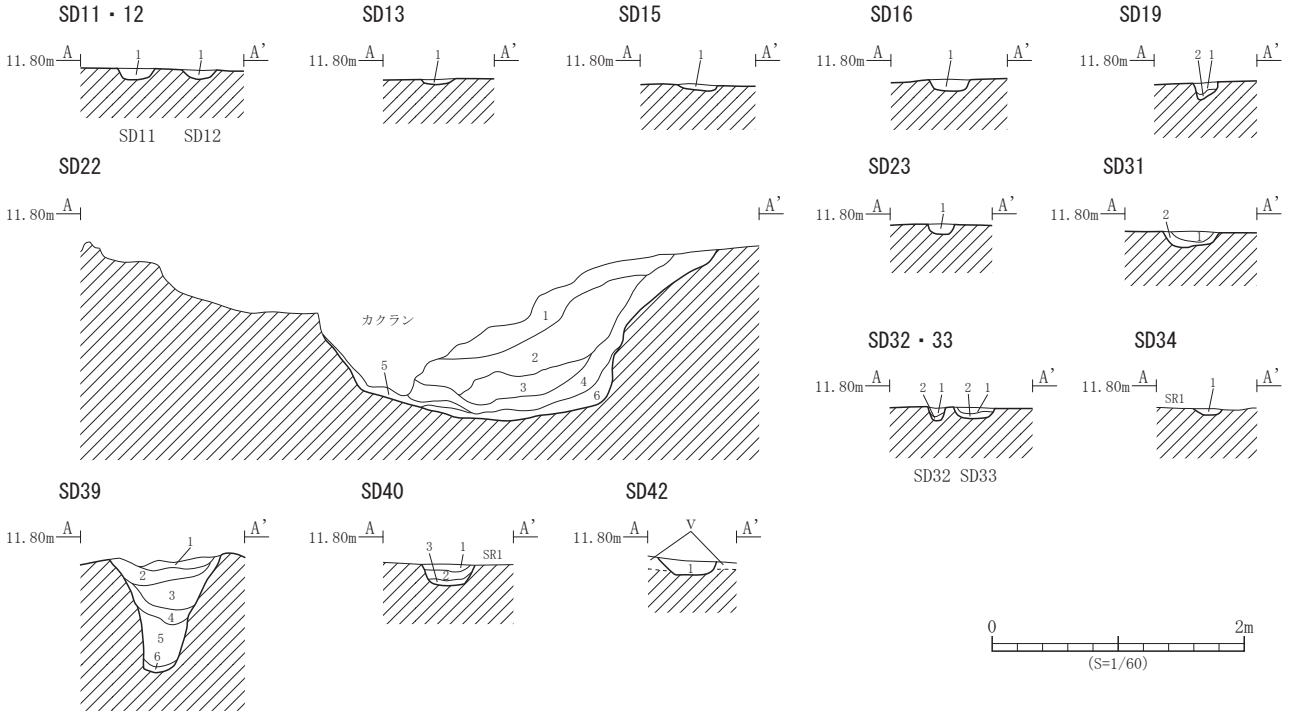
SD40 溝跡（第 27・38 図、図版 5）　W250 ～ 260・S70 グリッドで検出した。SR1 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-46°-E で、検出長 2.46m、幅 40 ～ 59cm、深さ 16cm である。断面形は U 字形である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SD42 溝跡（第 27・38 図、図版 5）　W250・S50 ～ 60 グリッドで検出した。SR2、SD13、小溝状遺構Ⅲ-9 と重複関係にあり、本遺構が古い。方向は N-4°-E で、検出長 1.90m、幅 32 ～ 36cm、深さ 10cm である。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

7）小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係からⅠ～Ⅵ群に分けられる。また、重複関係からⅤ・Ⅵ群→Ⅳ群→Ⅲ群→Ⅱ群の変遷が考えられる。

Ⅰ群（第 27・39 図、図版 5）　W250・S70 ～ 80 グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、4 条の小溝



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
SD12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・にぶい黄褐色シルトブロックを多量含む。
SD13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。マンガン粒を多量含む。
SD15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	マンガン粒をわずかに含む。
SD16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐灰色シルトブロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。
SD19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SD22	1	10YR4/6 褐色	シルト	-
	2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	鉄分を斑状に多量含む。
	3	5Y3/2 オリーブ黒色	シルト	鉄分を多量含む。
	4	2.5Y4/6 オリーブ褐色	シルト	鉄分を多量含む。
	5	5Y4/1 灰色	砂質シルト	鉄分を含む。
	6	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	鉄分を含む。
SD23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
SD31	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。マンガン粒を多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・マンガン粒をわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SD32	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分・マンガン粒を多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
SD33	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
SD34	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
SD39	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	鉄分・マンガン粒を多量含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	鉄分・マンガン粒を多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	マンガン粒を多量含む。
	5	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質シルト	鉄分を多量含む。
	6	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
SD40	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	マンガン粒を多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。マンガン粒を多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	マンガン粒をわずかに含む。
SD42	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	マンガン粒を多量含む。

第 38 図　ＳＤ 11 ～ 13・15・16・19・22・23・31 ～ 34・39・40・42 溝跡断面図

で構成される。方向は N-51 ～ 75° -W で、検出長 0.58 ～ 2.12m、幅 4 ～ 23cm、深さ 2 ～ 10cm である。小溝の間隔は、30 ～ 35cm である。堆積土は単層である。遺物はⅠ -3 から縄文土器片が出土している。

Ⅱ群（第 27・39 図、図版 5）　W230 ～ 250・S60 ～ 70 グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、4 条の小溝で構成される。方向は N-53 ～ 62° -W で、検出長 9.33 ～ 18.68m、幅 20 ～ 37cm、深さ 4 ～ 15cm である。小溝の間隔は、2.05 ～ 2.55m である。堆積土は 2 層に分層される。遺物はⅡ -1・4 から縄文土器片・土師器片が出土している。

Ⅲ群（第 27・39 図、図版 5）　W240 ～ 250・S50 ～ 60 グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、9 条の小溝で構成される。方向は N-40 ～ 50° -W で、検出長 0.89 ～ 6.59m、幅 15 ～ 25cm、深さ 3 ～ 8cm である。小溝の間隔は、14 ～ 37cm である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

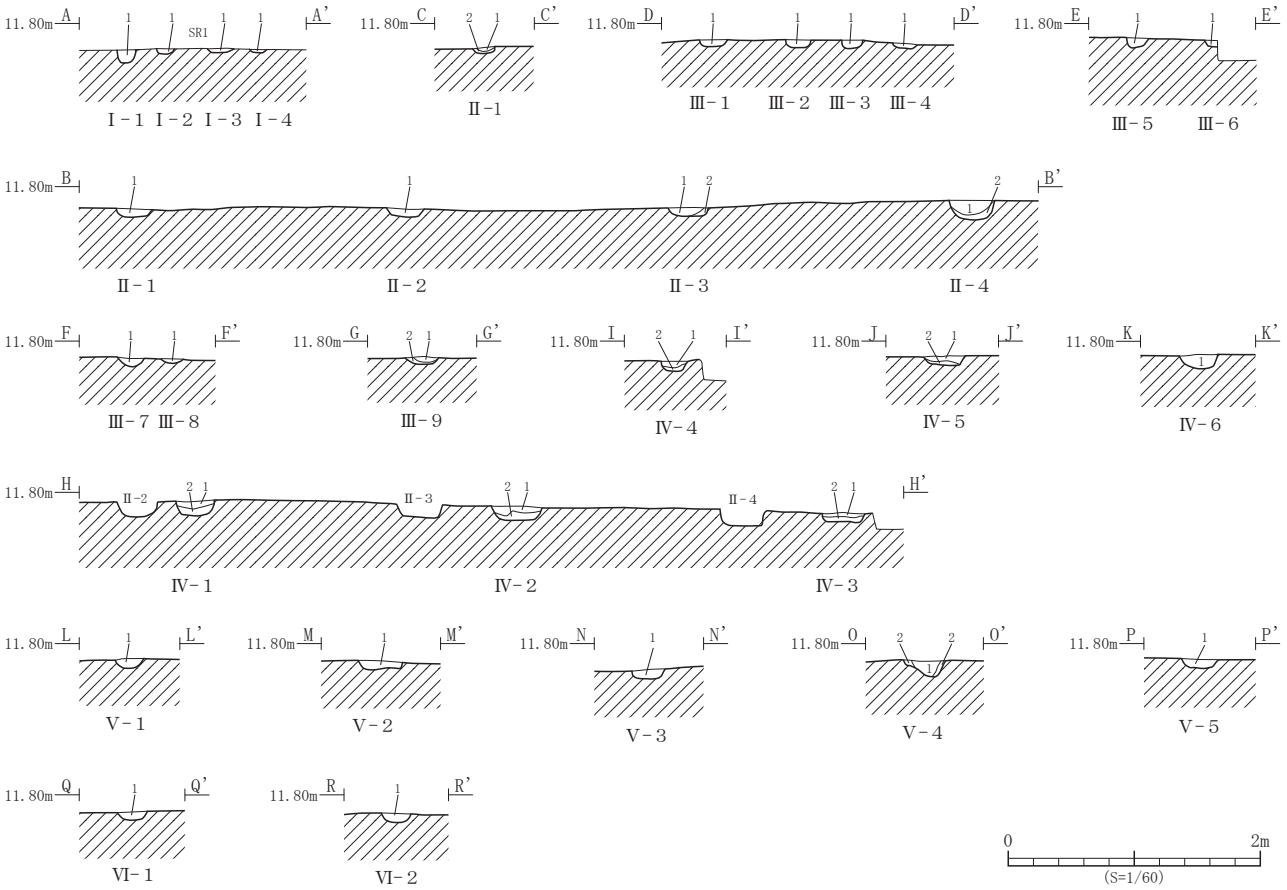
Ⅳ群（第 27・39 図、図版 5）　W230 ～ 240・S60 ～ 70 グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、6 条の小溝で構成される。方向は N-57 ～ 66° -W で、検出長 2.65 ～ 11.00m、幅 20 ～ 40cm、深さ 6 ～ 12cm である。小溝の間隔は、0.98 ～ 1.24m である。堆積土は 2 層に分層される。遺物はⅣ -5・6 から縄文土器片・土師器片が出土している。

Ⅴ群（第 27・39 図、図版 5）　W230 ～ 240・S50 ～ 70 グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群で、5 条

の小溝で構成される。方向はN-20～30°-Eで、検出長1.58～2.36m、幅22～36cm、深さ7～12cmである。小溝の間隔は、1.97～4.20mである。堆積土は1層ないし2層に分層される。遺物はⅤ-2・4から縄文土器片・土師器片が出土している。

Ⅵ群（第27・39図、図版5）　W250・S50～60グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、2条の小溝で構成される。位置が離れているが、方向からⅤ群と同群の可能性がある。方向はN-15～21°-Eで、検出長2.83～3.43m、幅22～25cm、深さ6～7cmである。小溝の間隔は、43cmである。堆積土は単層である。遺物はⅥ-1・2から土師器片が出土している。

小溝状遺構群の年代は、Ⅳ群が8世紀前半～中頃のSI5より新しいことから、Ⅱ～Ⅳ群は8世紀後半以降に機能し、Ⅴ・Ⅵ群はそれ以前に機能していたと考えられる。Ⅰ群は他群との重複関係は無いが、方向が類似するⅡ～Ⅳ群と同時期の可能性がある。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
Ⅰ-1～4	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	褐色シルト・マンガン粒をわずかに含む。
Ⅱ-1・2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
Ⅱ-3・4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
Ⅲ-1～4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分を斑状にわずかに含む。
Ⅲ-5・6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
Ⅲ-7・8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。マンガン粒をわずかに含む。
Ⅳ-1～4	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。黒褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。黒褐色シルトブロックをわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
Ⅳ-5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
Ⅳ-6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	灰色粘土質シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
Ⅴ-1・2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルト粒・鉄分をわずかに含む。
Ⅴ-3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐灰色シルトを含む。鉄分・マンガン粒をわずかに含む。
Ⅴ-4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	マンガン粒をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
Ⅴ-5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色粘土質シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
Ⅵ-1・2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	鉄分・マンガン粒を多量含む。

第39図　小溝状遺構群断面図

８）ピット（第27図）

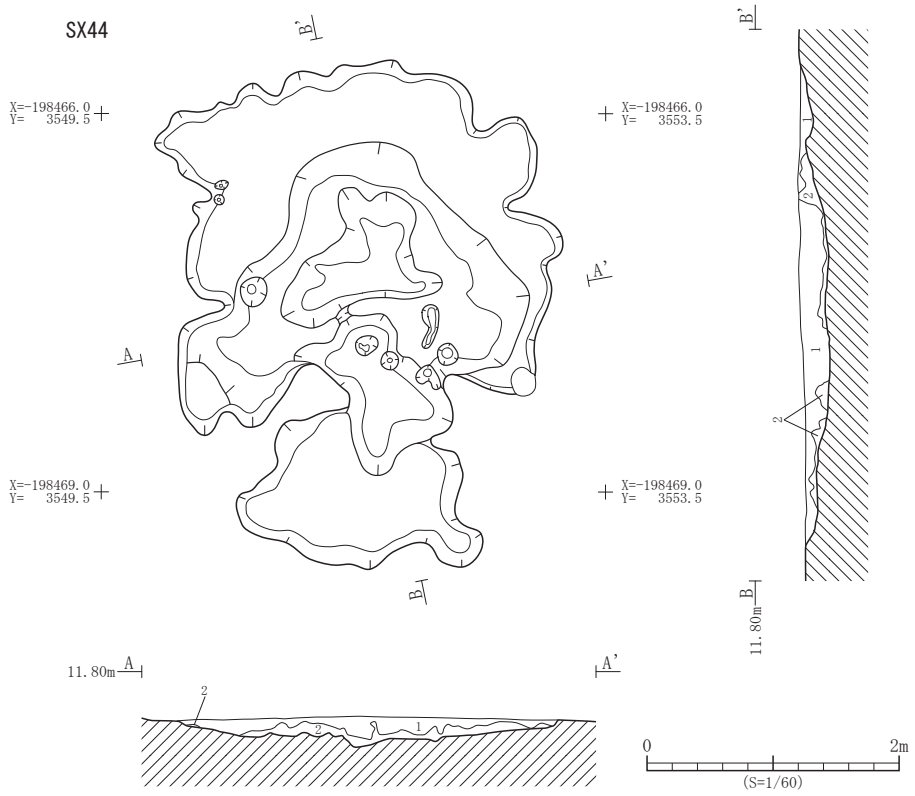
108基のピット（P1～21・23～55・57～78・81～84・90・91・93～114・120・122・123）を検出した。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片・須恵器片・打製石器が出土している。

第 40 図　下ノ内遺跡７Ａ区Ⅵ層遺構配置図、SX18・45 遺物包含層断面図

（２）Ⅵ層検出の遺構と遺物（第 40 図）

１）性格不明遺構

SX44 性格不明遺構（第 41 図、図版 9）　W240・S60 グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向は南北方向である。規模は長軸 3.94m、短軸 1.58 ～ 2.97m、深さ 22 ～ 24cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は不整逆台形で、底面は凹凸や段がある。遺構の状況から、倒木痕の可能性がある。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SX44	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。

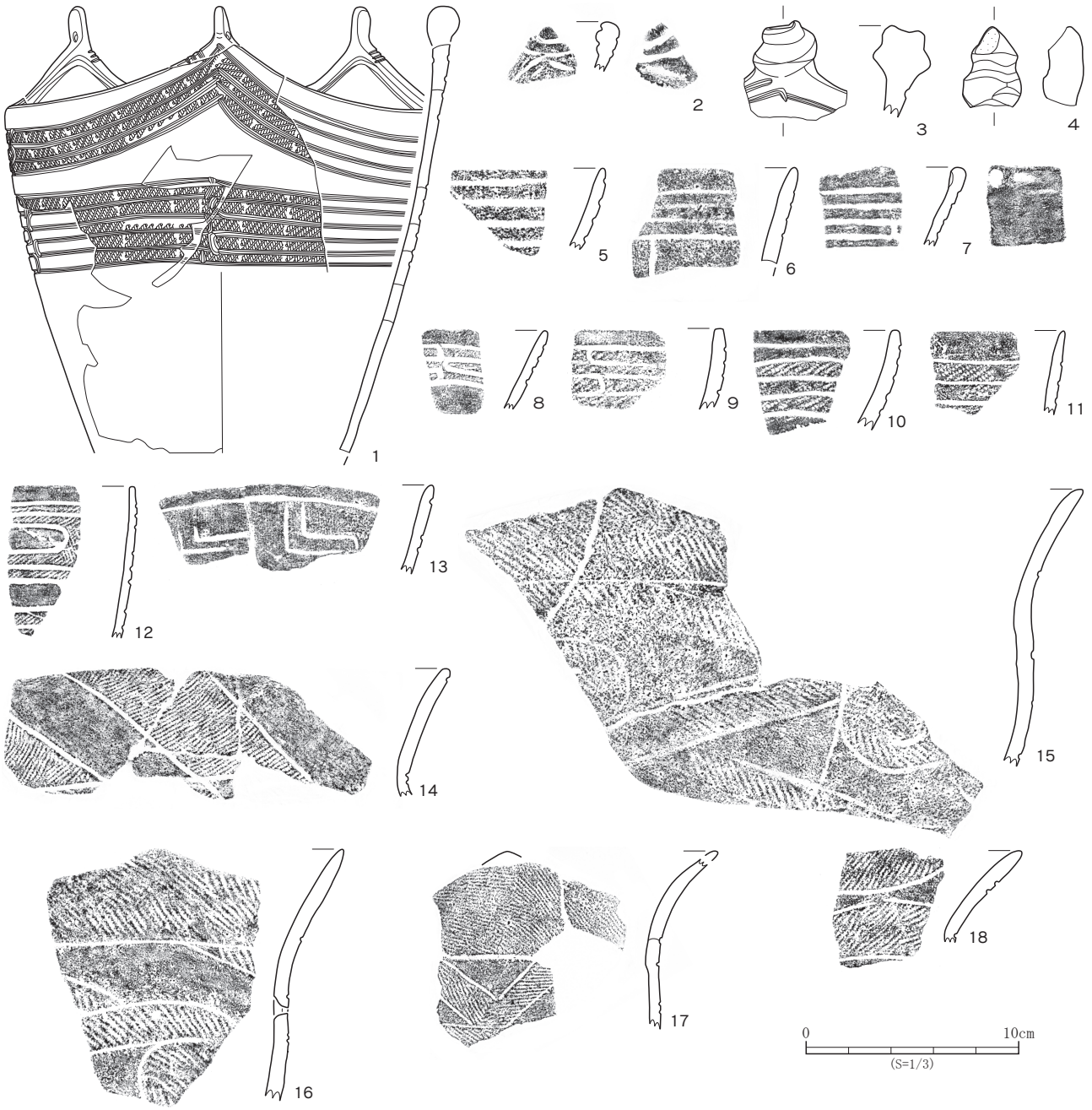
第 41 図　ＳＸ 44 性格不明遺構平面図・断面図

２）遺物包含層

SX18・45 遺物包含層（第 40 図、図版 9）　W240 ～ 260・S60 ～ 80 グリッドで検出した。基本層Ⅵ層中で遺物が集中して出土した部分で、位置関係や出土遺物の内容から連続した遺物包含層と考えられる。上層遺構の撹乱によって東西に分断されているため、便宜的に西側を SX18、東側を SX45 として調査を行った。層厚は 25 ～ 47cm である。遺物は縄文土器・土製品・打製石器・礫石器・石製品が多量に出土している。そのうち縄文土器 154 点、土製品 15 点、打製石器 25 点、礫石器 5 点、石製品 3 点を第 42 ～ 60 図に図示した。遺物の説明は SX18 と 45 に分け、さらに土器・土製品と石器に分けて行う。

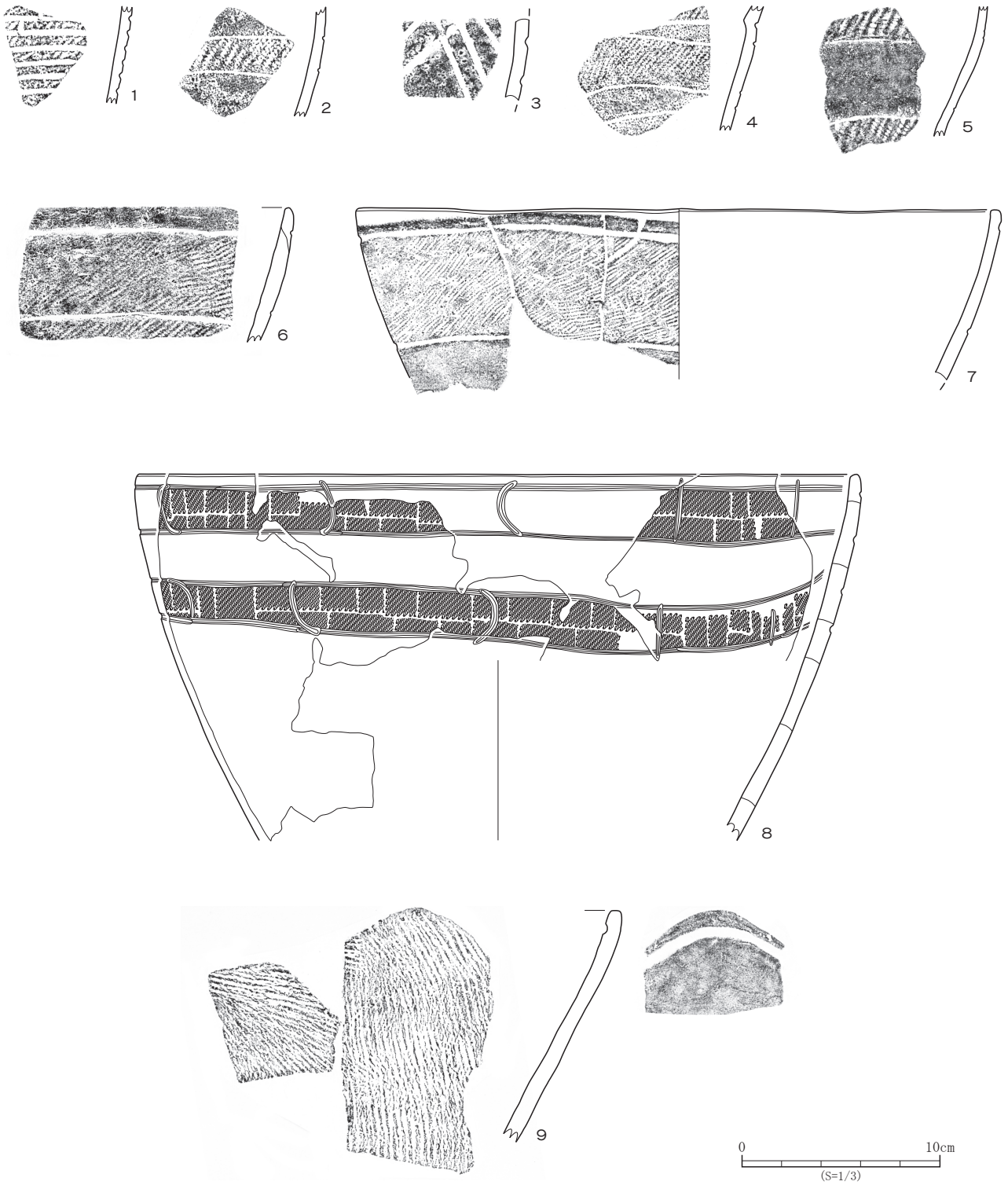
SX18 遺物包含層出土土器・土製品（第 42 ～ 49 図、図版 22 ～ 25）

縄文土器 100 点、土製品 9 点を図示した。第 42 ～ 46 図は深鉢である。第 42 図 1 は 3 単位波状口縁の波頂部に団扇状小突起が付くと考えられ、SX45 出土 A-167（第 55 図 5）およびⅦ層 SX47 出土 A-140（第 69 図 1）と同一個体の可能性がある。口縁部は内外面とも口縁部に平行する沈線文が施文される。胴部外面は 6 条の横走する平行沈線文が縦位ないし弧状の沈線文で連結される。5 ～ 7 は沈線文のみが施文される口縁部片で、5･6 は平口縁である。7 は波状口縁で波頂部内面に小突起を持つ。8 ～ 11 は横位の平行沈線文内に地文が施文される口縁部片で、いずれも平口縁である。8・9 は弧状の短沈線で平行沈線が連結される。10・11 も同様の意匠と考えられる。12 ～ 18 は



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-64	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 波状口縁・団扇状小突起・沈線文区画・LR 縄文 口唇部 - 刻目　突起側面 - 刺突文　口縁部内面に沈線文	胎土に金雲母混入、A-140・167 と同一？	22-7
2	A-105	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢・突起	沈線文・LR 縄文		-
3	A-119	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・突起・沈線文		22-8
4	A-196	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢・突起	沈線文		-
5	A-38	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文		22-9
6	A-42	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文		22-10
7	A-49	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・沈線文　内面に小突起		22-11
8	A-111	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画・沈線文・LR 縄文		22-12
9	A-51	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画・沈線文・LR 縄文		22-13
10	A-112	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画・LR 縄文		22-14
11	A-115	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画・LR 縄文		22-15
12	A-103	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 沈線文区画・LR 縄文		22-16
13	A-41	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画・「クランク」状文・LR 縄文	下ノ内遺跡８区Ⅵ層出土 A-76 と同一。	22-17
14	A-79	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画・LR 縄文	A-150 と同一？	22-18
15	A-130	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 波状口縁・沈線文・RL 縄文	A-63 と同一。	22-19
16	A-63	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 波状口縁・沈線文区画・RL 縄文	胴部穿孔、A-130 と同一。	-
17	A-81	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 波状口縁・沈線文区画・RL 縄文		22-20
18	A-40	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・沈線文区画・LR 縄文		22-21

第 42 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土土器（1）

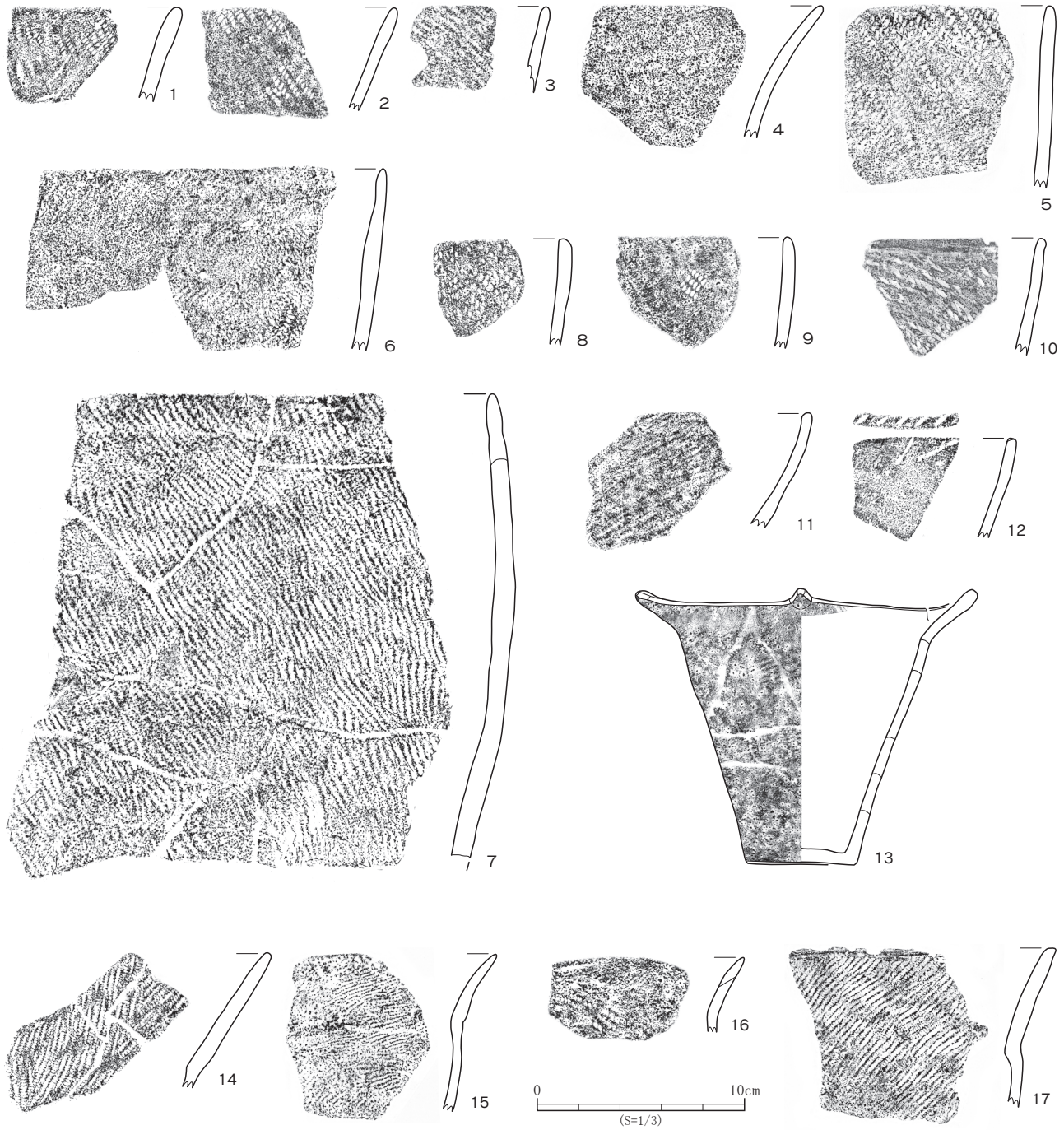


№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-72	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 -「クランク」状文 •LR 縄文		22-22
2	A-92	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文区画 •LR 縄文		22-23
3	A-99	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文 •LR 縄文？	内外面摩滅。	22-24
4	A-76	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文区画 •LR 縄文		22-25
5	A-91	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文区画 •LR 縄文		22-26
6	A-54	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文 •LR 縄文		23-1
7	A-82	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画 •LR 縄文　胴部 - ミガキ		23-2
8	A-123	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画・沈線文・LR 縄文　胴部 - ミガキ		23-3
9	A-71	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 波状口縁 •L 撚糸文　口縁部内面に沈線文		23-4

第 43 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土土器（２）

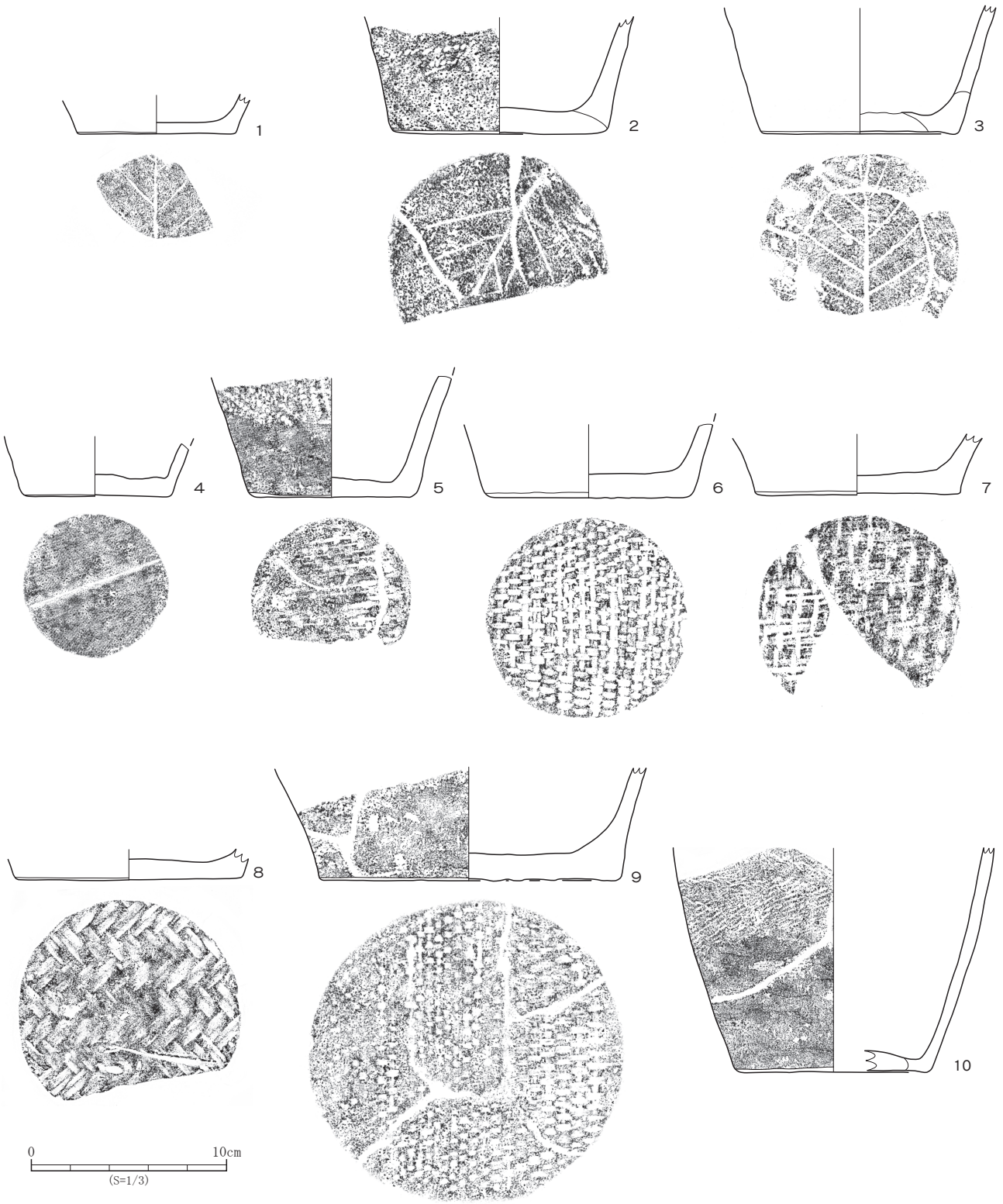
№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-44	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢・突起	隆線文・沈線文	内外面黒色物付着。	23-5
2	A-62	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 柱状突起・橋状把手・隆線文・沈線文	貫通孔１ヶ所あり、胎土に金雲母混入。	23-6
3	A-50	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・円盤状突起・隆線文　口唇部 - 鰭状隆線文	外面炭化物付着。	23-7
4	A-85	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・隆線文・刺突文・沈線文 •LR 縄文　口縁部内面に沈線文	胎土に金雲母混入。A-124 と同一。	23-8
5	A-124	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文区画・隆線文・沈線文・刺突文 •LR 縄文	胎土に金雲母混入。A-85 と同一。	23-9
6	A-89	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 外面：隆線文・沈線文　内面：沈線文	内面炭化物付着。	23-10
7	A-86	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 隆線文・刺突文 •LR 縄文		23-11
8	A-106	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・沈線文区画・刺突文　口唇部 -LR 縄文	内外面炭化物付着。	23-12
9	A-83	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 刺突文・沈線文 •LR 縄文		23-13
10	A-109	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -LR 縄文 •LR 縄文側面押圧		23-14
11	A-100	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -RL 縄文 •RL 縄文側面押圧		23-15
12	A-69	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -LR 縄文 •LR 縄文側面押圧		-
13	A-118	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -RL 縄文側面押圧		23-16
14	A-68	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁 •LR 縄文		23-17
15	A-87	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 波状口縁 •LR 縄文　波頂部 - 有刻		23-18

第 44 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土土器（３）



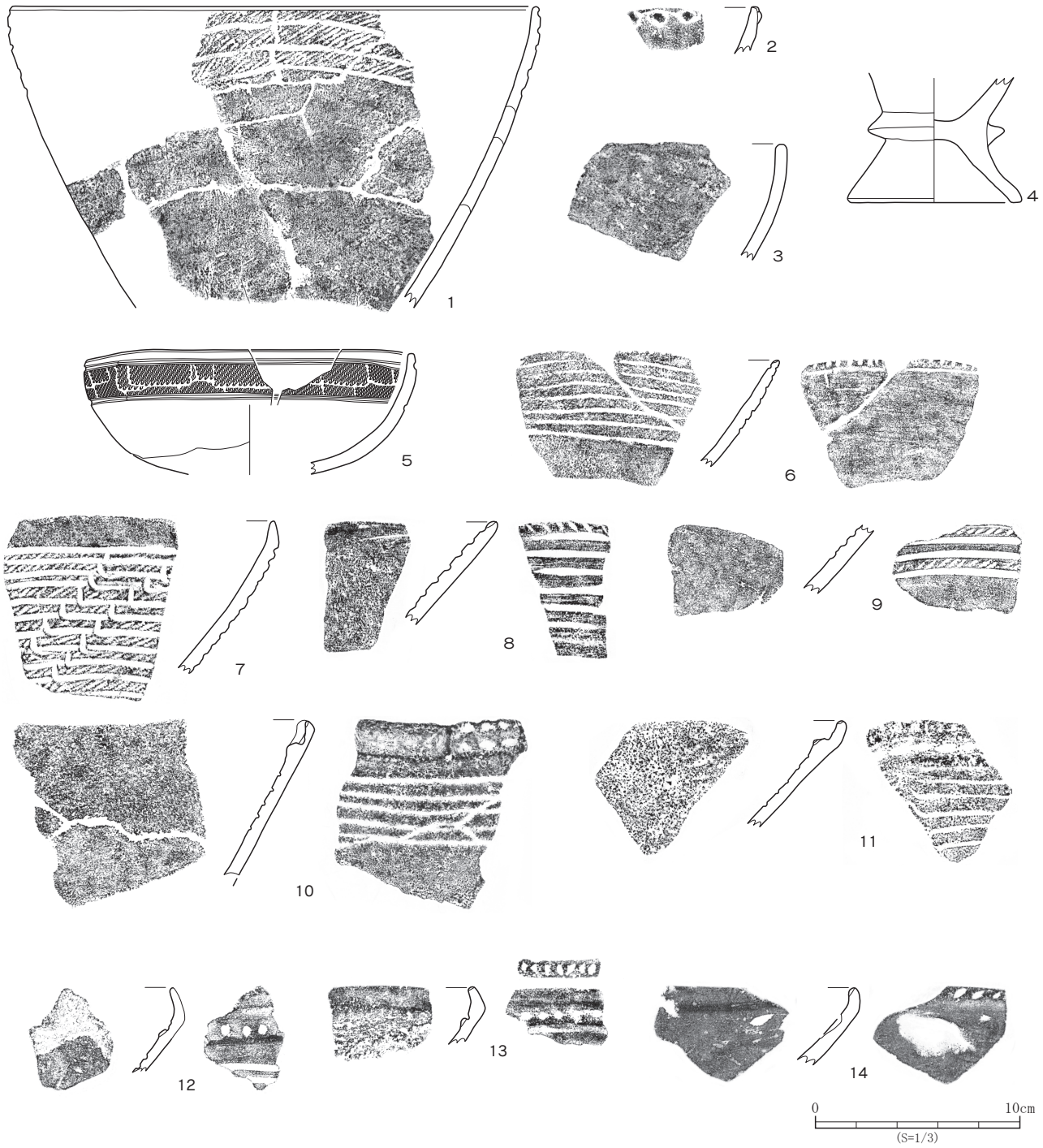
№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-88	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -RL 縄文		23-19
2	A-107	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -RL 縄文		23-20
3	A-93	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -RL 縄文		23-21
4	A-78	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 不明	内外面摩滅。	23-22
5	A-70	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -RL 縄文		23-23
6	A-74	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -LR 縄文		23-24
7	A-127	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -RL 縄文		24-1
8	A-73	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -RLR 縄文		24-2
9	A-114	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -RL 縄文	内外面摩滅。	24-3
10	A-155	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -L 撚糸文		24-4
11	A-96	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -LR 縄文		24-5
12	A-90	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - ミガキ　口唇部 - 有刻	胎土に金雲母混入、A-158 と同一。	24-6
13	A-132	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 波状口縁・山形突起 •LR 縄文？　底部 - 不明	外面摩滅。	24-7
14	A-104	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁 •LR 縄文		24-8
15	A-97	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -LR 縄文		24-9
16	A-80	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -RL 縄文		24-10
17	A-116	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -LR 縄文		24-11

第 45 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土土器（4）



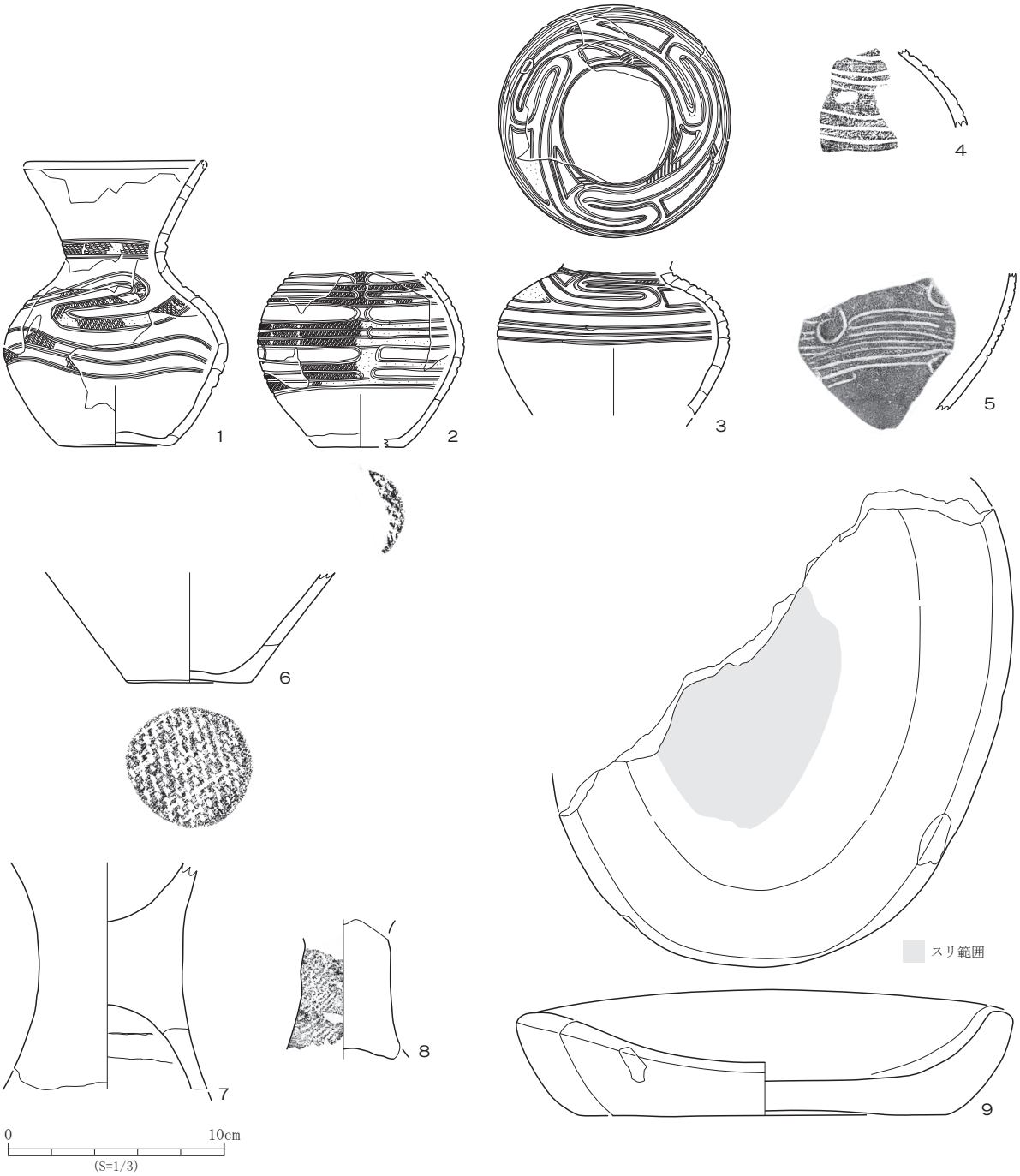
№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-58	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - ミガキ　底部 - 木葉痕		-
2	A-133	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 -LR 縄文　底部 - 木葉痕		-
3	A-131	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 不明　底部 - 木葉痕	胎土に金雲母混入、内外面摩滅。	-
4	A-129	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - ミガキ　底部 - 網代痕		-
5	A-75	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 -RL 縄文　底部 - 網代痕		24-12
6	A-128	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - ミガキ　底部 - 網代痕		-
7	A-47	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - ミガキ　底部 - 網代痕		-
8	A-48	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - ミガキ　底部 - 網代痕		-
9	A-110	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 - ミガキ　底部 - 網代痕		-
10	A-113	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	胴部 -LR 縄文　底部 - 網代痕？		24-13

第 46 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土土器（５）



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-34	7A	SX18	-	縄文土器	鉢	口縁部 - 沈線文区画 •LR 縄文　胴部 - ミガキ		24-16
2	A-67	7A	SX18	-	縄文土器	鉢	口縁部 - ミガキ・粘土粒貼付		24-14
3	A-95	7A	SX18	-	縄文土器	鉢	口縁部 - ミガキ		-
4	A-120	7A	SX18	-	縄文土器	台付鉢	胴～台部 - 隆線文		24-15
5	A-39	7A	SX18	-	縄文土器	浅鉢	口縁部 - 沈線文区画 •LR 縄文　胴～底部 - ミガキ		24-17
6	A-121	7A	SX18	-	縄文土器	浅鉢	口縁部 - 外面：沈線文 •LR 縄文　内面：沈線文　口唇部 - 有刻		24-18
7	A-33	7A	SX18	-	縄文土器	浅鉢	口縁部 -「クランク」状文 •LR 縄文	外面に赤色顔料？付着。	24-19
8	A-56	7A	SX18	-	縄文土器	浅鉢	口縁部 - 外面：ミガキ　内面：沈線文　口唇部 - 有刻		24-20
9	A-52	7A	SX18	-	縄文土器	浅鉢	胴部 - 外面：ミガキ　内面：沈線文 •LR 縄文		24-21
10	A-136	7A	SX18	-	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部 - 波状口縁？・隆線文区画・沈線文・刺突文 口唇部 - 有刻		24-22
11	A-43	7A	SX18	-	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部 - 外面：ミガキ　内面：有刻隆線文区画・沈線文・刺突文　口唇部 - 有刻		24-23
12	A-53	7A	SX18	-	縄文土器	浅鉢	口縁部 - 外面：ミガキ　内面：隆線文区画・沈線文・刺突文	外面剝落。	24-24
13	A-55	7A	SX18	-	縄文土器	浅鉢	口縁部 - 外面：ミガキ　内面：隆線文区画・刺突文　口唇部 - 有刻		24-25
14	A-57	7A	SX18	-	縄文土器	浅鉢	口縁部 - ミガキ　口唇部 - 有刻		24-26

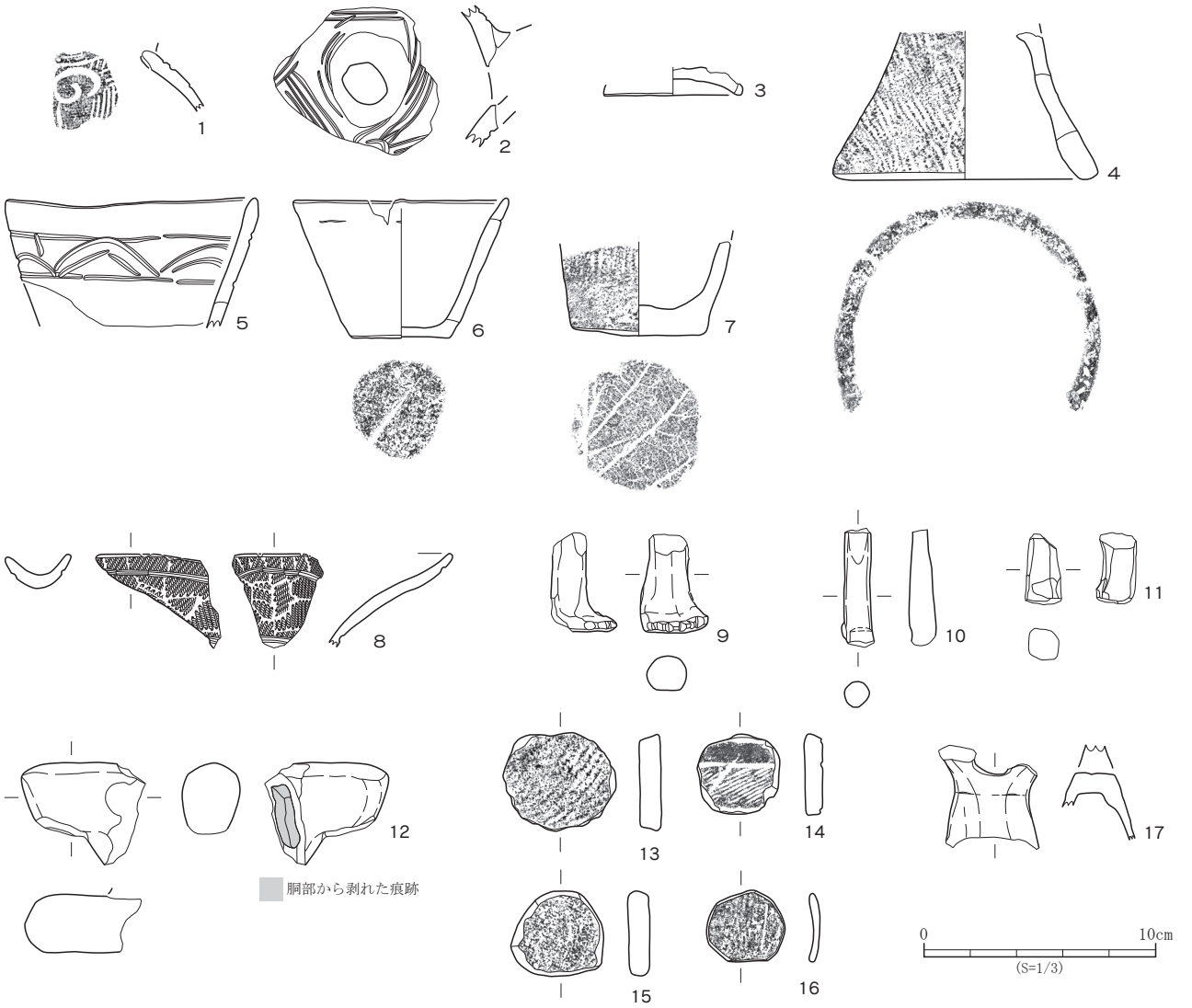
第 47 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土土器（6）



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-117	7A	SX18	-	縄文土器	壺	口縁～胴部 - 沈線文区画・逆Ｓ字状文 •LR 縄文　底部 - ナデ	内外面摩滅。	24-27
2	A-65	7A	SX18	-	縄文土器	壺	胴部 - 沈線文区画・楕円形状文 •LR 縄文　底部 - 網代痕	内面摩滅。	24-28
3	A-35	7A	SX18	-	縄文土器	壺	胴部 - 沈線文区画・Ｓ字状・三角状文 •L 縄文		25-1
4	A-24	7A	SX18	-	縄文土器	壺	胴部 - 沈線文区画 •LR 縄文		25-2
5	A-61	7A	SX18	-	縄文土器	壺	胴部 - 沈線文		25-3
6	A-84	7A	SX18	-	縄文土器	壺？	胴部 - ミガキ　底部 - 網代痕		-
7	A-108	7A	SX18	-	縄文土器	脚付土器	脚部 - ミガキ		25-4
8	A-36	7A	SX18	-	縄文土器	脚付土器	脚部 -RL 縄文		25-5
9	A-122	7A	SX18	-	縄文土器	皿	ナデ	内面中央に磨面あり、内外面被熱・摩滅。	25-6

第 48 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土土器（7）

充填縄文手法により文様が施文されている口縁部～胴部片で、13 ～ 18 は口縁部と胴部の境が括れ、口縁部が外反する。口縁部形態は、12 ～ 14 が平口縁、15 ～ 18 が波状口縁である。13 は横位に展開する「クランク」状文が施文されている。15・16 は同一個体で、16 の胴部には径 5 ㎜の穿孔がある。第 43 図 1 ～ 5 は沈線文間に地文が施



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-59	7A	SX18	-	縄文土器	注口土器	胴部 - 沈線文・条線文		25-7
2	A-60	7A	SX18	-	縄文土器	注口土器	胴部 - 沈線文		25-8
3	A-66	7A	SX18	-	縄文土器	台付土器	台部 - ミガキ		-
4	A-125	7A	SX18	-	縄文土器	台付土器	台部 -RL 縄文　端部 - 網代痕		25-9
5	A-102	7A	SX18	-	縄文土器	小型土器	口縁～胴部 - 沈線文区画・沈線文	内面煤状炭化物付着。	25-10
6	A-94	7A	SX18	-	縄文土器	小型土器	口縁～胴部 - 山形小突起・ミガキ　底部 - 木葉痕		25-11
7	A-126	7A	SX18	-	縄文土器	小型土器	胴部 -RL 縄文　底部 - 木葉痕	胎土に金雲母混入。	-
8	A-45	7A	SX18	-	縄文土器	不明	口縁部～胴部 - 沈線文 •LR 縄文		25-12
9	P-8	7A	SX18	-	土製品	土偶	脚部 - ミガキ		25-13
10	P-9	7A	SX18	-	土製品	土偶	腕部 - ナデ		25-14
11	P-10	7A	SX18	-	土製品	土偶	脚部 - ナデ		25-15
12	P-19	7A	SX18	-	土製品	土偶	胴～肩部 - ナデ・ミガキ	右胸剝落、胴部から剝れた部分に炭化物付着。	25-16
13	P-5	7A	SX18	-	土製品	土製円盤	LR 縄文	43 × 49 × 9㎜　22.2g	25-17
14	P-6	7A	SX18	-	土製品	土製円盤	沈線文 •L 縄文	35 × 35 × 8㎜　14.2g	25-18
15	P-7	7A	SX18	-	土製品	土製円盤	不明　摩滅顕著	37 × 39 × 10㎜　16.7g	25-19
16	P-18	7A	SX18	-	土製品	土製円盤	不明　胎土に金雲母混入	30 × 34 × 4㎜　5.1g	25-20
17	P-4	7A	SX18	-	土製品	鐸形土製品 or 土鈴	ミガキ		25-21

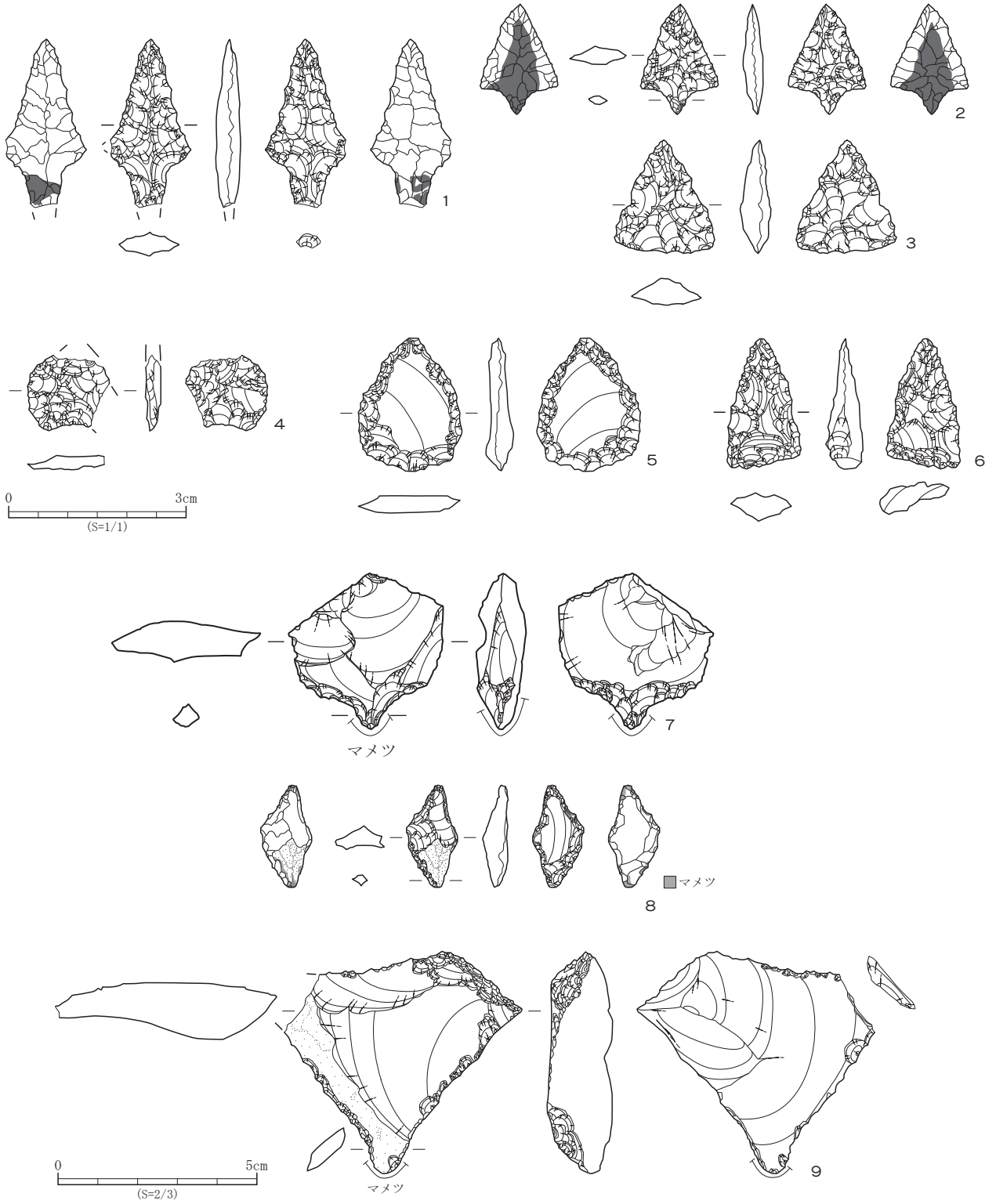
第 49 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土土器（8）・土製品

文される胴部片である。6 ～ 8 は口縁部が横位の平行沈線で幅広く区画される一群である。いずれも平口縁である。7・8 は地文が丁寧に磨り消されている。9 は波状口縁で、内面には口縁端部に平行する沈線文が施文される。第 44 図 1 ～ 3 は突起で、1 は内外面を環状に巡る隆線文、2 は柱状突起・橋状把手、3 は円盤状突起・鰭状隆線文などの立体装飾がみられる。4・5 は同一個体片で、隆線文上に平行した長い刺突文のほか、意匠は不明だが磨消縄文による文様が施文される。 6 は隆線文上に沈線文が施文される。 7 は口縁部と胴部を区画する隆線文上と口縁部に刺突文が

施文される。８は沈線文で区画された口縁部に刺突文、口唇部にＬＲ縄文が回転施文される。９は沈線文上に刺突文が施文される。10 ～ 15 及び第 45 図は沈線文や隆線文、刺突文が施文されない群で第 45 図２を除き、外面は地文のみが施文される。第 44 図 10 ～ 13 は口縁部と胴部の境に縄文原体が押圧され、口縁部は無文となる。第 44 図 15 は波頂部に２個の刻目がある。第 45 図 12 は外面無文で口唇部に刻目を持つ。SX45 出土 A-158（第 57 図３）と同一個体である。第 45 図 13 は４単位の波状口縁で、波頂部には山形突起が付く。第 46 図は底部で、１～３に木葉痕、４～９に網代痕がみられる。第 47 図１～３は鉢である。１は底径の小さい深鉢の可能性もある。２は口縁部直下に粘土粒が貼付される。４は台付鉢の胴部から台部片で、胴部と台部の境に隆線文が施文される。５～ 14 は浅鉢である。５は丸底の底部から緩やかに内弯して立ち上がる。口縁部は沈線文で区画され、ＬＲ縄文が回転施文される。６～ 12 は平行沈線文が施文される一群である。器形は体部から口縁部まで直線的に外傾するもの、体部は直線的に外傾して口縁部が短く直立気味に屈曲するもの、口縁部が内傾するものに三大別される。文様は沈線文のみが施文されるもののほかに口唇部に刻みを持つもの、内面に沈線文のほかに隆線文や刺突文が施文されるものがあり、これらの器形・文様には多様な組み合わせが認められる。第 48 図１～５は壺である。１～３はいずれも沈線文で区画された文様帯を胴部上半に持つ。１には逆Ｓ字状文、２には楕円形状文、３にはＳ字状文と三角状文の組み合わせが、それぞれ３単位施文される。４・５の詳細は不明だが、いずれも横位に平行する沈線文が施文され、５は円形の沈線文が組み合わされる。第 48 図６は底部に網代痕がみられる壺の可能性がある。第 48 図７・８は脚付土器の脚部で、８の外面には地文がみられる。第 48 図９は皿で、片口状を呈し、底部内面中央には磨面がみられる。第 49 図１・２は注口土器片である。３・４は台付土器の台部片である。４は端部に網代痕がみられる。５～７は小型土器である。５は平行沈線文による区画内に、横位に展開する弧状の沈線文が施文される。６は１もしくは２単位の山形小突起を持つ。７は底部に木葉痕がみられる。８は器種不明の口縁部片で、片口の可能性があり、地文と沈線文が施文される。９～ 12 は土偶片である。９は右脚と考えられ、刻目により足指を表現している。10 は腕、11 は左脚と考えられる。12 は胴から右肩で、胴側の欠損部に接合痕と考えられる窪みがある。13 ～ 16 は土製円盤である。いずれも縄文土器の胴部片を素材としている。17 は鐸形土製品もしくは土鈴の鈕部片と考えられる。

SX18 遺物包含層出土石器（第 50 ～ 54 図、図版 25・26）

打製石器 20 点、礫石器３点、石製品３点を図示した。第 50 図１～６は石鏃である。１・２は有茎鏃で、１は基部に、２は身部の表裏面中央に黒色付着物がみられる。３は平基鏃である。４は凹基鏃で、基部の抉りは浅く、尖端部と右脚部を欠損している。５は円基鏃で、周縁にのみ二次加工が施されており、表裏面に素材剥片の剥離面が残存している。６は素材剥片の下半部の厚さが影響し、身部は二等辺三角形状に整形されているものの、基部の製作が途中の未成品と考えられる。７～９は石錐である。７は表裏面の複数縁辺に二次加工を施し、下端部に錐部が作出されている。錐部は断面形が菱形で、全体的にマメツしている。８は上下の尖端部にマメツがみられることから、どちらも錐部として使用された可能性がある。９は厚みのある素材剥片の複数縁辺に二次加工を施し錐部が作出されている。第 51 図１～５は石匙である。１～３は縦型で、２はつまみの抉りが浅く、撫肩状となっている。未成品と考えられる。３は石刃状の縦長剥片を素材としている。つまみは抉りが浅く、表面には自然面が残存している。４は横型石匙である。５は身部の大部分を欠損している。第 51 図６・７は削器である。６は表裏面の複数縁辺に二次加工が施され、右側縁に刃部が形成されている。７は自然面が広く残存する。素材剥片の両側縁から形状を大きく変えない程度に二次加工が施されている。左側縁の下半部には微細剥離痕が観察される。第 52 図１は掻器で、裏面からの剥離によって刃部が形成されている。裏面右側の剥離は素材剥片の打面を除去した際のものと考えられる。第 52 図２は RF で、表面の下半部が火ハネした後、下端縁の一部に二次加工が施される。第 52 図３は楔形石器で、周縁に剥離調整が施される。第 52 図４は石核で、５面で剥片剥離作業が行われている。第 53 図１・２は凹痕が観察される礫石器、第 53 図３は凹痕と敲打痕が複合して観察される礫石器である。いずれも二面の中央部が主に使用されている。第 53 図４は石錘である。扁平な楕円礫の短軸両側縁に敲打と剥離調整による浅い抉りが作出されている。第 53 図５・第 54 図１は敲打により縁を持つ成形石皿である。

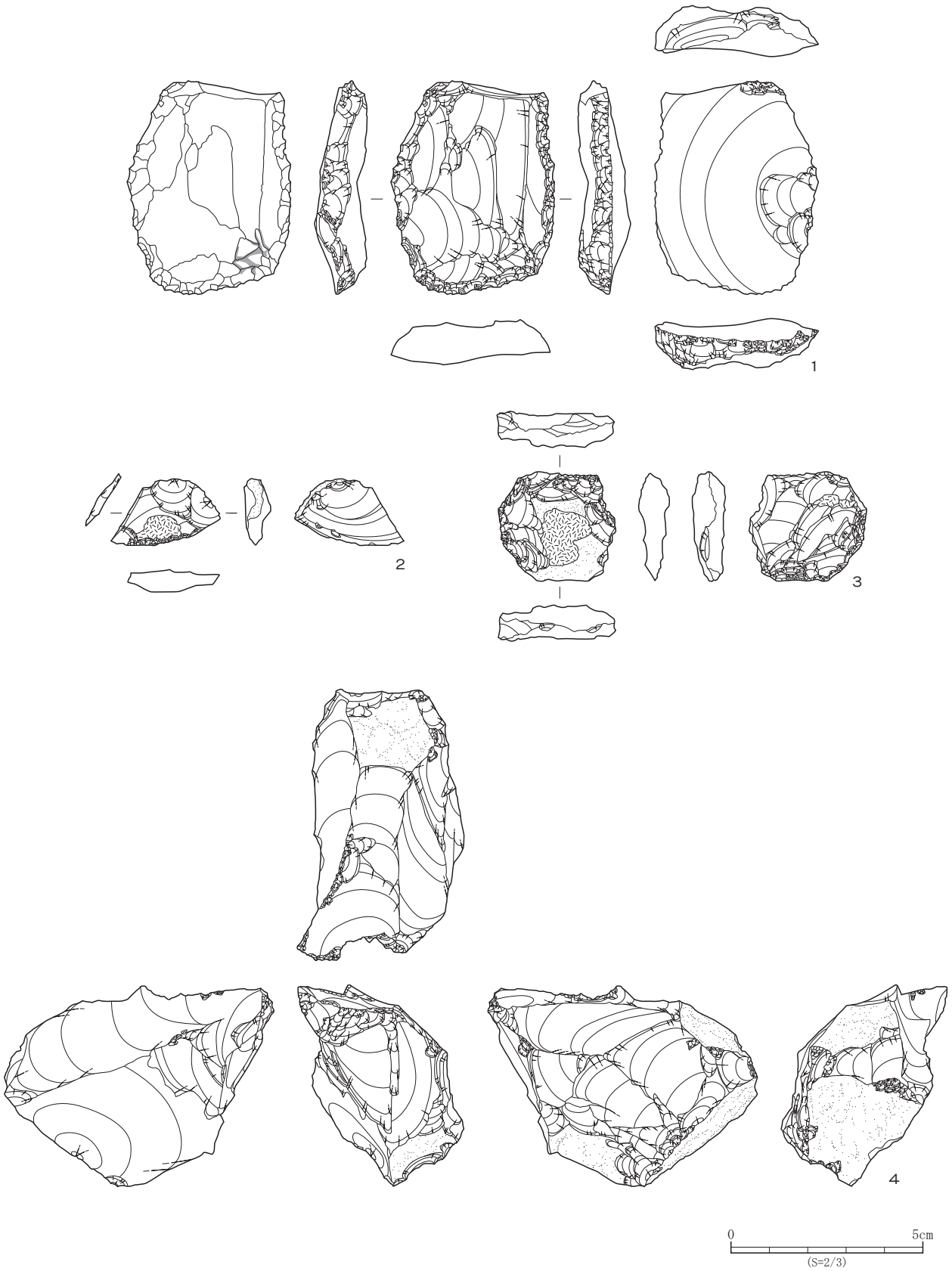


№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Ka-a1-2	7A	SX18	-	打製石器	石鏃	珪質頁岩	(2.9) × 1.4 × 0.4　(1.12)	有茎鏃、基部端部欠損。	25-22
2	Ka-a1-3	7A	SX18	-	打製石器	石鏃	流紋岩	1.9 × 1.4 × 0.4　0.47	有茎鏃、黒色付着物あり。	25-23
3	Ka-a2-1	7A	SX18	-	打製石器	石鏃	玉髄	1.9 × 1.7 × 0.6　1.23	平基鏃。	25-24
4	Ka-a3-1	7A	SX18	-	打製石器	石鏃	珪質頁岩	(1.3) × (1.4) × 0.3　(0.49)	凹基鏃、尖端部及び右脚部欠損。	25-25
5	Ka-a4-1	7A	SX18	-	打製石器	石鏃	流紋岩	2.3 × 1.8 × 0.5　1.62	円基鏃。	25-26
6	Ka-a4-2	7A	SX18	-	打製石器	石鏃	珪質頁岩	2.2 × 1.3 × 0.6　1.36	未成品。	25-27
7	Ka-c2-1	7A	SX18	-	打製石器	石錐	珪質頁岩	3.0 × 3.0 × 1.0　6.13	摩滅あり。	25-28
8	Ka-c3-1	7A	SX18	-	打製石器	石錐	珪質頁岩	2.6 × 1.3 × 0.7　1.63	摩滅あり。	25-29
9	Ka-c3-2	7A	SX18	-	打製石器	石錐	珪質頁岩	5.6 × 6.0 × 1.7　36.06	摩滅あり。	25-30

第 50 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土石器（1）

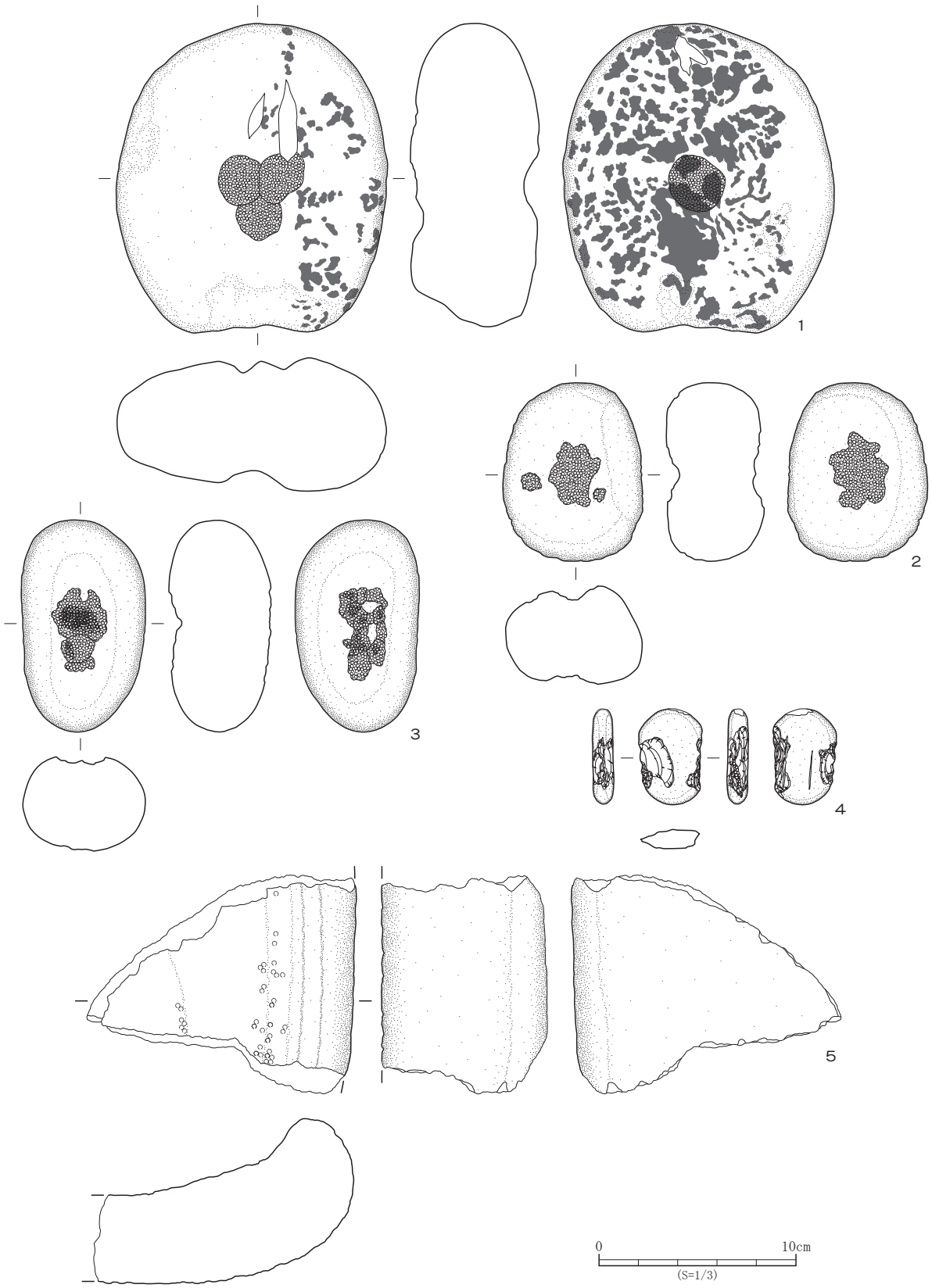
№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Ka-d1-1	7A	SX18	-	打製石器	石匙	珪質頁岩	5.8 × 3.5 × 1.4　14.22	縦型、二重パティナあり、摩滅あり。	25-31
2	Ka-d1-2	7A	SX18	-	打製石器	石匙	珪質頁岩	5.0 × 4.4 × 2.6　42.03	縦型、未成品。	26-1
3	Ka-d1I-1	7A	SX18	-	打製石器	石匙	珪質頁岩	(5.7) × 1.8 × 0.7　(7.84)	縦型、末端部欠損、石刃状剥片素材。	26-2
4	Ka-d2-2	7A	SX18	-	打製石器	石匙	珪質頁岩	3.6 × 4.0 × 1.1　9.98	横型。	26-3
5	Ka-d3-1	7A	SX18	-	打製石器	石匙	珪化凝灰岩	(1.4) ×（2.7) × 0.9　(2.09)	つまみ部のみ残存。	26-4
6	Ka-e1-1	7A	SX18	-	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	2.8 × 1.9 × 0.8　4.15	削器。	26-5
7	Ka-e1-2	7A	SX18	-	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	6.6 × 5.6 × 1.8　60.39	削器。	26-6

第 51 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土石器（２）



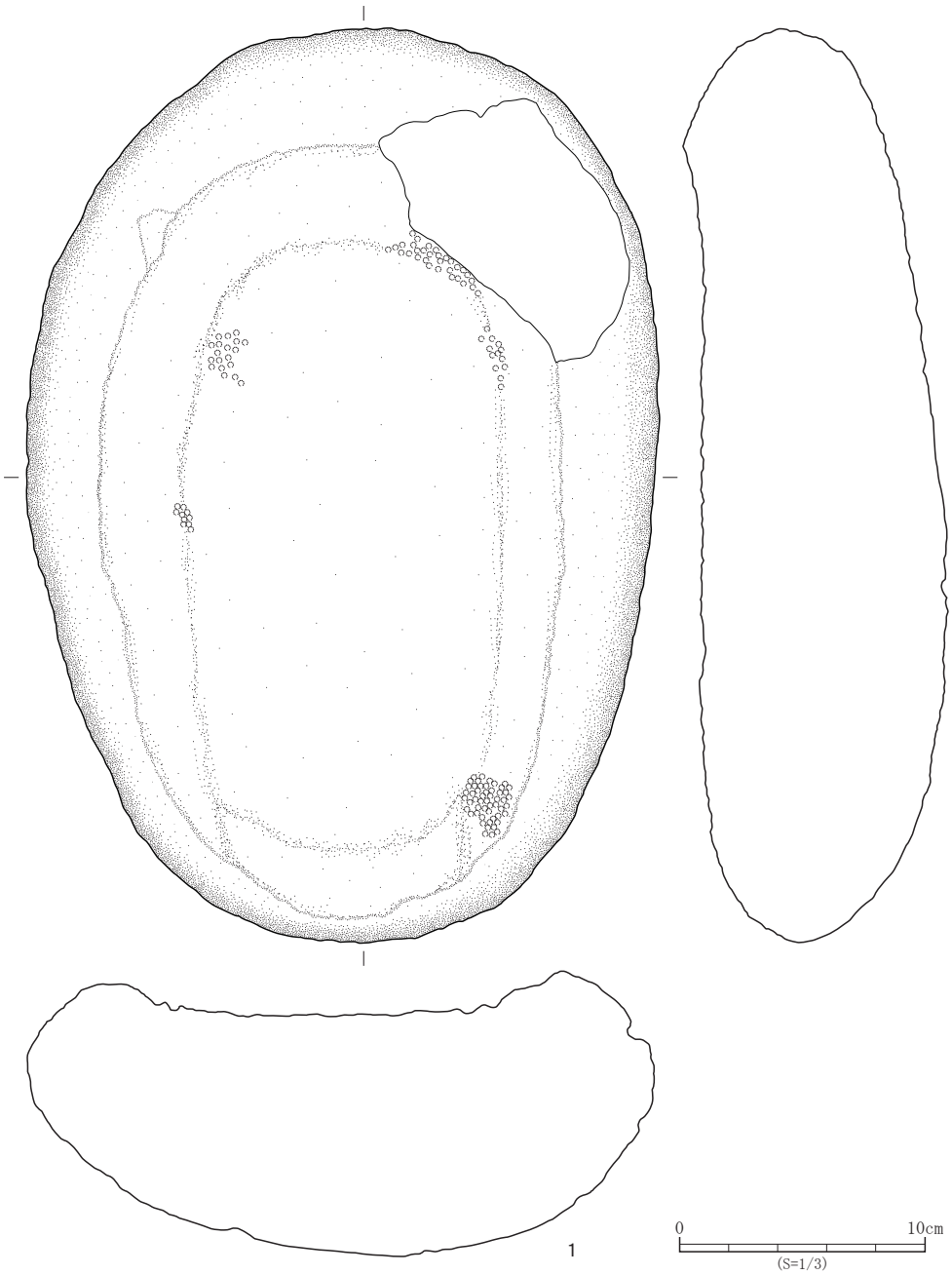
№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Ka-e2-1	7A	SX18	-	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	5.6 × 4.3 × 1.4　34.4	掻器、摩滅あり。	26-7
2	Ka-e6-1	7A	SX18	-	打製石器	不定形石器	玉髄	1.8 × 2.9 × 0.7　2.61	RF。	26-8
3	Ka-h-1	7A	SX18	-	打製石器	楔形石器	珪質頁岩	2.9 × 3.1 × 0.9　8.44		26-9
4	Ka-m-1	7A	SX18	-	打製石器	石核	珪化凝灰岩	5.3 × 4.4 × 7.0　130.78		26-10

第 52 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土石器（３）



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Kc-b1-2	7A	SX18	-	礫石器	凹	石英安山岩質凝灰岩	15.7 × 13.8 × 6.7　1132.78	凹表 3+ 裏 1、黒色付着物あり。	26-11
2	Kc-b1-1	7A	SX18	-	礫石器	凹	安山岩	9.1 × 7.2 × 5.0　435.03	凹表 3+ 裏 1。	26-12
3	Kc-b2-1	7A	SX18	-	礫石器	凹＋敲	石英安山岩	10.8 × 6.3 × 5.1　471.94	凹表 1、敲表 2+ 裏 11。	26-13
4	Kd-i-1	7A	SX18	-	石製品	石錘	石英安山岩質凝灰岩	4.9 × 3.3 × 1.1　23.29		26-14
5	Kd-j-2	7A	SX18	-	石製品	石皿	安山岩	(11.1) × (13.7) × (8.4)　(1033.86)	成形石皿、破片。	26-15

第 53 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土石器（４）

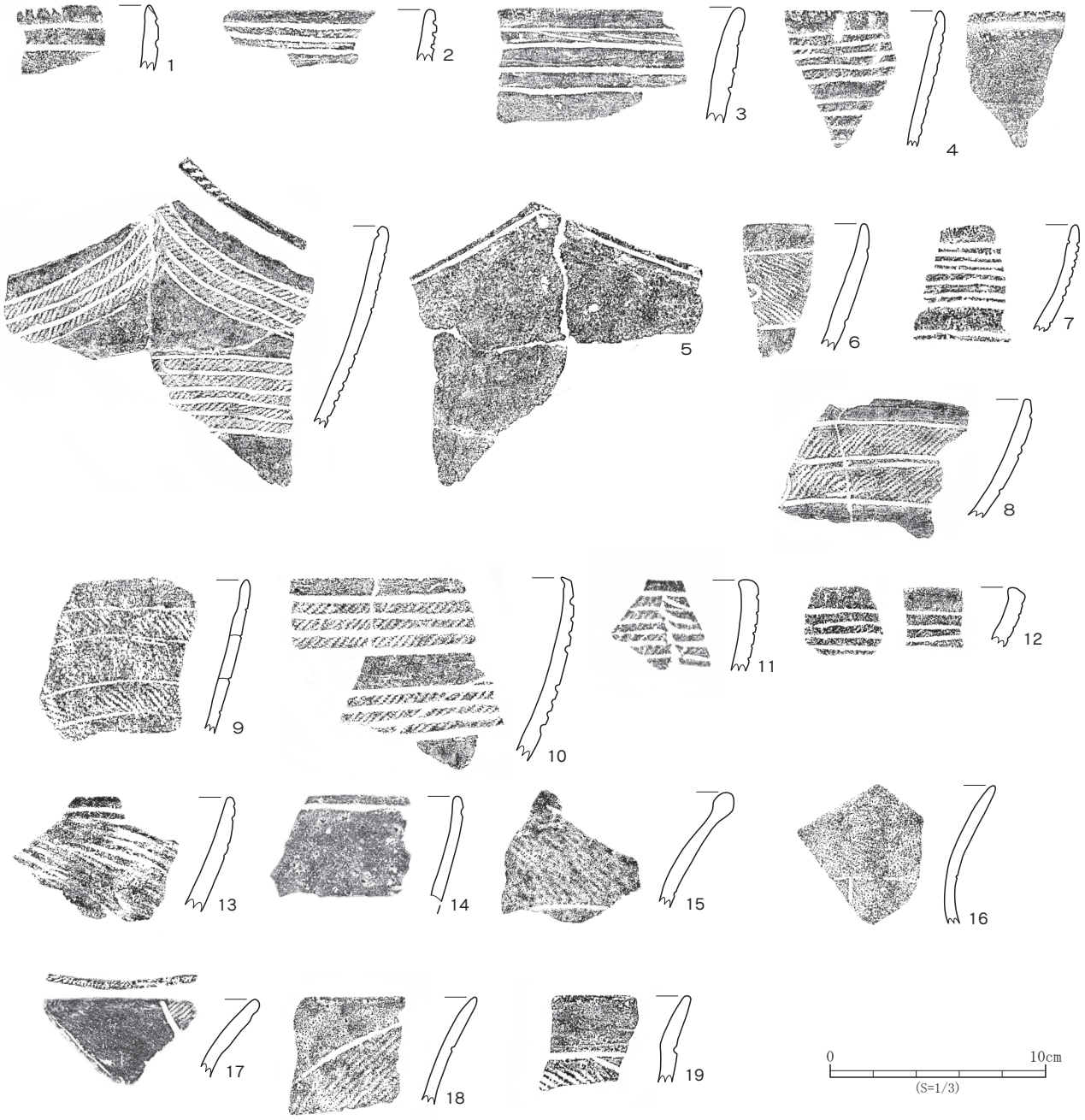


№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Kd-j-1	7A	SX18	-	石製品	石皿	安山岩	37.7 × 25.7 × 12.0　12,200	成形石皿。	26-16

第 54 図　ＳＸ 18 遺物包含層出土石器（５）

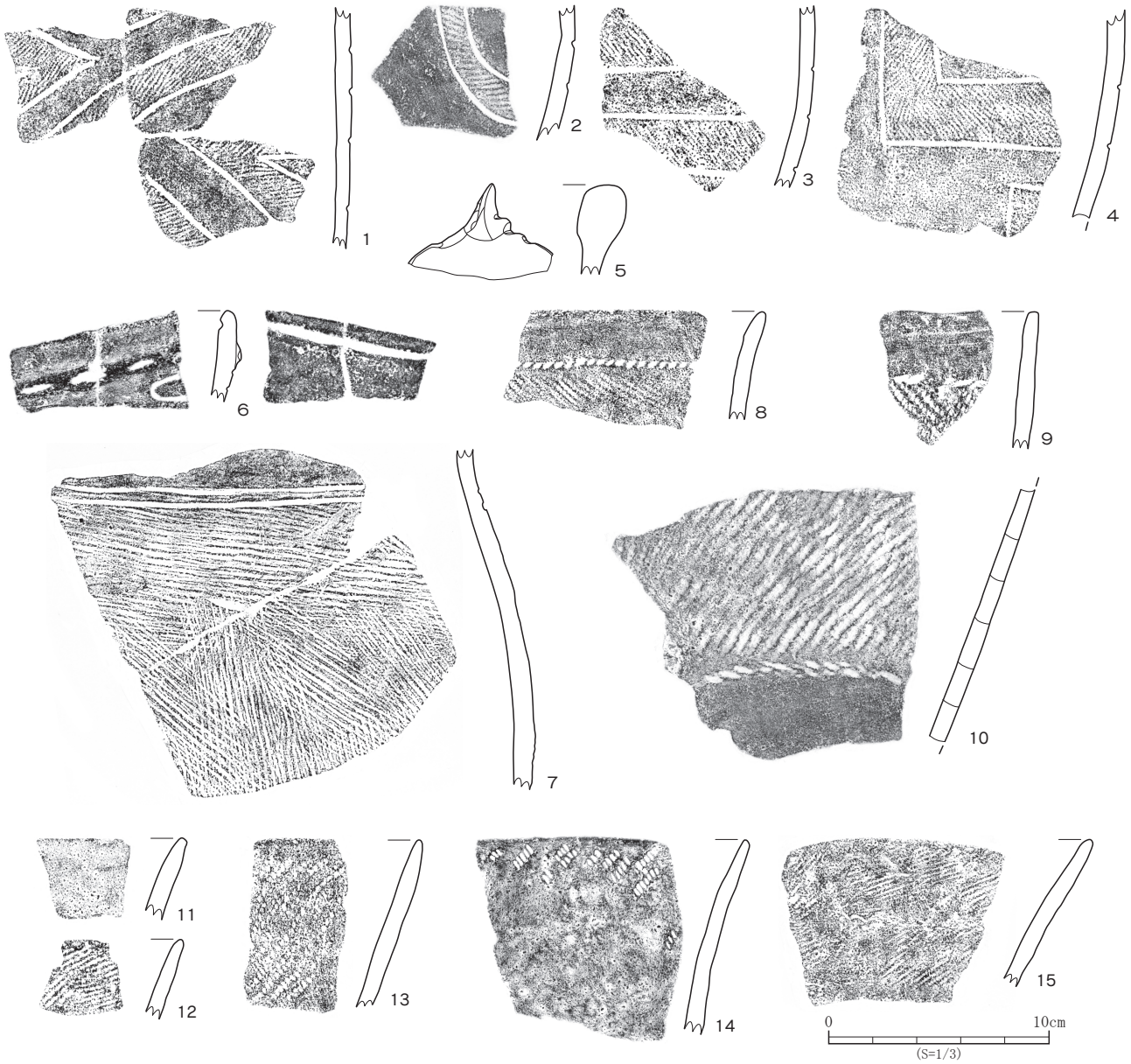
SX45 遺物包含層出土土器・土製品（第 55 ～ 58 図、図版 27・28）

縄文土器 54 点、土製品 6 点を図示した。第 55・56 図及び 57 図 1 ～ 11 は深鉢である。第 55 図 1 ～ 19 は沈線文が施文される口縁部片で、 5 は波頂部の口唇部に縄文原体が押圧される。SX18 出土 A-64（第 42 図 1）及びⅦ層 SX47 出土 A-140（第 69 図 1）と同一個体の可能性がある。第 56 図 1 ～ 4 は充填縄文手法により文様が施文された胴部片である。5 は団扇状小突起が付く口縁部片で、左側面に刺突文、口唇部右側に刻目が施される。6 は波状口縁に平行する隆線文上に長い刺突文が施文される。7 は口縁部と胴部の境に 2 条の平行沈線文が施文される。8・9 は口縁部と胴部の境に、10 は胴部下端の無文部と地文部を区画する縄文原体が押圧される。第 57 図 6・7 は底部に木葉痕、8 ～ 10 は底部に網代痕がみられる。12 ～ 14 は浅鉢である。12 は半球形で口縁部直下に穿孔がある。13･14 は口縁部片で、13 は平行沈線文が施文される。14 は外面が無文で、口唇部に刻目、口縁部内面直下に沈線文、隆線文、刺突文が施文される。第 58 図 1 ～ 3 は壺である。3 は胴部片で沈線文の変化点に刺突文が施文される。4



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-143	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文・LR 縄文？　口唇部 - 有刻		27-1
2	A-166	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文・RL 縄文		-
3	A-174	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文		27-2
4	A-154	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文・LR 縄文　内面に沈線文		27-3
5	A-167	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 波状口縁・沈線文区画・LR 縄文　口唇部 -LR 縄文側面押圧	胎土に金雲母混入、波頂部突起剝落、A-64・140 と同一？	27-4
6	A-182	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画・沈線文・RL 縄文		27-5
7	A-191	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 沈線文		27-6
8	A-144	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画・沈線文・LR 縄文		27-7
9	A-141	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 沈線文区画・RL 縄文		27-8
10	A-101	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 沈線文区画・LR 縄文　口縁部内面に沈線文	胎土に金雲母混入。	27-10
11	A-151	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文・LR 縄文		27-9
12	A-175	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文・LR 縄文？		-
13	A-161	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文		27-11
14	A-159	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文		-
15	A-145	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・突起・沈線文・RL 縄文	内外面摩滅。	27-12
16	A-149	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・沈線文・RL 縄文		27-13
17	A-150	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画・LR 縄文　口唇部 -LR 縄文	A-79 と同一？	27-14
18	A-147	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文・LR 縄文		27-15
19	A-156	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文・RL 縄文	外面炭化物付着。	27-16

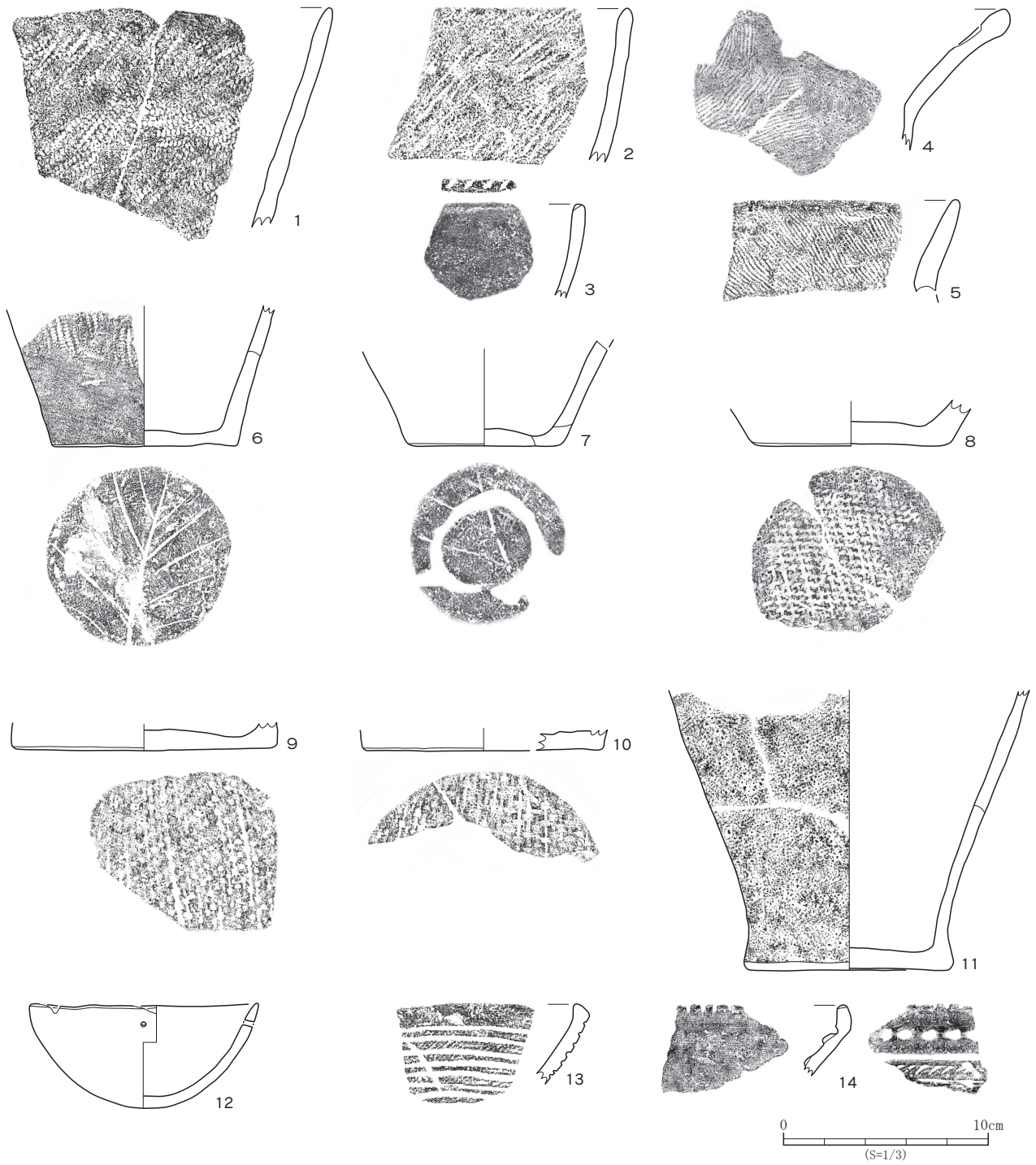
第 55 図　ＳＸ 45 遺物包含層出土土器（1）



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-181	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文区画 •LR 縄文		27-17
2	A-146	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文区画 •LR 縄文		27-18
3	A-171	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文区画 •RL 縄文		-
4	A-193	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	胴部 -「クランク」状文 •RL 縄文		27-19
5	A-186	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・団扇状小突起　突起側面 - 刺突文・有刻	胎土に金雲母混入。	27-20
6	A-160	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・隆線文・刺突文・沈線文 •LR 縄文　口縁部内面に沈線文	胎土に金雲母混入。	27-21
7	A-190	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 沈線文・１撚糸文		27-22
8	A-177	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -RL 縄文 •RL 縄文側面押圧		27-23
9	A-142	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -RL 縄文 •RL 縄文側面押圧		27-24
10	A-162	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	胴部 -LR 縄文 •LR 縄文側面押圧		27-25
11	A-138	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 不明	内外面摩滅。	-
12	A-183	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -LR 縄文		-
13	A-179	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -LR 縄文		27-26
14	A-152	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -LR 縄文	外面摩滅。	27-27
15	A-157	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -LR 縄文		27-28

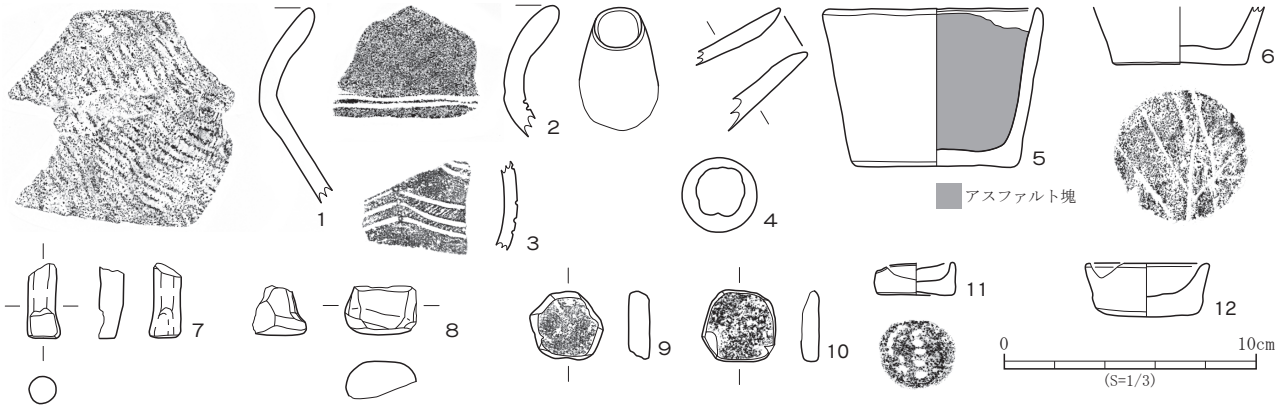
第 56 図　ＳＸ 45 遺物包含層出土土器（2）

は注口土器の注口部片である。5・6 は小型土器である。5 は内面にアスファルト塊が遺存しており、アスファルトを入れる容器として使用されていたことがわかる好資料である。7•8 は土偶片である。7 は右腕、8 は右脚である。9•10 は土製円盤である。いずれも縄文土器の胴部片を素材としている。11・12 はミニチュア土器である。11 は底部に網代痕がみられる。



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-187	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -LR 縄文		27-29
2	A-153	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -LR 縄文		27-30
3	A-158	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - ミガキ　口唇部 - 有刻	胎土に金雲母混入、A-90 と同一。	-
4	A-188	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・山形突起 •LR 縄文		27-31
5	A-170	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部 -RL 縄文		-
6	A-173	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	胴部 -RL 縄文　底部 - 木葉痕		-
7	A-185	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	胴部 - ナデ　底部 - 木葉痕		-
8	A-139	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	胴部 - ミガキ　底部 - 網代痕		-
9	A-184	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	底部 - 網代痕		-
10	A-176	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	底部 - 網代痕		-
11	A-192	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	胴部 -LR 縄文　底部 - 網代痕	内外面摩滅。	27-32
12	A-163	7A	SX45	-	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部 - 無文	貫通孔 1 ヶ所あり。丸底。	27-33
13	A-194	7A	SX45	-	縄文土器	浅鉢	口縁部 - 沈線文・LR 縄文		27-34
14	A-148	7A	SX45	-	縄文土器	浅鉢	口縁部 - 外面：ミガキ　内面：隆線文・沈線文・刺突文 口唇部 - 有刻		27-35

第 57 図　ＳＸ 45 遺物包含層出土土器（３）

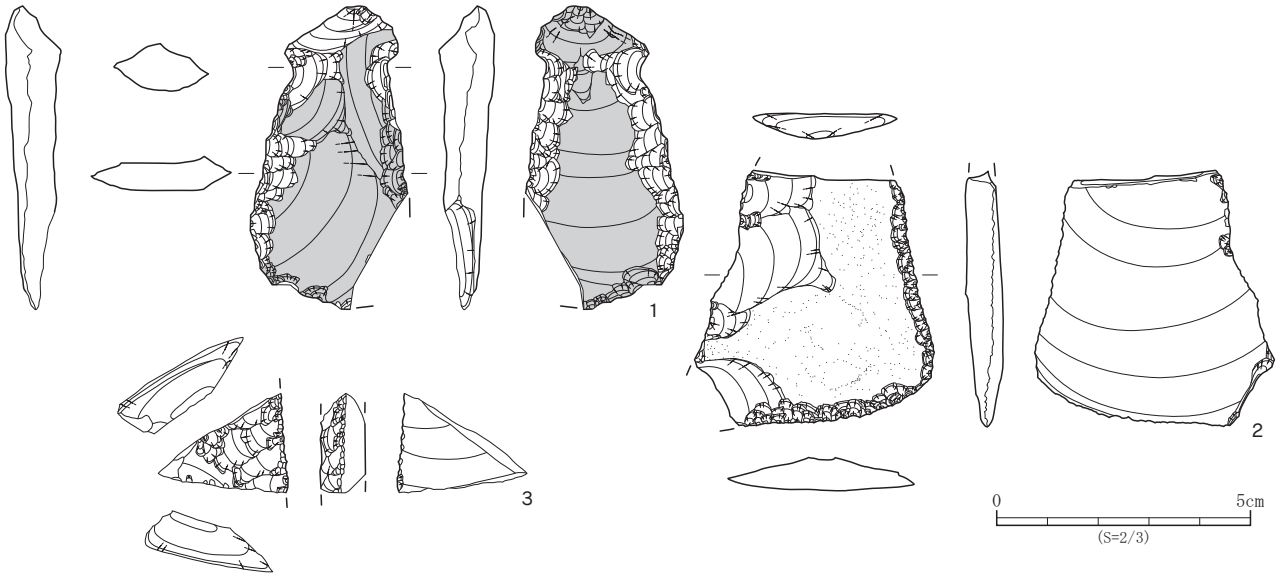


No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-172	7A	SX45	-	縄文土器	壺	口縁部 -RL 縄文		28-1
2	A-168	7A	SX45	-	縄文土器	壺	口縁部 - 波状口縁・沈線文		-
3	A-169	7A	SX45	-	縄文土器	壺	胴部 - 沈線文・刺突文 •LR 縄文		-
4	A-164	7A	SX45	-	縄文土器	注口土器	注口部 - ミガキ		28-2
5	A-178	7A	SX45	-	縄文土器	小型土器	口縁～胴部 - ナデ　底部 - ナデ	土器内にアスファルト塊遺存 (101.01g)	28-3
6	A-165	7A	SX45	-	縄文土器	小型土器	胴部 - ミガキ　底部 - 木葉痕		-
7	P-14	7A	SX45	-	土製品	土偶	腕部 - ナデ		28-4
8	P-16	7A	SX45	-	土製品	土偶	脚部 - ナデ		-
9	P-13	7A	SX45	-	土製品	土製円盤	ミガキ	27 × 29 × 8㎜　7.7g	28-5
10	P-15	7A	SX45	-	土製品	土製円盤	不明　内外面摩滅	28 × 28 × 8㎜　8.2g	28-6
11	P-21	7A	SX45	-	土製品	ミニチュア	口縁～胴部 - ナデ　底部 - 網代痕		-
12	P-20	7A	SX45	-	土製品	ミニチュア	口縁～底部 - ナデ		-

第 58 図　ＳＸ 45 遺物包含層出土土器（4）・土製品

SX45 遺物包含層出土石器（第 59・60 図、図版 28）

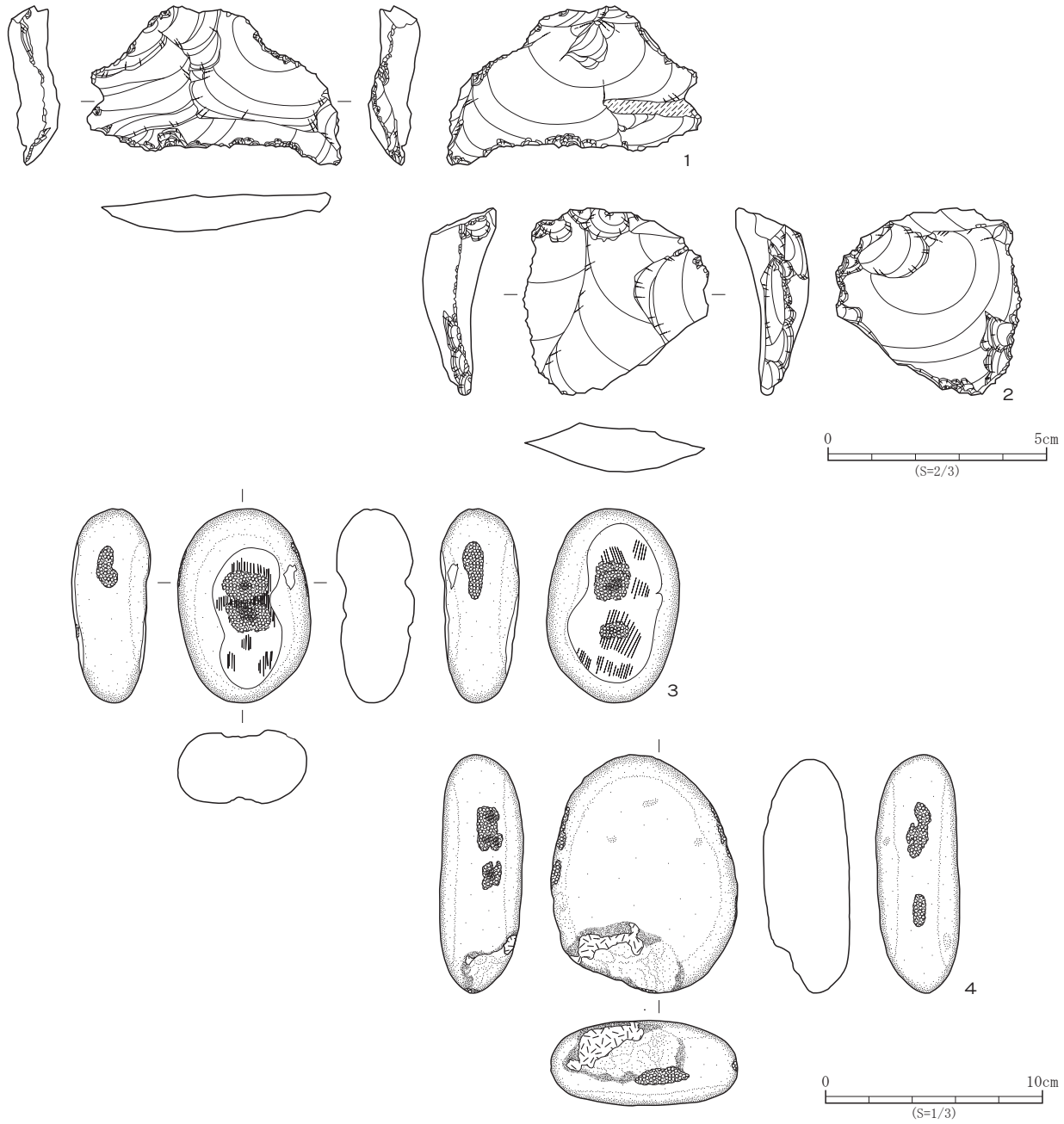
打製石器 5 点、礫石器 2 点を図示した。第 59 図 1 は縦型の石匙である。2・3、第 60 図 1 は削器である。第 59 図 2 は表面に自然面が残存している。右側縁と下端縁に裏面からの連続する剥離調整によって刃部が作出されている。3 は大部分を欠損している。右側縁の刃部には使用による微細剥離痕が観察される。第 60 図 1 は横長剥片を素材としており、表裏面の複数縁片に二次加工が施されている。2 は RF である。3 は磨面と凹痕と敲打痕が複合して観察



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Ka-d1-3	7A	SX45	-	打製石器	石匙	頁岩	6.0 × (3.2) × 1.1　(14.84)	縦型、端部欠損、二重パティナあり。	28-7
2	Ka-e1-3	7A	SX45	-	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	5.2 × 4.8 × 0.8　20.11	削器。	28-8
3	Ka-e1-4	7A	SX45	-	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	(3.0) × (2.6) × 0.9　(3.56)	削器、両端部欠損。	28-9

第 59 図　ＳＸ 45 遺物包含層出土石器（1）

される礫石器である。第 60 図 4 は敲打痕のみが観察される礫石器で、端部と両側面に敲打痕がみられる。端部の敲打痕は被熱により変色している部分を切っているが、被熱と使用の関連性は不明である。



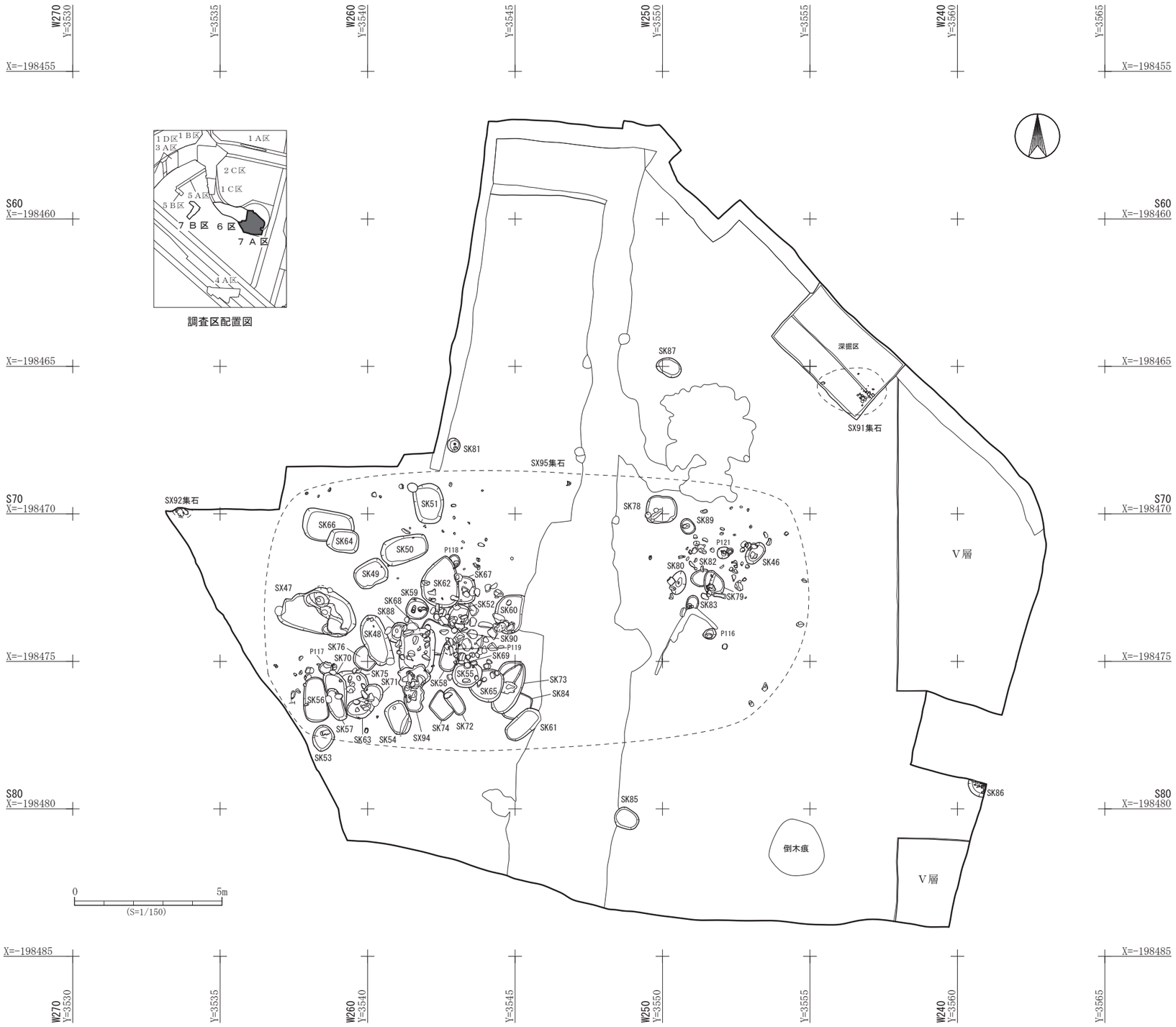
№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Ka-e1-5	7A	SX45	-	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	3.7 × 5.8 × 1.2　13.96	削器。	28-10
2	Ka-e6-2	7A	SX45	-	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	4.3 × 4.3 × 1.5　20.01	RF。	28-11
3	Kc-a4-1	7A	SX45	-	礫石器	磨＋凹＋敲	石英安山岩	9.1 × 6.1 × 3.7　212.49	磨表 1+ 裏 1、凹表 2+ 裏 2、敲右 1+ 左 2。	28-12
4	Kc-c-1	7A	SX45	-	礫石器	敲	石英安山岩	11.0 × 8.6 × 3.9　460.41	敲右 2+ 左 2+ 下 1、火ハネ、被熱あり。	28-13

第 60 図　ＳＸ 45 遺物包含層出土石器（２）

（３）Ⅶ層検出の遺構と遺物（第 61 図）

１）集石

SX91・92・95 集石（第 61 図、図版 10）　W240 ～ 260・S60 ～ 70 グリッドで検出した。Ⅵ層からⅦ層を調査する過程で検出した自然礫の集中部である。W245 ～ 260・S70 ～ 75 グリッド付近で検出したものを SX95、SX95



第 61 図　下ノ内遺跡７Ａ区Ⅶ層遺構配置図

からやや離れた北東側で検出したものをSX91、同じく西側で検出したものをSX92とした。礫の大きさは径５～50㎝と様々である。これらの集石は、Ⅵ層の形成により原位置を留めていない可能性があり、礫を円形や楕円形に配置したと判断できるものや、明確な立石等は認められなかった。また、集石の一部は下部で検出した土坑プラン内にまとまるものがみられたことから、両者の関係を精査しながら掘り下げたが、礫と土坑の明確な関係は把握できなかった。

２）土坑

SK46 土坑（第 62 図、図版 11）　W240・S70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-45°-E である。規模は長軸 82cm、短軸 49cm、深さ 15cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK48 土坑（第 62・66・67 図、図版 11）　W250 ～ 260・S70 グリッドで検出した。SK76 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整楕円形で、長軸方向は N-21°-W である。規模は長軸 1.77m、短軸 85cm、深さ 15cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・打製石器が出土しており、第 66・67 図に縄文土器１点、打製石器１点を図示した。第 66 図１は縄文土器壺で口縁部に RL 縄文、胴部の沈線文区画内に口縁部に施文されたものと原体の異なる RL 縄文が施文される。第 67 図１は有茎鏃で基部を欠損している。

SK49 土坑（第 62 図､図版 11）　W250 ～ 260･S70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で､長軸方向は N-61°-E である。規模は長軸 1.13m、短軸 84cm、深さ 14cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK50 土坑（第 62 図、図版 11）　W250・S70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-70°-E である。規模は長軸 1.62m、短軸 92cm、深さ 20cm で、壁面は西側は緩やかに、東側は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK51 土坑（第 62 図、図版 11）　W250･S60 ～ 70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-4°-W である。規模は長軸 1.36m、短軸 99cm、深さ 17cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

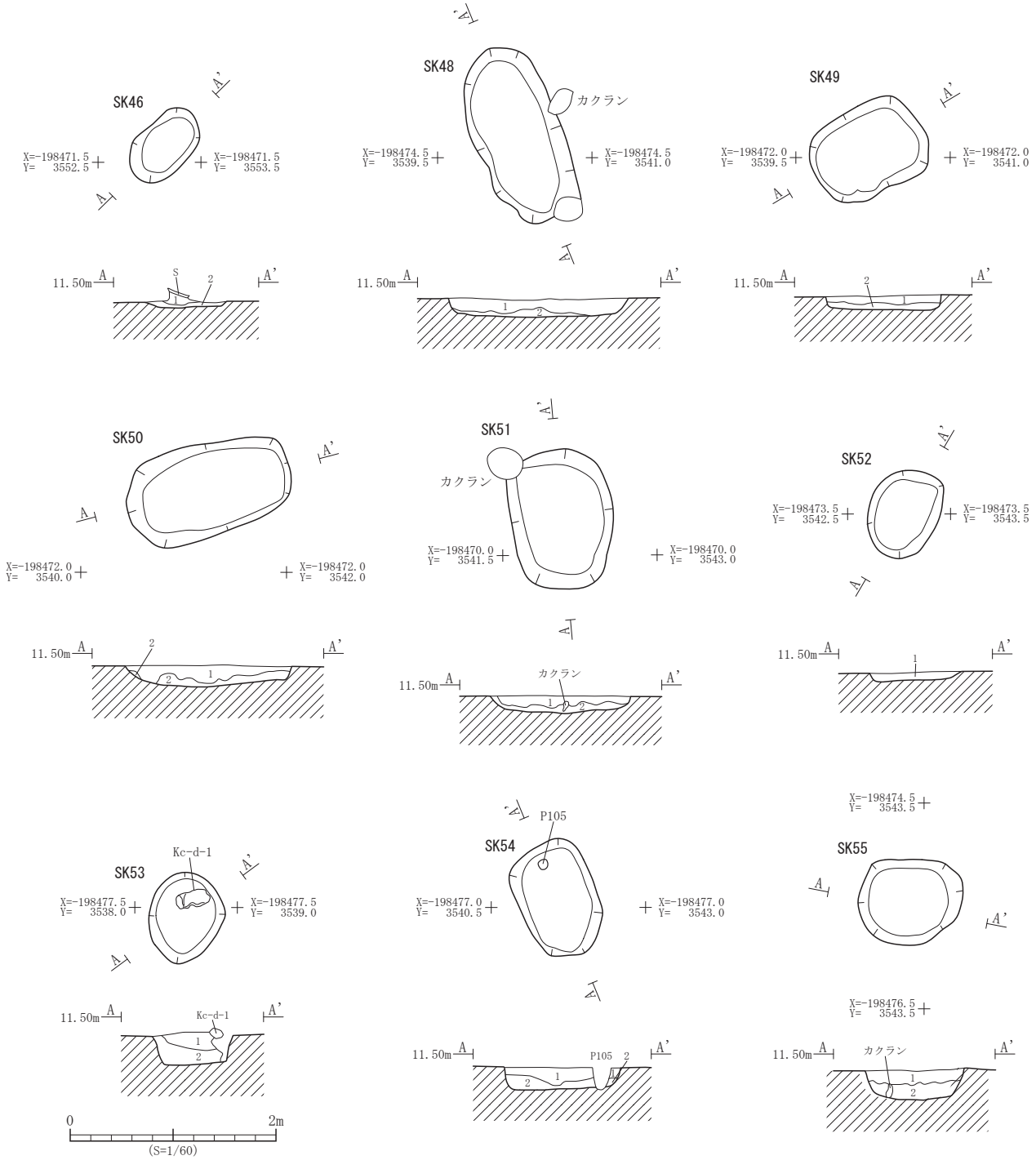
SK52 土坑（第 62 図、図版 11）　W250・S70 グリッドで検出した。SK90 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は N-19°-E である。規模は長軸 88cm、短軸 66cm、深さ 8cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK53 土坑（第 62・67 図、図版 11）　W260・S70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-10°-E である。規模は長軸 90cm、短軸 69cm、深さ 30cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・礫石器が出土しており、そのうち礫石器１点を第 67 図に図示した。２は砥石で、砥面はわずかに窪んでいる。表面は一部被熱により変色しているが、使用に伴うものかは不明である。

SK54 土坑（第 62･66 図、図版 11）　W250･S70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-28°-W である。規模は長軸 1.12m、短軸 75cm、深さ 21cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土しており、そのうち１点を第 66 図に図示した。２は波状口縁の縄文土器深鉢である。胴部には地文上縦位に平行する鋸歯状の沈線文が施文される。

SK55 土坑（第 62 図、図版 12）　W250・S70 グリッドで検出した。SK58・65・69 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は N-73°-E である。規模は長軸 1.03m、短軸 85cm、深さ 27cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや丸味をもつ。堆積土は２層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK56 土坑（第 63 図、図版 12）　W260・S70 グリッドで検出した。SK57・70 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は N-4°-W である。規模は長軸 1.50m、短軸 83cm、深さ 15cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は堆積土から縄文土



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK46	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK48	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
SK49	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK50	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK51	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK52	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物をわずかに含む。
SK53	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
SK54	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
SK55	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・灰色粘土ブロック・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。

第 62 図　ＳＫ 46・48 ～ 55 土坑平面図・断面図

器片が出土している。

SK57 土坑（第 63 図、図版 12）　W260・S70 グリッドで検出した。SK56・70 と重複関係にあり、SK70 より新しく、SK56 より古い。平面形は楕円形で、長軸方向は N-25°-W である。規模は長軸 1.15m、短軸 51cm、深さ 16cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK58 土坑（第 63 図、図版 12）　W250・S70 グリッドで検出した。SK55・69・90、P119 と重複関係にあり、SK69・90、P119 より新しく、SK55 より古い。平面形は楕円形で、長軸方向は N-14°-E である。規模は長軸 1.08m、短軸 59cm、深さ 9cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK59 土坑（第 63 図、図版 12）　W250・S70 グリッドで検出した。平面形は円形である。規模は径 72cm、深さ 24cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦であるが、長軸 27 ～ 33cm、短軸 12cm、深さ 10cm の落ち込みが 2 箇所ある。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

SK60 土坑（第 63 図、図版 12）　W250・S70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-6°-E である。検出した規模は長軸 1.32m、短軸 93cm、深さ 24cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK61 土坑（第 63 図、図版 12）　W250・S70 グリッドで検出した。SK84 と重複関係にあり、本遺構が新しい。東側を上層の遺構に削平されるが、平面形は楕円形で、長軸方向は N-47°-E である。規模は長軸 1.39m、短軸 70cm、深さ 29cm で、壁面は南側は直立気味に立ち上がり、北側は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK62 土坑（第 63 図、図版 12）　W250・S70 グリッドで検出した。SK67、P118 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整楕円形で、長軸方向は N-9°-E である。規模は長軸 1.75m、短軸 1.28m、深さ 20cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・打製石器が出土している。

SK63 土坑（第 63 図、図版 13）　W250 ～ 260・S70 グリッドで検出した。SK71・75 と重複関係にあり、本遺構が新しい。Ⅴ層 SB21-P7 に北東側を削平されるが、平面形は不整楕円形で、長軸方向は N-72°-E である。検出した規模は長軸 90cm、短軸 67cm、深さ 14cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

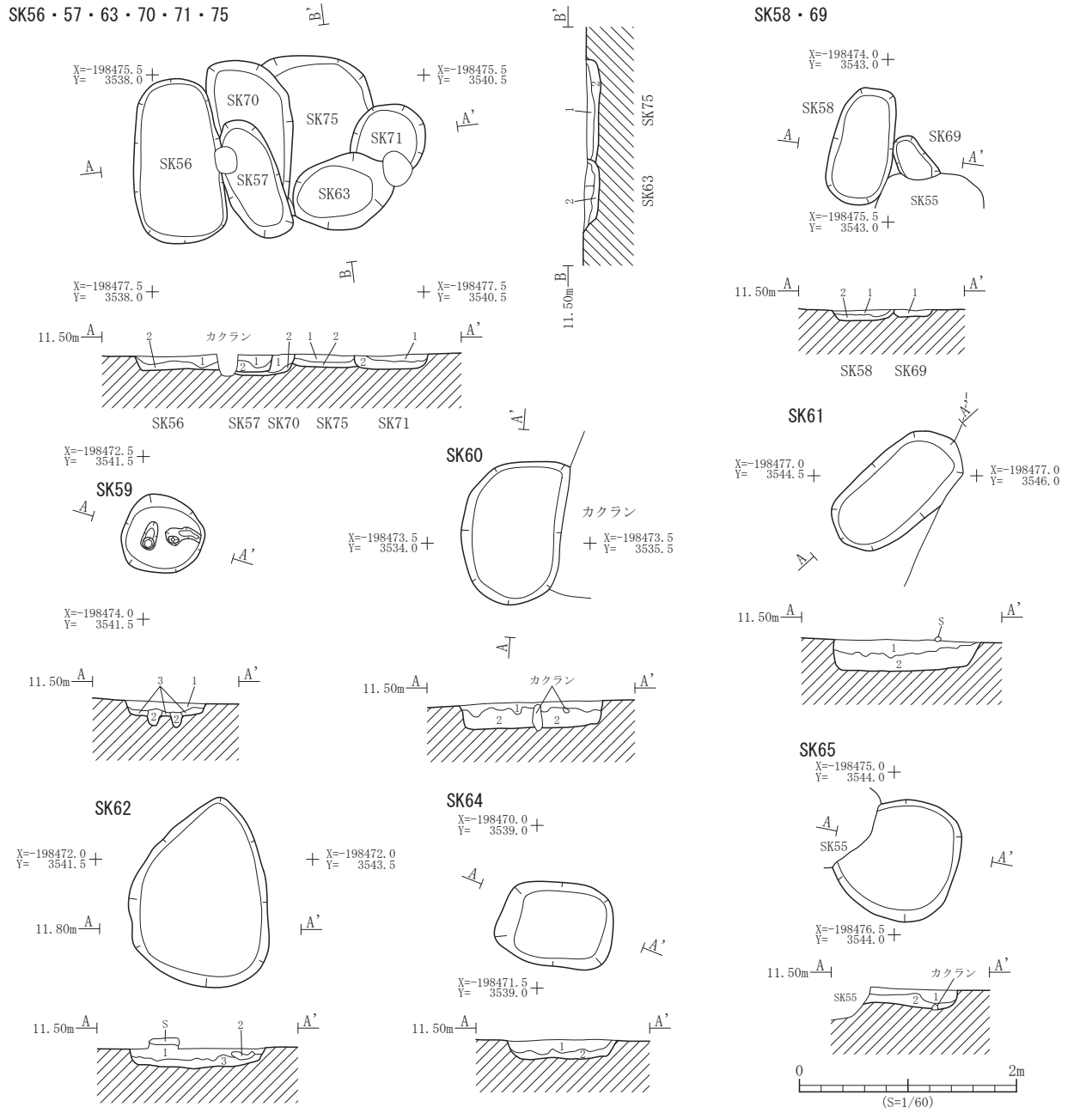
SK64 土坑（第 63 図、図版 13）　W260・S70 グリッドで検出した。SK66 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-78°-W である。規模は長軸 1.04m、短軸 78cm、深さ 17cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK65 土坑（第 63 図、図版 13）　W250・S70 グリッドで検出した。SK55・73 と重複関係にあり、SK73 より新しく、SK55 より古い。北西側を SK55 に削平されるが、平面形はほぼ円形と考えられる。規模は径 1.12m、深さ 17cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はわずかに起伏がみられる。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・骨片が出土している。

SK66 土坑（第 64 図、図版 13）　W260・S60 ～ 70 グリッドで検出した。SK64 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は N-81°-W である。規模は長軸 1.75m、短軸 1.04m、深さ 16cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・礫石器が出土している。

SK67 土坑（第 64 図、図版 13）　W250・S70 グリッドで検出した。SK62 と重複関係にあり、本遺構が古い。西側を SK62 に削平されるが、平面形は方形を基調としたものと考えられる。検出した規模は東西 60cm、南北 94cm、深さ 10cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

SK68 土坑（第 64 図、図版 13）　W250・S70 グリッドで検出した。上部の集石が遺構範囲内にほぼ重なること



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK56	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
SK57	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
SK58	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
SK59	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	白色粒・褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。暗褐色粘土質シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
SK60	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
SK61	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK62	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK63	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK64	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロックをわずかに含む。
SK65	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
SK69	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒をわずかに含む。
SK70	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK71	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK75	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。

第 63 図　ＳＫ 56 ～ 65・69 ～ 71・75 土坑平面図・断面図

から、本遺構に伴う可能性がある。SK88・90、SX94 と重複関係にあり、SK88・90 より新しく、SX94 より古い。北側をＶ層 SB21-P1、南側を SX94 に削平されるが、平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-6°-E である。検出した規模は長軸 1.63m、短軸 1.20m、深さ 29cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや丸味を持つ。堆積土は 7 層に分層され、炭化物を多量に含む。遺物は堆積土から縄文土器片・打製石器・骨片が出土している。

SK69 土坑（第 63 図、図版 13）　W250・S70 グリッドで検出した。SK55・58 と重複関係にあり、本遺構が古い。南側を SK55 に削平されるが、平面形は楕円形と考えられ、長軸方向は N-31°-W である。検出した規模は長軸 45cm、短軸 29cm、深さ 5cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK70 土坑（第 63 図、図版 13）　W260・S70 グリッドで検出した。SK56・57・75 と重複関係にあり、SK75 より新しく、SK56・57 より古い。南側を SK57 に削平され、平面形は楕円形を基調としたものと考えられ、長軸方向は N-9°-W である。検出した規模は長軸 1.32m、短軸 70cm、深さ 16cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK71 土坑（第 63 図、図版 14）　W250 ～ 260・S70 グリッドで検出した。SK63・75 と重複関係にあり、SK75 より新しく、SK63 より古い。南東側を上層のピット、南側を SK63 に削平されるが、平面形は円形を基調としたものと考えられる。規模は東西 66cm、南北 55cm、深さ 14cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK72 土坑（第 64 図、図版 14）　W250・S70 グリッドで検出した。SK74 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は N-36°-W である。規模は長軸 98cm、短軸 64cm、深さ 14cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK73 土坑（第 64 図、図版 14）　W250・S70 グリッドで検出した。SK65・84 と重複関係にあり、SK84 より新しく、SK65 より古い。平面形は楕円形で、長軸方向は N-18°-E である。検出した規模は長軸 1.85m、短軸 65cm、深さ 22cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は不整 U 字形で、底面は中央から北側が不整形に約 10cm 落ち込む。堆積土は 4 層に分層され、2・3 層は焼土ブロックを多量に含む。遺物は堆積土から縄文土器片・骨片が出土している。

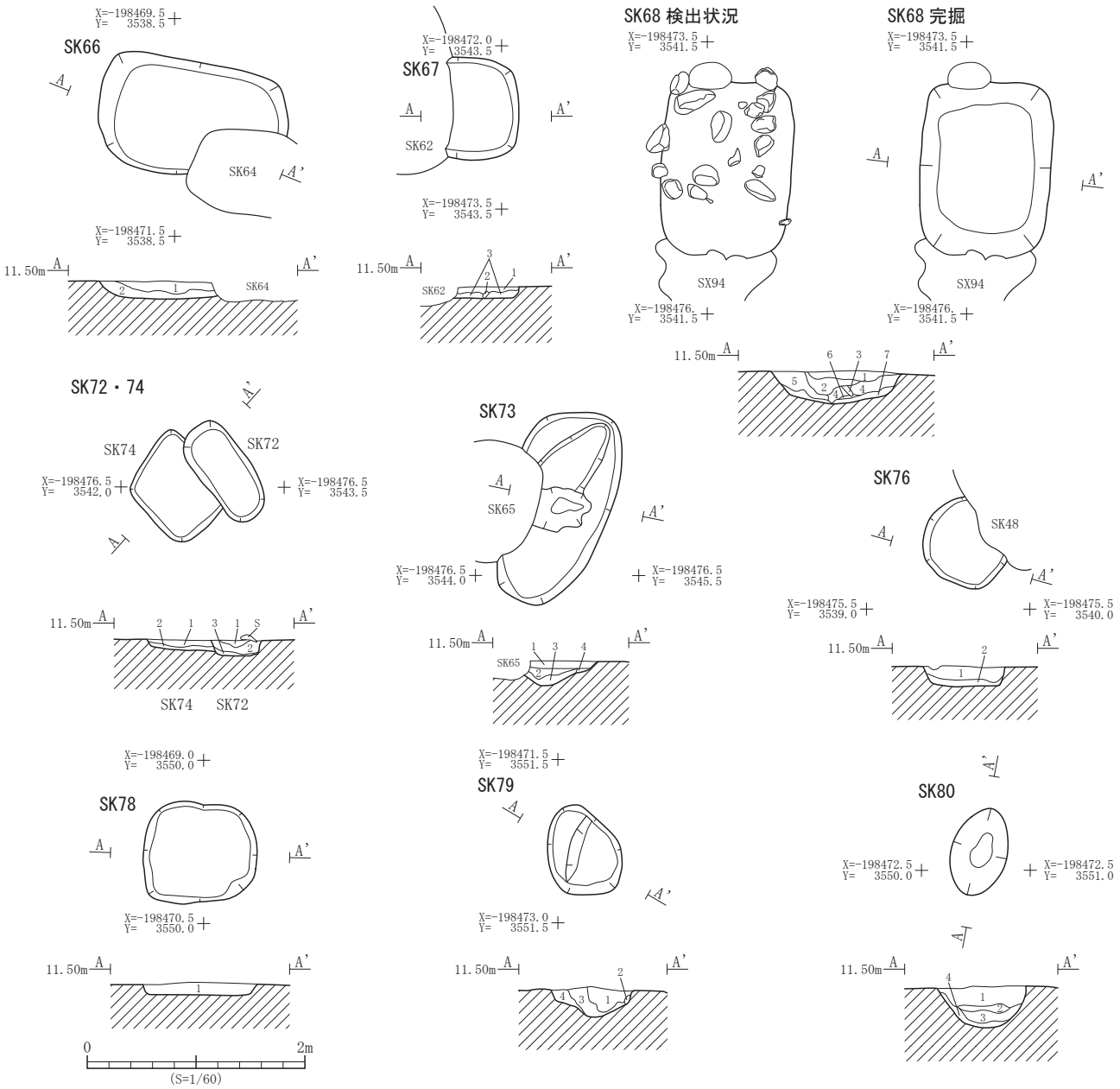
SK74 土坑（第 64 図、図版 14）　W250・S70 グリッドで検出した。SK72 と重複関係にあり、本遺構が古い。東側を SK72 に削平されるが、平面形は不整長方形と考えられ、長軸方向は N-48°-W である。検出した規模は長軸 85cm、短軸 80cm、深さ 8cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK75 土坑（第 63 図、図版 14）　W250 ～ 260・S70 グリッドで検出した。SK57・63・70・71 と重複関係にあり、本遺構が古い。南側を SK57・63・70・71 に削平されるため、平面形は不明である。検出した規模は東西 1.00m、南北 1.49m、深さ 11cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は不明で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は縄文土器片が出土している。

SK76 土坑（第 64 図、図版 14）　W250 ～ 260・S70 グリッドで検出した。SK48 と重複関係にあり、本遺構が古い。東側を SK48 に削平されるが、平面形は円形を基調としたものと考えられる。検出した規模は北西 - 南東 81cm、北東 - 南西 54cm、深さ 19cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は縄文土器片が出土している。

SK78 土坑（第 64 図、図版 14）　W240 ～ 250・S60 グリッドで検出した。平面形は隅丸方形で、長軸方向は東西正方位である。規模は東西 1.05m、南北 93cm、深さ 11cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK79 土坑（第 64 図、図版 14）　W250・S70 グリッドで検出した。SK82 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は N-32°-W である。規模は長軸 88cm、短軸 68cm、深さ 27cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は丸味を持ち、中央西寄りに約 10cm の段がある。堆積土は 4 層に分層される。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK66	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・マンガン粒を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
SK67	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	白色粒を多量含む。褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	白色粒・炭化物をわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK68	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒を多量含む。褐色シルトブロックを含む。白色粒をわずかに含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・白色粒・炭化物を多量含む。骨片をわずかに含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	白色粒を含む。
	4	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。白色粒をわずかに含む。炭化物を多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。白色粒子をわずかに含む。
	6	10YR4/4 褐色	シルト	白色粒を含む。炭化物を多量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
SK72	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK73	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルト・焼土ブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
	3	2.5YR2/2 極暗赤褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。炭化物を含む。焼土ブロックを多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK74	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	マンガン粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
SK76	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK78	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK79	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	白色粒をわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物・白色粒をわずかに含む。
SK80	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・白色粒を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色土ブロックを多量含む。

第 64 図　ＳＫ 66 ～ 68・72 ～ 74・76・78 ～ 80 土坑平面図・断面図

遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK80 土坑（第 64 図、図版 15）　W240・S70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-15°-E である。規模は長軸 81cm、短軸 50cm、深さ 36cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は U 字形で、底面は丸味を持つ。堆積土は 4 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK81 土坑（第 65 図、図版 15）　W250・S60 グリッドで検出した。平面形は円形である。規模は径 46cm、深さ 27cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦であるが、径 8 ～ 12cm、深さ 5cm のピット状の落ち込みが 2 箇所ある。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK82 土坑（第 65 図、図版 15）　W240・S70 グリッドで検出した。SK79 と重複関係にあり、本遺構が古い。東側を SK79 に削平されるが、平面形は楕円形と考えられ、長軸方向は N-37°-E である。検出した規模は長軸 65cm、短軸 55cm、深さ 9cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK83 土坑（第 65 図、図版 15）　W240・S70 グリッドで検出した。南東側を上層の遺構に削平されるが、平面形は楕円形と考えられ、長軸方向は N-15°-E である。検出した規模は長軸 50cm、短軸 40cm、深さ 10cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや凹凸がある。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK84 土坑（第 65 図、図版 15）　W250・S70 グリッドで検出した。SK61・73 と重複関係にあり、本遺構が古い。西側を SK73、南東側を SK61 に削平されるが、平面形は方形を基調としたものと考えられる。検出した規模は北東 - 南西 98cm、北西 - 南東 56cm、深さ 16cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK85 土坑（第 65 図）　W250・S70 ～ 80 グリッドで検出した。北西側を上層の遺構に削平されるが、平面形は楕円形で、長軸方向は N-62°-W である。検出した規模は長軸 83cm、短軸 66cm、深さ 10cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

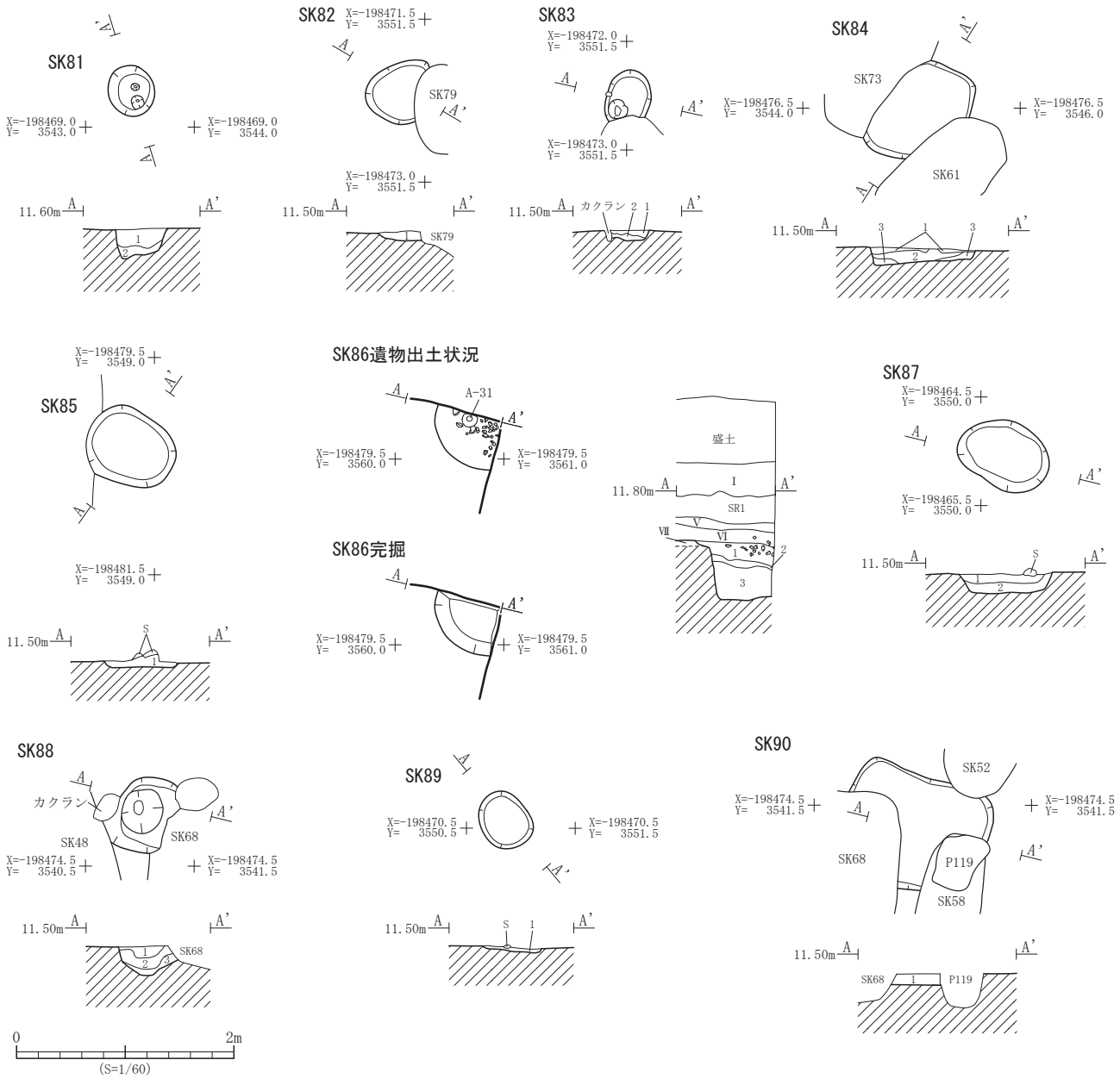
SK86 土坑（第 65・66 図、図版 15）　W230・S70 グリッドで検出した。北東側の調査区外に延びる。上部で集石と口縁部を下にした状態の縄文土器壺が出土しており、本遺構に伴う可能性がある。平面形は円形を基調としたものであると考えられる。検出した規模は東西 60cm、南北 45cm、深さ 53cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器が出土しており、そのうち前述の縄文土器壺 1 点を第 66 図 3 に図示した。ほぼ完形で、平底の底部から緩やかに外傾しながら立ち上がり、胴部上半で強く内弯する。頸部から直立気味に立ち上がり口縁部は外反し口唇部にいたる。横位の平行沈線文で区画された胴部上半に「波頭」状文と「J」字状文が 4 単位施文される。

SK87 土坑（第 65 図、図版 15）　W240 ～ 250・S60 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-64°-W である。規模は長軸 85cm、短軸 60cm、深さ 18cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK88 土坑（第 65 図、図版 16）　W250・S70 グリッドで検出した。SK48・68 と重複関係にあり、本遺構が古い。北東側を上層のピット、東側を SK68、西側を SK48 に削平されており、平面形は不明である。検出した規模は東西 48cm、南北 71cm、深さ 26cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は中央に径 40cm、深さ 6cm のピット状の落ち込みがある。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

SK89 土坑（第 65 図、図版 16）　W240・S70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-34°-W である。規模は長軸 55cm、短軸 44cm、深さ 3cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面はわずかな起伏がみられる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

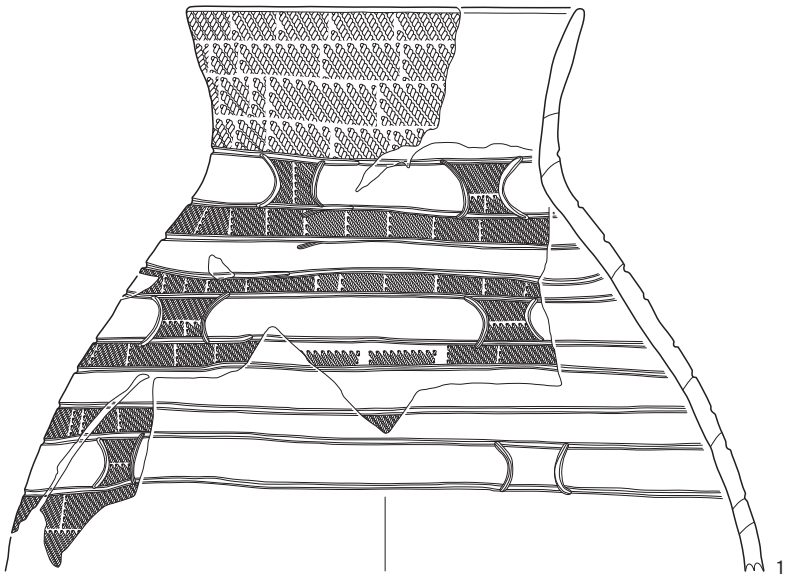
SK90 土坑（第 65 図、図版 16）　W250・S70 グリッドで検出した。SK52・58・68、P119 と重複関係にあり、本遺構が古い。北東側を SK52、南東側を SK58、P119、南西側を SK68 に削平されるが、平面形は隅丸長方形と考えられ、長軸方向は N-71°-W である。規模は東西 1.36m、南北 1.05m、深さ 10cm で、壁面は急角度に立ち上がる。

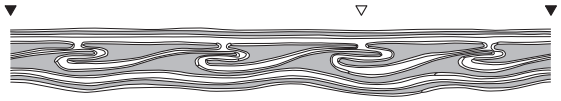


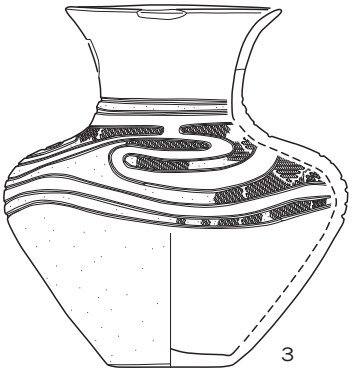
遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK81	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。マンガン粒を多量含む。
SK82	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
SK83	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロック・白色粒をわずかに含む。
SK84	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロック・炭化物をわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロック・炭化物をわずかに含む。
SK85	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロックを多量含む。白色粒をわずかに含む。
SK86	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	φ 40mm 前後の礫を多量含む。褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロック・炭化物をわずかに含む。

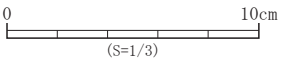
遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK87	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	白色粒を多量含む。褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	白色粒・褐色シルトブロックを多量含む。
SK88	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロック・炭化物をわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒をわずかに含む。
SK89	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
SK90	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘土ブロック・炭化物をわずかに含む。

第 65 図　ＳＫ 81 ～ 90 土坑平面図・断面図



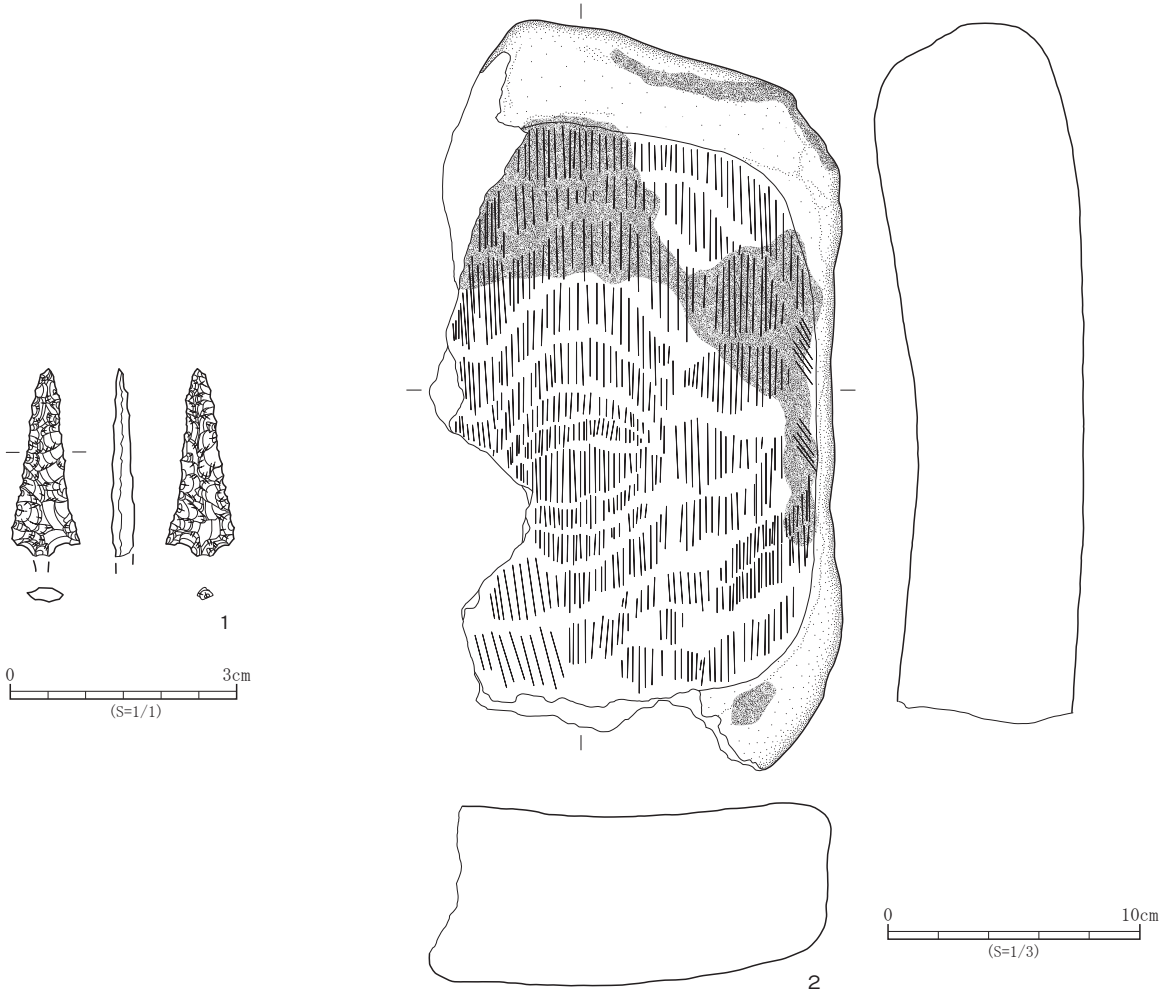






No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-37	7A	SK48 SX18	1 -	縄文土器	壺	口縁部 -RL 縄文　胴部 - 沈線文区画・沈線文・RL 縄文 (0 段多条)		28-14
2	A-29	7A	SK54	2	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 波状口縁・沈線文・LR 縄文	内面炭化物付着。	29-2
3	A-31	7A	SK86	1	縄文土器	壺	口縁～胴部 - 沈線文区画・「波頭」状・「Ｊ」字状文・RL 縄文 底部 - ナデ		28-16

第 66 図　Ⅶ層土坑出土遺物（１）



№.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Ka-a1-1	7A	SK48	2	打製石器	石鏃	玉髄	(2.5) × 0.9 × 0.3　(0.47)	有茎鏃、基部欠損。	28-15
2	Kc-d-1	7A	SK53	1	礫石器	砥石	石英安山岩	29.8 × 16.4 × 8.3　6800	被熱あり。	29-1

第 67 図　Ⅶ層土坑出土遺物（２）

断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

３）性格不明遺構

SX47 性格不明遺構（第 68・69 図）　W260・S70 グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向は N-77°-W である。規模は長軸 2.55m、短軸 1.16 ～ 1.55m、深さ 30cm で、壁面は急角度に立ち上がり、北壁中央と南西壁隅はオーバーハングする。断面形は逆台形状で、底面は北壁中央から南西壁にかけて深さ約 10cm の不整形な溝状の落ち込みがあり、起伏がある。堆積土は 4 層に分層される。遺構の状況から倒木痕の可能性がある。遺物は堆積土から縄文土器片が出土しており、そのうち 1 点を第 69 図に図示した。1 は波状口縁の縄文土器深鉢片で、Ⅵ層 SX18 出土 A-64（第 42 図 1）及びⅥ層 SX45 出土 A-167（第 55 図 5）と同一個体の可能性がある。

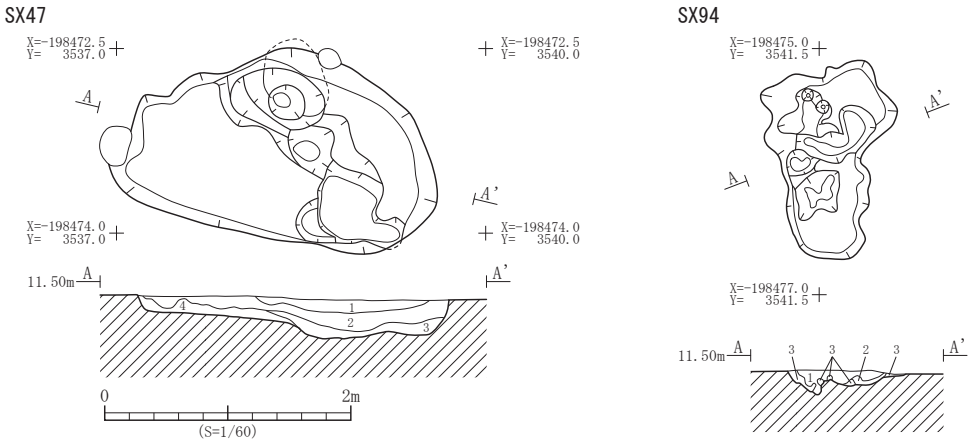
SX94 性格不明遺構（第 68 図、図版 16）　W250・S70 グリッドで検出した。SK68 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形で、長軸方向はほぼ南北正方位である。規模は長軸 1.56m、短軸 0.56 ～ 1.02m、深さ 11 ～ 20cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は不整形で、底面は深さ 5 ～ 10cm の不整形な溝状・ピット状の落ち込みによる起伏がある。堆積土は 3 層に分層され、1 層は炭化物・焼土を多量に含む。遺物は出土していない。

４）ピット（第 61 図）

5 基のピット（P116 ～ 119・121）を検出した。遺物は P119・121 の堆積土から縄文土器片・打製石器が出土している。

（４）遺構外出土遺物（第 70 ～ 73 図）

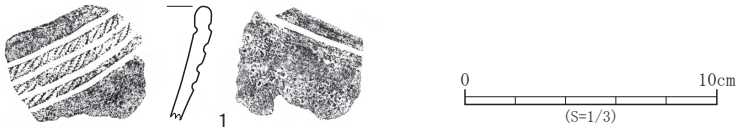
基本層Ⅴ層から縄文土器・土師器・須恵器・磁器・打製石器・石製品・金属製品、基本層Ⅵ・Ⅶ層から縄文土器が



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SX44	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	マンガン粒を多量含む。炭化物を含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粒を含む。炭化物をわずかに含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。粘性あり。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。粘性強い。

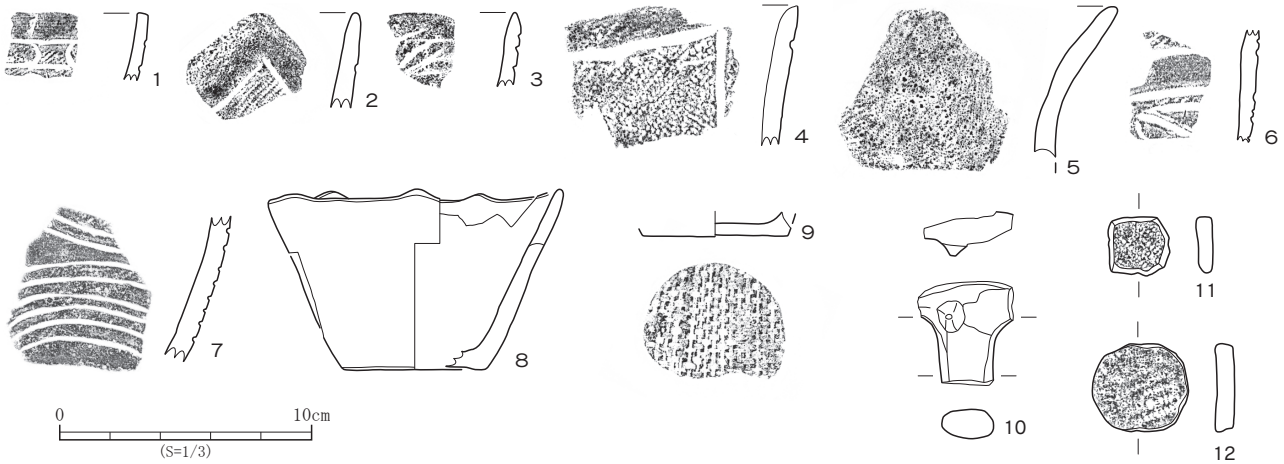
遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SX94	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物・焼土を多量含む。締りあり
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土をわずかに含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土・炭化物をわずか含む。

第 68 図　ＳＸ 47・94 性格不明遺構平面図・断面図



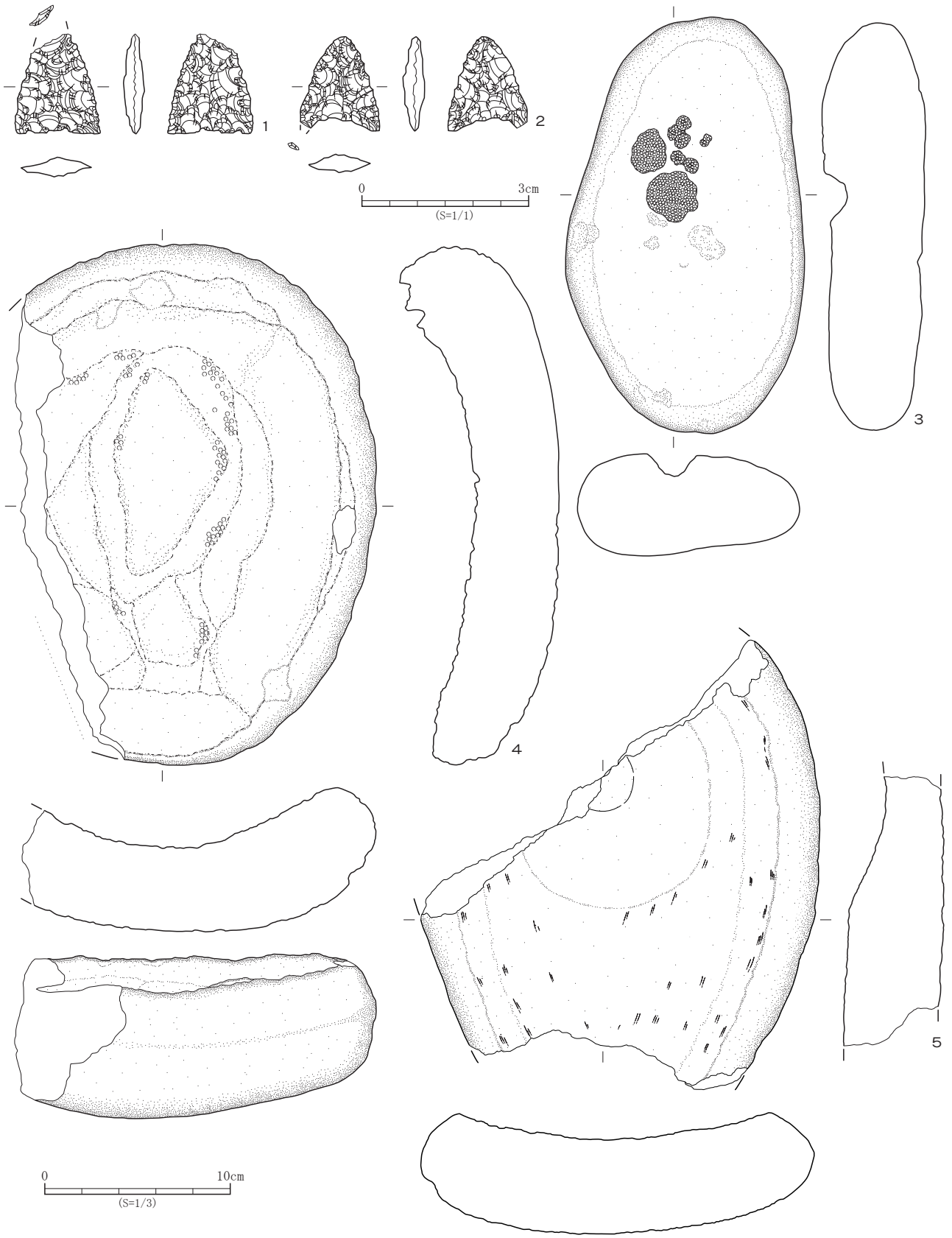
No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-140	7A	SX47	1	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・沈線文区画・LR 縄文　内面に沈線文	胎土に金雲母混入、A-64・167 と同一？	29-3

第 69 図　ＳＸ 47 出土遺物



No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-23	7A	Ⅵ	W245・S70	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文・LR 縄文		29-4
2	A-134	7A	Ⅴ	SX43	縄文土器	深鉢	口縁部 - 波状口縁・沈線文区画・LR 縄文		29-5
3	A-135	7A	Ⅴ	SX43	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文		-
4	A-26	7A	Ⅴ	SD39	縄文土器	深鉢	口縁部 - 沈線文区画・LR 縄文	内面剝落。	29-6
5	A-27	7A	Ⅴ	SD39	縄文土器	深鉢	口縁部 -LR 縄文		29-7
6	A-137	7A	Ⅴ	SX43	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文・LR 縄文		29-8
7	A-195	7A	-	-	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文・LR 縄文		29-9
8	A-28	7A	Ⅴ	SD39	縄文土器	鉢	口縁～胴部 - 波状口縁・ミガキ　底部 - ナデ		29-10
9	A-32	7A	Ⅴ	P120	縄文土器	鉢	胴部 - ミガキ　底部 - 網代痕		-
10	P-11	7A	Ⅴ	SX43	土製品	土偶	胴部 - ナデ	左胸剝落。	29-11
11	P-12	7A	Ⅴ	SX43	土製品	土製円盤	RL 縄文	23 × 24 × 6㎜　5.6g	29-12
12	P-17	7A	-	-	土製品	土製円盤	RL 縄文	39 × 38 × 8㎜　13.1g	29-13

第 70 図　Ⅵ・Ⅴ層・出土層位不明土器・土製品



№.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Ka-a2-2	7A	V	SI5	打製石器	石鏃	玉髄	(1.8) × 1.5 × 0.4　(0.84)	平基鏃、尖端部欠損。	29-14
2	Ka-a3-2	7A	V	-	打製石器	石鏃	鉄石英	(1.7) × (1.4) × 0.4　(0.67)	凹基鏃、左脚部欠損。	29-15
3	Kc-b2-3	7A	-	-	礫石器	凹＋敲	石英安山岩質凝灰岩	22.4 × 12.9 × 5.8　1371.34	凹表２、敲表７。	29-16
4	Kd-j-3	7A	-	-	石製品	石皿	安山岩	23.1 × (19.5) × 8.9　(4503.09)	成形石皿、縁辺部欠損。	29-17
5	Kd-j-5	7A	-	-	石製品	石皿	安山岩	(24.2) × (21.5) × 6.9　(3009.34)	成形石皿、両端部欠損。	29-18

第 71 図　Ｖ層出土石器・出土層位不明石器（１）

出土した。以下、縄文時代の遺物から説明する。

縄文時代

Ⅵ・Ⅴ層・層位不明出土土器・土製品（第 70 図、図版 29）

縄文土器９点、土製品３点を第 70 図に図示した。1 ～ 5 は深鉢の口縁部片である。6・7 は深鉢の胴部片である。8 は無文の鉢で、底部は平底で胴部はほぼ直線的に外傾し、丸味を持つ口唇部へといたる。口縁部形態は 5 単位の波状口縁である。9 は鉢の底部破片で、網代痕がみられる。10 は土偶の胴部破片で、右乳房部が残存している。11・12 は土製円盤で、いずれも縄文土器胴部片を素材としている。

Ⅴ層・層位不明出土石器（第 71・72 図、図版 29）

打製石器２点、礫石器１点、石製品３点を第 71・72 図に図示した。第 71 図 1 は平基鏃で、尖端部を欠損して

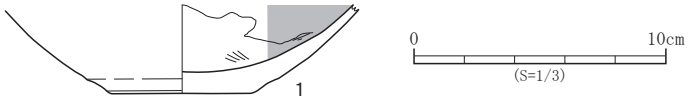
No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Kd-j-4	7A	-	-	石製品	石皿	安山岩	(25.0) × 19.2 × 9.0　(4760.45)	成形石皿、未成品、一端部欠損。	29-19

第 72 図　出土層位不明石器（２）

いる。2 は凹基鏃で、左脚部を欠損している。第 71 図 3 は凹痕が観察される礫石器である。第 71 図 4・5、第 72 図 1 は有縁の成形石皿である。第 72 図 1 は表面中央部の状況から未成品と考えられる。

古代（第 73 図、図版 29）

基本層Ⅴ層出土の古代の遺物である。土師器 1 点を第 73 図に図示した。ロクロ使用の坏で、内面黒色処理される。底部の切り離し技法は摩滅のため判然としないが、糸切り痕がわずかに観察される。



No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	D-2	7A	Ⅴ	-	土師器	坏	- × 5.4 ×現 3.5	ロクロナデ　底部糸切り	ヘラミガキ・黒色処理		29-20

第 73 図　古代出土遺物

３．７Ｂ区の調査

７Ｂ区の調査では、基本層Ⅴ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡 1 軒、土坑 11 基、ピット 7 基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。また、調査区南西側に 1 箇所深掘区を設定してⅥ層以下の調査を行った。遺構は検出されなかったが、基本層Ⅵ・Ⅶ層から遺物が出土している。

（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物（第 74 図）

１）竪穴住居跡

SI2a・b 竪穴住居跡（第 75 ～ 79 図、図版 17）

２時期の建て替えを確認した。新しい時期をａ期、古い時期をｂ期として報告する。ｂ期の床面はａ期の掘り方によって削平されるが、ａ期の掘り方埋土と異なる堆積土で埋まったピットを複数検出したため、古い床面が存在したと判断した。

SI2a 竪穴住居跡

[位置] W310・S50 グリッドに位置し、南東側の調査区外に延びる。

[重複関係] SK1・13、P7 と重複関係にあり、SK13、P7 より新しく、SK1 より古い。

[規模・形態] 東西 6.50m、南北 5.80m である。ｂ期から西・南側を拡張している。平面形は方形と考えられる。

[主軸方位] カマド基準で N-16°-E である。

[堆積土・構築土] 23 層に分層した。1 ～ 5 層は住居跡堆積土、6 ～ 11 層はカマド内堆積土、12 層は周溝内堆積土、13 ～ 22 層はカマド関連層位である。23 層は掘り方埋土である。

[壁面] 周溝底面または床面から直立気味に立ち上がる。壁高は床面から 20 ～ 34cm である。

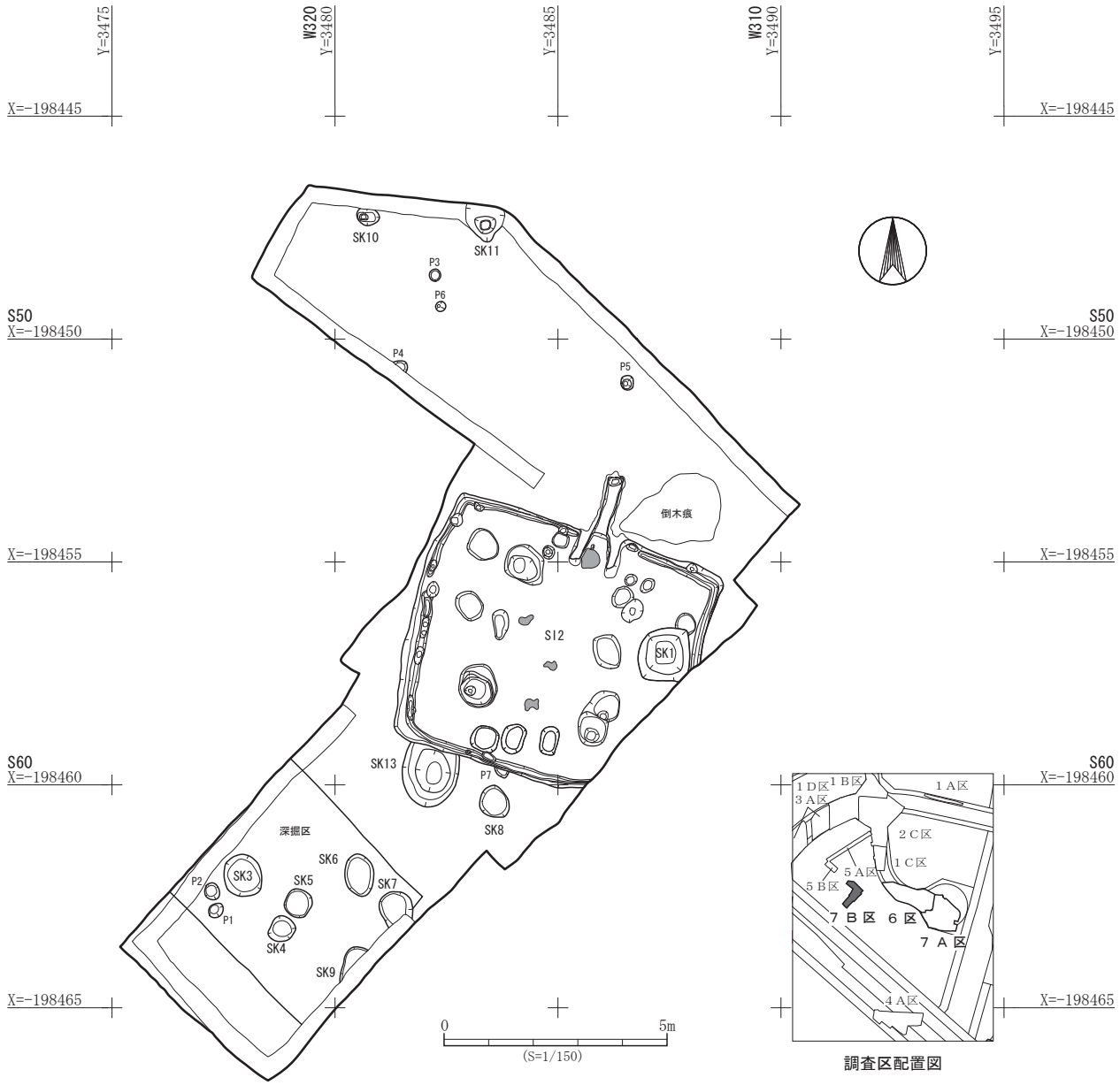
[床面] 23 層上面を床面としている。わずかな起伏があり、目立った硬化面はみられなかった。

[柱穴] 床面で 18 基のピット（P1 ～ 4・6 ～ 17・20・27）を検出した。配置・規模から北西側は P2、北東側は P3、南西側は P1、南東側が P4 または P27 が主柱穴と考えられ、規模は径 40 ～ 99cm、深さ 47 ～ 70cm である。柱材はすべて抜き取られている可能性がある。その他のピットの規模は径 27 ～ 77cm、深さ 5 ～ 25cm で、補助的な柱の可能性がある。

[周溝] カマド周辺と西壁の一部を除き全周する。断面形は U 字形で、規模は幅 6 ～ 22cm、深さ 6 ～ 19cm である。

[カマド] 北壁に位置し、壁の中央に付設されている。袖の規模は、東袖が長さ 89cm、幅 30cm、床面からの高さ 35cm で、西袖は長さ 80cm、幅 22 ～ 29cm、床面からの高さ 35cm である。燃焼部の規模は、奥行 90cm、幅 59cm で、掘り方は南北に軸を持つ不整形で、長軸 90cm、短軸 70 ～ 79cm、深さ 10㎝である。煙道部は長さ 1.35m、幅 27 ～ 33cm、深さ 19 ～ 42cm で、掘り方は長さ 1.45m、幅 37 ～ 53cm、深さ 2 ～ 10cm である。底面にはわずかな起伏があり、先端部に向かって傾斜している。先端部に長さ 39cm、幅 20cm、深さ 15cm のピット状に落ち込む部分があり、煙出しのピットと考えられる。

[その他の施設] 北東隅に位置する P5 は、貯蔵穴と考えられる。平面形は楕円形で、規模は長軸 74cm、短軸 66cm、深さ 20cm である。その他に床面の中央部に 3 箇所の焼面（焼面 1 ～ 3）が確認された。平面形はいずれも不整形で、

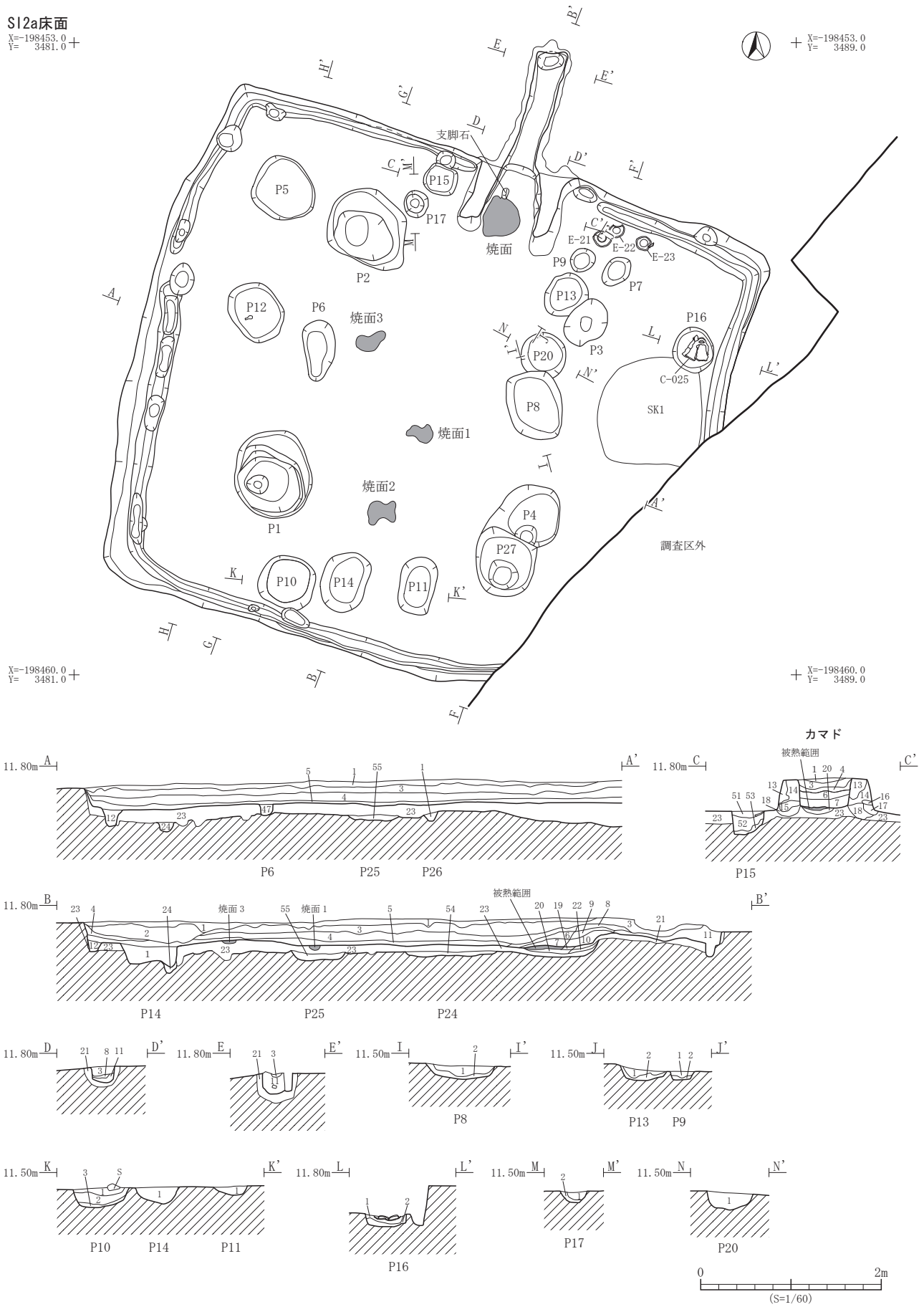


第 74 図　下ノ内遺跡７Ｂ区Ｖ層遺構配置図

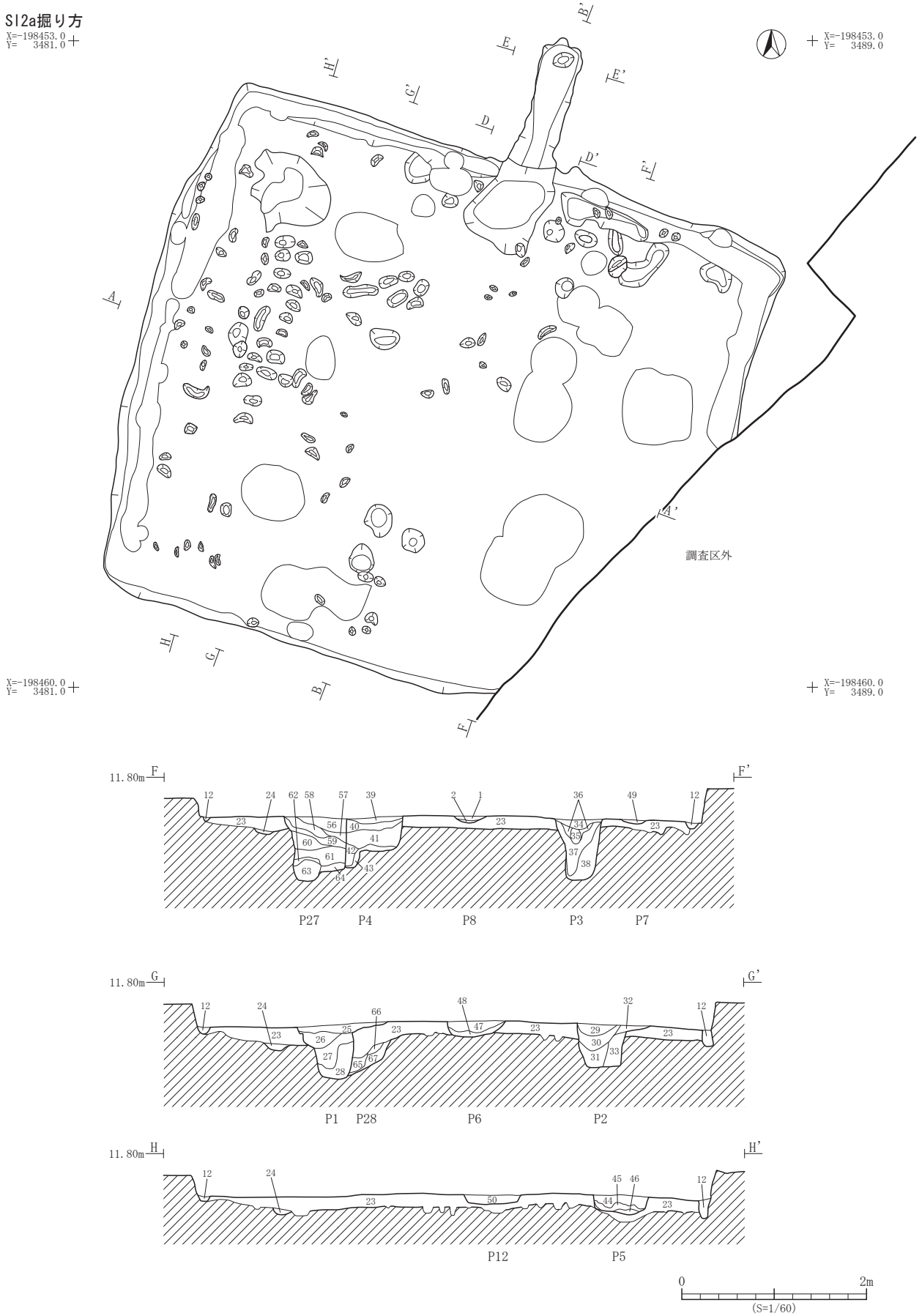
規模は焼面 1 が長軸 29cm、短軸 12 ～ 20cm、焼面 2 が長軸 38cm、短軸 15 ～ 30cm、焼面 3 が長軸 35cm、短軸 11 ～ 29cm である。

[掘り方] 深さ 8 ～ 25cm である。底面は起伏があり、中央から西側にかけて多数の掘削工具痕を検出した。

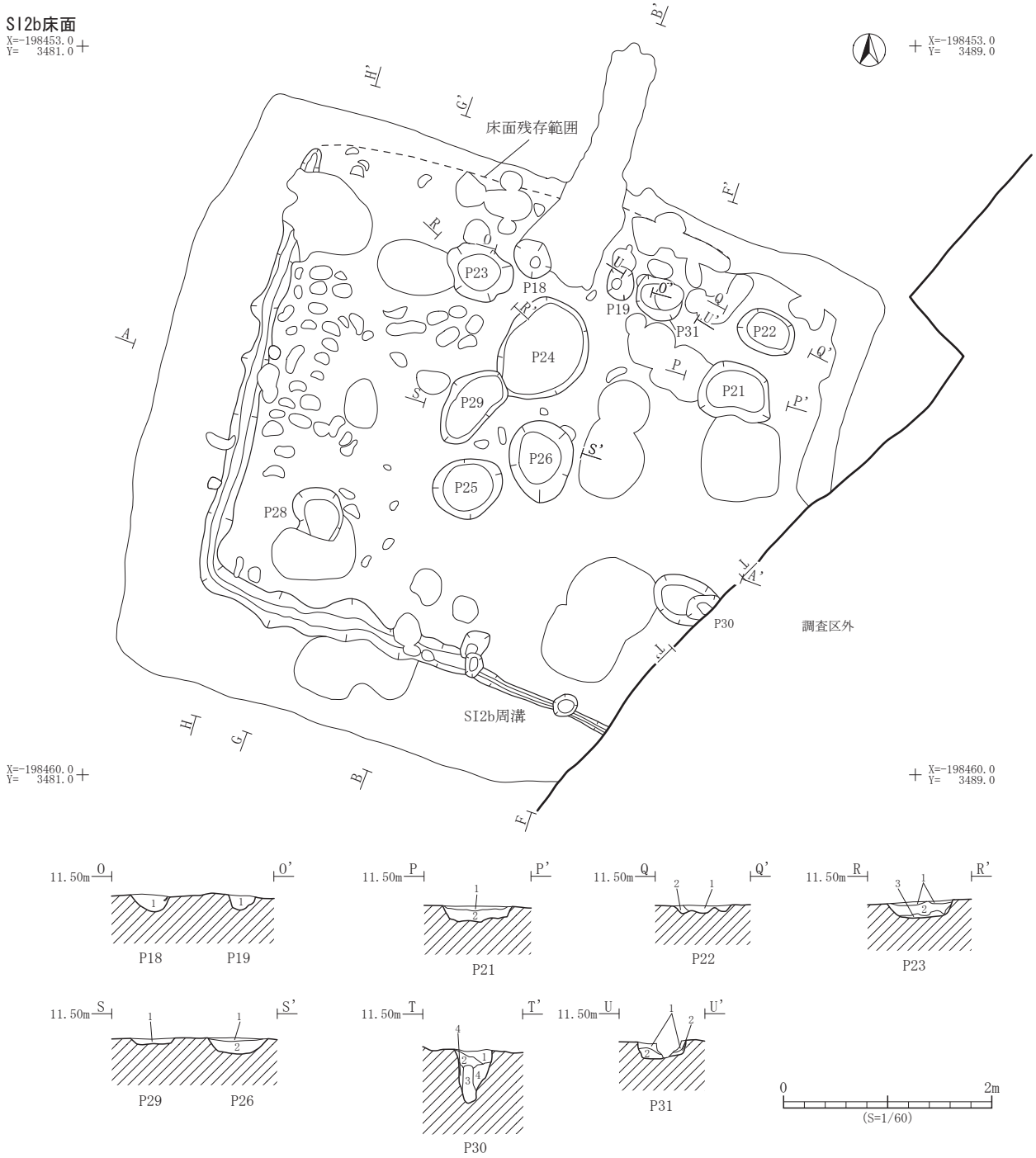
[出土遺物] 堆積土から縄文土器片・土師器・須恵器・打製石器・礫石器・石製品・金属製品・鉄滓が出土しており、そのうち土師器 1 点、須恵器 7 点、礫石器 1 点、石製品 2 点を第 78・79 図に図示した。第 78 図 1 は土師器長胴甕で、丸底気味の底部から緩やかに立ち上がり、口縁部で屈曲して短く開く寸胴である。2 ～ 5 は須恵器坏で、いずれも底部切り離し技法は回転ヘラ切り無調整である。6 ～ 8 は須恵器甕胴部片で、外面に平行タタキ目がみられる。第 79 図 1 は凹痕と敲打痕が複合して観察される礫石器である。第 79 図 2 は面取り加工された砥石で、表裏面に砥面より新しい敲打痕がみられる。裏面・左側面・下面の一部は被熱により黒化している。一端部は被熱後に折損しているが、溝状痕が観察されることから折損後も使用されたと考えられる。表面と右側面には被熱の痕跡が認められないが、これは元々被熱しなかったのか、黒化後にも使用されたことによるものなのか不明である。第 79 図 3 は瑪瑙製の勾玉である。図化した土師器はロクロ不使用で、須恵器坏は口径に対する底径の比率が大きく底部の切り離し技法に糸切りがみられないものの、b 期からロクロ使用の土師器が出土しており、ロクロ使用の土師器と不使用の土師器が混在することから、本住居跡の年代は 8 世紀後葉～ 9 世紀初頭頃と考えられる。



第 75 図　ＳＩ 2a 竪穴住居跡平面図・断面図（1）



第 76 図　ＳＩ 2a 竪穴住居跡平面図・断面図（２）



第 77 図　ＳＩ２ｂ竪穴住居跡平面図・断面図

SI2b 竪穴住居跡

[位置]a 期と同じ。南東側の調査区外に延びる。

[重複関係] SI2a より古い。

[規模・形態] 東西 5.64m、南北 4.75m である。平面形は方形と考えられる。

[主軸方位] 西側周溝基準で N-15°-E である。

[堆積土・構築土] 本期の堆積土は a 期の掘り方によって削平され、検出されなかった。24 層は周溝内堆積土である。

[壁面] 残存していない。

[床面] a 期の掘り方で部分的に削平されるが、掘り方の底面を直接床面としている。

[柱穴] 12 基のピット（P18・19・21 ～ 26・28 ～ 31）を検出した。配置・規模から P28・30 は主柱穴の可能性

SI2 土層註記表

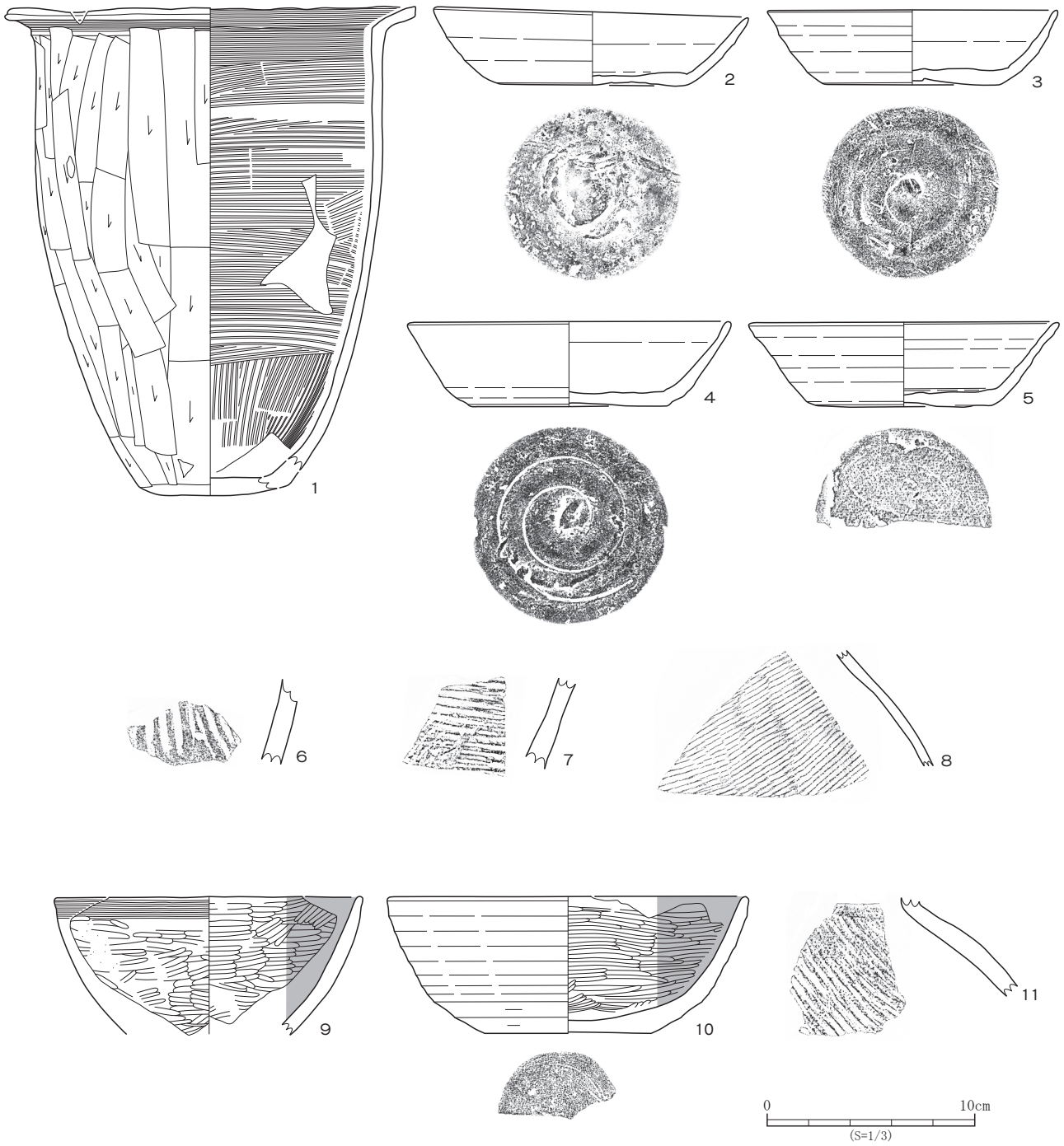
遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SI2a	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	鉄分を斑状に多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。焼土粒を含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多量含む。鉄分を斑状に多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを含む。鉄分を斑状に多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	鉄分・焼土粒をわずかに含む。炭化物粒を含む。
	6	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物を多量含む。焼土を含む。灰をわずかに含む。
	7	10YR6/1 褐灰色	シルト	炭化物をわずかに含む。灰層。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物・焼土粒・灰を多量含む。
	9	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土粒・灰を多量含む。
	10	10YR2/3 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多量含む。赤黒色シルトブロック・炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	11	10YR2/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト・赤黒色シルトブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。（a 期周溝内堆積土）
	13	2.5YR3/6 暗赤褐色	シルト	-
	14	10YR4/6 褐色	シルト	鉄分をわずかに含む。
	15	10YR4/4 褐色	シルト	鉄分をわずかに含む。
	16	10YR4/4 褐色	シルト	鉄分・炭化物をわずかに含む。
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロックを多量含む。焼土をわずかに含む。
	18	10YR4/6 褐色	シルト	鉄分・焼土をわずかに含む。
	19	2.5YR3/6 暗赤褐色	シルト	締りあり。
	20	2.5YR4/6 赤褐色	シルト	-
	21	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤黒色シルトブロック・鉄分・炭化物・焼土をわずかに含む。
	22	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	鉄分・炭化物・焼土をわずかに含む。
SI2b	23	2.5YR4/4 オリーブ褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック、鉄分を斑状に多量含む。締りあり。（a 期床面埋土）
	24	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック、鉄分を斑状にわずかに含む。（b 期周溝内堆積土）
P1	25	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
	26	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。
	27	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
	28	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
P2	29	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
	30	10YR3/3 暗褐色	シルト	鉄分を多量含む。
	31	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
	32	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。
	33	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
P3	34	10YR3/4 暗褐色	シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	35	10YR3/3 暗褐色	シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	36	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	37	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。
	38	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
P4	39	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	40	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
	41	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
	42	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルト・褐灰色粘土ブロックを含む。
	43	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
P5	44	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	45	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。
	46	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤黒色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
P6	47	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
	48	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。
P7	49	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物・焼土を多量含む。
P12	50	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
P15	51	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐灰色粘土ブロック・赤黒色シルト・焼土を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	52	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒色シルト・炭化物・焼土を多量含む。
	53	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物・焼土をわずかに含む。
P24	54	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
P25	55	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物・焼土ブロックを多量含む。
P27	56	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
	57	10YR3/3 暗褐色	シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	58	10YR3/3 暗褐色	シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	59	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。焼土をわずかに含む。
	60	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	61	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐灰色粘土ブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。
	62	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
	63	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。
	64	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	鉄分をわずかに含む。グライ化。
P28	65	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
	66	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
	67	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。
P8	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	赤黒色シルトブロックを含む。褐色シルトブロック・鉄分・炭化物を多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。赤黒色シルトブロックを含む。鉄分・炭化物をわずかに含む。
P9	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物・焼土を多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	鉄分・炭化物・焼土をわずかに含む。
P10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルト粒をわずかに含む。鉄分を含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルト粒をわずかに含む。鉄分を含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	鉄分をわずかに含む。
P11	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	赤黒色シルトブロックを多量含む。褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
P13	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物・焼土を多量含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。・炭化物・焼土をわずかに含む。
P14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
P16	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	鉄分・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分・炭化物をわずかに含む。
P17	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物・焼土を多量含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物・焼土をわずかに含む。
P18	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物・焼土を多量含む。
P19	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。炭化物・焼土を多量含む。
P20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・黒色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を含む。
P21	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	鉄分・炭化物を多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	鉄分・炭化物をわずかに含む。下部はグライ化。
P22	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。
P23	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物・焼土を多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。
P26	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	鉄分を少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
P29	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	鉄分をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。粘性あり。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	鉄分をわずかに含む。粘性あり。
P30	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・焼土をわずかに含む。
P31	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物をわずかに含む。焼土を多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物・焼土をわずかに含む。

がある。規模は径 45 ～ 58cm 以上、深さ 43cm である。その他のピットの規模は径 0.25 ～ 1.01m、深さ 5 ～ 50cm で、補助的な柱や貯蔵穴の可能性がある。

[周溝] 西・南辺で検出した。断面形は U 字形で、規模は幅 10 ～ 42cm、深さ 10cm である。

[カマド] a 期の掘り方に削平されており、検出されなかった。

[出土遺物] 堆積土及びピットから土師器・須恵器・鉄滓が出土しており、そのうち土師器 2 点、須恵器 1 点を第 78 図 9 ～ 11 に図示した。9 は底部から口縁部まで緩やかに外傾しながら立ち上がり、口縁部でわずかに外反する



No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備　考	写真図版
1	C-25	7B	SI2a-P16	1	土師器	甕	20.0 × 7.0 × 23.5	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ハケメ	内外面被熱。	30-1
2	E-21	7B	SI2a	4	須恵器	坏	15.2 × 9.1 × 3.7	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り	ロクロナデ		30-2
3	E-22	7B	SI2a	4	須恵器	坏	13.8 × 8.5 × 3.6	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り	ロクロナデ		30-3
4	E-23	7B	SI2a	4	須恵器	坏	15.6 × 9.5 × 4.1	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り	ロクロナデ		30-4
5	E-24	7B	SI2a	5	須恵器	坏	(14.8) × 8.5 × 4.1	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り	ロクロナデ		30-5
6	E-19	7B	SI2a	3	須恵器	甕	- × - ×現 4.1	平行タタキ	ヘラナデ		-
7	E-20	7B	SI2a	3	須恵器	甕	- × - ×現 5.8	平行タタキ	ヘラナデ		-
8	E-25	7B	SI2a	12	須恵器	甕	- × - ×現 5.5	平行タタキ	当て具痕・ナデ		-
9	C-26	7B	SI2b	23	土師器	鉢	(14.8) × - ×現 6.6	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラミガキ・黒色処理		30-9
10	D-7	7B	SI2b-P18	1	土師器	坏	(17.0) × (8.4) × 6.6	ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理	外面底部刻書。	30-10
11	E-26	7B	SI2b-P25	1	須恵器	甕	- × - ×現 4.7	平行タタキ	当て具痕・ナデ		-

第 78 図　ＳＩ２ａ・ｂ竪穴住居跡出土遺物（１）

No.	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種　別	器　種	石　　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
1	Kc-b2-2	7B	SI2a	1	礫石器	凹＋敲	石英安山岩	8.3 × 7.1 × 4.9　225.93	凹表１、敲表１＋裏 4+ 右３。	30-6
2	Kd-a-2	7B	SI2a	12	石製品	砥石	石英安山岩質凝灰岩	7.1 × 6.9 × 3.6　285.13	溝状痕、被熱あり。	30-7
3	Kd-d-1	7B	SI2a	1	石製品	勾玉	瑪瑙	3.4 × 1.8 × 1.0　7.34		30-8

第 79 図　ＳＩ２a 竪穴住居跡出土遺物（2）

土師器鉢である。10 はロクロ使用の土師器坏で、底部に刻書がみられる。11 は須恵器甕胴部片で外面に平行タタキ目がみられる。ロクロ使用とロクロ不使用の土師器が混在することから、本住居跡の年代は a 期とほぼ同じ 8 世紀後葉～ 9 世紀初頭頃と考えられる。

２）土坑

SK1 土坑（第 80 図、図版 18）　W310・S50 グリッドで検出した。南西の一部が調査区外に延びる。SI2 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整方形である。規模は一辺 1.20m、深さ 55cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面から 20cm 付近に段を持ち、底面は平坦である。堆積土は 4 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。本遺構の年代は SI2 との重複関係から 8 世紀後葉～ 9 世紀初頭以降と考えられる。

SK3 土坑（第 80 図、図版 18）　W320・S60 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-35°-W である。規模は長軸 98cm、短軸 87cm、深さ 20cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや丸味を持つ。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

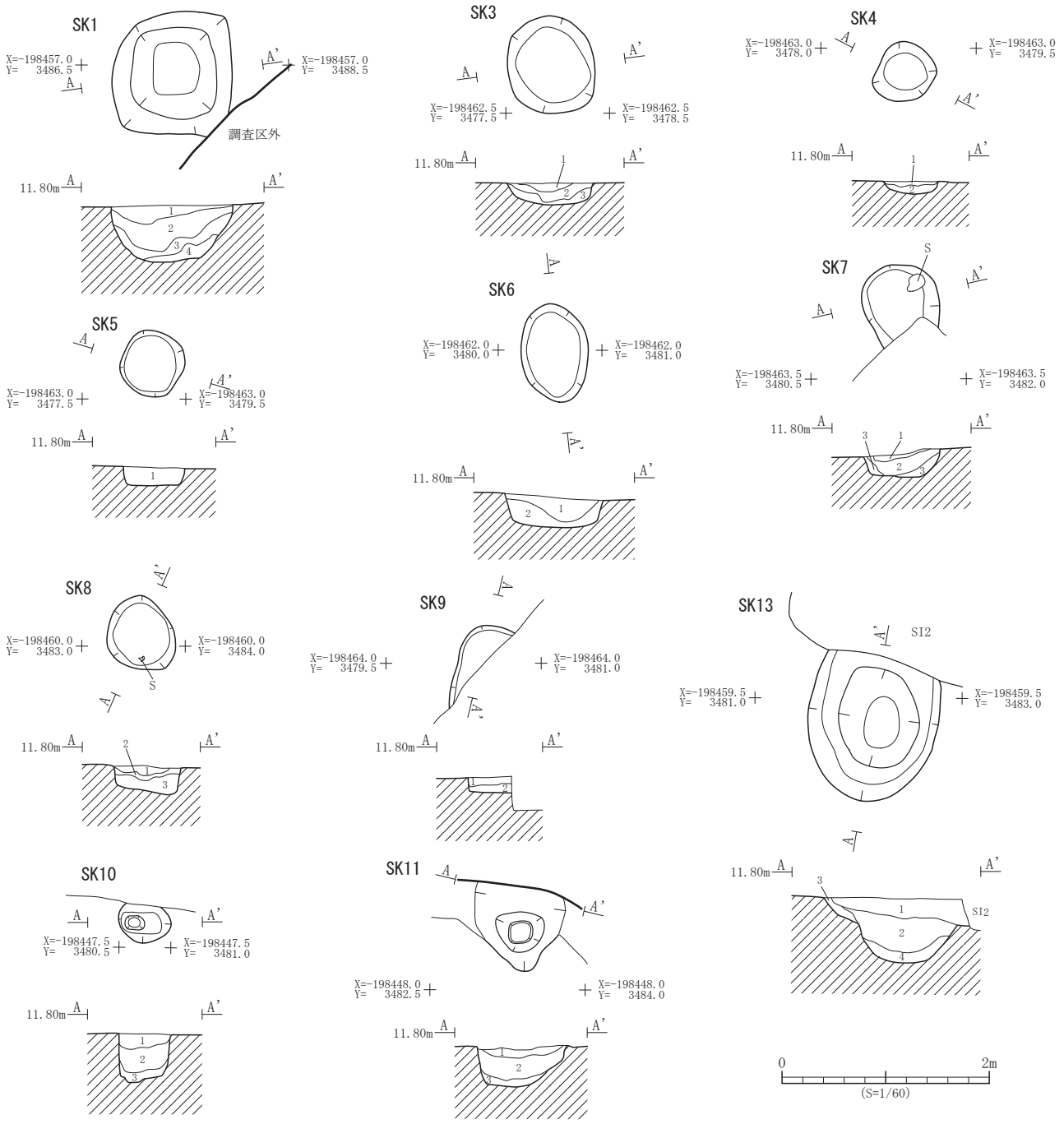
SK4 土坑（第 80 図、図版 18）　W320・S60 グリッドで検出した。平面形は不整楕円形で、長軸方向は N-38°-E である。規模は長軸 58cm、短軸 52cm、深さ 12cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面はやや丸味を持つ。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK5 土坑（第 80 図、図版 18）　W320・S60 グリッドで検出した。平面形は円形である。規模は径 65cm、深さ 18cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK6 土坑（第 80 図、図版 18）　W310・S60 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-12°-W である。規模は長軸 96cm、短軸 65cm、深さ 30cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SK7 土坑（第 80 図、図版 18）　W310・S60 グリッドで検出した。南側を側溝に削平されるが、平面形は楕円形と考えられ、長軸方向は N-12°-W である。検出した規模は長軸 73cm、短軸 68cm、深さ 25cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや丸味を持つ。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

SK8 土坑（第 80 図、図版 18）　W310・S60 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は N-33°-W である。規模は長軸 74cm、短軸 63cm、深さ 25cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から須恵器片が出土している。



遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK1	1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。
	2	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。
	3	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。
	4	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	鉄分を多量含む。
SK3	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分・炭化物を多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。
SK4	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。褐灰色粘土ブロック・マンガン粒をわずかに含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
SK5	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	褐灰色粘土ブロック・褐色シルトブロック・マンガン粒をわずかに含む。
SK6	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。
SK7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	-
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	マンガン粒をわずかに含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。
SK8	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	-

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
SK8	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
SK9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
SK10	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	暗灰黄色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。マンガン粒を含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色粘土・褐色シルトブロック・鉄分・マンガン粒を多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色粘土ブロック・鉄分を多量含む。褐色シルトブロックをわずかに含む。
SK11	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
SK13	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	褐色シルトブロック・白色砂粒・鉄分をわずかに含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	鉄分を多量含む。
	4	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	-

第 80 図　ＳＫ１・３～ 11・13 土坑平面図・断面図

SK9 土坑（第 80 図、図版 18）　W310・S60 グリッドで検出した。南東半を側溝に削平されるが、平面形は方形を基調としたものと考えられる。検出した規模は東西 23cm、南北 95cm、深さ 16cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形と考えられ、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

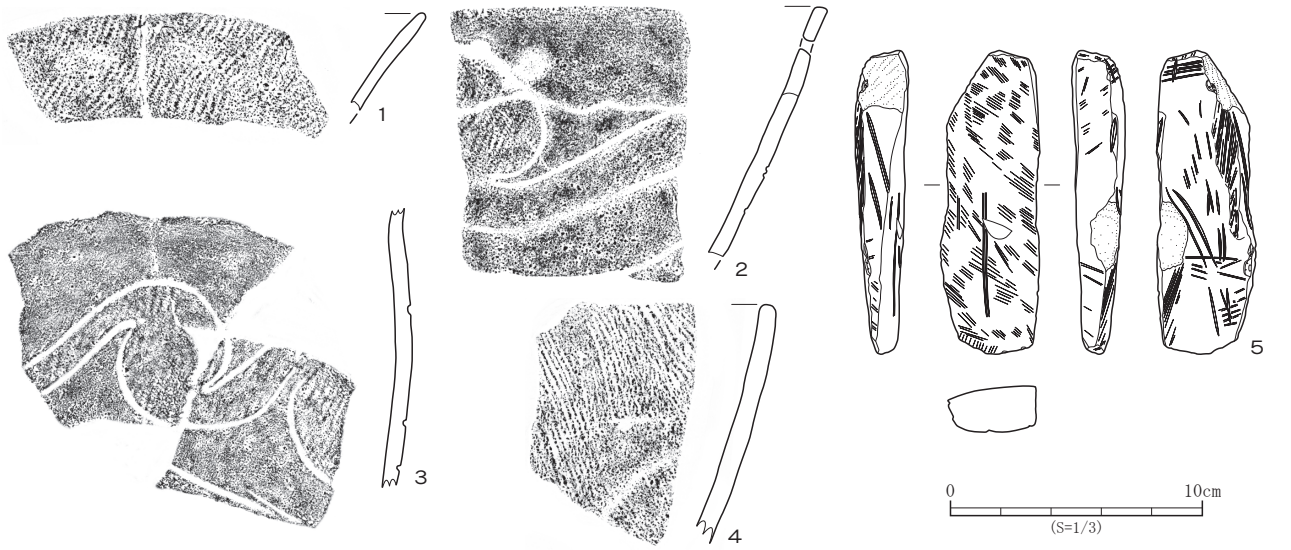
SK10 土坑（第 80 図、図版 19）　W310・S40 グリッドで検出した。北側を側溝に削平されるが、平面形は楕円形で、長軸方向は N-76° -W である。規模は長軸 52cm、短軸 39cm、深さ 49cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦であるが、西側に径 15cm、深さ 5cm のピット状の落ち込みが 1 箇所ある。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

SK11 土坑（第 80 図、図版 19）　W310・S40 グリッドで検出した。北側が調査区外のため、平面形は不明である。検出した規模は東西 86cm、南北 81cm、深さ 40cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦であるが、南側に径 48cm、深さ約 10cm のピット状の落ち込みが 1 箇所ある。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

SK13 土坑（第 80 図）　W310・S50 ～ 60 グリッドで検出した。SI2 と重複関係にあり、本遺構が古い。北側を SI2 に削平されるが、平面形は楕円形と考えられ、長軸方向は N-16° -E である。検出した規模は長軸 1.40m、短軸 1.25m、深さ 62cm で、壁面は急角度に立ち上がり、底面から 35cm 付近で段を持つ。断面形は逆台形状で、底面はやや丸味を持つ。堆積土は 4 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・須恵器片が出土している。

（２）遺構外出土遺物（第 81 図、図版 30）

基本層Ⅴ層から縄文土器・土師器・須恵器・石製品、深掘区の基本層Ⅵ・Ⅶ層から縄文土器が出土している。そのうち縄文土器 4 点、石製品 1 点を第 81 図に図示した。1・2 は南西側深掘区基本層Ⅵ層出土の縄文土器深鉢口縁部片で、2 の口縁部には補修孔がみられる。3 は南西側深掘区基本層Ⅶ層出土の縄文土器深鉢胴部片で、Ⅵ層出土の 2 と同一個体と考えられる。4 は縄文土器深鉢口縁部片で L 撚糸文が施文される。5 は基本層Ⅴ層出土の面取り加工された砥石である。



No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	文様等	備　考	写真図版
1	A-21	7B	Ⅵ	深掘区	縄文土器	深鉢	口縁部 -LR 縄文		30-11
2	A-20	7B	Ⅵ	深掘区	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 - 沈線文区画 •LR 縄文	補修孔あり。A-22 と同一。	30-12
3	A-22	7B	Ⅶ	深掘区	縄文土器	深鉢	胴部 - 沈線文区画 •LR 縄文	A-20 と同一。	30-13
4	A-25	7B	Ⅴ	SI2	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 -L 撚糸文		30-14

No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種　別	器　種	石　材	長さ×幅×厚さ（cm）　重さ（g）	備　考	写真図版
5	Kd-a-3	7B	Ⅴ	-	石製品	砥石	石英安山岩質凝灰岩	12.0 × 3.9 × 2.2　120.84		30-15

第 81 図　遺構外出土遺物

４．まとめ

下ノ内遺跡は仙台市南部の太白区富沢四丁目にあり、自然堤防上の微高地に立地する縄文・古墳時代～古代の遺跡である。平成 17 年度は６区、平成 18 年度は７Ａ・Ｂ区で計 1,097㎡の調査を行い、縄文時代以降の遺構群を検出した。

（１）遺構について

１）縄文時代の遺構は、基本層Ⅵ・Ⅶ・Ⅸ層上面で検出された。

６区Ⅸ層 － 河川跡１条

７Ａ区Ⅵ層 － 性格不明遺構１基、遺物包含層

７Ａ区Ⅶ層 － 集石３群、土坑 43 基、性格不明遺構２基、ピット５基

２）７Ａ区Ⅶ層で検出した集石群の一部は、下部土坑に伴う配石の可能性がある。

３）古墳時代～古代の遺構は基本層Ⅴ層上面で検出された。

６区 － 竪穴住居跡３軒、土坑５基、河川跡１条、溝跡 10 条、小溝状遺構群３群、ピット 144 基

７Ａ区 － 竪穴住居跡２軒、掘立柱建物跡１棟、土坑８基、河川跡２条、性格不明遺構１基、溝跡 15 条、小溝状遺構群６群、ピット 108 基

７Ｂ区 - 竪穴住居跡１軒、土坑 11 基、ピット７基

４）古墳時代の遺構として６区で竪穴住居跡１軒、溝跡１条、７Ａ区で竪穴住居跡１軒、溝跡１条を検出した。

５）古代の遺構として６区で竪穴住居跡２軒、土坑１基、溝跡３条、小溝状遺構群１群、７Ａ区で竪穴住居跡１軒、７Ｂ区で竪穴住居跡１軒を検出した。

６）６区と７Ａ区で小溝状遺構群が検出されたことから、調査区周辺には畑が広がっていたと考えられる。また、竪穴住居跡と小溝状遺構群の重複関係から、奈良時代から平安時代にかけての土地利用は、居住域と生産域が明確には分けられていなかったと考えられる。

（２）遺物について

下ノ内遺跡からの出土遺物は平箱 35 箱である。

１）縄文時代

６区基本層Ⅸ層から中期中葉の大木 8b 式の深鉢が出土している。７Ａ区Ⅵ層の遺物包含層から後期中葉の宝ヶ峯式を主体とする土器が多量に出土しており、その中に後期初頭～前葉の土器も若干みられる。これらの土器と共に土製品・打製石器・礫石器・石製品が出土している。

２）古墳時代

７Ａ区 SI29 から古墳時代前期の土師器坩・壺・甕、６区 SI459 から古墳時代中～後期の土師器坏・甕、石製品（小玉）が出土している。また、６区基本層Ⅴ層から TK47 型式期の須恵器坏蓋が出土している。

３）古代

６区 SI459、７Ａ区 SI5 から奈良時代の土師器坏・甕、須恵器坏・甕、６区 SI417・７Ｂ区 SI2 から奈良～平安時代の土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土している。６区 SK423 から平安時代の土師器甑が出土している。

第１表　遺構一覧表（１）

６区Ⅴ層

竪穴住居跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	カマド	時　期
SI417a	W270・S50 ～ 60	N-65° -W	東西 4.07 ×南北 4.14 ×壁高 0.16	東壁中央	8 世紀後葉～ 9 世紀初頭
SI417b	W270・S50 ～ 60	N-65° -W　N-22° -E	東西 4.07 ×南北 4.14 ×壁高 0.24	東壁中央・北壁中央	
SI417c	W270・S50 ～ 60	N-65° -W	東西 4.07 ×南北 4.14 ×壁高 0.27	-	
SI458	W250 ～ 260・S60	N-56° -E	東西 5.93 ×南北 4.31m ×壁高 0.34	東壁中央	5 世紀後半～ 6 世紀初頭
SI459	W250 ～ 260・S50 ～ 60	N-36° -E　N-5° -E	東西 5.15 ×南北 4.70m ×壁高 0.56	北壁中央	8 世紀前半～中

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SK409	W280・S50	N-14° -E	長軸 85 ×短軸 49 ×深さ 12	楕円形・逆台形	
SK410	W280・S50	N-16° -W	長軸 172 ×短軸 168 ×深さ 44	不整形・逆台形	
SK422	W270・S50	N-52° -E	長軸 75 ×短軸 61 ×深さ 17	不整形・逆台形	
SK423	W250・S50	N-38° -W	長軸 [66] × [短軸 55] ×深さ 20	楕円形・箱形	9 世紀後半～ 10 世紀前半
SK457	W270・S50	-	一辺 58 ×深さ 22	方形・逆台形	

河川跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
SR408	W270 ～ 290・S50 ～ 60	-	長さ [20.8] ×幅 [5.15] ×深さ [1.30]	-	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
SD412	W280・S40 ～ 50	N-6° -E	長さ [5.67] ×幅 0.40 ～ 0.84 ×深さ 0.05	やや蛇行・逆台形	
SD413	W280・S40 ～ 50	N-17° -E	長さ [7.22] ×幅 2.27 ～ 2.60 ×深さ 0.20	ほぼ直線・逆台形	
SD416	W260・S50	N-15° -E	長さ [3.34] ×幅 0.59 ～ 0.63 ×深さ 0.15	直線・逆台形	
SD418	W260 ～ 270・S50	N-52° -E	長さ [8.79] ×幅 0.65 ～ 0.82 ×深さ 0.10	直線・逆台形	
SD421	W280・S40 ～ 50	N-7° -E	長さ [3.06] ×幅 1.56 ～ [1.65] ×深さ 0.25	ほぼ直線・逆台形	
SD424	W250 ～ 260・S50	N-4° -E	長さ [4.84] ×幅 0.7 ～ 0.73 ×深さ 0.05	直線・逆台形	8 世紀中～後半
SD443	W260・S50	N-13° -E	長さ [3.97] ×幅 0.19 ～ 0.28 ×深さ 0.02	直線・逆台形	8 世紀前半～中以前
SD461	W260・S50 ～ 60	N-7° -E	長さ 4.56 ×幅 0.48 ～ 0.74 ×深さ 0.10	直線・逆台形	8 世紀中～後半
SD467	W260・S60	N-4° -E	長さ [6.23] ×幅 0.69 ～ 0.78 ×深さ 0.62	直線・不整 U 字形	5 世紀後半～ 6 世紀初頭以前
SD470	W260 ～ 270・S50	N-61° -W	長さ [5.95] ×幅 0.74 ～ 0.95 ×深さ 0.15	ほぼ直線・逆台形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
Ⅰ -1	W290・S40	N-58° -W	長さ 2.12 ×幅 0.23 ～ 0.30 ×深さ 0.06	ほぼ直線・U 字形	9 世紀以降
Ⅰ -2	W290・S40	N-77° -W	長さ 1.60 ×幅 0.27 ～ 0.41 ×深さ 0.02	ほぼ直線・U 字形	
Ⅰ -3	W280 ～ 290・S40 ～ 50	N-52° -W	長さ 2.06 ×幅 0.21 ～ 0.24 ×深さ 0.02	ほぼ直線・U 字形	
Ⅰ -4	W280・S50	N-27° -W	長さ [3.24] ×幅 0.26 ～ 0.44 ×深さ 0.09	直線・U 字形	
Ⅰ -5	W260 ～ 270・S50	N-45° -W	長さ [3.72] ×幅 0.13 ～ 0.17 ×深さ 0.04	ほぼ直線・U 字形	
Ⅰ -6	W270・S50	N-44° -W	長さ [2.74] ×幅 0.14 ～ 0.19 ×深さ 0.04	直線・U 字形	
Ⅰ -7	W270・S50	N-45° -W	長さ [0.82] ×幅 0.10 ～ 0.14 ×深さ 0.06	直線・U 字形	
Ⅰ -8	W260・S50	N-86° -E　N-56° -W	長さ 3.33 ×幅 0.14 ～ 0.23 ×深さ 0.04	やや蛇行・U 字形	
Ⅰ -9	W260・S50	N-52° -W	長さ [2.82] ×幅 0.17 ～ 0.25 ×深さ 0.02	直線・U 字形	
Ⅰ -10	W260・S50	N-62° -W	長さ 2.23 ×幅 0.19 ～ 0.23 ×深さ 0.05	直線・U 字形	
Ⅰ -11	W260・S50	N-54° -W	長さ [3.10] ×幅 0.17 ～ 0.32 ×深さ 0.13	直線・U 字形	
Ⅰ -12	W260・S50 ～ 60	N-21° -W	長さ 1.25 ×幅 0.39 ×深さ 0.06	直線・U 字形	
Ⅰ -13	W260・S50 ～ 60	N-76° -W　N-58° -W	長さ 4.25 ×幅 0.08 ～ 0.24 ×深さ 0.05	やや蛇行・U 字形	
Ⅰ -14	W260・S50 ～ 60	N-57° -W	長さ 3.82 ×幅 0.12 ～ 0.20 ×深さ 0.02	やや蛇行・U 字形	
Ⅰ -15	W260・S60	N-52° -W　N-76° -W	長さ 4.25 ×幅 0.04 ～ 0.19 ×深さ 0.04	やや蛇行・U 字形	
Ⅱ -1	W260 ～ 270・S50	N-61° -W	長さ [4.90] ×幅 [0.28] ×深さ 0.24	やや蛇行・U 字形	9 世紀以降
Ⅱ -2	W260 ～ 270・S50	N-58° -W	長さ [5.75] ×幅 [0.44] ×深さ 0.19	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -3	W260・S50 ～ 60	南北　N-65° -W	長さ 8.26 ×幅 0.17 ～ 0.25 ×深さ 0.08	逆 L 字・U 字形	
Ⅱ -4	W260・S50 ～ 60	南北　N-67° -W	長さ 12.77 ×幅 0.14 ～ 0.23 ×深さ 0.05 ～ 0.14	逆 L 字・U 字形	
Ⅲ -1	W280・S40 ～ 50	N-24° -E	長さ [3.10] ×幅 0.19 ～ 0.37 ×深さ 0.07	直線・U 字形	8 世紀後半
Ⅲ -2	W280・S40 ～ 50	N-28° -E	長さ [6.68] ×幅 0.24 ～ 0.26 ×深さ 0.08	直線・U 字形	
Ⅲ -3	W270 ～ 280・S50	N-22° -E　N-32° -E	長さ [6.74] ×幅 0.14 ～ 0.22 ×深さ 0.03	ほぼ直線・U 字形	
Ⅲ -4	W270・S50	N-30° -E	長さ [5.48] ×幅 0.30 ～ 0.36 ×深さ 0.11	ほぼ直線・U 字形	
Ⅲ -5	W270・S50	N-8° -E	長さ [3.95] ×幅 0.49 ～ 0.52 ×深さ 0.25	直線・逆台形	
Ⅲ -6	W270・S50	N-26° -E	長さ [2.57] ×幅 0.25 ～ 0.32 ×深さ 0.04	ほぼ直線・U 字形	
Ⅲ -7	W270・S50	N-22° -E	長さ [2.34] ×幅 0.13 ～ 0.21 ×深さ 0.04	ほぼ直線・U 字形	
Ⅲ -8	W260 ～ 270・S50	N-21° -E	長さ [6.42] ×幅 0.25 ～ 0.36 ×深さ 0.02	やや蛇行・U 字形	
Ⅲ -9	W260・S50	N-28° -E	長さ [1.55] ×幅 0.15 ～ 0.18 ×深さ 0.06	直線・U 字形	
Ⅲ -10	W260・S50 ～ 60	N-31° -E	長さ 0.80 ×幅 0.18 ～ 0.23 ×深さ 0.03	直線・U 字形	
Ⅲ -11	W260・S50 ～ 60	N-22° -E	長さ 5.19 ×幅 0.14 ～ 0.26 ×深さ 0.07	ほぼ直線・U 字形	
Ⅲ -12	W260・S50	N-16° -E	長さ [1.93] ×幅 0.16 ～ 0.20 ×深さ 0.02	直線・U 字形	
Ⅲ -13	W260・S50	N-23° -E	長さ [2.61] ×幅 0.24 ～ 0.35 ×深さ 0.12	ほぼ直線・U 字形	
Ⅲ -14	W250 ～ 260・S50	N-26° -E	長さ 1.80 ×幅 0.32 ～ 0.45 ×深さ 0.12	直線・U 字形	
Ⅲ -15	W250・S50 ～ 60	N-12° -E　N-26° -E	長さ 5.80 ×幅 0.18 ～ 0.25 ×深さ 0.12	やや蛇行・U 字形	
Ⅲ -16	W270・S50	N-21° -E	長さ [0.85] ×幅 [0.20] ×深さ 0.44	直線・U 字形	
Ⅲ -17	W270・S50	N-10° -E	長さ [0.83] ×幅 [0.29] ×深さ 0.25	直線・逆台形	
Ⅲ -18	W260・S50	N-23° -E	長さ [1.20] ×幅 0.16 ～ 1.20 ×深さ 0.06	ほぼ直線・U 字形	
Ⅲ -19	W250・S50 ～ 60	N-26° -E	長さ [1.42] ×幅 0.22 ～ 0.28 ×深さ 0.08	直線・U 字形	
Ⅲ -20	W250 ～ 260・S60	N-26° -E	長さ 5.93 ×幅 0.27 ～ 0.35 ×深さ 0.10	直線・U 字形	
Ⅲ -21	W260・S50 ～ 60	N-26° -E	長さ 4.36 ×幅 0.35 ～ 0.48 ×深さ 0.23	ほぼ直線・U 字形	
Ⅲ -22	W260・S50	N-23° -E	長さ 6.88 ×幅 0.20 ～ 0.31 ×深さ 0.16	直線・U 字形	

第２表　遺構一覧表（２）

７Ａ区Ⅴ層

竪穴住居跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	カマド	時　期
SI5	W240 ～ 250・S70	N-32° -E	東西 3.40 ×南北 3.35 ×壁高 0.21	北壁中央東寄り	8 世紀前半
SI29	W240・S60 ～ 70	N-30° -W	東西 2.07 ×南北 2.15 ×壁高 0.18	住居北西（地床炉）	4 世紀後半～末

掘立柱建物跡

遺構番号	位置（グリッド）	主軸方位	柱間数	建物規模（m）	時　期
SB21	W250・S70	N-63° -W	桁行 3 間×梁行 2 間	4.22 × 2.75	

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SK3	W240 ～ 250・S60	N-30° -W	長軸 [190] ×短軸 89 ×深さ 35 ～ 77	(不整楕円形)・逆台形	
SK4	W240・S70	N-71° -W	長軸 116 ×短軸 106 ×深さ 30	楕円形・逆台形状	
SK6	W250・S70	-	東西 [96] ×南北 [264] ×深さ 44 ～ 50	不明・逆台形	
SK35	W250 ～ 260・S70	N-35° -E	長軸 [95] ×短軸 51 ×深さ 27	楕円形・箱形	
SK36	W250・S70	N-26° -E	長軸 69 ×短軸 44 ×深さ 13	楕円形・逆台形状	
SK37	W250・S70 ～ 80	N-56° -W	長軸 [72] ×短軸 63 ×深さ 33	楕円形・逆台形	
SK38	W260・S70	N-62° -W	長軸 [73」 ×短軸 55 ×深さ 30	(隅丸長方形)・逆台形	
SK41	W250・S70	N-56° -W	長軸 [60] ×短軸 46 ×深さ 30	(楕円形)・箱形	

河川跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
SR1 東	W230 ～ 250・S70 ～ 90	-	長さ [16.36] ×幅 [6.05] ×深さ 0.15	蛇行・逆台形	
SR1 西	W250 ～ 270・S70 ～ 90	-	長さ [12.68] ×幅 [2.93] ×深さ 0.14 ～ [0.40]	蛇行・逆台形	
SR2	W250・S50 ～ 60	-	長さ [4.55] ×幅 [2.56] ×深さ 0.37	蛇行・逆台形	

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SX43	W240・S70	北東 - 南西	長軸 765 ×短軸 280 ～ 352 ×深さ 24	不整形・不整逆台形	

溝跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模 (m)	平面形・断面形	時　期
SD11	W240・S60 ～ 70	N-45° -W	長さ 7.12 ×幅 0.29 ～ 0.35 ×深さ 0.09	ほぼ直線・U 字形	
SD12	W240・S70	N-48° -W	長さ 2.37 ×幅 0.18 ～ 0.24 ×深さ 0.08	直線・U 字形	
SD13	W250・S60	N-76° -W	長さ 2.00 ×幅 0.25 ～ 0.28 ×深さ 0.10	直線・逆台形	
SD15	W240・S80	N-85° -W	長さ [1.40] ×幅 0.29 ～ 0.80 ×深さ 0.04	直線・U 字形	
SD16	W240・S70	N-78° -W	長さ [2.26] ×幅 0.30 ～ 0.41 ×深さ 0.14	やや弯曲・U 字形	
SD19	W250・S60	N-67° -W	長さ [1.29] ×幅 0.25 ×深さ 0.05	やや弯曲・U 字形	
SD22	W250・S50 ～ 80	N-7° -E	長さ [26.40] ×幅 1.54 ～ 2.66 ×深さ 1.34	ほぼ直線・逆台形	
SD23	W240・S70	N-23° -E	長さ 3.65 ×幅 0.26 ～ 0.34 ×深さ 0.09	やや弯曲・U 字形	
SD31	W250 ～ 260・S70	N-21° -E	長さ [4.25] ×幅 0.23 ～ 0.50 ×深さ 0.13	直線・U 字形	
SD32	W260・S70	N-28° -E	長さ 0.80 ×幅 0.15 ×深さ 0.10	直線・U 字形	
SD33	W260・S70	N-30° -E	長さ 2.00 ×幅 0.29 ～ 0.35 ×深さ 0.08	直線・U 字形	
SD34	W260・S70	N-6° -E	長さ [1.75] ×幅 0.16 ～ 0.26 ×深さ 0.04	直線・U 字形	
SD39	W260・S60 ～ 70	N-5° -E	長さ [3.35] ×幅 0.90 ～ 0.96 ×深さ 0.92	直線・U 字形	5 世紀後半～ 6 世紀初頭以前
SD40	W250 ～ 260・S70	N-46° -E	長さ [2.46] ×幅 0.40 ～ 0.59 ×深さ 0.16	直線・U 字形	
SD42	W250・S50 ～ 60	N-4° -E	長さ [1.90] ×幅 0.32 ～ 0.36 ×深さ 0.10	直線・逆台形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	平面形・断面形	時　期
Ⅰ -1	W250・S80	N-57° -W	長さ [0.58] ×幅 0.15 ×深さ 0.10	直線・U 字形	
Ⅰ -2	W250・S80	N-75° -W	長さ 2.12 ×幅 0.14 ～ 0.20 ×深さ 0.04	直線・U 字形	
Ⅰ -3	W250・S80	N-70° -W	長さ 1.87 ×幅 0.19 ～ 0.23 ×深さ 0.03	直線・U 字形	
Ⅰ -4	W250・S70 ～ 80	N-51° -W	長さ 1.36 ×幅 0.15 ～ 0.23 ×深さ 0.02	やや弯曲・U 字形	
Ⅱ -1	W240 ～ 250・S60	N-62° -W　N-56° -W	長さ 12.62 ×幅 0.29 ～ 0.35 ×深さ 0.04	直線・U 字形	8 世紀後半以降
Ⅱ -2	W240・S60 ～ 70	N-56° -W	長さ 9.33 ×幅 0.25 ～ 0.37 ×深さ 0.15	やや蛇行・U 字形	
Ⅱ -3	W230 ～ 250・S60 ～ 70	N-53 ～ 56° -W	長さ 18.68 ×幅 0.20 ～ 0.30 ×深さ 0.07	ほぼ直線・U 字形	
Ⅱ -4	W230 ～ 240・S60	N-60° -W	長さ 12.90 ×幅 0.29 ～ 0.37 ×深さ 0.04	直線・U 字形	
Ⅲ -1	W240 ～ 250・S50 ～ 60	N-48° -W	長さ [5.08] ×幅 0.17 ～ 0.23 ×深さ 0.05	ほぼ直線・U 字形	8 世紀後半以降
Ⅲ -2	W240 ～ 250・S60	N-49° -W	長さ [2.40] ×幅 0.19 ～ 0.22 ×深さ 0.06	直線・U 字形	
Ⅲ -3	W240 ～ 250・S50 ～ 60	N-50° -W	長さ [3.32] ×幅 0.18 ～ 0.23 ×深さ 0.06	直線・U 字形	
Ⅲ -4	W240 ～ 250・S50 ～ 60	N-47° -W	長さ [6.59] ×幅 0.15 ～ 0.24 ×深さ 0.04	直線・U 字形	
Ⅲ -5	W240・S60	N-40° -W	長さ 5.05 ×幅 0.15 ～ 0.22 ×深さ 0.08	直線・U 字形	
Ⅲ -6	W240・S60	N-41° -W	長さ [1.95] ×幅 0.16 ～ [0.20] ×深さ 0.05	直線・U 字形	
Ⅲ -7	W250・S50 ～ 60	N-43° -W	長さ [1.19] ×幅 0.24 ×深さ 0.06	直線・U 字形	
Ⅲ -8	W250・S50 ～ 60	N-50° -W	長さ [0.89] ×幅 0.18 ×深さ 0.03	直線・U 字形	
Ⅲ -9	W250・S60	N-50° -W	長さ 3.18 ×幅 0.18 ～ 0.25 ×深さ 0.05	ほぼ直線・U 字形	
Ⅳ -1	W240・S70	N-64° -W	長さ [4.15] ×幅 0.29 ～ 0.34 ×深さ 0.12	直線・U 字形	8 世紀後半以降
Ⅳ -2	W230 ～ 240・S60 ～ 70	N-63° -W	長さ [8.05] ×幅 0.30 ～ 0.40 ×深さ 0.11	ほぼ直線・U 字形	
Ⅳ -3	W230 ～ 240・S60	N-63° -W	長さ [11.00] ×幅 0.32 ～ 0.40 ×深さ 0.06	直線・U 字形	
Ⅳ -4	W240・S60	N-66° -W	長さ [3.05] ×幅 0.20 ～ 0.32 ×深さ 0.08	直線・U 字形	
Ⅳ -5	W240・S70	N-64° -W	長さ 4.52 ×幅 0.32 ～ 0.35 ×深さ 0.07	直線・U 字形	
Ⅳ -6	W240・S70	N-57° -W	長さ [2.65] ×幅 0.31 ×深さ 0.12	ほぼ直線・U 字形	
Ⅴ -1	W240・S60	N-23° -E	長さ 2.36 ×幅 0.22 ×深さ 0.08	直線・U 字形	8 世紀後半以前
Ⅴ -2	W240・S50 ～ 60	N-20° -E	長さ [1.86] ×幅 0.28 ～ 0.36 ×深さ 0.07	直線・U 字形	
Ⅴ -3	W240・S60	N-23° -E	長さ 1.58 ×幅 0.27 ×深さ 0.07	直線・U 字形	
Ⅴ -4	W240・S60	N-21° -E	長さ [2.32] ×幅 0.30 ～ 0.36 ×深さ 0.12	直線・U 字形	
Ⅴ -5	W230 ～ 240・S70	N-30° -E	長さ 1.76 ×幅 0.32 ×深さ 0.07	直線・U 字形	
Ⅵ -1	W250・S50 ～ 60	N-21° -E	長さ 3.43 ×幅 0.22 ～ 0.28 ×深さ 0.06	ほぼ直線・U 字形	8 世紀後半以前
Ⅵ -2	W250・S60	N-15° -E	長さ 2.83 ×幅 0.25 ×深さ 0.07	直線・U 字形	

７Ａ区Ⅵ層

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SX44	W240・S60	南北	長軸 394 ×短軸 158 ～ 297 ×深さ 22 ～ 24	不整形・不整逆台形	

第３表　遺構一覧表（３）

遺物包含層

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SX18	W250 ～ 260・S60 ～ 80	-	-	-	縄文後期
SX45	W240 ～ 250・S60 ～ 80	-	-	-	縄文後期

7A 区Ⅶ層

集石

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SX91	W240・S60	-	-	-	縄文後期
SX92	W260・S60 ～ 70	-	-	-	縄文後期
SX95	W240 ～ 260・S60 ～ 70	-	-	-	縄文後期

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SK46	W240・S70	N-45° -E	長軸 82 ×短軸 49 ×深さ 15	楕円形・逆台形	縄文後期
SK48	W250 ～ 260・S70	N-21° -W	長軸 177 ×短軸 85 ×深さ 15	不整楕円形・逆台形	縄文後期
SK49	W250 ～ 260・S70	N-61° -E	長軸 113 ×短軸 84 ×深さ 14	楕円形・箱形	縄文後期
SK50	W250・S70	N-70° -E	長軸 162 ×短軸 92 ×深さ 20	楕円形・逆台形状	縄文後期
SK51	W250・S60 ～ 70	N-4° -W	長軸 136 ×短軸 99 ×深さ 17	楕円形・逆台形	縄文後期
SK52	W250・S70	N-19° -E	長軸 88 ×短軸 66 ×深さ 8	楕円形・逆台形状	縄文後期
SK53	W260・S70	N-10° -E	長軸 90 ×短軸 69 ×深さ 30	楕円形・箱形	縄文後期
SK54	W250・S70	N-28° -W	長軸 112 ×短軸 75 ×深さ 21	楕円形・箱形	縄文後期
SK55	W250・S70	N-73° -E	長軸 103 ×短軸 85 ×深さ 27	楕円形・逆台形	縄文後期
SK56	W260・S70	N-4° -W	長軸 150 ×短軸 83 ×深さ 15	楕円形・逆台形	縄文後期
SK57	W260・S70	N-25° -W	長軸 115 ×短軸 51 ×深さ 16	楕円形・箱形	縄文後期
SK58	W250・S70	N-14° -E	長軸 108 ×短軸 59 ×深さ 9	楕円形・逆台形	縄文後期
SK59	W250・S70	-	径 72 ×深さ 24	円形・箱形	縄文後期
SK60	W250・S70	N-6° -E	長軸 132 ×短軸 [93] ×深さ 24	楕円形・箱形	縄文後期
SK61	W250・S70	N-47° -E	長軸 139 ×短軸 70 ×深さ 29	楕円形・逆台形	縄文後期
SK62	W250・S70	N-9° -E	長軸 175 ×短軸 128 ×深さ 20	不整楕円形・逆台形	縄文後期
SK63	W250 ～ 260・S70	N-72° -E	長軸 [90] ×短軸 67 ×深さ 14	不整楕円形・逆台形	縄文後期
SK64	W260・S70	N-78° -W	長軸 104 ×短軸 78 ×深さ 17	隅丸長方形・逆台形	縄文後期
SK65	W250・S70	-	径 112 ×深さ 17	ほぼ円形・箱形	縄文後期
SK66	W260・S60 ～ 70	N-81° -W	長軸 175 ×短軸 104 ×深さ 16	楕円形・逆台形	縄文後期
SK67	W250・S70	-	東西 [60] ×南北 94 ×深さ 10	(方形)・箱形	縄文後期
SK68	W250・S70	N-6° -E	長軸 163 ×短軸 120 ×深さ 29	隅丸方形・逆台形	縄文後期
SK69	W250・S70	N-31° -W	長軸 [45] ×短軸 29 ×深さ 5	(楕円形)・逆台形	縄文後期
SK70	W260・S70	N-9° -W	長軸 [132] ×短軸 [70] ×深さ 16	(楕円形)・逆台形	縄文後期
SK71	W250 ～ 260・S70	-	東西 66 ×南北 [55] ×深さ 14	(円形)・箱形	縄文後期
SK72	W250・S70	N-36° -W	長軸 98 ×短軸 64 ×深さ 14	(楕円形)・逆台形	縄文後期
SK73	W250・S70	N-18° -E	長軸 185 ×短軸 65 ×深さ 22	楕円形・逆台形	縄文後期
SK74	W250・S70	N-48° -W	長軸 85 ×短軸 [80] ×深さ 8	不整長方形・逆台形	縄文後期
SK75	W250 ～ 260・S70	-	東西 [100] ×南北 [149] ×深さ 11	不明・不明	縄文後期
SK76	W250 ～ 260・S70	-	北西 - 南東 81 ×北東 - 南西 [54] ×深さ 19	(円形)・逆台形	縄文後期
SK78	W240 ～ 250・S60	東西	東西 105 ×南北 93 ×深さ 11	隅丸方形・逆台形	縄文後期
SK79	W250・S70	N-32° -W	長軸 88 ×短軸 68 ×深さ 27	楕円形・逆台形	縄文後期
SK80	W240・S70	N-15° -E	長軸 81 ×短軸 50 ×深さ 36	楕円形・U 字形	縄文後期
SK81	W250・S60	-	径 46 ×深さ 27	円形・逆台形	縄文後期
SK82	W250・S70	N-37° -E	長軸 65 ×短軸 [55] ×深さ 9	(楕円形)・逆台形状	縄文後期
SK83	W240・S70	N-15° -E	長軸 [50] ×短軸 40 ×深さ 10	(楕円形)・逆台形	縄文後期
SK84	W250・S70	-	北東 - 南西 98 ×北西 - 南東 [56] ×深さ 16	不明・逆台形	縄文後期
SK85	W250・S70 ～ 80	N-62° -W	長軸 83 ×短軸 66 ×深さ 10	楕円形・逆台形状	縄文後期
SK86	W230・S70	-	東西 [60] ×南北 [45] ×深さ 53	(円形)・箱形	縄文後期
SK87	W240 ～ 250・S60	N-64° -W	長軸 85 ×短軸 60 ×深さ 18	楕円形・逆台形	縄文後期
SK88	W250・S70	-	東西 [48] ×南北 71 ×深さ 26	不明・逆台形	縄文後期
SK89	W240・S70	N-34° -W	長軸 55 ×短軸 44 ×深さ 3	楕円形・逆台形状	縄文後期
SK90	W250・S70	N-71° -W	長軸 136 ×短軸 105 ×深さ 10	隅丸方形・逆台形状	縄文後期

性格不明遺構

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SX47	W260・S70	N-77° -W	長軸 255 ×短軸 116 ～ 155 ×深さ 30	不整形・逆台形状	
SX94	W250・S70	ほぼ南北	長軸 156 ×短軸 56 ～ 102 ×深さ 11 ～ 20	不整形・不整形	縄文後期

7B 区Ⅴ層

竪穴住居跡

遺構番号	位置（グリッド）	方　向	規　模（m）	カマド	時　期
SI2a	W310・S50	N-16° -E	東西 6.50 ×南北 5.80 ×壁高 0.20 ～ 0.34	北壁中央	8 世紀後葉～
SI2b	W310・S50	N-15° -E	東西 [5.64] ×南北 [4.75]	不明	9 世紀初頭

土坑

遺構番号	位置（グリッド）	長軸方向	規　模（cm）	平面形・断面形	時　期
SK1	W310・S50	-	一辺 120 ×深さ 55	不整方形・逆台形	8 世紀後葉～ 9 世紀初頭以降
SK3	W320・S60	N-35° -W	長軸 98 ×短軸 87 ×深さ 20	楕円形・逆台形	
SK4	W320・S60	N-38° -E	長軸 58 ×短軸 52 ×深さ 12	不整楕円形・逆台形状	
SK5	W320・S60	-	径 65 ×深さ 18	ほぼ円形・箱形	
SK6	W310・S60	N-12° -W	長軸 96 ×短軸 65 ×深さ 30	楕円形・逆台形	
SK7	W310・S60	N-22° -W	長軸 [73] ×短軸 68 ×深さ 25	(楕円形)・逆台形	
SK8	W310・S60	N-33° -W	長軸 74 ×短軸 63 ×深さ 25	楕円形・箱形	
SK9	W310・S60	N-35° -E	東西 [23] ×南北 [95] ×深さ 16	(方形)・(箱形)	
SK10	W310・S40	N-76° -W	長軸 52 ×短軸 [39] ×深さ 49	楕円形・箱形	
SK11	W310・S40	-	東西 86 ×南北 [81] ×深さ 40	不明・逆台形	
SK13	W310・S50 ～ 60	N-16° -E	長軸 [140] ×短軸 125 ×深さ 62	(楕円形)・逆台形状	8 世紀後葉～ 9 世紀初頭以前

下ノ内遺跡写真図版

６区Ⅴ層全景（西より）

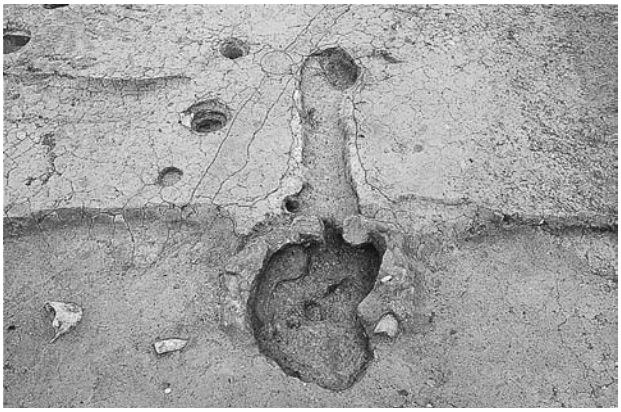
６区Ⅴ層全景（南より）

写真図版１　下ノ内遺跡（１）

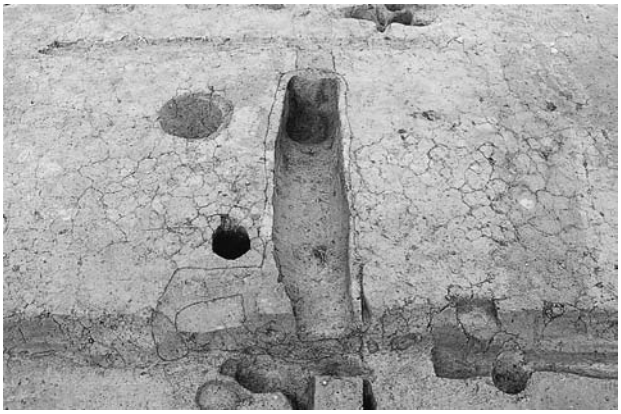
６区Ｖ層SI417a（西より）

６区Ｖ層SI417a 遺物出土状況（南より）

６区Ｖ層SI417a カマド遺物出土状況（西より）


６区Ｖ層SI417a カマド（西より）

６区Ｖ層SI417b（南より）


６区Ｖ層SI417b カマド（南より）

６区Ｖ層SI417c（南より）

６区Ｖ層SI459・SI458 炭化材出土状況（南より）

写真図版２　下ノ内遺跡（２）

６区Ｖ層SI459 カマド（南より）

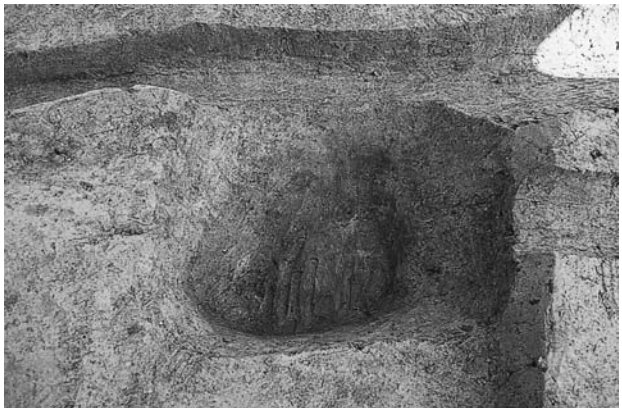
６区Ｖ層SI459 旧カマド遺物出土状況（南より）

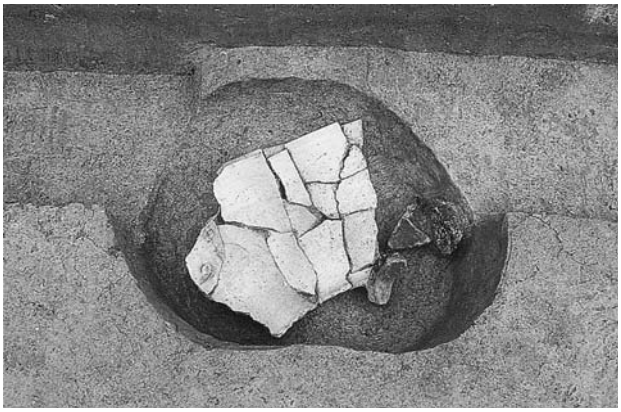
６区Ｖ層SI458・SI459 掘り方（南西より）

６区Ｖ層SI458 カマド（南西より）

６区Ｖ層SK409（東より）

６区Ｖ層SK410（東より）


６区Ｖ層SK422（南西より）


６区Ｖ層SK423 遺物出土状況（南より）

写真図版３　下ノ内遺跡（３）

６区Ｖ層SK457（東より）

６区Ｖ層SD421（南より）

６区Ｖ層SD424（南より）

６区Ｖ層SD461（南より）

６区Ｖ層SD467（南より）

６区Ｖ層SD470（東より）

６区Ｖ層西側小溝状遺構群Ⅰ群（南より）

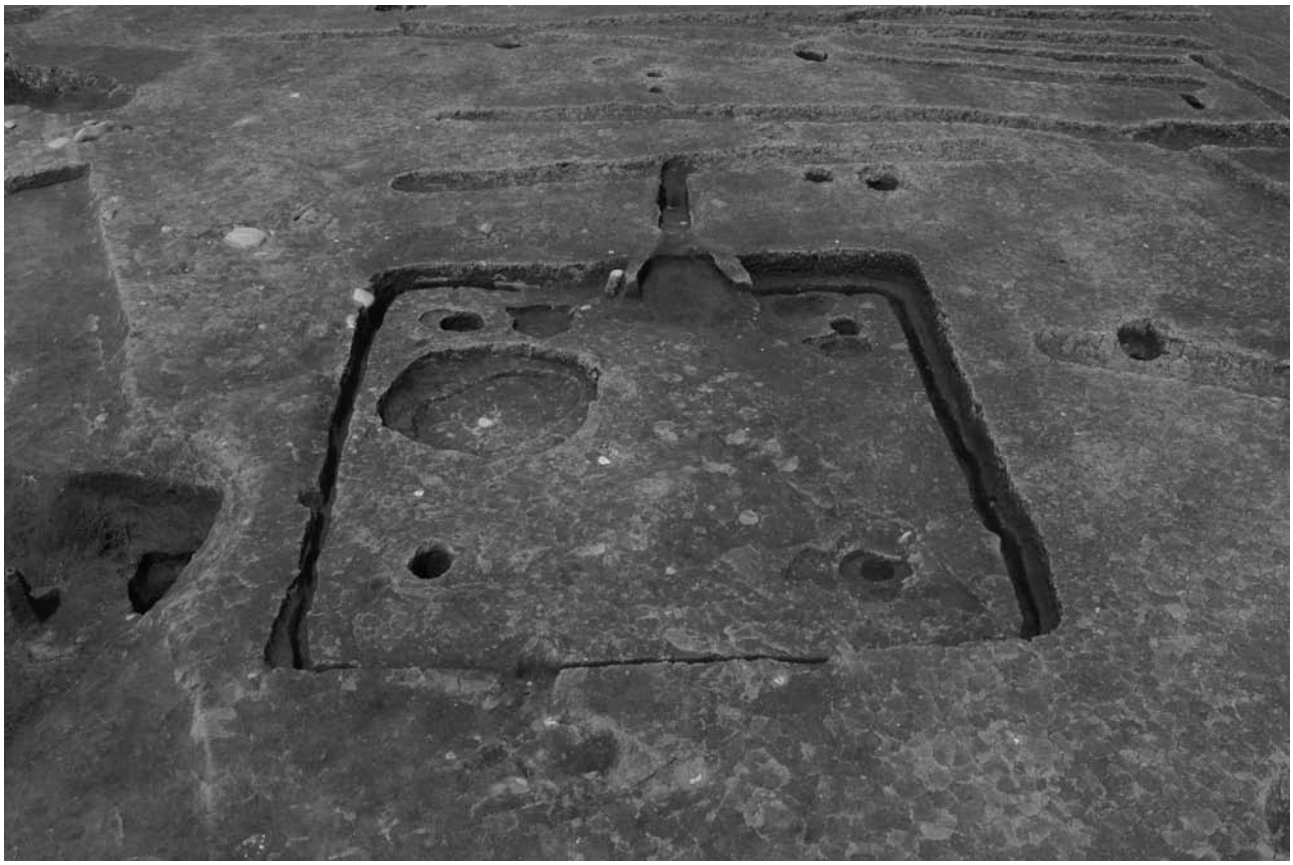
６区Ｖ層西側小溝状遺構群Ⅲ群（南より）

写真図版４　下ノ内遺跡（４）

７Ａ 区Ⅴ層全景（西より）

７Ａ 区Ⅴ層全景（北西より）

写真図版５　下ノ内遺跡（５）



７Ａ区Ⅴ層SI5（南より）

７Ａ区Ⅴ層SI5 カマド（南より）

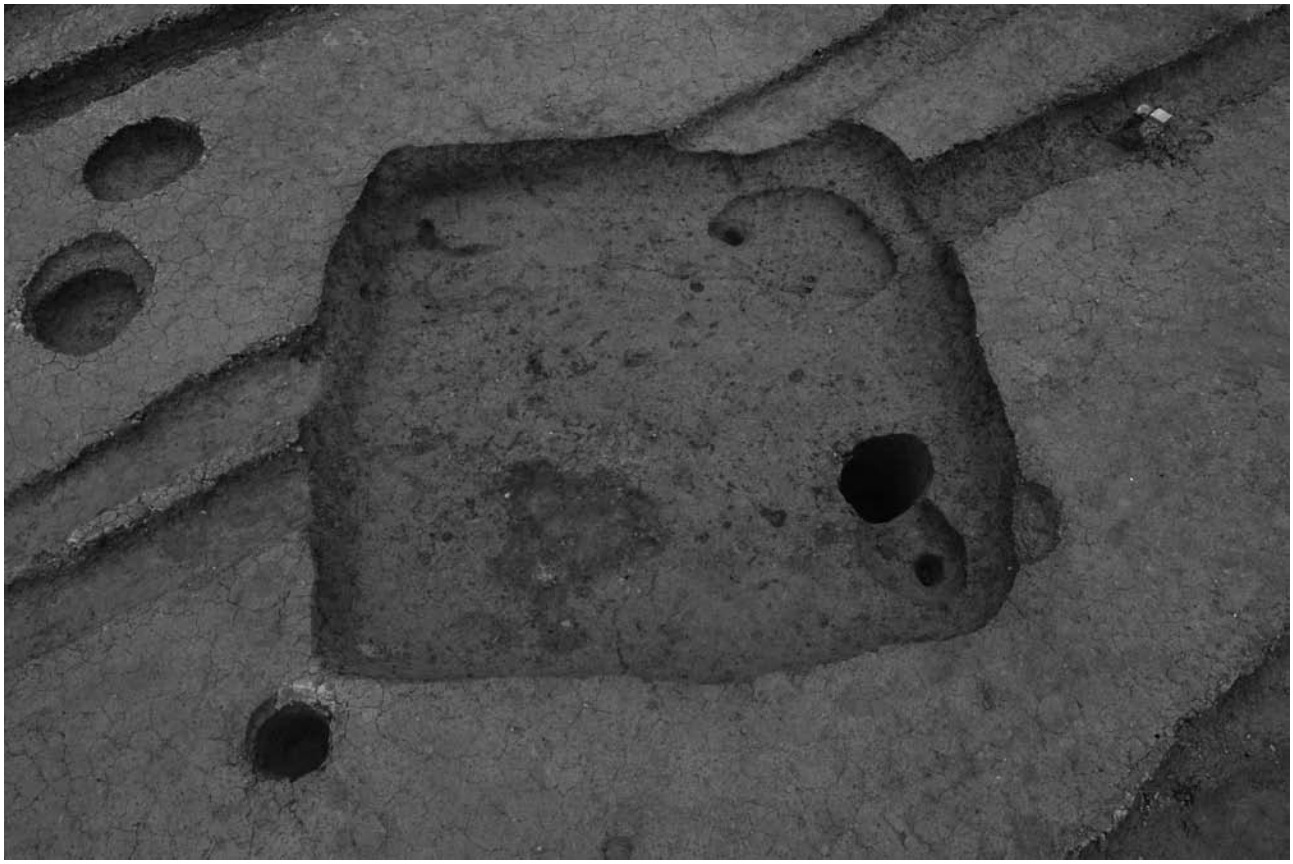
７Ａ区Ⅴ層SI5-P5 断面（南西より）

７Ａ区Ⅴ層SI5-P6 断面（南西より）

７Ａ区Ⅴ層SI5 掘り方（南より）

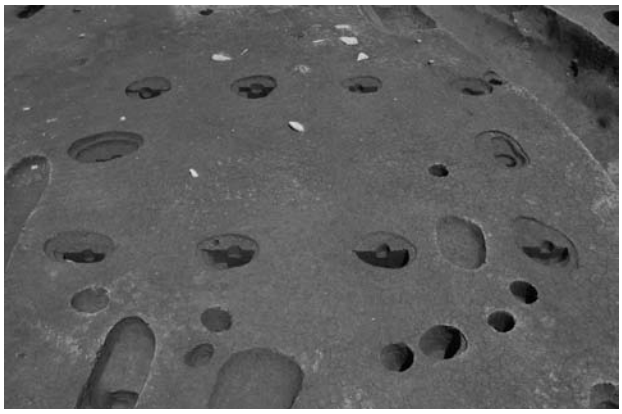
写真図版６　下ノ内遺跡（６）

７Ａ区Ⅴ層SI29 炭化材・焼土・遺物出土状況（南西より）

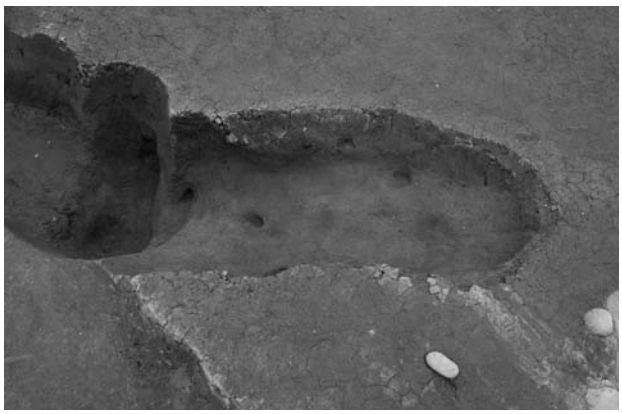


７Ａ区Ⅴ層SI29（南西より）

写真図版７　下ノ内遺跡（７）

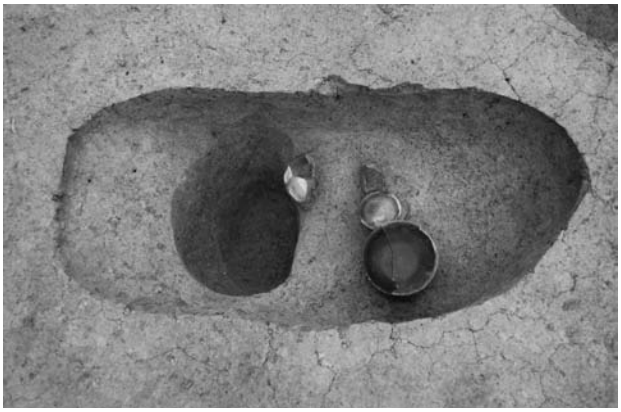

７Ａ区Ⅴ層SB21（南より）

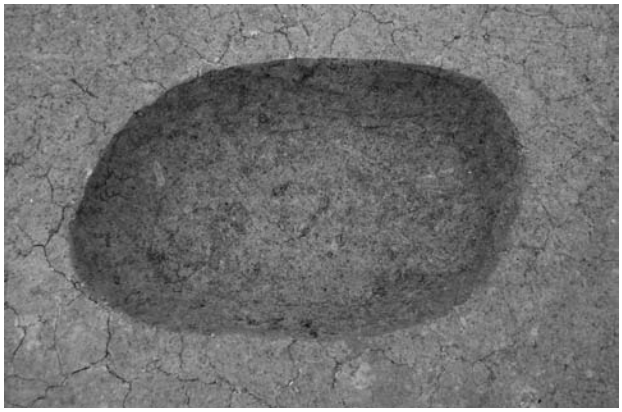
７Ａ区Ⅴ層SK3 炭化材出土状況（南西より）

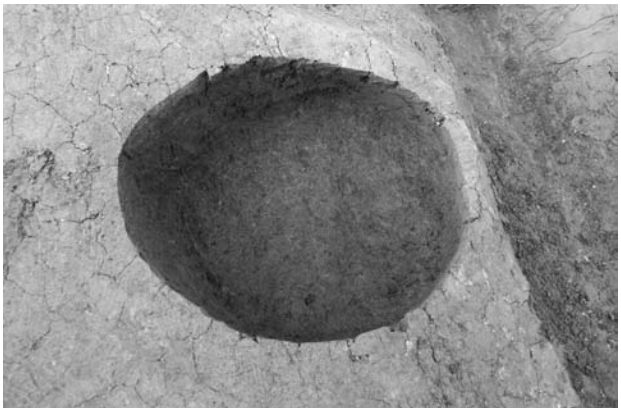

７Ａ区Ⅴ層SK3（南西より）

７Ａ区Ⅴ層SK4 断面（南より）

７Ａ区Ⅴ層SK6（西より）


７Ａ区Ⅴ層SK35（南東より）


７Ａ区Ⅴ層SK36（南東より）


７Ａ区Ⅴ層SK37（南より）

写真図版８　下ノ内遺跡（８）

７Ａ区Ⅴ層SK38（南より）

７Ａ区Ⅴ層SK41（南より）

７Ａ区Ⅴ層SX43（西より）

７Ａ区Ⅴ層SD22（南より）

７Ａ区Ⅴ層SD39（南より）

７Ａ区Ⅴ層SD39 断面（南より）

７Ａ区Ⅵ層SX44（南より）

７Ａ区Ⅵ層SX45 南側遺物出土状況（西より）

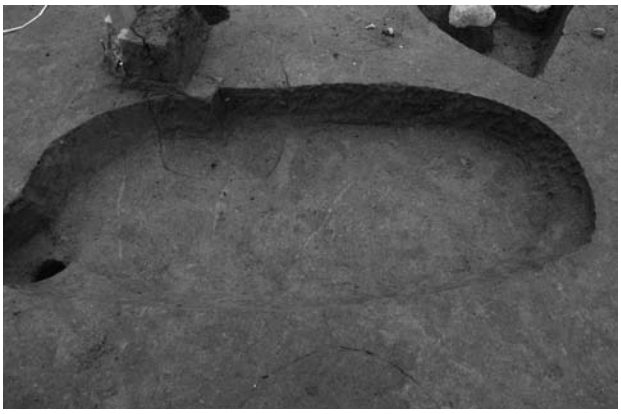
写真図版９　下ノ内遺跡（９）

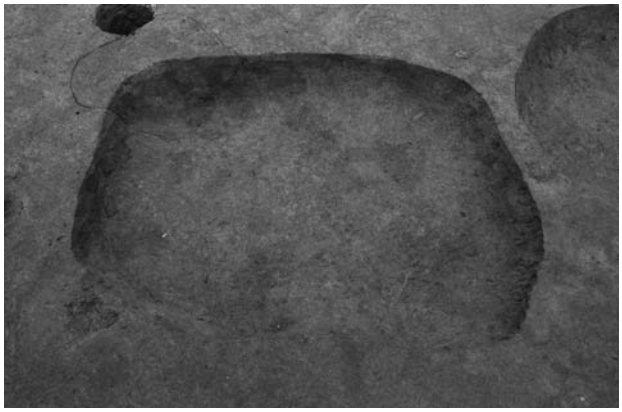
７Ａ 区Ⅶ層SX95 集石全景（西より）

７Ａ 区Ⅶ層土坑群全景（西より）

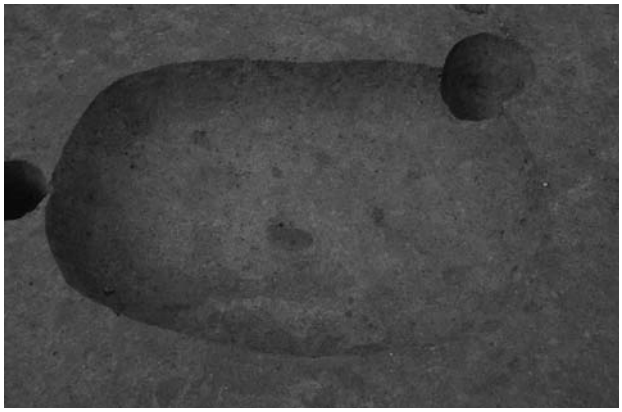
写真図版 10　下ノ内遺跡（10）

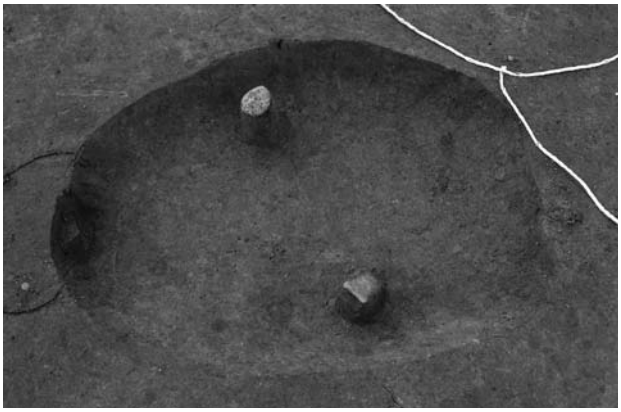
７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ46（南東より）

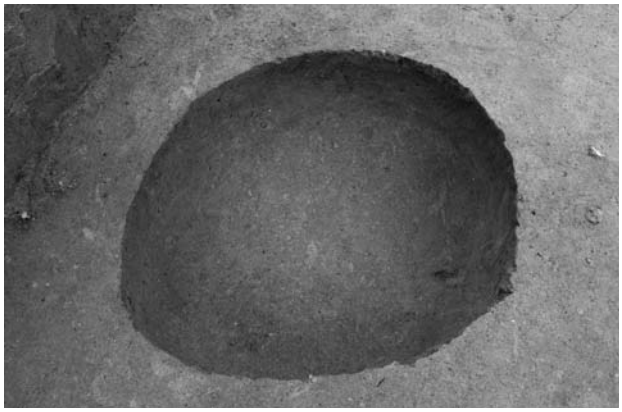

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ48（北東より）


７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ49（南東より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ50（南より）


７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ51（東より）

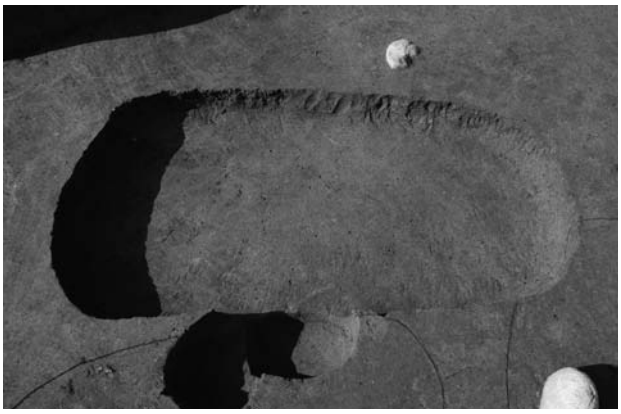

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ52（南東より）


７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ53（南東より）

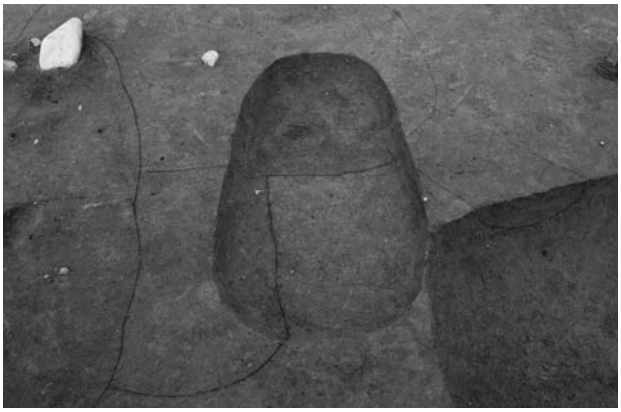
７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ54（北東より）

写真図版 11　下ノ内遺跡（11）

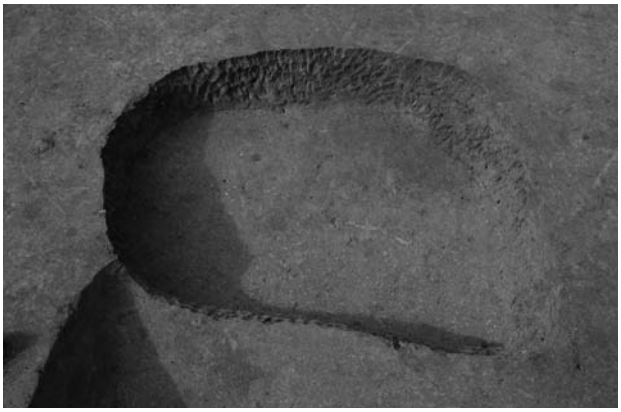
７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ５５（南より）

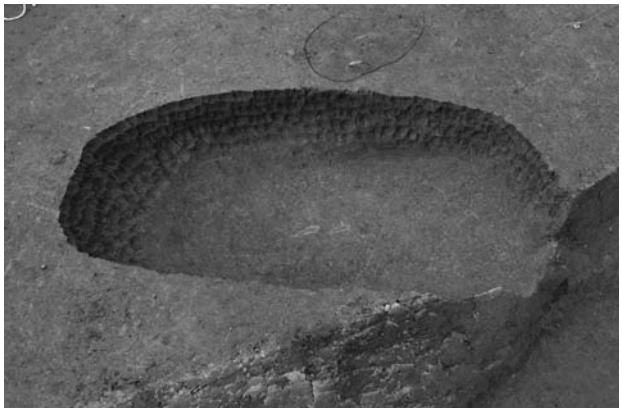

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ５６（東より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ５７（南より）


７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ５８（南より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ５９（南より）

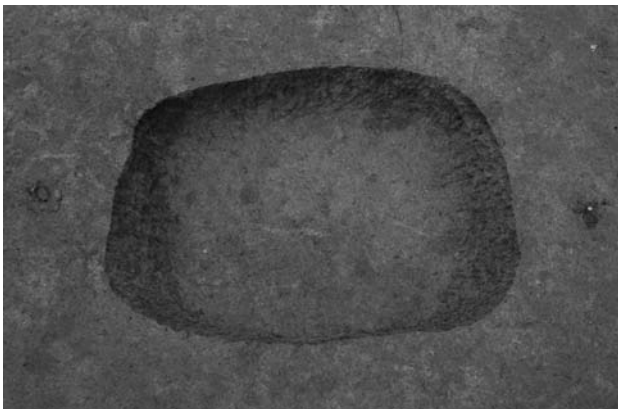

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ６０（東より）

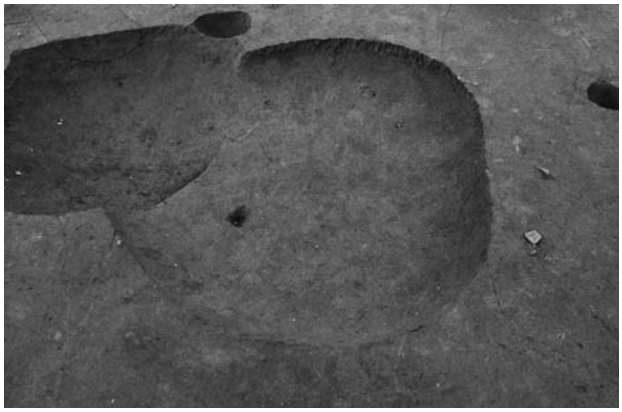

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ６１（南東より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ６２（東より）

写真図版 12　下ノ内遺跡（12）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ６３（南より）


７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ６４（南より）


７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ６５（南より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ６６（南より）

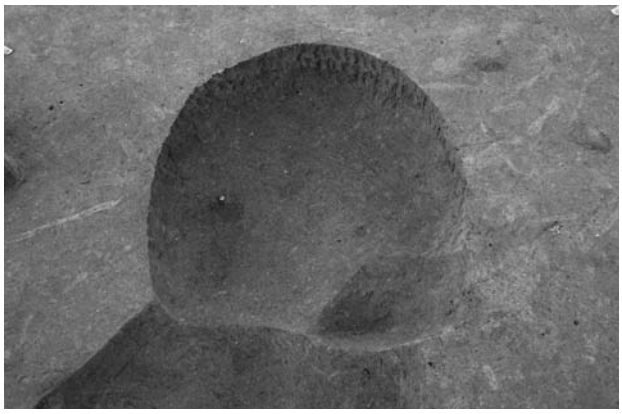
７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ６７（南より）

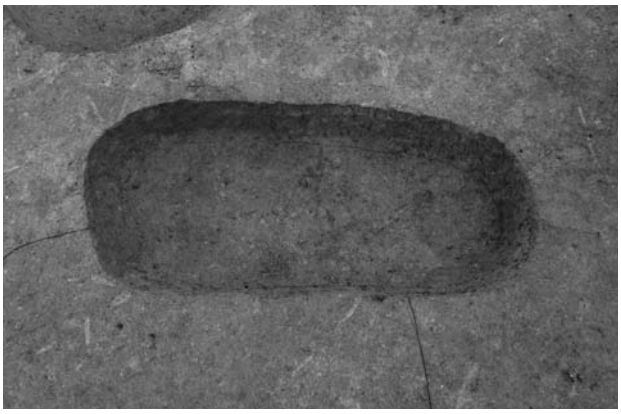
７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ６８（東より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ６９（南東より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ７０（東より）

写真図版 13　下ノ内遺跡（13）

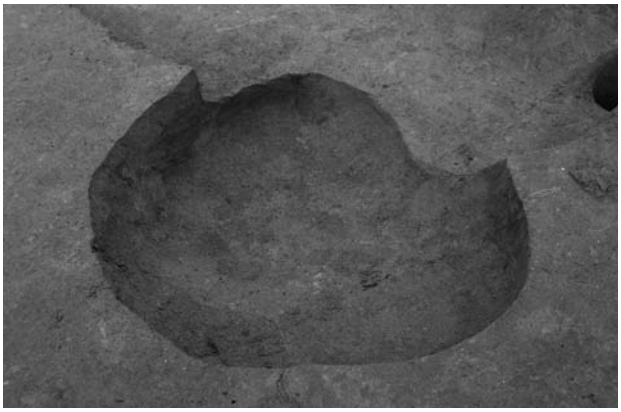

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ７１（南より）

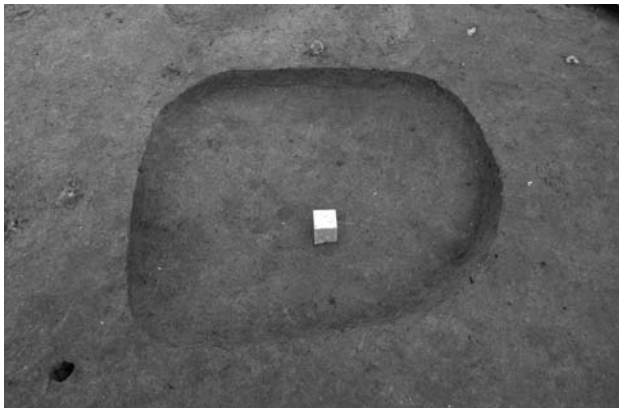

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ７２（南西より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ７３（西より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ７４（南東より）

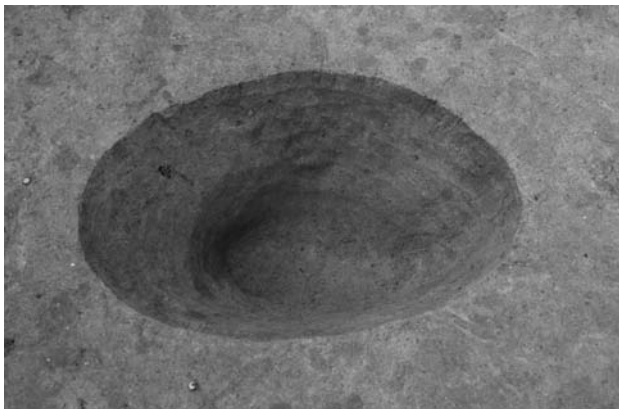
７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ７５（南より）

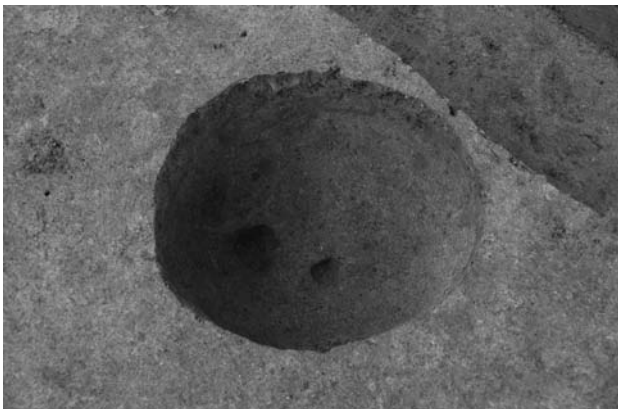

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ７６（南より）

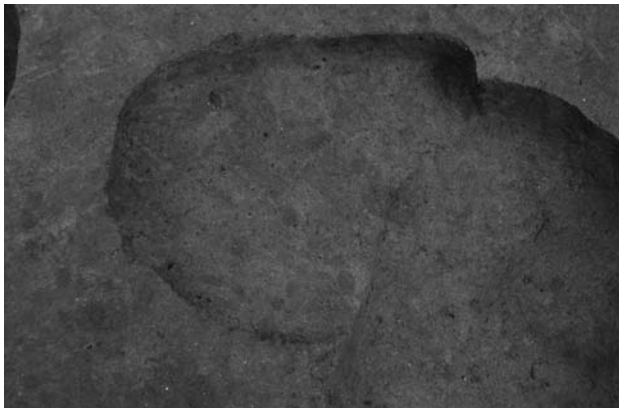

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ７８（南より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ７９（東より）

写真図版 14　下ノ内遺跡（14）


７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ８０（東より）


７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ８１（東より）

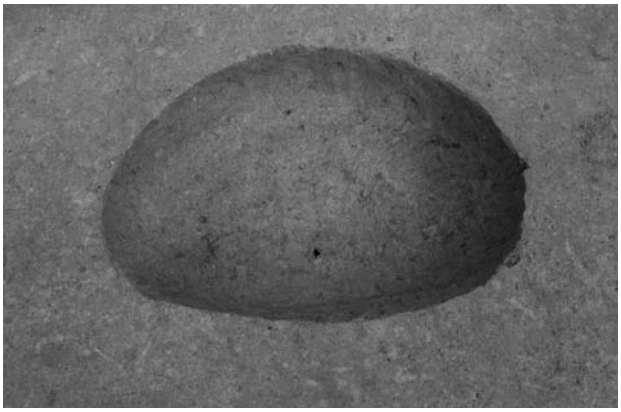

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ８２（南西より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ８３（南西より）

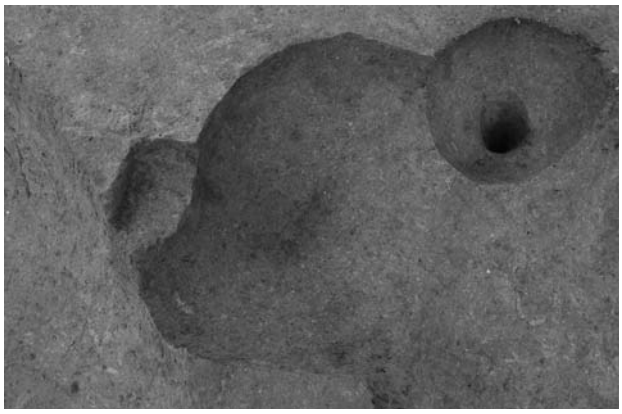
７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ８４（南西より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ８６ 直上遺物出土状況（南西より）

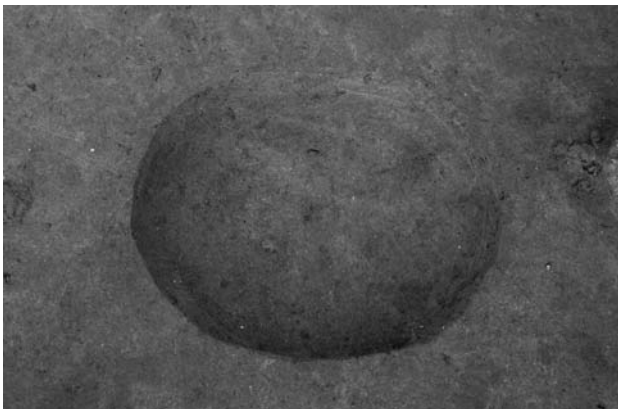
７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ８６（南より）


７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ８７（南より）

写真図版 15　下ノ内遺跡（15）



７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ88（南より）



７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ89（南西より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＫ90（南より）

７Ａ 区Ⅶ層ＳＸ94（南より）

７Ｂ 区Ⅴ層全景（南東より）

写真図版 16　下ノ内遺跡（16）

７Ｂ 区Ｖ層SI2a（南より）

７Ｂ 区Ｖ層SI2a カマド（南より）

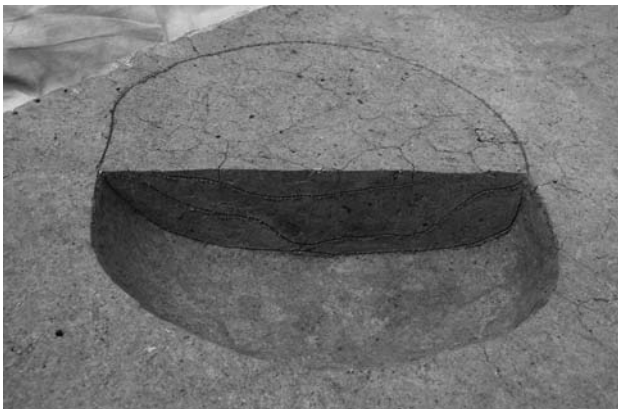
７Ｂ 区Ｖ層SI2a-P16 遺物出土状況（南より）

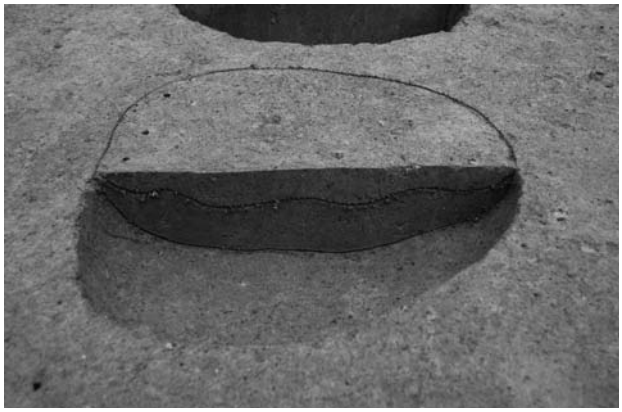
７Ｂ 区Ｖ層SI2a 遺物出土状況（南より）

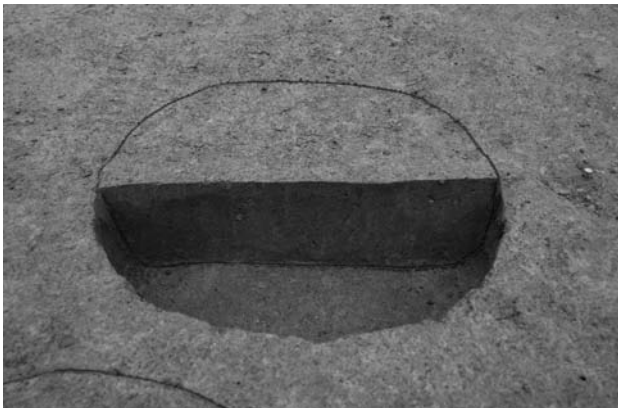
７Ｂ 区Ｖ層SI2b（南より）

写真図版 17　下ノ内遺跡（17）

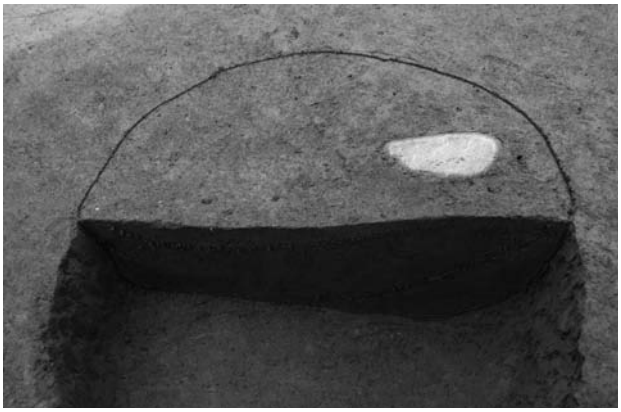
７Ｂ 区Ｖ層SK1 断面（南より）


７Ｂ 区Ｖ層SK3 断面（南より）


７Ｂ 区Ｖ層SK4 断面（南西より）


７Ｂ 区Ｖ層SK5 断面（南西より）

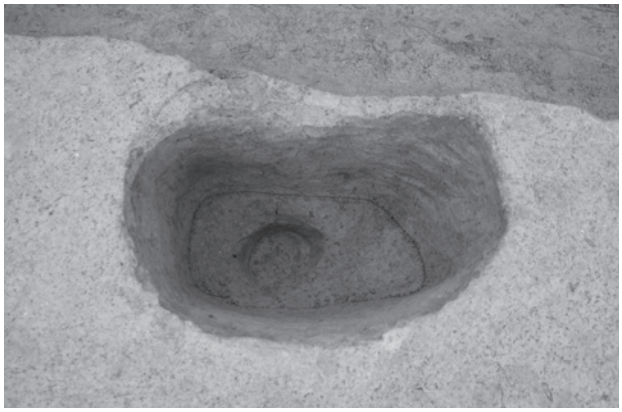
７Ｂ 区Ｖ層SK6 断面（西より）


７Ｂ 区Ｖ層SK7 断面（南より）

７Ｂ 区 Ｖ層SK8 断面（東より）

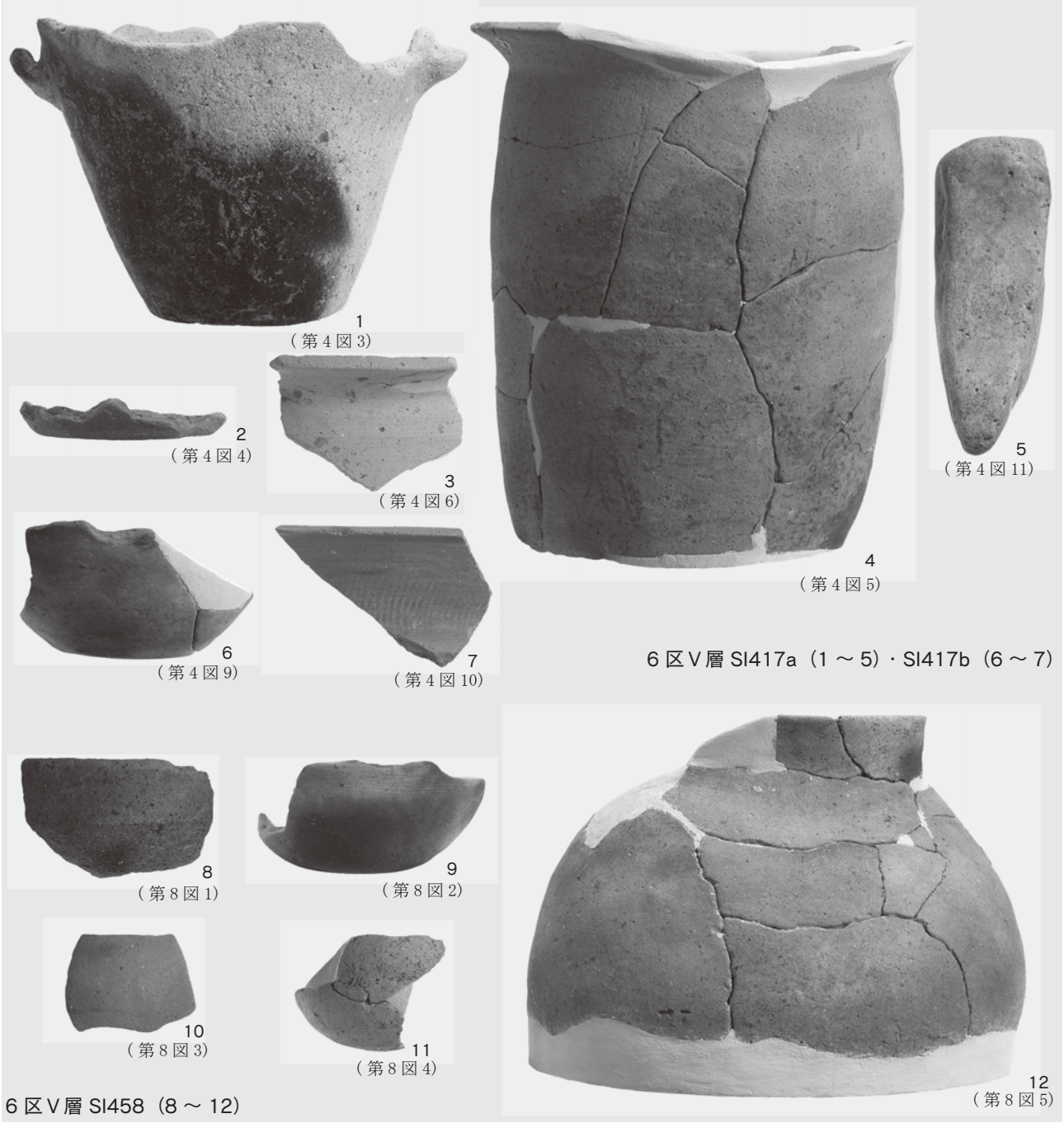
７Ｂ 区Ｖ層SK9（西より）

写真図版 18　下ノ内遺跡（18）

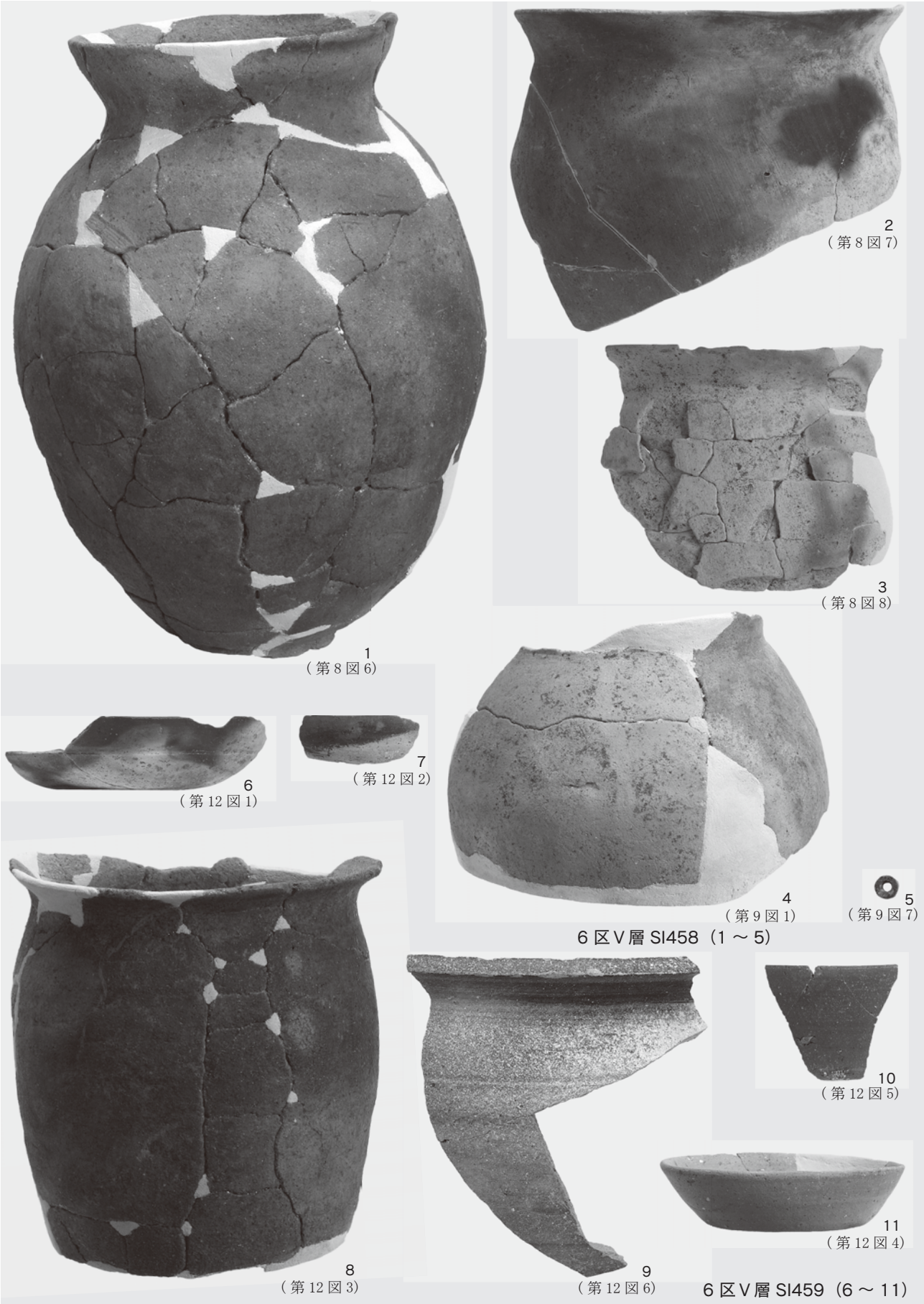


７Ｂ 区Ｖ層SK10（南より）

７Ｂ 区Ｖ層SK11（南より）

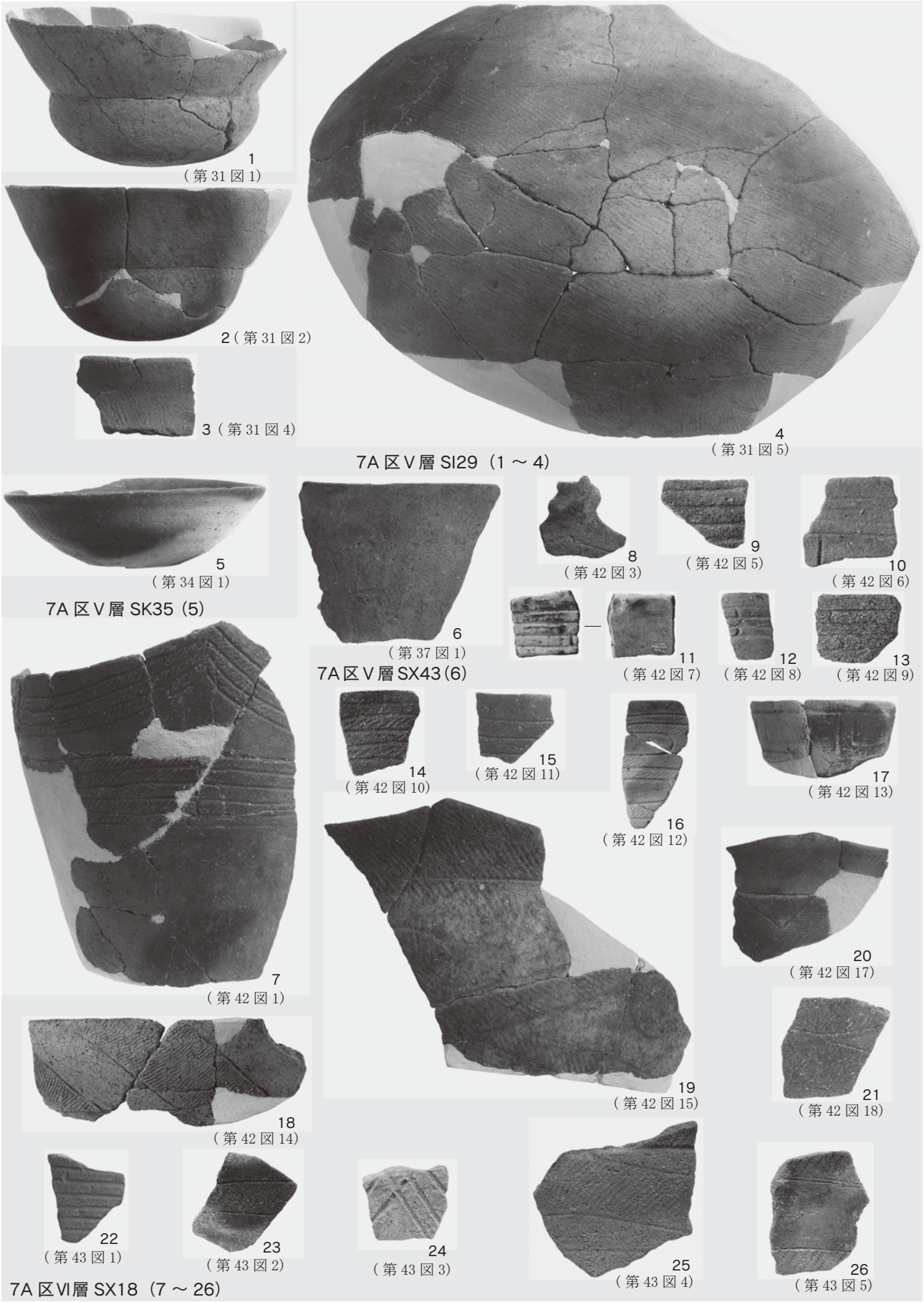


写真図版 19　下ノ内遺跡（19）、出土遺物（１）

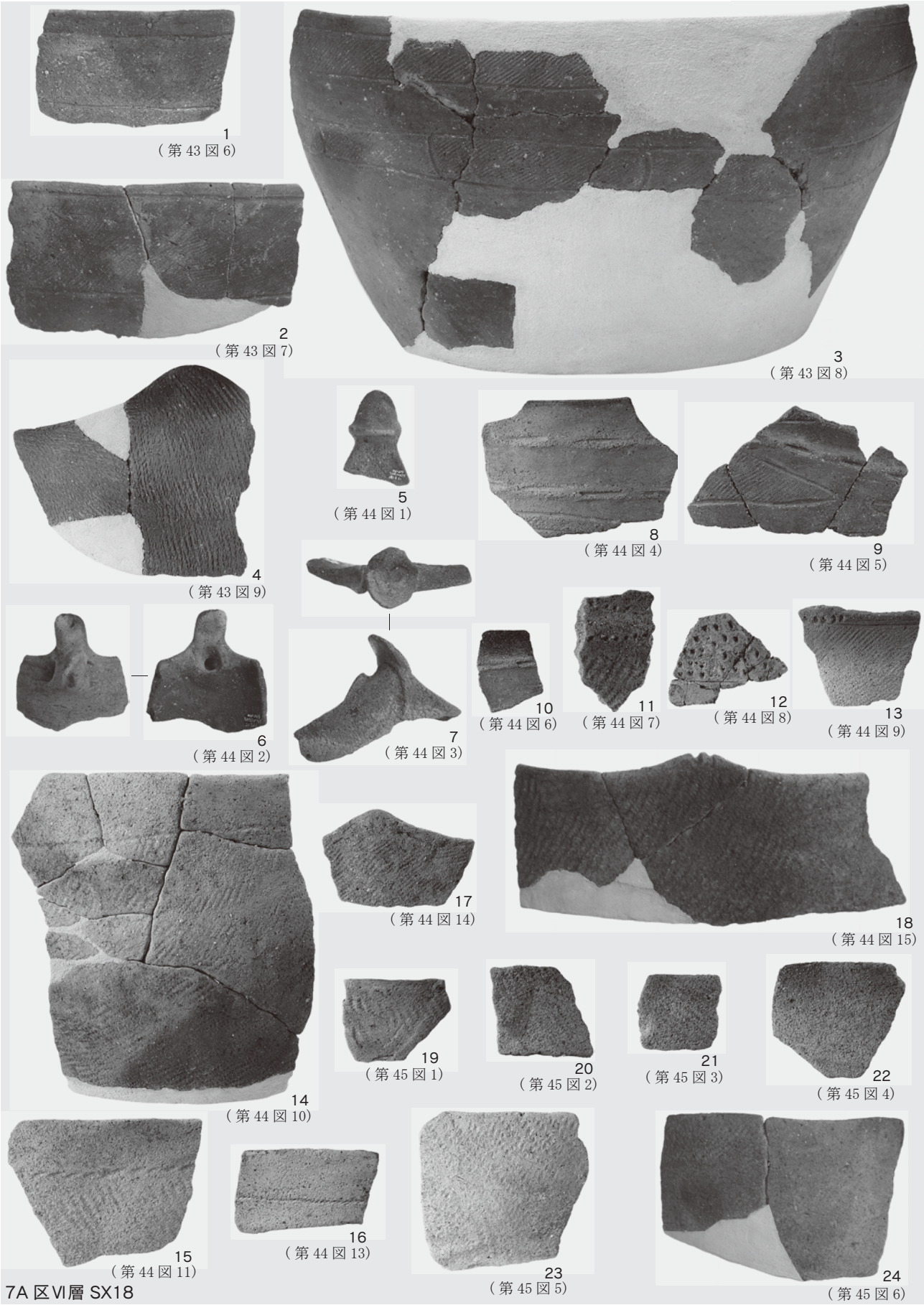


写真図版 20　下ノ内遺跡出土遺物（２）

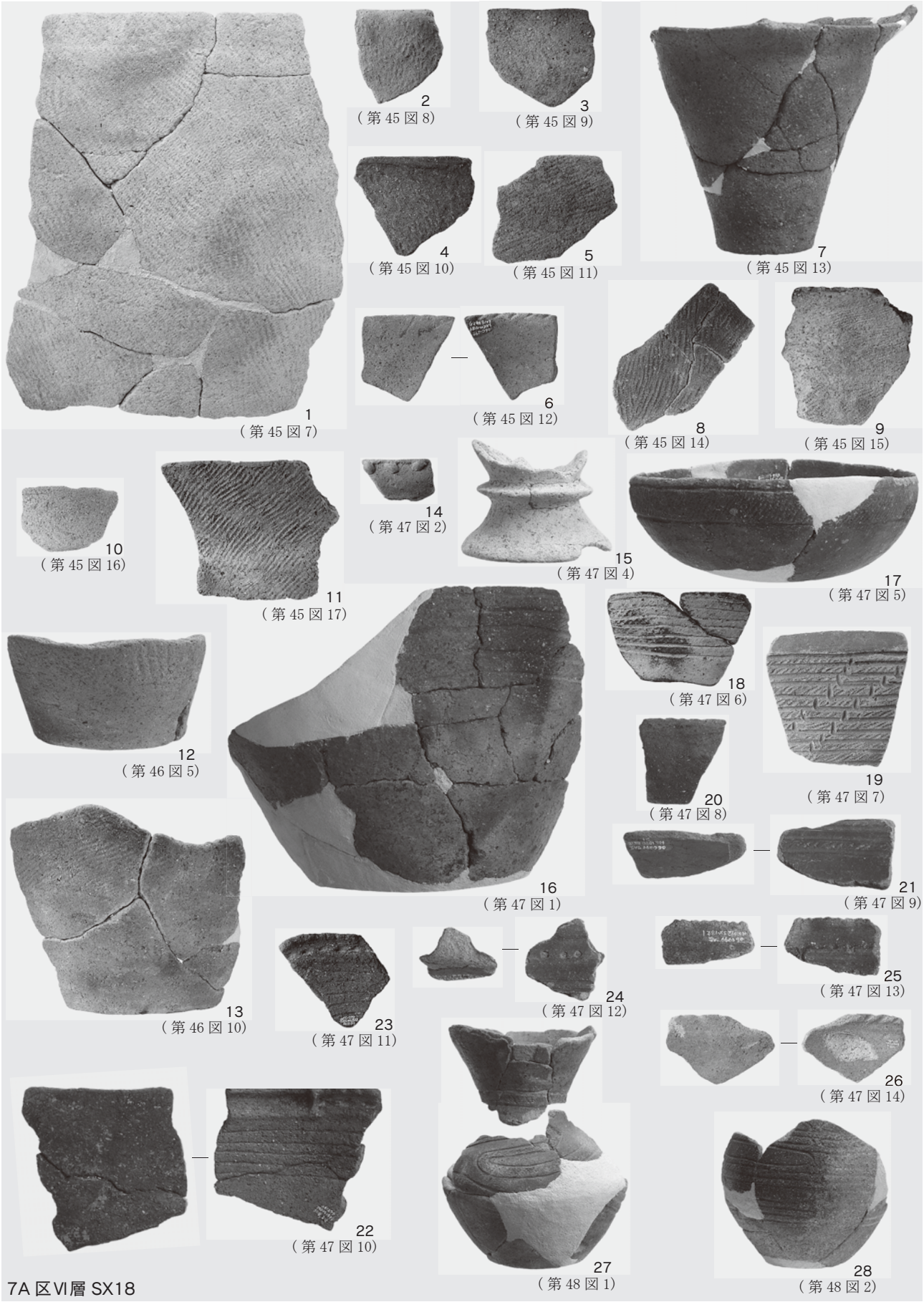
写真図版 21　下ノ内遺跡出土遺物（3）



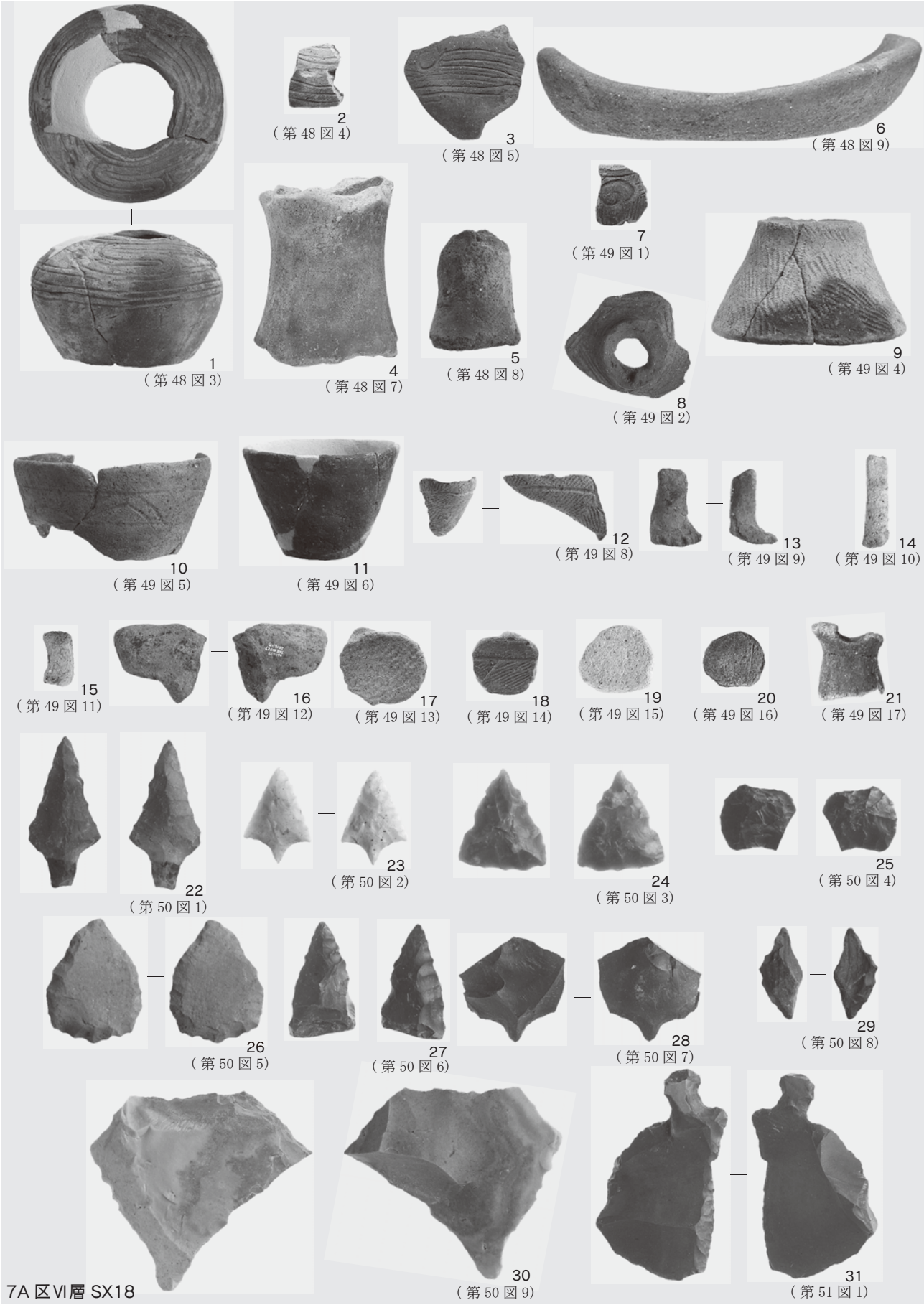
写真図版 22　下ノ内遺跡出土遺物（4）



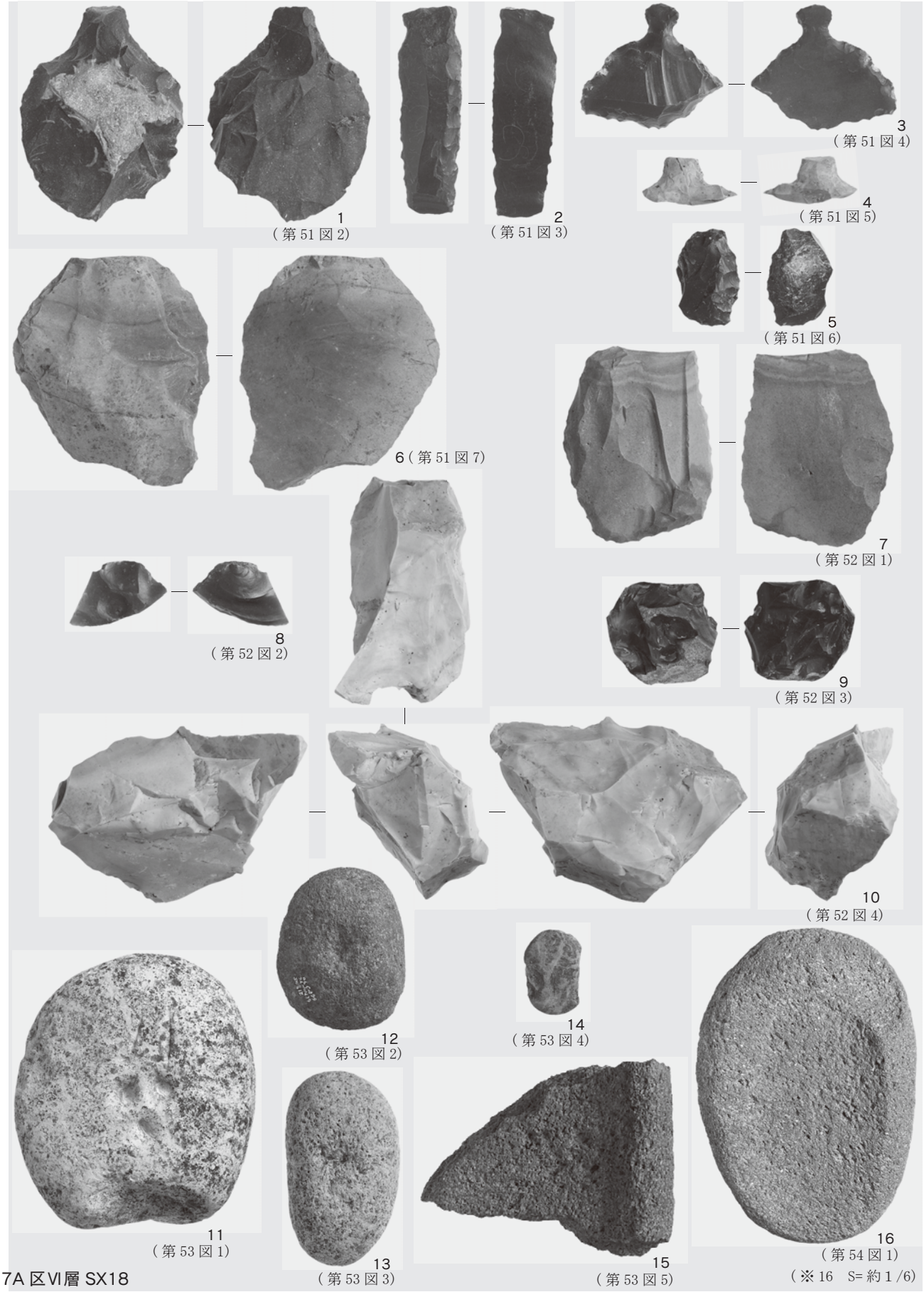
写真図版 23　下ノ内遺跡出土遺物（5）



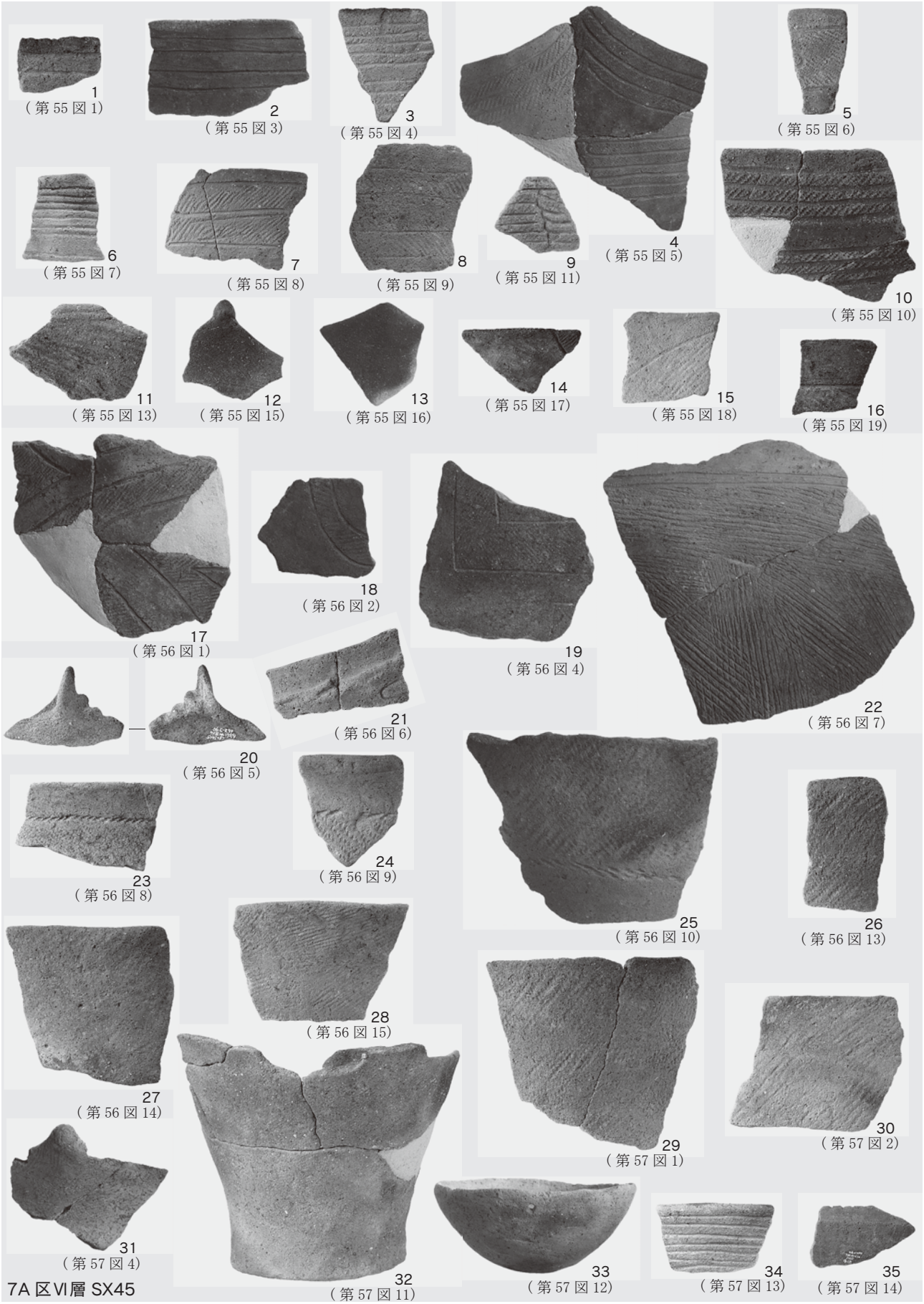
写真図版 24　下ノ内遺跡出土遺物（6）



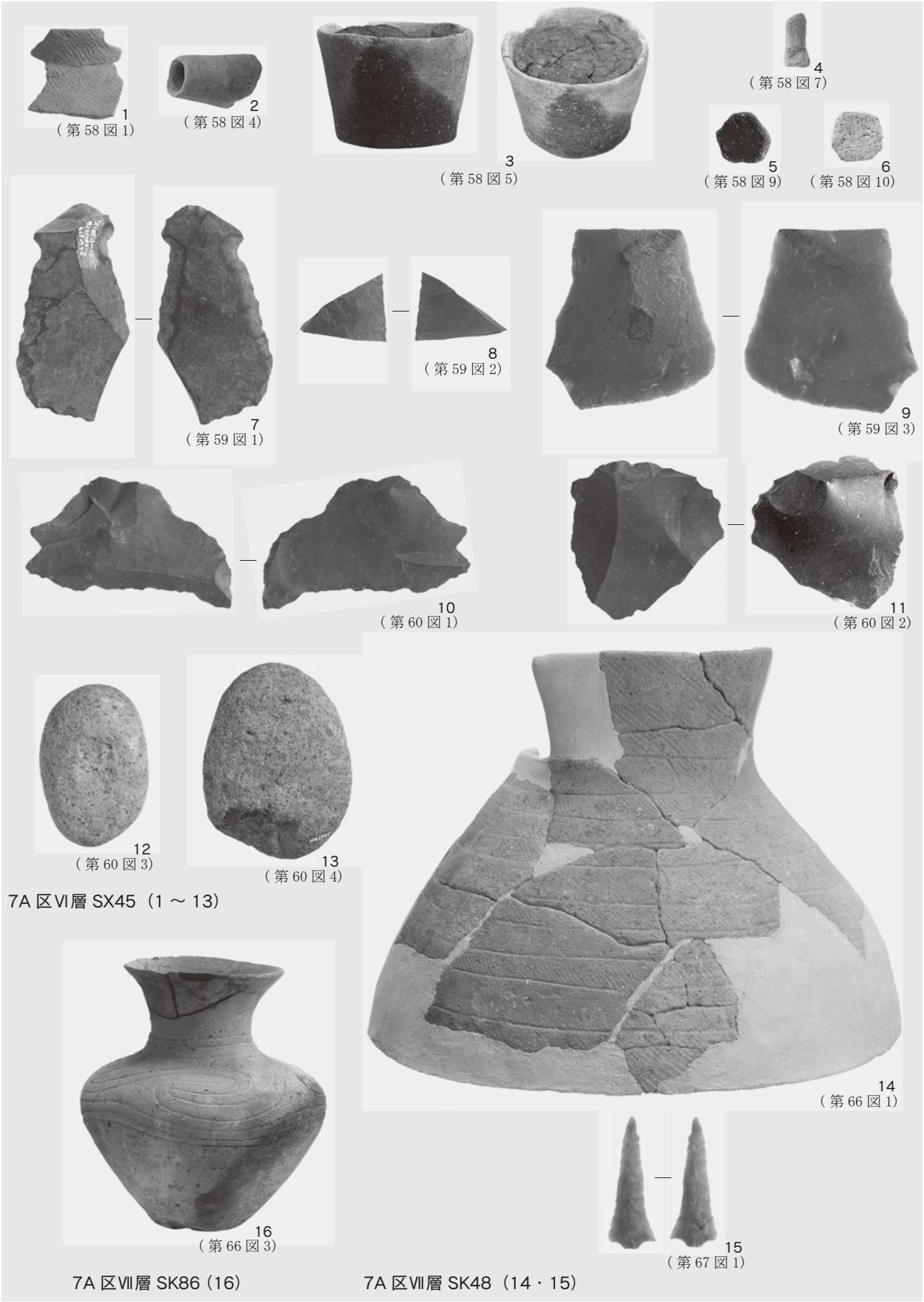
写真図版 25　下ノ内遺跡出土遺物（7）



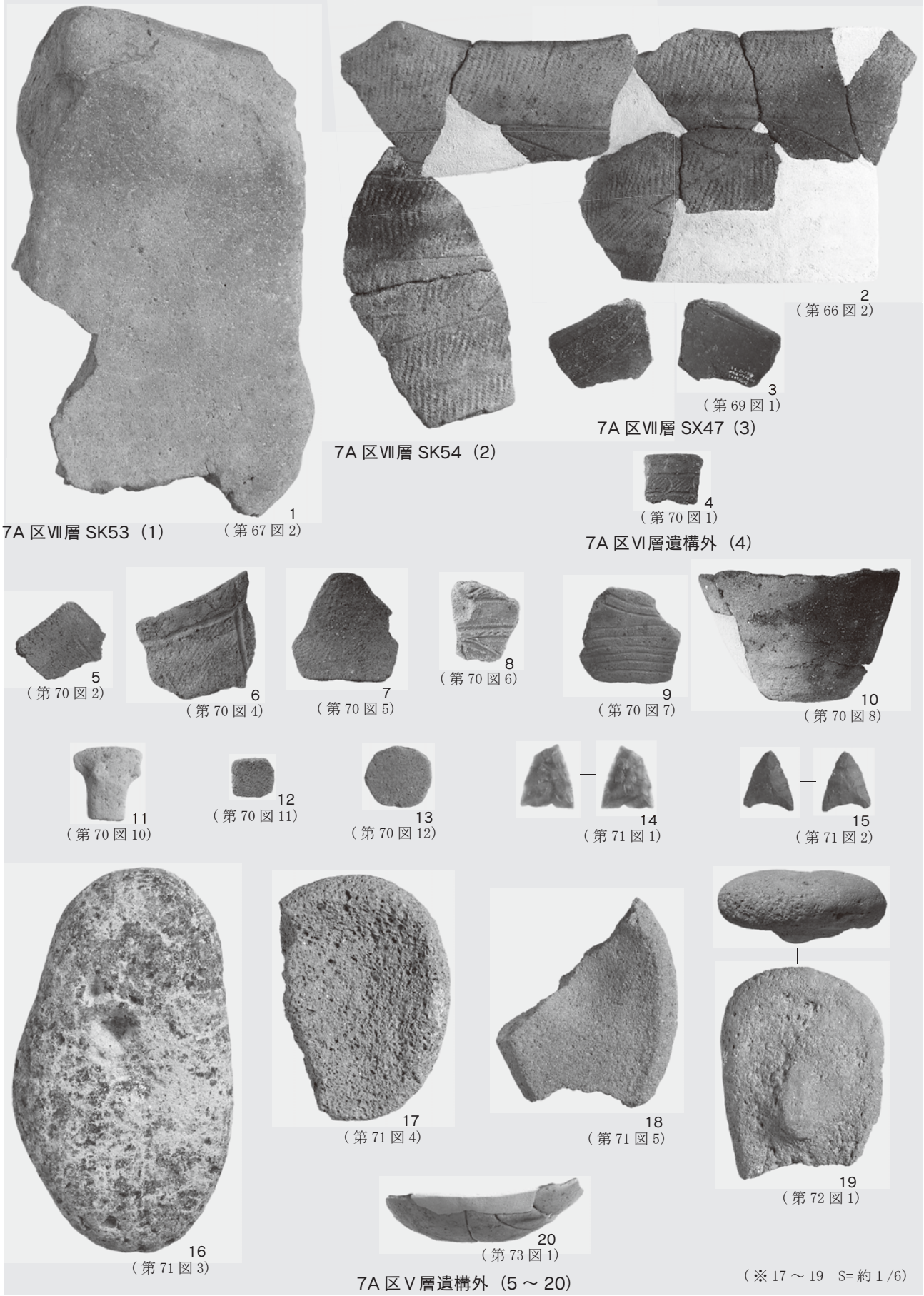
写真図版 26　下ノ内遺跡出土遺物（8）



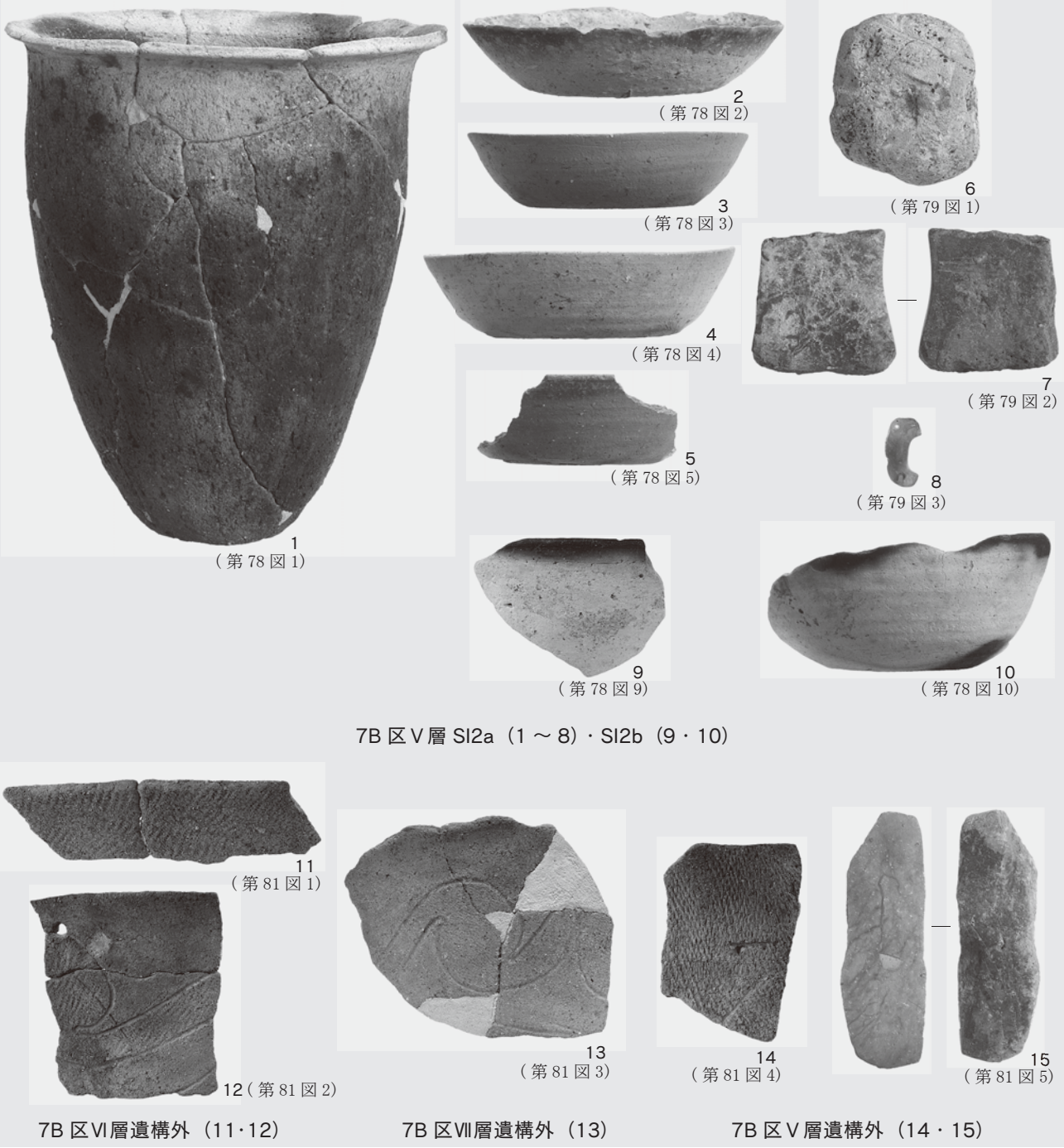
写真図版 27　下ノ内遺跡出土遺物（９）



写真図版 28　下ノ内遺跡出土遺物（10）



写真図版 29　下ノ内遺跡出土遺物（11）



写真図版 30　下ノ内遺跡出土遺物（12）

第３章　総　括

富沢駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査は、主に都市計画道路及び区画道路部分を対象に平成７年度から開始し、現在も継続中である。ここでは、第２章で報告した平成 17 年度から 18 年度にかけての調査成果について時代毎に概観し、総括としたい。

（1）縄文時代

これまでの調査により、本事業地内南西に位置する下ノ内遺跡では中期前葉から後期中葉までの継続的な人々の活動の痕跡が確認されている（仙台市教委　2011 ｂほか）。今回の調査でも下ノ内遺跡６区Ⅸ層から中期中葉の大木 8b 式土器の深鉢片が出土したほか、７Ａ区Ⅵ層の SX18・45 は宝ヶ峯式期の遺物包含層であることが確認され、その下層の７Ａ区Ⅶ層上面で後期中葉の宝ヶ峯式期の遺構群が検出された。今回の調査成果は、過去の調査内容を追認し、遺跡東側の空間的な空白を埋める結果となった。

（2）古墳時代

前期の竪穴住居跡は、下ノ内遺跡７Ａ区で１軒、中期は下ノ内遺跡６区で１軒検出されており、本事業地内南西側における居住域の広がりが確認された。

（3）古代

竪穴住居跡は、伊古田遺跡１区で１軒、２Ｂ区で２軒、下ノ内遺跡６区で２軒、７Ａ区で１軒、７Ｂ区で１軒を検出したことにより、本事業地南西側は居住域として利用されていたことが確認された。

畑耕作痕と考えられる小溝状遺構群は大野田古墳群 10 区、下ノ内遺跡６区および７Ａ区のＶ層上面で検出され、これらの調査区周辺における生産域の存在が確認された。下ノ内遺跡６区では、竪穴住居跡より古いものと新しいものの両方が検出され、生産域から居住域、また生産域へと変化していく状況が確認された。

引用・参考文献

氏家　和典　1988 『東北古代史の基礎的研究』東北プリント

小林　達雄編　2008 『総覧　縄文土器』『総覧　縄文土器』刊行委員会

(財) 齋藤報恩会編　1991 『宝ヶ峯』東北プリント

仙台市教育委員会　1985 『仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅳ』仙台市文化財調査報告書第 82 集

1990 『下ノ内遺跡 － 仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ － 』仙台市文化財調査報告書第 136 集

1995 『伊古田遺跡 － 仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ － 』仙台市文化財調査報告書第 193 集

1996 『下ノ内浦・山口遺跡 － 仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書Ⅴ － 』仙台市文化財調査報告書第 207 集

2000a 『高田Ｂ遺跡』仙台市文化財調査報告書第 242 集

2000b 『大野田古墳群・王ノ壇遺跡・六反田遺跡 － 仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ － 』仙台市文化財調査報告書第 243 集

2000c 『王ノ壇遺跡 － 都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ － 』仙台市文化財調査報告書第 249 集

2001 『大野田遺跡第２次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 252 集

2004a 『元袋遺跡 － 都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』仙台市文化財調査報告書第 272 集

2004b 『鴻ノ巣遺跡第７次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 280 集

2010a 『西台畑遺跡第１・２次調査 － 仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅴ － 』仙台市文化財調査報告書第 359 集

2010b 『沼向遺跡４～ 34 次調査 － 宮城県仙台港後背地土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ － 』仙台市文化財調査報告書第 360 集

2010c 『沓形遺跡 － 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ － 』仙台市文化財調査報告書第 363 集

2010d 『上野遺跡　第６・７次発掘調査 － 都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書 － 』仙台市文化財調査報告書第 365 集

2011a 『西台畑遺跡第３次調査 － 仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅵ － 』仙台市文化財調査報告書第 388 集

2011b 『下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか － 仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ － 』仙台市文化財調査報告書第 390 集

庄子貞雄・山田一郎　1980 「宮城県に分布する灰白色火山灰」『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1979』宮城県多賀城跡調査研究所

仙台市史編さん委員会　1995 『仙台市史　特別編２　考古資料』仙台市

1999 『仙台市史　通史編１　原始（改訂版)』仙台市

2000 『仙台市史　通史編２　古代中世』仙台市

田辺　昭三　1981 『須恵器大成』角川書店

辻　　秀人　1994 「東北南部における古墳出現期の土器編年 － その１　会津盆地 － 」『東北学院大学論集』第 26 号

1995 「東北南部における古墳出現期の土器編年 － その２ － 」『東北学院大学論集』第 27 号

2007 『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究（課題番号：15320111)』平成 15 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）研究成果報告書　東北学院大学文学部

中村　　浩・望月幹夫編　2001 『土師器と須恵器』普及版季刊考古学　雄山閣

山内　清男　1979 『日本先史土器の縄紋』先史考古学会

報　告　書　抄　録

ふ り が な	いこたいせき・おおのだこふんぐん・しものうちいせき
書　　名	伊古田遺跡・大野田古墳群・下ノ内遺跡
副　書　名	仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第413集
編著者名	主濱光朗・荒井　格・前川雅夫・水上匡彦・辻本　彩・佐藤公保
編集機関	仙台市教育委員会
所　在　地	〒980-8671　宮城県仙台市青葉区一番町４丁目1番25号　℡022-214-8899
発行年月日	2013年（平成25年）3月29日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
伊古田遺跡（いこたいせき）	宮城県仙台市太白区大野田字塚田（みやぎけんせんだいしたいはくく おおのだあざつかだ）	04100	01191	38°12′38″ ～ 38°12′40″	140°52′24″ ～ 140°52′29″	2005.10.11 ～ 2007.01.23	約976㎡	区画整理事業 市道建設
大野田古墳群（おおのだこふんぐん）	宮城県仙台市太白区大野田字宮、宮脇、竹松、千刈田（みやぎけんせんだいしたいはくく おおのだあざみや みやわき たけまつ せんがりた）	04100	01361	38°12′37″ ～ 38°12′46	140°52′41″ ～ 140°52′44″	2005.06.01 ～ 2005.07.20	約130㎡	区画整理事業 市道建設
下ノ内遺跡（しものうちいせき）	宮城県仙台市太白区富沢四丁目、大野田字五反田（みやぎけんせんだいしたいはくく とみざわよんちょうめ おおのだ あざごたんだ）	04100	01425	38°12′41″ ～ 38°12′47″	140°52′20″ ～ 140°52′26″	2005.09.01 ～ 2006.12.01	約1,097㎡	区画整理事業 市道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
伊古田遺跡	集落跡	縄文～平安	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・河川跡・性格不明遺構・溝跡・ピット	縄文土器・土師器・須恵器・陶器・磁器・石器・金属製品	
大野田古墳群	集落跡・古墳群・墓跡	古墳～古代・近世	土坑・小溝状遺構群・ピット	縄文土器・土師器	
下ノ内遺跡	集落跡	縄文・古墳～古代・近世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・河川跡・性格不明遺構・溝跡・小溝状遺構群・遺物包含層・集石	縄文土器・土師器・須恵器・陶器・石器・金属製品	7A区Ⅵ層で縄文時代の遺物包含層を検出。

要　約

伊古田遺跡
古代の住居跡が1区で2軒、２B区で2軒検出され、本調査区が居住域であったことが明らかになった。

下ノ内遺跡
縄文時代中期中葉の土器や後期中葉の遺物包含層や土坑群を検出した。古墳時代前期及び中期の住居跡、古代の住居跡や小溝状遺構群を検出しており、本調査区が居住域や生産域として利用されていたことが明らかとなった。

大野田古墳群
Ⅴ層上面で小溝状遺構群を2群検出しており、古墳時代から古代の生産域の一部と考えられる。